

石川原遺跡
(3)

縄文時代編

八ッ場ダム建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書 第77集
本文編 1

二〇二一

国 土 交 通 省
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



石川原遺跡(3)

—縄文時代編—

八ッ場ダム建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書 第77集

第1分冊 本文編 1

2021

国 土 交 通 省
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

八ッ場ダムは、首都圏の利水・治水を主な目的として吾妻川の中流に建設された多目的ダムです。ダム建設に伴う発掘調査は平成6年度から始まり、26年間にわたって実施してまいりましたが、令和元年度で終了し、令和2年4月にはダム本体も完成いたしました。

八ッ場ダム建設に伴う発掘調査では、調査の進展に伴ってこの地域の暮らしや先人の営みが次々と明らかになってまいりました。本書は八ッ場ダム地域の遺跡のうち、平成20年から令和元年度まで発掘いたしました石川原遺跡の発掘調査報告書第3冊であり、縄文時代を中心に弥生時代、古墳時代の遺構・遺物を報告いたしました。

石川原遺跡は縄文時代中期～晩期の集落遺跡で、沢を中心に竪穴建物等がまとまって発見されました。特筆される遺構としては、縄文時代後期から晩期の水場遺構や多数の配石墓で構成された墓域などがあり、土偶や耳飾り、石劍や岩版などの縄文時代を代表する土製品・石製品も数多く出土しており、八ッ場地域の豊かな環境のなかで暮らした人々の様子の一端が明らかになりました。

発掘調査から報告書刊行に至るまで、多大なるご理解とご協力をいただきました、国土交通省関東地方整備局八ッ場ダム工事事務所、同利根川ダム統合管理事務所、群馬県、群馬県教育委員会、長野原町教育委員会をはじめとする関係機関、また地元の皆様に心から感謝を申し上げますとともに、本書が吾妻地域における歴史の解明に広く役立てられますことを念じて、序といたします。

令和3年10月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
理 事 長 向 田 忠 正

例　　言

1. 本書は、八ッ場ダム建設工事に伴う事前調査として、平成20、26～平成31／令和元年度に発掘調査された『石川原遺跡』の発掘調査報告書である。本書は石川原遺跡で確認された縄文時代の集落跡を中心とした遺構・遺物および遺構外出土遺物を掲載しており、石川原遺跡の発掘調査報告書の第3冊目である。

2. 石川原遺跡(いしかわらいせき)

群馬県吾妻郡長野原町川原湯乙37番地ほか

3. 事業主体 国土交通省関東地方整備局

4. 調査主体 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

5. 発掘事業及び整理事業の期間

(1)発掘事業の機関・組織(職名は当時)

【平成20年度】期間 平成20年8月1日～10月30日

担当 (主任専門員・調査統括)麻生敏隆、(主任調査研究員)田村公夫・(同)綿貫 昭

遺跡掘削工事請負 株式会社調研

【平成26年度】期間 平成26年4月1日～12月31日

担当 (上席専門員・調査統括)齊藤利昭、(上席専門員)麻生敏隆

遺跡掘削工事請負 株式会社歴史の杜

【平成27年度】期間 平成27年4月1日～7月31日・平成28年2月15日～3月16日

担当 (上席専門員・調査統括)大西雅広、(上席専門員)麻生敏隆(上席専門員・調査課長)齊藤利昭

【平成28年度】期間 平成28年4月1日～平成29年2月28日・平成29年3月1日～3月31日

担当 (上席専門員・調査統括)麻生敏隆、(主任調査研究員)黒田 晃・山本光明、

(専門員)石川真理子、(専門調査役)藤巻幸男・間庭 稔

【平成29年度】期間 平成29年4月1日～平成30年3月31日

担当 (主任調査研究員)須田正久・黒崎博樹、(専門員)石川真理子・小原俊行、

(専門調査役)間庭 稔・樋澤健二・桜岡正信・小野和之

【平成30年度】期間 平成30年4月1日～平成30年3月31日

担当 (主任調査研究員・調査統括)須田正久・間 康明、(主任調査研究員)黒崎博樹・石田真、

(調査研究員)梅村唯斗、(専門員)鈴木佑太郎、(専門調査役)間庭 稔・齊藤利昭

【平成31年度／令和元年度】期間 平成31年4月1日～令和元年6月30日

担当 (主任調査研究員・調査統括)石田 真、(調査研究員)山本直哉

(2)整理等事業の期間・担当者

期間 平成21年1月1日～平成21年3月31日 担当(主任調査研究員)田村公夫

平成30年4月1日～平成31年3月31日 担当(専門員)石川真理子

平成31年4月1日～令和2年3月31日 担当(専門員(主任))石川真理子

令和2年4月1日～令和3年3月31日 担当(専門員(主任))石川真理子、

(専門員)鈴木佑太郎、(専門調査役)麻生敏隆

6. 本書作成の担当者は以下の通りである。

編集 鈴木佑太郎、藤巻幸男、石川真理子、麻生敏隆

本文執筆

- 藤巻幸男(専門官・資料3課長) 第1章、第2章第1節1、4、5、8~11、第2節3、4、第4章第1、4節
鈴木佑太郎(専門員) 第2章第1節1~3、6、7、12、13、第2節1、2、5、第3節、
第3章第1、2節、第6節1、4、第7節1、第4章第2、3、5~10節

7. 次に示す項目は、個人・機関に分析を依頼し、玉稿を賜った以下の原稿について、先生方、調査機関から賜った。(報告書の掲載順・敬称略)

- 第3章第3節1 田中義文(パリノ・サーヴェイ株式会社)
同 第3節2 株式会社パレオ・ラボ
同 第4節1 パリノ・サーヴェイ株式会社
同 第4節2 株式会社パレオ・ラボ
同 第5節 能城修一、佐々木由香(明治大学黒曜石研究センター)
同 第6節2 パリノ・サーヴェイ株式会社、株式会社パレオ・ラボ
同 第6節3 佐々木由香(明治大学黒曜石研究センター)
同 第7節2 株式会社パレオ・ラボ
同 第8節 奈良貴史(新潟医療福祉大学)
同 第9節 株式会社パレオ・ラボ
同 第10節 上條信彦(弘前大学)
同 第11節 志賀智史(独立行政法人国立文化財機構 九州国立博物館)
第4章第10節 能城修一、佐々木由香(明治大学黒曜石研究センター)

遺構写真撮影 発掘調査担当者

- 遺物写真撮影 石器・石製品：石川真理子、麻生敏隆
土器・土製品：石川真理子、鈴木佑太郎
遺物観察 石器・石製品：石川真理子、麻生敏隆
土器・土製品：石川真理子、鈴木佑太郎
自然遺物：鈴木佑太郎

有機質遺物保存処理 板垣泰之(専門員)、関 邦一(専門調査役)

8. 発掘調査および整理事業での業務委託

(1)発掘事業

- ・埋蔵文化財遺跡掘削工事
平成20年度 株式会社測研
平成26年度 株式会社歴史の杜
平成27年度 株式会社測研、技研コンサル株式会社、瑞穂建設株式会社吾妻地区埋蔵文化財掘削工事経常共同企業体
平成28年度 歴史の杜、吉澤建設、南波建設吾妻地区埋蔵文化財掘削工事経常共同企業体
平成29年度 株式会社測研、技研コンサル株式会社、瑞穂建設株式会社吾妻地区埋蔵文化財掘削工事経常共同企業体
平成30年度 株式会社測研、技研コンサル株式会社、瑞穂建設株式会社吾妻地区埋蔵文化財掘削工事経常共同企業体
平成31年/令和元年度 歴史の杜、吉澤建設、南波建設吾妻地区埋蔵文化財掘削工事経常共同企業体
- ・遺構測量：株式会社測研
- ・空中写真撮影：技研コンサル株式会社
- ・大型石製品写真実測・トレース：株式会社測研
- ・樹種同定・放射性炭素年代測定：パリノ・サーヴェイ株式会社、株式会社パレオ・ラボ

(2)整理事業

- ・遺構図編集：株式会社測研
 - ・石器類実測・トレース(1部)：株式会社測研、シン技術コンサル株式会社
 - ・縄文土器等接合・復元(1部)：株式会社測研、株式会社歴史の杜
 - ・縄文土器等実測・トレース(1部)：株式会社測研
 - ・木製品等実測・トレース：株式会社測研
 - ・赤色顔料微視的科学的調査：志賀智史(独立行政法人国立文化財機構 九州国立博物館)
 - ・アスファルト産地推定：上條信彦(弘前大学)
 - ・花粉分析・微細物分析：パリノ・サーヴェイ株式会社、株式会社パレオ・ラボ
 - ・放射性炭素年代(木材・堅果類)：株式会社パレオ・ラボ、パリノ・サーヴェイ株式会社
 - ・出土焼人骨受託調査：奈良貴史(新潟医療福祉大学)
 - ・石材鑑定：飯島静男氏(群馬地質研究会)
9. 発掘調査諸資料及び出土遺物は群馬県埋蔵文化財センターで保管している。
10. 発掘調査および報告作成に際して、下記の方々に機関にご協力・ご指導をしていただきました。記して感謝いたします。(敬称略・順不同)
- 国土交通省関東地方整備局ハッ場ダム建設工事事務所、同利根川ダム統合管理事務所、群馬県教育委員会、長野原町教育委員会、川原湯地区、秋田かな子、飯島静男、石坂茂、江原英、江原美奈子、長田友也、佐々木由香、小林達雄、設楽博巳、鈴木徳雄、鈴木保彦、栗島義明、黒沼保子、米田篤、志賀智史、上條信彦、大工原農、高橋清文、坪田弘子、中村耕作、奈良貴史、能咸修一、三谷智弘、山本輝久、山口逸弘、和久拓照(個人名敬称省略)

凡　例

1. 本書で使用した座標値及び方位は、日本測地系、平面直角座標第IV系を用いた。挿図中に使用した方位は座標北を表している。
2. 等高線・遺構断面図等に記した数値は標高(単位:m)を示す。
3. 調査範囲には4m×4mのグラフ網を設定し、各グリッドの呼称は南東隅の交点を当てている。
4. 遺構図および断面図の縮尺は原則として以下の通りであるが、広域にわたる溝等を対象とする場合は、紙幅の範囲内で遺構の形状を最も把握しやすいと思われる縮尺を採用した。各図幅には縮尺を注記するとともに、縮尺を示すスケールを付けた。また、遺構写真及び遺物細部の拡大写真等については、任意縮尺である。
遺構図 遺構配置図：1/2,500 竪穴建物：1/80、1/60 配石遺構：1/40 列石：1/80、1/60
土坑：1/60 ピット：1/60 土器埋設遺構：1/40 焼土・集石：1/40 溝：1/80
5. 遺構番号は、原則として調査時の番号を用いた。ただし、平成20年度調査は各調査区で1番から番号を付けている。そこで、全て通し番号とするため、平成20年度調査(90区)については、平成26年度調査開始前に番号の付け替えを行った。遺物番号は、種別に限らず遺構毎に通し番号とした。
6. 本書に使用したスクリーンコードは以下の通りである。
平面図：焼土…■ 川原石…□ 鉄平石…▨ 縦位設置…■ 斜面…▨ 縦位…■
実測図：アスファルト…■ 赤色塗彩…■
7. 遺構平面図中の遺物記号は以下の通りである。
●…土器 ■…石器 ▲…骨 ◆…炭化物 +…クルミ △…トチ ×…木 □…礫 ○…クリ
8. 遺物番号は本文・挿図・表・写真図版の番号と一致する。写真のみ掲載し、出土位置の記載や実測図掲載を行っていない遺物もある。
9. 石器実測図では、自然面を点描、磨り面と欠損面を白抜きとした。
10. 一覧表については以下の通りである。
遺物観察表は、遺構毎、グリッドに関しては調査区毎に表記。
計測値の単位はcm、重量はgで表記する。欠損部分のある遺物の計測値には、()で現存値を表記している。
11. 土層等の色調については、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財團法人日本色彩研究所色票監修の『新版 標準土色帖』に基づいている。
12. テフラの略称：浅間草津黄色軽石(As-Ypk)（新井1962）

目 次

(第1分冊)

序

例言 凡例

目次

挿図目次

表目次

第1章 石川原遺跡の発掘調査	1
第1節 発掘調査に至る経過	1
第2節 発掘調査に経過	1
第3節 整理等作業の経過	3
第4節 地理的・歴史的環境	5
第5節 対象範囲・基本土層・調査面	8
第2章 発掘された遺構と遺物	12
第1節 縄文時代の遺構	12
第1項 穫穴建物	12
第2項 捜立柱建物	322
第3項 水場遺構関連の調査	354
第4項 列石	464

(第2分冊)

第5項 配石墓	1
第6項 配石	137
第7項 集石	257
第8項 埋設土器	287
第9項 燃土	311
第10項 土坑	316
第11項 ピット	457
第12項 貯蔵穴	460
第13項 風倒木	463
第2節 遺構外出土遺物	464
第1項 縄文土器	464
第2項 土製品	470
第3項 石器	473
第4項 石製品	473
第5項 アスファルト関連	474
第3節 補遺編	582

(第3分冊)

第3章 自然科学分析	1
第1節 総説	1

第2節 自然遺物の検出・取り上げ・保管方法	2
1 植物遺体	2
2 動物遺体	3
第3節 放射性炭素年代測定	4
1 穫穴建物	4
2 水場遺構・トチ塚・低湿性土坑	10
第4節 花粉分析	18
第5節 出土木材の樹種同定	27
第6節 大型植物遺体	34
1 試料の抽出と方法	34
2 出土大型植物遺体の分析	35
3 オニグルミ核・ヒメグルミ核	52
4 クリ・トチノキ果実	81
第7節 動物遺体	82
1 抽出方法と出土傾向	82
2 動物遺体同定	83
第8節 燃入骨	98
第9節 昆虫	102
第10節 アスファルト	120
第11節 赤色顔料	126
第4章 発掘調査の成果	132
第1節 縄文時代の集落について	132
第2節 捜立柱建物について	134
第3節 水場遺構・低湿性土坑について	138
第4節 配石墓について	147
第5節 出土土器について	152
第6節 耳飾り・土偶について	191
第7節 土製品類について	212
第8節 土器加工円盤の出土傾向と法量	215
第9節 木材・木製品について	218
第10節 石川原遺跡の植生と環境	222
報告書抄録	225

(第4分冊)

土層注記	1 ~ 41
遺物観察表	42 ~ 277

(第5分冊)

写真図版

付図

挿図目次

第1分冊

第1回	ハッカ場ダムと石川原遺跡の位置	2	第62回	78号竪穴建物(3)	71
第2回	石川原遺跡発掘区配図	3	第63回	79号竪穴建物(1)	71
第3回	石川原遺跡と周辺の遺跡	6	第64回	79号竪穴建物(2)	72
第4回	発掘区の設定	10	第65回	79号竪穴建物(3)	73
第5回	基本上層・発掘面模式図	11	第66回	79号竪穴建物(4)	74
第6回	1号竪穴建物(1)	15	第67回	80号竪穴建物(1)	75
第7回	1号竪穴建物(2)	16	第68回	80号竪穴建物(2)	76
第8回	1号竪穴建物(3)	17	第69回	80号竪穴建物(3)	77
第9回	2号竪穴建物(1)	18	第70回	82号竪穴建物(1)	78
第10回	2号竪穴建物(2)	19	第71回	82号竪穴建物(2)	79
第11回	3・4号竪穴建物(1)	20	第72回	82号竪穴建物(3)	80
第12回	3・4号竪穴建物(2)	21	第73回	83号竪穴建物(1)	81
第13回	5・9号竪穴建物(1)	22	第74回	83号竪穴建物(2)	82
第14回	5・9号竪穴建物(2)	23	第75回	83号竪穴建物(3)	83
第15回	5・9号竪穴建物(3)	24	第76回	84号竪穴建物(1)	83
第16回	5号竪穴建物(1)	25	第77回	84号竪穴建物(2)	84
第17回	5号竪穴建物(2)	26	第78回	85号竪穴建物	85
第18回	5号竪穴建物(3)	27	第79回	86号竪穴建物(1)	86
第19回	6号竪穴建物	28	第80回	86号竪穴建物(2)	87
第20回	6・7号竪穴建物	29	第81回	88号竪穴建物(1)	88
第21回	7号竪穴建物	30	第82回	88号竪穴建物(2)	89
第22回	8号竪穴建物	31	第83回	89号竪穴建物(1)	90
第23回	8・9号竪穴建物	32	第84回	89号竪穴建物(2)	91
第24回	10号竪穴建物	33	第85回	89号竪穴建物(3)	92
第25回	11号竪穴建物(1)	34	第86回	90号竪穴建物	93
第26回	11号竪穴建物(2)	35	第87回	93号竪穴建物(1)	94
第27回	11号竪穴建物(3)	36	第88回	93号竪穴建物(2)	95
第28回	11号竪穴建物(4)	37	第89回	94号竪穴建物(1)	96
第29回	11号竪穴建物(5)	38	第90回	94号竪穴建物(2)	97
第30回	17号竪穴建物(1)	39	第91回	95号竪穴建物・1号列石全体図	98
第31回	17号竪穴建物(2)	40	第92回	95号竪穴建物(1)	99
第32回	18号竪穴建物(1)	41	第93回	95号竪穴建物(2)	100
第33回	18号竪穴建物(2)	42	第94回	95号竪穴建物(3)	101
第34回	28・34号竪穴建物	43	第95回	95号竪穴建物(4)	102
第35回	41号竪穴建物	44	第96回	95号竪穴建物(5)	103
第36回	49号竪穴建物(1)	45	第97回	95号竪穴建物(6)	104
第37回	49号竪穴建物(2)	46	第98回	96号竪穴建物(1)	105
第38回	49号竪穴建物(3)	47	第99回	96号竪穴建物(2)	106
第39回	49号竪穴建物(4)	48	第100回	97号竪穴建物(1)	107
第40回	49号竪穴建物(5)	49	第101回	97号竪穴建物(2)	108
第41回	49号竪穴建物(6)	50	第102回	98号竪穴建物(1)	109
第42回	58号竪穴建物(1)	51	第103回	98号竪穴建物(2)	110
第43回	58号竪穴建物(2)	52	第104回	100号竪穴建物(1)	111
第44回	67号竪穴建物(1)	53	第105回	100号竪穴建物(2)	112
第45回	67号竪穴建物(2)	54	第106回	101号竪穴建物(1)	113
第46回	68号竪穴建物(1)	55	第107回	101号竪穴建物(2)	114
第47回	68号竪穴建物(2)	56	第108回	102号竪穴建物(1)	115
第48回	68号竪穴建物(3)	57	第109回	102号竪穴建物(2)	116
第49回	72号竪穴建物(1)	58	第110回	102号竪穴建物(3)	117
第50回	72号竪穴建物(2)	59	第111回	102号竪穴建物(4)	118
第51回	72号竪穴建物(3)	60	第112回	102号竪穴建物(5)	119
第52回	72号竪穴建物(4)	61	第113回	102号竪穴建物(6)	120
第53回	74号竪穴建物(1)	62	第114回	102号竪穴建物(7)	121
第54回	74号竪穴建物(2)	63	第115回	102号竪穴建物(8)	122
第55回	75号竪穴建物(1)	64	第116回	106号竪穴建物(1)	123
第56回	75号竪穴建物(2)	65	第117回	106号竪穴建物(2)	124
第57回	75号竪穴建物(3)	66	第118回	106号竪穴建物(3)	125
第58回	77号竪穴建物(1)	67	第119回	106号竪穴建物(4)	126
第59回	77号竪穴建物(2)	68	第120回	106号竪穴建物(5)	127
第60回	78号竪穴建物(1)	69	第121回	106号竪穴建物(6)	128
第61回	78号竪穴建物(2)	70	第122回	106号竪穴建物(7)	129
			第123回	106号竪穴建物(8)	130
			第124回	107号竪穴建物(1)	131

第1258#	107号竖穴建物(2)	132	第191#	113#竖穴建物(3)	198
第1269#	107号竖穴建物(3)	133	第192#	113#竖穴建物(4)	199
第1278#	107号竖穴建物(4)	134	第193#	113#竖穴建物(5)	200
第1288#	107号竖穴建物(5)	135	第194#	113#竖穴建物(6)	201
第1298#	107号竖穴建物(6)	136	第195#	113#竖穴建物(7)	202
第1308#	107号竖穴建物(7)	137	第196#	113#竖穴建物(8)	203
第1318#	107号竖穴建物(8)	138	第197#	113#竖穴建物(9)	204
第1328#	107号竖穴建物(9)	139	第198#	117号竖穴建物	205
第1338#	107号竖穴建物(10)	140	第199#	119号竖穴建物(1)	206
第1348#	107号竖穴建物(11)	141	第200#	119号竖穴建物(2)	207
第1358#	107号竖穴建物(12)	142	第201#	119号竖穴建物(3)	208
第1368#	107号竖穴建物(13)	143	第202#	120号竖穴建物(1)	210
第1378#	107号竖穴建物(14)	144	第203#	120号竖穴建物(2)	211
第1388#	107号竖穴建物(15)	145	第204#	120号竖穴建物(3)	212
第1398#	108a号竖穴建物(1)	146	第205#	120号竖穴建物(4)	213
第1408#	108a号竖穴建物(2)	147	第206#	120号竖穴建物(5)	214
第1418#	108a号竖穴建物(3)	148	第207#	120号竖穴建物(6)	215
第1428#	108b号竖穴建物(1)	149	第208#	120号竖穴建物(7)	216
第1438#	108b号竖穴建物(2)	150	第209#	120号竖穴建物(8)	217
第1448#	108b号竖穴建物(3)	151	第210#	121号竖穴建物(1)	218
第1458#	108b号竖穴建物(4)	152	第211#	121号竖穴建物(2)	219
第1468#	108b号竖穴建物(5)	153	第212#	121号竖穴建物(3)	220
第1478#	108a号竖穴建物(4)	154	第213#	121号竖穴建物(4)	221
第1488#	108a号竖穴建物(5)	155	第214#	121号竖穴建物(5)	222
第1498#	108a号竖穴建物(6)	156	第215#	121号竖穴建物(6)	223
第1508#	108a号竖穴建物(7)	157	第216#	121号竖穴建物(7)	224
第1518#	108a号竖穴建物(8)	158	第217#	122号竖穴建物(1)	225
第1528#	108a号竖穴建物(9)	159	第218#	122号竖穴建物(2)	226
第1538#	108a号竖穴建物(10)	160	第219#	122号竖穴建物(3)	227
第1548#	108a号竖穴建物(11)	161	第220#	122号竖穴建物(4)	228
第1558#	108a号竖穴建物(12)	162	第221#	122号竖穴建物(5)	229
第1568#	108a号竖穴建物(13)	163	第222#	122号竖穴建物(6)	230
第1578#	108a号竖穴建物(14)	164	第223#	122号竖穴建物(7)	231
第1588#	108a号竖穴建物(15)	165	第224#	124号竖穴建物(1)	232
第1598#	108a号竖穴建物(16)	166	第225#	124号竖穴建物(2)	233
第1608#	108a号竖穴建物(17)	167	第226#	124号竖穴建物(3)	234
第1618#	108a号竖穴建物(18)	168	第227#	124号竖穴建物(4)	235
第1628#	108a号竖穴建物(19)	169	第228#	124号竖穴建物(5)	236
第1638#	108a号竖穴建物(20)	170	第229#	124号竖穴建物(6)	237
第1648#	108a号竖穴建物(21)	171	第230#	125号竖穴建物(1)	238
第1658#	108b号竖穴建物(6)	172	第231#	125号竖穴建物(2)	239
第1668#	108b号竖穴建物(7)	173	第232#	125号竖穴建物(3)	240
第1678#	108b号竖穴建物(8)	174	第233#	125号竖穴建物(4)	241
第1688#	108a号竖穴建物(22)	175	第234#	125号竖穴建物(5)	242
第1698#	108b号竖穴建物(9)	176	第235#	126号竖穴建物(1)	243
第1708#	108b号竖穴建物(10)	177	第236#	126号竖穴建物(2)	244
第1718#	108b号竖穴建物(11)	178	第237#	126号竖穴建物(3)	245
第1728#	108b号竖穴建物(12)	179	第238#	126号竖穴建物(4)	246
第1738#	108b号竖穴建物(13)	180	第239#	127号竖穴建物(1)	247
第1748#	108b号竖穴建物(14)	181	第240#	127号竖穴建物(2)	248
第1758#	108b号竖穴建物(15)	182	第241#	127号竖穴建物(3)	249
第1768#	108b号竖穴建物(16)	183	第242#	127号竖穴建物(4)	250
第1778#	108b号竖穴建物(17)	184	第243#	128号竖穴建物(1)	251
第1788#	109号竖穴建物(1)	185	第244#	128号竖穴建物(2)	252
第1798#	109号竖穴建物(2)	186	第245#	128号竖穴建物(3)	253
第1808#	109号竖穴建物(3)	187	第246#	129号竖穴建物(1)	254
第1818#	109号竖穴建物(4)	188	第247#	129号竖穴建物(2)	255
第1828#	109号竖穴建物(5)	189	第248#	129号竖穴建物(3)	256
第1838#	111号竖穴建物(1)	190	第249#	129号竖穴建物(4)	257
第1848#	111号竖穴建物(2)	191	第250#	130~131号竖穴建物(1)	258
第1858#	111号竖穴建物(3)	192	第251#	130~131号竖穴建物(2)	259
第1868#	111号竖穴建物(4)	193	第252#	130号竖穴建物(1)	260
第1878#	111号竖穴建物(5)	194	第253#	130号竖穴建物(2)	261
第1888#	111号竖穴建物(6)	195	第254#	131号竖穴建物	262
第1898#	113号竖穴建物(1)	196	第255#	132号竖穴建物(1)	263
第1908#	113号竖穴建物(2)	197	第256#	132号竖穴建物(2)	264

第257図	133号竪穴建物(1) ······	266	第323図	5号掘立柱建物(1) ······	338
第258図	133号竪穴建物(2) ······	267	第324図	5号掘立柱建物(2) ······	339
第259図	132・133・135・137・160～163・170号竪穴建物全体図 ······	268	第325図	5号掘立柱建物変遷想定図 ······	340
第260図	133号竪穴建物(3) ······	269	第326図	6号掘立柱建物(1) ······	341
第261図	133号竪穴建物(4) ······	270	第327図	6号掘立柱建物(2) ······	342
第262図	133・134号竪穴建物 ······	271	第328図	6号掘立柱建物変遷想定図 ······	343
第263図	134・135号竪穴建物 ······	272	第329図	7号掘立柱建物 ······	344
第264図	136号竪穴建物 ······	273	第330図	9号掘立柱建物 ······	345
第265図	137号竪穴建物 ······	274	第331図	10号掘立柱建物 ······	346
第266図	135～137号竪穴建物 ······	275	第332図	11号掘立柱建物 ······	347
第267図	138号竪穴建物 ······	276	第333図	12～15号掘立柱建物 ······	349
第268図	139号竪穴建物 ······	277	第334図	16・17号掘立柱建物 ······	350
第269図	140号竪穴建物(1) ······	278	第335図	18・19号掘立柱建物 ······	351
第270図	140号竪穴建物(2) ······	279	第336図	20・21号掘立柱建物 ······	352
第271図	140号竪穴建物(3) ······	280	第337図	水場造構の各種名称と計測方法 ······	357
第272図	140号竪穴建物(4) ······	281	第338図	水場造構全体図(1) ······	358
第273図	140号竪穴建物(5) ······	282	第339図	水場造構全体図(2) ······	359
第274図	142号竪穴建物 ······	283	第340図	水場造構・低湿土上坑・トナ保全体図 ······	360
第275図	141・142号竪穴建物 ······	284	第341図	1号水場造構(1) ······	363
第276図	143号竪穴建物 ······	285	第342図	1号水場造構(2) ······	364
第277図	144号竪穴建物 ······	286	第343図	1号水場造構(3) ······	365
第278図	145号竪穴建物 ······	287	第344図	1号水場造構(4) ······	366
第279図	146号竪穴建物 ······	288	第345図	1号水場造構(5) ······	367
第280図	147号竪穴建物 ······	289	第346図	1号水場造構(6) ······	368
第281図	148・149号竪穴建物 ······	290	第347図	1号水場造構(7) ······	369
第282図	150号竪穴建物 ······	291	第348図	1号水場造構(8) ······	370
第283図	151号竪穴建物 ······	292	第349図	1号水場造構(9) ······	371
第284図	152号竪穴建物 ······	293	第350図	1号水場造構(10) ······	372
第285図	153号竪穴建物 ······	294	第351図	2号水場造構(1) ······	373
第286図	154号竪穴建物 ······	295	第352図	2号水場造構(2) ······	374
第287図	155号竪穴建物(1) ······	296	第353図	2号水場造構(3) ······	375
第288図	155号竪穴建物(2) ······	297	第354図	2号水場造構(4) ······	376
第289図	156号竪穴建物 ······	298	第355図	3・4号水場造構 ······	378
第290図	157号竪穴建物 ······	299	第356図	3号水場造構(1) ······	379
第291図	159号竪穴建物 ······	300	第357図	3号水場造構(2) ······	381
第292図	132・133・135・137・160～163・170号竪穴建物全体図 ······	301	第358図	4号水場造構(1) ······	382
第293図	160～163号竪穴建物 ······	302	第359図	4号水場造構(2) ······	383
第294図	164号竪穴建物(1) ······	303	第360図	4号水場造構(3) ······	384
第295図	164号竪穴建物(2) ······	304	第361図	5号水場造構(1) ······	384
第296図	164号竪穴建物(3) ······	305	第362図	5号水場造構(2) ······	385
第297図	164号竪穴建物(4) ······	306	第363図	6号水場造構(1) ······	387
第298図	165号竪穴建物 ······	307	第364図	6号水場造構(2) ······	388
第299図	166号竪穴建物(1) ······	308	第365図	6号水場造構(3) ······	389
第300図	166号竪穴建物(2) ······	309	第366図	6号水場造構(4) ······	390
第301図	166号竪穴建物(3) ······	310	第367図	6号水場造構(5) ······	391
第302図	166号竪穴建物(4) ······	311	第368図	6号水場造構(6) ······	392
第303図	166号竪穴建物(5) ······	312	第369図	7号水場造構 ······	394
第304図	167号竪穴建物(1) ······	313	第370図	8号水場造構 ······	395
第305図	167号竪穴建物(2) ······	314	第371図	9～12号水場造構周辺全体図 ······	397
第306図	168号竪穴建物 ······	315	第372図	9～12号水場造構(1) ······	398
第307図	167・168号竪穴建物 ······	316	第373図	9～12号水場造構(2) ······	399
第308図	169号竪穴建物 ······	317	第374図	9号水場造構(1) ······	401
第309図	170号竪穴建物 ······	319	第375図	9号水場造構(2) ······	402
第310図	171号竪穴建物(1) ······	320	第376図	9号水場造構(3) ······	403
第311図	171号竪穴建物(2) ······	321	第377図	9号水場造構(4) ······	404
第312図	掘立柱建物全体図(後期後葉～鹿野) ······	322	第378図	9号水場造構(5) ······	405
第313図	掘立柱建物全体図(後期前葉) ······	323	第379図	9号水場造構(6) ······	406
第314図	1・2・8号掘立柱建物 ······	328	第380図	10号水場造構(1) ······	408
第315図	1号掘立柱建物 ······	329	第381図	10号水場造構(2) ······	409
第316図	2・8号掘立柱建物(1) ······	330	第382図	10号水場造構(3) ······	410
第317図	2・8号掘立柱建物(2) ······	331	第383図	10号水場造構(4) ······	411
第318図	1・2・8号掘立柱建物掘り方(1) ······	332	第384図	11号水場造構(1) ······	413
第319図	1・2・8号掘立柱建物掘り方(2) ······	333	第385図	11号水場造構(2) ······	414
第320図	3号掘立柱建物 ······	334	第386図	11号水場造構(3) ······	415
第321図	4号掘立柱建物 ······	335	第387図	11号水場造構(4) ······	416
第322図	5～7号掘立柱建物全体図 ······	337	第388図	12号水場造構(1) ······	418

第2分冊

第389図 12号水場道構(2).....	419	第455図 14～16号列石.....	492
第390図 12号水場道構(3).....	420	第456図 16号列石(1).....	493
第391図 12号水場道構(4).....	421	第457図 16号列石(2).....	494
第392図 13号水場道構.....	422	第458図 16号列石(3).....	495
第393図 12・13号水場道構.....	423		
第394図 1号トチ塚(1).....	426		
第395図 1号トチ塚(2).....	427		
第396図 1号トチ塚(3).....	428	第459図 1～3号配石墓配置図.....	4
第397図 1号トチ塚(4).....	429	第460図 1～3号配石墓.....	5
第398図 1号トチ塚(5).....	430	第461図 配石墓全体図.....	7
第399図 西方谷岩伏道構出土の事例(1/40).....	431	第462図 B1群配石墓調査1回目.....	8
第400図 低湿度土壌模式図.....	431	第463図 B1群配石墓調査2回目.....	9
第401図 1号低湿度土坑.....	432	第464図 B1群配石墓調査3回目.....	10
第402図 2号低湿度土坑(1).....	433	第465図 4号配石墓.....	13
第403図 2号低湿度土坑(2).....	434	第466図 5・6号配石墓(1).....	14
第404図 3号低湿度土坑(1).....	435	第467図 5・6号配石墓(2).....	15
第405図 3号低湿度土坑(2).....	436	第468図 7・29号配石墓(1).....	16
第406図 3号低湿度土坑(3).....	437	第469図 7・29号配石墓(2).....	17
第407図 4号低湿度土坑(1).....	438	第470図 7・29号配石墓(3).....	18
第408図 4号低湿度土坑(2).....	439	第471図 32号配石墓.....	19
第409図 5号低湿度土坑(1).....	440	第472図 8・16・30号配石墓(1).....	20
第410図 5号低湿度土坑(2).....	441	第473図 8・16・30号配石墓(2).....	21
第411図 6号低湿度土坑(1).....	443	第474図 8・16・30号配石墓(3).....	22
第412図 6号低湿度土坑(2).....	444	第475図 9号配石墓(1).....	23
第413図 6号低湿度土坑(3).....	445	第476図 9号配石墓(2).....	24
第414図 7号低湿度土坑(1).....	446	第477図 10・11・13号配石墓(1).....	25
第415図 7号低湿度土坑(2).....	447	第478図 10・11・13号配石墓(2).....	26
第416図 8・9号低湿度土坑.....	448	第479図 10・11・13号配石墓(3).....	27
第417図 10号低湿度土坑(1).....	449	第480図 12号配石墓.....	28
第418図 10号低湿度土坑(2).....	450	第481図 14・20号配石墓(1).....	29
第419図 11号低湿度土坑.....	452	第482図 14・20号配石墓(2).....	30
第420図 12～14号低湿度土壌(1).....	454	第483図 15号配石墓.....	31
第421図 12～14号低湿度土壌(2).....	455	第484図 17号配石墓.....	32
第422図 1号自然流路(1).....	457	第485図 18号配石墓(1).....	33
第423図 1号自然流路(2).....	458	第486図 18号配石墓(2).....	34
第424図 1号自然流路(3).....	459	第487図 19号配石墓.....	35
第425図 1号自然流路(4).....	460	第488図 21号配石墓.....	36
第426図 1号自然流路(5).....	461	第489図 22号配石墓.....	37
第427図 2号自然流路(1).....	461	第490図 23号配石墓.....	38
第428図 2号自然流路(2).....	462	第491図 24号配石墓(1).....	39
第429図 2号自然流路(3).....	463	第492図 24号配石墓(2).....	40
第430図 列石全体図.....	465	第493図 25号配石墓.....	41
第431図 1号列石.....	466	第494図 26号配石墓(1).....	42
第432図 5～7・19号配石.....	468	第495図 26号配石墓(2).....	43
第433図 14・15・18号配石.....	469	第496図 27号配石墓(1).....	44
第434図 8～13・16・17号配石.....	470	第497図 27号配石墓(2).....	45
第435図 4号列石(1).....	472	第498図 28号配石墓(1).....	46
第436図 4号列石(2).....	473	第499図 28号配石墓(2).....	47
第437図 4号列石(3).....	474	第500図 31号配石墓.....	48
第438図 6号列石(1).....	475	第501図 33号配石墓(1).....	49
第439図 6号列石(2).....	476	第502図 33号配石墓(2).....	50
第440図 6号列石(3).....	477	第503図 33号配石墓(3).....	51
第441図 8～10号列石(1).....	478	第504図 34号配石墓(1).....	53
第442図 8～10号列石(2).....	479	第505図 34号配石墓(2).....	54
第443図 11号列石.....	480	第506図 35号配石墓.....	55
第444図 15号列石・1号配石列石部.....	481	第507図 36号配石墓.....	56
第445図 1・3号列石.....	482	第508図 37号配石墓.....	57
第446図 4号列石(4).....	483	第509図 38号配石墓.....	58
第447図 4・6号列石.....	484	第510図 39号配石墓.....	59
第448図 6・7号列石.....	485	第511図 40・41号配石墓(1).....	60
第449図 8・9号列石.....	486	第512図 40・41号配石墓(2).....	61
第450図 9号列石.....	487	第513図 42号配石墓(1).....	62
第451図 10・11号列石.....	488	第514図 42号配石墓(2).....	63
第452図 11・12号列石.....	489	第515図 43号配石墓(1).....	64
第453図 12号列石(1).....	490	第516図 43号配石墓(2).....	65
第454図 12号列石(2).....	491	第517図 44号配石墓.....	66

第518図	45号配石墓	67	第584図	7区1号配石出土遺物(2)	143
第519図	46号配石墓	68	第585図	7区1号配石出土遺物(3)	144
第520図	47号配石墓(1)	69	第586図	7区1号配石出土遺物(4)	145
第521図	47号配石墓(2)	70	第587図	7区2号配石出土遺物(1)	146
第522図	48号配石墓	71	第588図	7区2号配石出土遺物(2)	147
第523図	49号配石墓	72	第589図	7区2号配石出土遺物(3)	148
第524図	50号配石墓	73	第590図	7区2号配石出土遺物(4)	149
第525図	51・52号配石墓	74	第591図	7区2号配石出土遺物(5)	150
第526図	53号配石墓	75	第592図	7区2号配石出土遺物(6)	151
第527図	54号配石墓	76	第593図	7区2号配石出土遺物(7)	152
第528図	55号配石墓	77	第594図	7区2号配石出土遺物(8)	153
第529図	56号配石墓	78	第595図	7区2号配石出土遺物(9)	154
第530図	57号配石墓	79	第596図	7区2号配石出土遺物(10)	155
第531図	58号配石墓	80	第597図	7区2号配石出土遺物(11)	156
第532図	59号配石墓	81	第598図	7区2号配石出土遺物(12)	157
第533図	60号配石墓	82	第599図	7区2号配石出土遺物(13)	158
第534図	61号配石墓	83	第600図	7区2号配石出土遺物(14)	159
第535図	62号配石墓	84	第601図	7区2号配石A・2号配石B出土遺物	161
第536図	B2群確認当時の状況図	85	第602図	7区2号配石C出土遺物(1)	162
第537図	B2群配石墓調査1回目	86	第603図	7区2号配石C出土遺物(2)	163
第538図	B2群配石墓調査2回目	87	第604図	7区2号配石D出土遺物	164
第539図	63～65号配石墓(1)	88	第605図	7区2号配石D出土遺物	165
第540図	63～65号配石墓(2)	89	第606図	7区3号配石出土遺物(1)	167
第541図	66号配石墓	90	第607図	7区3号配石出土遺物(2)	168
第542図	67号配石墓	91	第608図	7区3号配石出土遺物(3)	169
第543図	68号配石墓	92	第609図	7区3号配石出土遺物(4)	170
第544図	69号配石墓	93	第610図	7区3号配石出土遺物(5)	171
第545図	70号配石墓(1)	94	第611図	7区3号配石出土遺物(6)	172
第546図	70号配石墓(2)	95	第612図	7区4号配石出土遺物	173
第547図	71号配石墓	96	第613図	7区5面全体圓筒(配石・列石)	174
第548図	72号配石墓	97	第614図	7区5面全体圓筒(1)	175
第549図	73号配石墓	98	第615図	7区5面全体圓筒(2)	176
第550図	74号配石墓	99	第616図	7区5面全体圓筒(3)	177
第551図	75号配石墓	100	第617図	7区22号配石出土遺物	178
第552図	76号配石墓	101	第618図	7区22号配石(1)	179
第553図	77号配石墓	102	第619図	7区22号配石(2)	180
第554図	78号配石墓	103	第620図	7区27号配石・27号配石出土遺物	182
第555図	6・7区2・4・5号配石墓出土遺物	104	第621図	7区28・29号配石(1)	183
第556図	7区5～8号配石墓出土遺物	105	第622図	7区28・29号配石(2)・28・29号配石出土遺物	184
第557図	7区9～12号配石墓出土遺物	106	第623図	7区33号配石・33号配石出土遺物	185
第558図	7区13～18号配石墓出土遺物	107	第624図	7区39・41・42号配石・41号配石出土遺物	186
第559図	7区19～25号配石墓出土遺物	108	第625図	7区43・45・46号配石・45号配石出土遺物	187
第560図	7区26号配石墓出土遺物	109	第626図	7区47・48号配石・48号配石出土遺物	188
第561図	7区27～31号配石墓出土遺物	110	第627図	7区49号配石(1)	189
第562図	7区31～34号配石墓出土遺物	111	第628図	7区49号配石(2)・49号配石出土遺物	190
第563図	7区34・36～38号配石墓出土遺物	112	第629図	7区56号配石	191
第564図	7区40～46号配石墓出土遺物	113	第630図	7区57号配石・57号配石出土遺物	192
第565図	7区47～49・51・55～58号配石墓出土遺物	114	第631図	7区60～62号配石	193
第566図	7区59～65号配石墓出土遺物	115	第632図	7区63・64号配石・64号配石出土遺物	194
第567図	7区63～68・70号配石墓出土遺物	116	第633図	7区65号配石出土遺物	195
第568図	7区71～73・75・78号配石墓出土遺物	117	第634図	7区65・66号配石(1)	196
第569図	台石(1)	123	第635図	7区65・66号配石(2)	197
第570図	台石(2)	124	第636図	7区67・68号配石・66号配石出土遺物	198
第571図	台石(3)	125	第637図	7区69～71号配石	199
第572図	台石(4)	126	第638図	7区77・78号配石・77・78号配石出土遺物	200
第573図	台石(5)	127	第639図	7区79号配石	201
第574図	台石(6)	128	第640図	7区79号配石出土遺物	202
第575図	台石(7)	129	第641図	7区82・85号配石・82・85号配石出土遺物	203
第576図	台石(8)	130	第642図	7区86号配石・86号配石出土遺物	204
第577図	台石(9)	131	第643図	7区93・138号配石(1)	206
第578図	台石(10)	132	第644図	7区93・138号配石(2)	207
第579図	丸石・磨石類(1)	134	第645図	7区93・138号配石出土遺物	208
第580図	丸石・磨石類(2)	135	第646図	7区94号配石(1)	209
第581図	丸石・磨石類(3)	136	第647図	7区94号配石(2)	210
第582図	7区5面H29年度調査時配石位置図	141	第648図	7区94号配石(3)	211
第583図	7区1号配石出土遺物(1)	142	第649図	7区96号配石	213

第650图	7区98号配石出土遗物	214	第715图	7区43·45·46号埋设土器	293
第651图	7区98号配石	215	第716图	7区44号埋设土器	294
第652图	7区99号配石·99号配石出土遗物	216	第717图	7区47·50·52号埋设土器	295
第653图	7区100号配石	217	第718图	7区53号埋设土器(1)	296
第654图	7区立石群(1)	219	第719图	7区53号埋设土器(2)	297
第655图	7区立石群(2)	220	第720图	7区54号埋设土器	298
第656图	7区立石群(3)	221	第721图	7区55号埋设土器	299
第657图	7区立石群(4)	222	第722图	6·7区58~60号埋设土器	300
第658图	7区101号配石(1)	224	第723图	1区1·7区13·15·23·35号埋设土器出土遗物	301
第659图	7区101(2)·102号配石·101号配石出土遗物	225	第724图	7区14号埋设土器出土遗物	302
第660图	7区102号配石出土遗物	226	第725图	7区36·38号埋设土器出土遗物	303
第661图	7区103·104号配石·104号配石出土遗物	227	第726图	7区38~41号埋设土器出土遗物	304
第662图	7区105号配石(1)·140号配石	228	第727图	7区42·43号埋设土器出土遗物	305
第663图	7区105号配石(2)	230	第728图	7区44号埋设土器出土遗物	306
第664图	7区105·140号配石出土遗物	231	第729图	7区45~47·50号埋设土器出土遗物	307
第665图	7区107号配石	233	第730图	7区52·53号埋设土器出土遗物	308
第666图	7区108·109号配石	234	第731图	7区54·55·56号埋设土器出土遗物	309
第667图	7区110·111号配石·110·111号配石出土遗物	235	第732图	6区60号埋设土器出土遗物	310
第668图	7区112~114·136·137号配石	237	第733图	89·90·91·100号烧土出土遗物	311
第669图	7区115号配石·113~115·137号配石出土遗物	238	第734图	6~8区1~4·64~67·70·71·79号烧土	313
第670图	7区116·117号配石	240	第735图	7·8区72~74·82·89~91·94号烧土	314
第671图	7区120号配石·120号配石出土遗物(1)	241	第736图	7区97~105号烧土	315
第672图	7区120号配石出土遗物(2)	242	第737图	造模配置图	316
第673图	7区121号配石·121号配石出土遗物(1)	244	第738图	造模配置图(1)	317
第674图	7区121号配石出土遗物(2)	245	第739图	造模配置图(2)	318
第675图	7区121号配石出土遗物(3)·122号配石·122号配石出土遗物	246	第740图	造模配置图(3)	319
第676图	7区123·124号配石·124号配石出土遗物	247	第741图	造模配置图(4)	320
第677图	7区127号配石	249	第742图	造模配置图(5)	321
第678图	7区127号配石出土遗物	250	第743图	造模配置图(6)	322
第679图	7区128号配石(1)	251	第744图	造模配置图(7)	323
第680图	7区128号配石(2)·128号配石出土遗物	252	第745图	造模配置图(8)	324
第681图	7区129号配石·129号配石出土遗物	253	第746图	造模配置图(9)	325
第682图	7区130·131号配石·131号配石出土遗物	254	第747图	造模配置图(10)	326
第683图	7区132·133号配石	255	第748图	造模配置图(11)	327
第684图	7区134·135号配石·134号配石出土遗物	256	第749图	造模配置图(12)	328
第685图	集石全体图	258	第750图	造模配置图(13)	329
第686图	7区27·30号集石·30号集石出土遗物	260	第751图	造模配置图(14)	330
第687图	7区31号集石	261	第752图	造模配置图(15)	331
第688图	7区31号集石出土遗物(1)	262	第753图	1区1266·1271~1273·1365·1366·1374号土坑·1266号土坑出土遗物	349
第689图	7区31号集石出土遗物(2)	263	第754图	2区1338·1339·1342·1343·1376号土坑	350
第690图	7区31号集石出土遗物(3)	264	第755图	5区1080~1088·1100·1105·1107~1109·1166号土坑	351
第691图	7区31号集石出土遗物(4)	265	第756图	5区1110·1114·1115·1117~1125·1127·1128·1130~1138·1140·1142号土坑	352
第692图	7区31号集石出土遗物(5)	266	第757图	5区1139·1143~1147·1150~1153·1155~1165号土坑	353
第693图	7区31号集石出土遗物(6)	267	第758图	5区1168~1172·1177·1181·1259·1291号土坑	354
第694图	7区31号集石出土遗物(7)	268	第759图	5区1149·1351·1354号土坑	355
第695图	7区33~35号集石·33号集石出土遗物	269	第760图	5区945·1089·1108·1118·1122·1144·1146·1149·1162·1165·1177号土坑出土遗物	356
第696图	7区40·41号集石	271	第761图	6区1·3~7·11·16·18·55·56·79·84·85·89号土坑	357
第697图	7区40号集石出土遗物·41号集石出土遗物(1)	272	第762图	6区8·10·12·14·15·16·21·40号土坑	358
第698图	7区41号集石出土遗物(2)	273	第763图	6区17·19·20·22·24·28·35·60·61号土坑	359
第699图	7区42号集石出土遗物(1)	275	第764图	6区25·27·29~31·33·36·37·39·40·88·96号土坑	360
第700图	7区42号集石出土遗物(2)·42号集石出土遗物	276	第765图	6区42~54·57~59·73号土坑	361
第701图	7区43号集石出土遗物(1)	277	第766图	6区533~68·70~72·74~78·80·81·97号土坑	362
第702图	7区43号集石出土遗物(2)	278	第767图	6区82·83·86·87·90·95·98~102号土坑	363
第703图	7区43号集石出土遗物(1)	279	第768图	6区103~105·107~114·119~121·130·131号土坑	364
第704图	7区43号集石出土遗物(2)	280	第769图	6区122~129·132~139号土坑	365
第705图	7区43号集石出土遗物(3)·44号集石	282	第770图	6区140~144·1331·1421·1570·1572·1574~1576号土坑	366
第706图	7区44号集石出土遗物(1)	283	第771图	6区1577~1579·1581·1582·1584~1589·1593号土坑	367
第707图	7区44号集石出土遗物(2)·47号集石出土遗物	284	第772图	6区1591·1592·1594·1595·1598·1599·1601~1603·1605~1609·1618·1621·1622·1626号土坑	368
第708图	7区45·46号集石	285	第773图	6区1610~1617·1619·1620·1623·1627~1629号土坑	369
第709图	7区47号集石	286	第774图	6区1630~1633·1637~1652·1713·1770号土坑	370
第710图	1区1号埋设土器	288	第775图	6区1653~1664·1666~1669·1680号土坑	371
第711图	7区9·13·14号埋设土器	289	第776图	6区1665~1670~1679·1681~1688号土坑	372
第712图	7区15·23·35号埋设土器	290			
第713图	7区36·38·39号埋设土器	291			
第714图	7区40~42号埋设土器	292			

第7778号	6区1689~1690~1711~1712~1714~1717~1725~1736~1749~1754~1755~1768~1773号土坑	373
第7779号	6区1718~1722~1724~1726~1730~1737~1743~1769~1775~1776~1780~1781号土坑	374
第7798号	6区1744~1748~1750~1753~1766~1767~1771~1772~1774~1777~1779~1784号土坑	375
第7800号	6区1828~1859~1863~1940~1941~2018~2019~2073~2075~2099~2103号土坑	376
第7814号	6区115号土坑	377
第7828号	6区11~31~35号土坑出土遗物	378
第7833号	6区37~48~59~67~72~85~87号土坑出土遗物	379
第7848号	6区99~103~105~112~119~1421~1489~1574号土坑出土遗物	380
第7855号	6区1577~1584~1585号土坑出土遗物	381
第7865号	6区1629~1633~1640~1649~1662~1664~1669号土坑出土遗物	382
第7878号	6区1673~1711~1715号土坑出土遗物	383
第7886号	6区1715~1721号土坑出土遗物	384
第7895号	6区1722~1729~1768号土坑出土遗物	385
第7900号	6区1769~1770~1775~1778~1779~1784~1857~2019~2073~2075号土坑出土遗物	386
第7918号	7区944~948~955~991~993~1000~1004~1009~1010~1022~1026号土坑	387
第7928号	7区994~999~1001~1003~1005~1008~1021~1023~1025~1027~1030~1440~1469~1470~1472号土坑	388
第7933号	7区1473~1474~1487~1536~1546~1549~1559号土坑	388
第7946号	7区1786~1833~1847~1849~1856~1857~2066~2134号土坑	390
第7958号	7区1858~1864~1869~1871~1881~1909~1910~2165~2168~2177~2179~2299号土坑	391
第7964号	7区1870~1872~1880~1882~1888~1889~1908~1920~1923~1932~1938号土坑	392
第7978号	7区1960~1962~1965~1966~1973~2022~2023~2033~2054~2087~2088~2091~2384号土坑	393
第7988号	7区2024~2030~2032~2034号土坑	394
第7999号	7区2031~2036~2038~2047~2049~2051~2055~2057~2070号土坑	395
第8008号	7区2063~2065~2071~2072~2074~2076~2080~2083~2084~2108~2112号土坑	396
第8018号	7区2081~2082~2086~2089~2090~2092~2094~2097~2098~2101~2102~2104~2107~2113~2114号土坑	397
第8028号	7区2128~2129~2127~2130~2136~2139~2149~2154~2158~2183~2278号土坑	398
第8038号	7区2143~2144~2151~2152~2160~2161~2169~2170~2172~2174~2176~2180~2181~2199~2200~2202号土坑	399
第8048号	7区2182~2188~2191~2194~2195~2197~2198~2209~2212~2259~2315~2319号土坑	400
第8058号	7区2203~2208~2211~2215~2217~2227~2228~2230~2231~2238~2239~2250~2251~2261~2277~2323~2325~2331~2353号土坑	401
第8068号	7区2253~2254~2258~2260~2262~2265~2267~2269~2273~2276~2279~2282~2295~2298~2316号土坑	402
第8078号	7区2285~2286~2288~2289~2291~2294~2296~2297~2300~2304~2306~2308~2310~2312~2314~2370~2372号土坑	403
第8088号	7区2313~2317~2318~2320~2322~2326~2330~2332~2337~2350~2356号土坑	404
第8098号	7区2338~2342~2344~2349~2351~2352~2354~2355~2357号土坑	405
第8108号	7区2358~2369~2371~2373~2379号土坑	406
第8118号	7区2380~2383~2386~2395号土坑	407
第8128号	7区2397~2404号土坑	408
第8138号	7区2406~2407~2409号土坑	409
第8148号	7区1891~1894~1907~1911~1913~1919~1931~1933~1935~1939~1943~1945~2095号土坑	410
第8158号	7区1890~1892~1906~1924~1936~1937~1942~1946~1950~1956~1959~2060~2085~2096号土坑	411
第8168号	7区1883~1887~1893~1895~1951~1955~1963~1964~2039~2046~2050~2052~2053~2058~2059~2067~2069~2100号土坑(1)	412
第8178号	7区1883~1887~1893~1895~1951~1955~1963~1964~2039~2046~2050~2052~2053~2058~2059~2067~2069~2100号土坑(2)	413
第8188号	7区1943~2145~2150~2173~2220~2224~2226~2239~2237~2245~2272~2281~2290号土坑	414
第8198号	7区946~954~1026~1537~1538~1541~1546号土坑出土遗物	415
第8208号	7区1544号土坑出土遗物	416
第8218号	7区1786~1833~1847~1849号土坑出土遗物	417
第8228号	7区1849~1856~1857号土坑出土遗物	418
第8238号	7区1858~1865~1867~1869~1870~1872~1879~1880~1883~1885号土坑出土遗物	419
第8248号	7区1886~1888~1890~1892~1894~1895~1906~1908~1909号土坑出土遗物	420
第8258号	7区1910~1913~1922~1924~1936~1938~1942~1947~1948号土坑出土遗物	421
第8268号	7区1949~1956~1958~1960~1963~1965~1973~2024号土坑出土遗物	422
第8278号	7区2025~2029号土坑出土遗物	423
第8288号	7区2029~2031号土坑出土遗物	424
第8298号	7区2031~2034~2036~2037号土坑出土遗物	425
第8308号	7区2037~2038~2040~2042~2045~2048号土坑出土遗物	426
第8318号	7区2048~2049~2409号土坑出土遗物	427
第8328号	7区2050~2054~2056~2058~2060~2063~2066~2070~2072~2076~2079号土坑出土遗物	428
第8338号	7区2080~2081~2084~2090~2091~2095~2097~2102~2104~2106~2108~2112~2114~2116~2118~2121号土坑出土遗物	429
第8348号	7区2122~2124~2125~2127~2130~2131~2133~2135~2141~2143号土坑出土遗物	430
第8358号	7区2144~2149~2150~2153~2158~2159~2160~2162~2164~2170号土坑出土遗物	431
第8368号	7区2170~2172~2175~2181~2182~2184~2185~2187号土坑出土遗物	432
第8378号	7区2182~2191~2193号土坑出土遗物	433
第8388号	7区2194~2195~2209~2202~2204~2210~2211~2213~2218~2221~2225~2227~2229~2230号土坑出土遗物	434
第8398号	7区2231~2234~2236~2238~2242~2245~2247~2248~2258号土坑出土遗物	435
第8408号	7区2258~2261~2363~2265~2268~2272~2274~2278~2289号土坑出土遗物	436
第8418号	7区2290~2292~2294~2297~2299~2302~2303~2305~2307号土坑出土遗物	437
第8428号	7区2310~2311~2313~2315~2321~2324~2326~2330~2332号土坑出土遗物	438
第8438号	7区2323~2337~2339~2341~2342号土坑出土遗物	439
第8448号	7区2345~2349~2354~2356号土坑出土遗物	440
第8458号	7区2357~2358~2360~2361~2364~2365~2367~2369~2371~2373~2374号土坑出土遗物	441
第8468号	7区2374~2377~2380~2382~2383~2385~2390号土坑出土遗物	442
第8478号	7区2395~2396~2398~2401号土坑出土遗物	443
第8488号	7区2407号土坑出土遗物	444
第8498号	8区943~945~957~960~962~963~1299~1302号土坑	445
第8508号	8区1307~1333~1464~1465~1475~1476号土坑	446
第8518号	8区1477~1482~1484~1489~1491~1493~1495号土坑	447
第8528号	8区1496~1510号土坑	448
第8538号	8区1511~1518~1520~1533~1547~1548号土坑	449
第8548号	8区1522~1529~1531~1532~1550~1555号土坑	450
第8558号	8区943~945~1302~1307号土坑出土遗物	451
第8568号	8区1333~1470~1473~1476~1484~1488~1489~1491~1503~1504号土坑出土遗物	452
第8578号	8区1556~1558~1560号土坑~1511~1519~1520~1524~1526~1529~1556~1560号土坑出土遗物	453
第8588号	9区1325~1385~1390~1395~1398~1400~1402~1404号土坑	454
第8598号	9区1405~1406~1408~1418~1423号土坑	455
第8608号	9区1390~1395~1397~1402~1404~1405~1412~1415~1416~1419~1421~1422号土坑出土遗物	456
第8618号	6~7区4~71~1266~1365~1375~1376号ビット出土遗物	459
第8628号	1~3号贮藏穴	461
第8638号	6区1~2号贮藏穴出土遗物	462
第8648号	7区2~3号椭圆木出土遗物	463

第885回	1・4区道横外出土遺物	475	第931回	7区道横外出土遺物(54)	541
第886回	5区道横外出土遺物(1)	476	第932回	7区道横外出土遺物(55)	542
第887回	5区道横外出土遺物(2)	477	第933回	7区道横外出土遺物(56)	543
第888回	5区道横外出土遺物(3)	478	第934回	7区道横外出土遺物(57)	544
第889回	5区道横外出土遺物(4)	479	第935回	7区道横外出土遺物(58)	545
第890回	6区道横外出土遺物(1)	480	第936回	7区道横外出土遺物(59)	546
第891回	6区道横外出土遺物(2)	481	第937回	7区道横外出土遺物(60)	547
第892回	6区道横外出土遺物(3)	482	第938回	7区道横外出土遺物(61)	548
第893回	6区道横外出土遺物(4)	483	第939回	7区道横外出土遺物(62)	549
第894回	6区道横外出土遺物(5)	484	第940回	7区道横外出土遺物(63)	550
第895回	6区道横外出土遺物(6)	485	第941回	7区道横外出土遺物(64)	551
第896回	6区道横外出土遺物(7)	486	第942回	7区道横外出土遺物(65)	552
第897回	6区道横外出土遺物(8)	487	第943回	7区道横外出土遺物(66)	553
第898回	7区道横外出土遺物(1)	488	第944回	7区道横外出土遺物(67)	554
第899回	7区道横外出土遺物(2)	489	第945回	7区道横外出土遺物(68)	555
第900回	7区道横外出土遺物(3)	490	第946回	7区道横外出土遺物(69)	556
第981回	7区道横外出土遺物(4)	491	第947回	7区道横外出土遺物(70)	557
第982回	7区道横外出土遺物(5)	492	第948回	7区道横外出土遺物(71)	558
第983回	7区道横外出土遺物(6)	493	第949回	7区道横外出土遺物(72)	559
第984回	7区道横外出土遺物(7)	494	第950回	7区道横外出土遺物(73)	560
第985回	7区道横外出土遺物(8)	495	第951回	7区道横外出土遺物(74)	561
第986回	7区道横外出土遺物(9)	496	第952回	7区道横外出土遺物(75)	562
第987回	7区道横外出土遺物(10)	497	第953回	7区道横外出土遺物(76)	563
第988回	7区道横外出土遺物(11)	498	第954回	7区道横外出土遺物(77)	564
第989回	7区道横外出土遺物(12)	499	第955回	8区道横外出土遺物(1)	565
第990回	7区道横外出土遺物(13)	500	第956回	8区道横外出土遺物(2)	566
第991回	7区道横外出土遺物(14)	501	第957回	8区道横外出土遺物(3)	567
第992回	7区道横外出土遺物(15)	502	第958回	8区道横外出土遺物(4)	568
第993回	7区道横外出土遺物(16)	503	第959回	8区道横外出土遺物(5)	569
第994回	7区道横外出土遺物(17)	504	第960回	8区道横外出土遺物(6)	570
第995回	7区道横外出土遺物(18)	505	第961回	8区道横外出土遺物(7)	571
第996回	7区道横外出土遺物(19)	506	第962回	8区道横外出土遺物(8)	572
第997回	7区道横外出土遺物(20)	507	第963回	8区道横外出土遺物(9)	573
第998回	7区道横外出土遺物(21)	508	第964回	9区道横外出土遺物(1)	574
第999回	7区道横外出土遺物(22)	509	第965回	9区道横外出土遺物(2)	575
第9900回	7区道横外出土遺物(23)	510	第966回	9区道横外出土遺物(3)	576
第9911回	7区道横外出土遺物(24)	511	第967回	9区道横外出土遺物(4)	577
第9922回	7区道横外出土遺物(25)	512	第968回	9区道横外出土遺物(5)	578
第9933回	7区道横外出土遺物(26)	513	第969回	9区道横外出土遺物(6)	579
第9944回	7区道横外出土遺物(27)	514	第970回	9区道横外出土遺物(7)	580
第9955回	7区道横外出土遺物(28)	515	第971回	10区道横外出土遺物	581
第9966回	7区道横外出土遺物(29)	516	第972回	7区19号集石	582
第9977回	7区道横外出土遺物(30)	517	第973回	7区20号集石出土遺物	583
第9988回	7区道横外出土遺物(31)	518	第974回	7区20・21号集石(1)	585
第9999回	7区道横外出土遺物(32)	519	第975回	7区20・21号集石(2)	586
第9910回	7区道横外出土遺物(33)	520	第976回	7区22号集石	587
第9911回	7区道横外出土遺物(34)	521	第977回	7区26・28号集石・26号集石出土遺物	588
第9912回	7区道横外出土遺物(35)	522	第978回	7区32号集石(1)	589
第9913回	7区道横外出土遺物(36)	523	第979回	7区32号集石(2)	590
第9914回	7区道横外出土遺物(37)	524	第980回	5区12・13号椎列	591
第9915回	7区道横外出土遺物(38)	525	第981回	5区14号椎列	592
第9916回	7区道横外出土遺物(39)	526	第982回	5・6区1266・1281・1335～1345号ビット	593
第9917回	7区道横外出土遺物(40)	527		2410号土坑	
第9918回	7区道横外出土遺物(41)	528			
第9919回	7区道横外出土遺物(42)	529			
第9920回	7区道横外出土遺物(43)	530			
第9921回	7区道横外出土遺物(44)	531			
第9922回	7区道横外出土遺物(45)	532			
第9923回	7区道横外出土遺物(46)	533			
第9924回	7区道横外出土遺物(47)	534			
第9925回	7区道横外出土遺物(48)	535			
第9926回	7区道横外出土遺物(49)	536			
第9927回	7区道横外出土遺物(50)	537			
第9928回	7区道横外出土遺物(51)	538			
第9929回	7区道横外出土遺物(52)	539			
第9930回	7区道横外出土遺物(53)	540			

第3分冊

第983図	掘立柱建物模式図	135
第984図	掘立柱建物の規模	136
第985図	掘立柱建物の主軸方向	137
第986図	水場造構の名称	138
第987図	1号水場造構の構成方法	138
第988図	水場造構確認道路位置図(1:50,000 国土地理院を基に作成)	141
第989図	群馬県内の水場造構と参考例(1/200 吹屋三角遺跡のみ 1/400)	142
第990図	水場造構・ト子塚・低湿性土坑変遷図	143
第991図	水場全体図・中期前葉	144
第992図	水場全体図・後期初期～後期前葉	145
第993図	水場全体図・後期中葉～後期後葉	146
第994図	B群配石墓位置図	150
第995図	立石・配石下で調査した土坑群	151
第996図	出土上器分布図(1)	163
第997図	出土上器分布図(2)	164
第998図	出土上器分布図(3)	165
第999図	出土上器分布図(4)	166
第1000図	出土上器分布図(5)	167
第1001図	出土上器分布図(6)	168
第1002図	出土上器分布図(7)	169
第1003図	出土上器分布図(8)	170
第1004図	出土上器分布図(9)	171
第1005図	出土上器分布図(10)	172
第1006図	出土上器分布図(11)	173
第1007図	出土上器分布図(12)	174
第1008図	出土上器分布図(13)	175
第1009図	出土上器分布図(14)	176
第1010図	出土上器集成図(2)	177
第1011図	出土上器集成図(3)	178
第1012図	出土上器集成図(4)	179
第1013図	出土上器集成図(5)	180
第1014図	出土上器集成図(6)	181
第1015図	出土上器集成図(7)	182
第1016図	出土上器集成図(8)	183
第1017図	出土上器集成図(9)	184
第1018図	出土上器集成図(10)	185
第1019図	出土上器集成図(11)	186
第1020図	出土上器集成図(12)	187
第1021図	出土上器集成図(13)	188
第1022図	出土上器集成図(14)	189
第1023図	出土上器集成図(15)	190
第1024図	耳飾り計測方法	191
第1025図	耳飾りの大きさ	191
第1026図	耳飾り出土状況	191
第1027図	耳飾り属性分類	192
第1028図	耳飾り集成図(1)	193
第1029図	耳飾り集成図(2)	194
第1030図	耳飾り集成図(3)	195
第1031図	耳飾り集成図(4)	196
第1032図	耳飾り集成図(5)	197
第1033図	耳飾り集成図(6)	198
第1034図	耳飾り集成図(7)	199
第1035図	耳飾り集成図(8)	200
第1036図	耳飾り集成図(9)	201
第1037図	耳飾り集成図(10)	202
第1038図	土偶出土部位比率及び内訳と土偶の制作手法	204
第1039図	土偶集成図(1)	205
第1040図	土偶集成図(2)	206
第1041図	土偶集成図(3)	207
第1042図	土偶集成図(4)	208
第1043図	土偶集成図(5)	209
第1044図	土偶集成図(6)	210
第1045図	動物形土製品	212
第1046図	人面付き土器	213
第1047図	角底土器	214
第1048図	土器片加工円盤型	215
第1049図	土器片加工円盤出土状況	215
第1050図	土器片加工円盤の法量と分布図(1)	216
第1051図	土器片加工円盤の法量と分布図(2)	217
第1052図	木製品	219
第1053図	木製品集成図	221

表 目 次

第1分冊

第1表	石川原遺跡周辺遺跡一覧	7
第2表	八ヶ場ダム建設に伴う発掘調査直道路の略号	9
第3表	竪穴建物一覧表	13
第4表	竪穴建物一覧表替詳細一覧	318
第5表	掘立柱建物一覧表	324
第6表	水場造構一覧表	356
第7表	ト子塚・低湿性土坑一覧表	425
第8表	自然流路一覧表	456

第2分冊

第9表	配石墓一覧表	2
第10表	石川原遺跡出土石台石一覧	118
第11表	石川原遺跡配石墓出土石台石一覧	118
第12表	石川原遺跡出土石台石一覧	119
第13表	石川原遺跡出土大型石器一覧	133
第14表	配石一覧表	138

第3分冊

第15表	集石一覧表	259
第16表	理設上器一覧表	287
第17表	燒土一覧表	312
第18表	土坑一覧表	332
第19表	ピット一覧表	457
第20表	礎文土器対象表	471
第21表	石器一覧	473

第4分冊

第27表	遺物観察表	42
------	-------	----

第1章 石川原遺跡の発掘調査

第1節 発掘調査に至る経過

八ッ場ダムは、洪水調節、流水機能維持、用水源の新たな確保並びに発電を目的とする多目的ダムとして、吾妻川中流の群馬県吾妻郡長野原町大字川原畠字ハッ場及び大字川原湯字金花山に建設された。昭和24年に利根川改修改定計画の一環として立案され、昭和27年には建設準備のための調査が着手されたが、糸余曲折を経て平成4年に至って本格的な工事が着手され、令和2年4月に完成了。

ダム建設地域内のうち、長野原町内の文化財に関しては、町教育委員会が昭和61年から文化財総合調査計画を策定し、自然環境や民俗、石造文化財、古文書、昔話等の調査を行うとともに、埋蔵文化財の詳細分布調査も行った。

八ッ場ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査は、建設省関東地方建設局(現国土交通省関東地方整備局)と群馬県教育委員会、長野原町教育委員会、吾妻町教育委員会(現東吾妻町教育委員会)が協議し、平成6年3月18日「八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財調査の実施に関する協定書」を建設省関東地方建設局と群馬県教育委員会の両者で締結し、発掘調査事業の実施計画が決定された。調査組織等の役割は、調査実施機関は群馬県教育委員会で、調査機関は財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団とした。

同年4月1日、関東地方建設局長と群馬県教育委員会との間で発掘調査受託契約を締結し、同日同教育長と群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長の両者で発掘調査委託契約が締結され、発掘調査が開始された。

さらに、平成11年4月1日に関東地方建設局長と群馬県教育委員会教育長、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長により「八ッ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財調査の実施に関する協定の一部を変更する協定書」を締結し、平成11年4月1日以降は調査実施機関を財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団に変更している。以後、平成17年、平成20年、平成28年、平成29年、平成30年、令

和元年と7回にわたる協定変更を重ね、現在に至っている。

石川原遺跡は、群馬県吾妻郡長野原町大字川原湯乙37番地ほかに所在する。平成20年度及び平成26年度から令和元年度にかけて、財団法人(平成24年から公益財団法人)群馬県埋蔵文化財調査事業団が行った。総対象面積は97,789m²に及ぶ。

第2節 発掘作業の経過

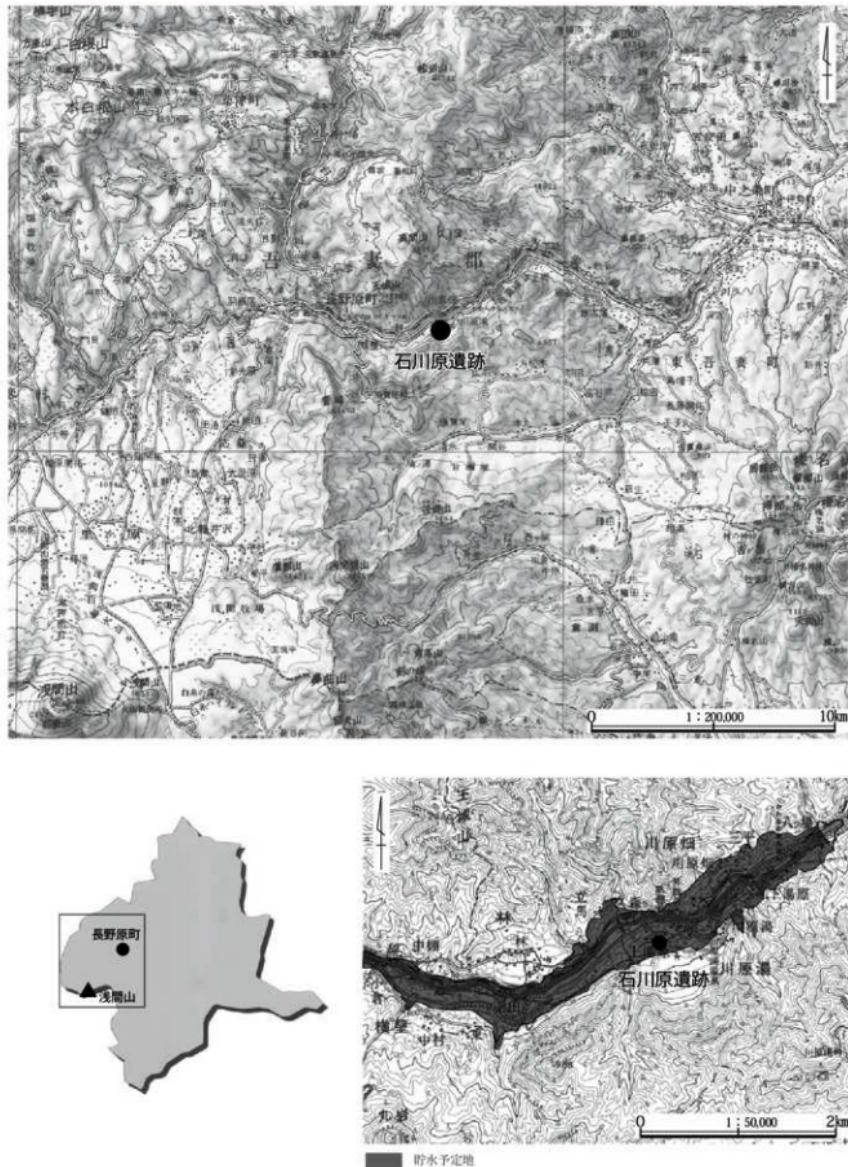
本遺跡の発掘作業は平成20年度に着手され、その後平成26年度から令和元年度にかけて実施された。地形及び現道による区画により、1区から10区の発掘区を設定しているが、工事工程に合わせてその都度発掘地点を設定しているため、年度毎の発掘区域はより細分され、複雑な形状を呈する。

平成20年度には、8月から10月にかけて、担当者2名により、後に6区とされる調査区の一部を発掘し、天明泥流下の屋敷、畑、縄文時代の集落を確認した。この調査により、当遺跡には、天明泥流下の屋敷群を含む埋没村落があり、縄文時代には列石・配石を伴う大規模集落があることが予測された。

その後中断を経て、平成26年度に発掘を再開した。4月から12月にかけて、担当者2名により、遺跡北東部の1区及び2区の大部分の発掘を行った。天明泥流下の建物、畑、中近世の掘立柱建物群、畑、墓、平安時代竪穴建物などを発掘した。また、遺跡東端では、後に「不動院」と想定された寺院遺構が確認され、翌年度の発掘にこれを引き継ぐことになる。

平成27年度は4月から7月にかけて、担当者2名により、昨年度確認された寺院遺構及び閑連建物の発掘を継続した。本堂や庫裏と想定される建物、池や築山のある苑地を確認した。また、銅製の密教法具一括など良好な資料が出土した。この年から、翌年度調査の効率化をかかるため、3月の厳冬期に表土掘削を行った。

平成28年度は4月から12月にかけて、担当者6名により、1区から8区のそれぞれ一部が発掘され、天明泥流



第1図 ハッ場ダムと石川原遺跡の位置(国土地理院20万分の1地勢図「長野」、5万分の1地形図「草津」使用)

第2節 発掘作業の経過

下の屋敷や畑、昨年度調査を行った寺院遺構の一部をなす階段、中近世の畑、平安時代集落の他、墓坑や掘立柱建物、縄文時代の配石遺構や集落の一部が確認された。天明泥流下の遺構は建築材や生活用具などが良好に残っており、また縄文時代の遺構範囲は予想を上回るものであった。当年度も、効率的な発掘を行うために、冬季に次年度発掘予定地の表土掘削を先行して実施した。

平成29年度は4月から12月にかけて、担当者8名により、1区・2区・4区～10区それぞれの一部を発掘した。天明泥流下の屋敷や畑、中近世の田畠、鍛冶遺構、平安時代集落の他、縄文時代の配石遺構や集落が確認された。山間の寒冷地である当地域において、中世相当面での水田確認は極めて希な例である。5区と6区の境にあたる町道下については、冬期も継続して調査を行った。

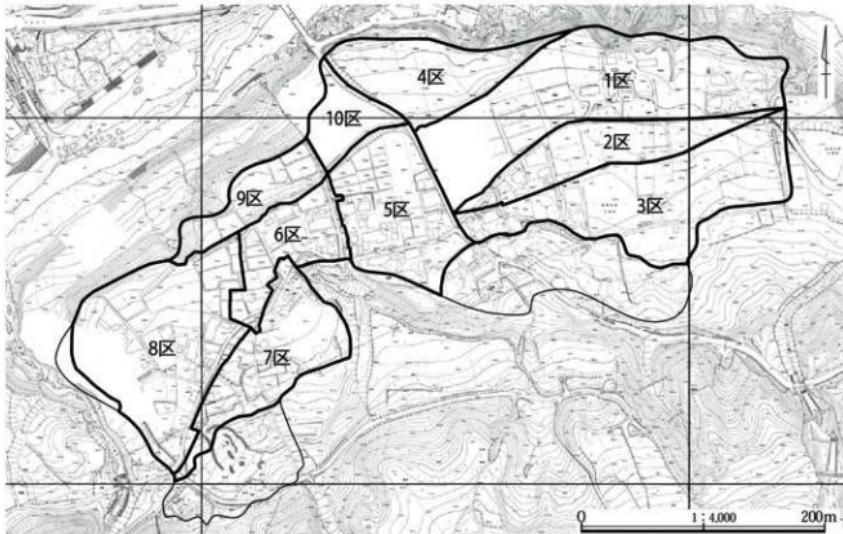
平成30年度は4月から平成31年3月にかけて、担当者8名により、5区～7区のそれぞれ一部について発掘を行った。天明泥流下で、2階建ての建物を含む、建築部材や道具類を多く出土する屋敷が確認され、さらには4体の人骨も出土した。縄文時代面でも、堅穴建物や列石・配石遺構、掘立柱建物、水場などの多様な遺構が発掘され、膨大な量の遺物が出土した。当年度で縄文時代の一

部遺構を除いて、発掘を終了し、引き渡しを行った。

平成31年・令和元年度は、4月から6月まで、担当者2名により、7区の縄文時代の堅穴建物、配石遺構、配石墓等の発掘を行った。これにより、本遺跡の発掘作業を終了した。

第3節 整理等作業の経過

平成20年度の発掘作業終了後、冬期の屋外作業困難期にあたる平成21年1月から3月まで、担当者1名で基礎的な整理等作業を行った。平成29年1月から3月には担当者2名で、また同4月から平成30年3月には、担当者1名が、遺跡東部にあたる1区から3区の中世以後にかかる遺構・遺物について整理等作業を行い、平成29年度には、このうちの寺院遺構を除く部分について、「石川原遺跡(1)」として発掘報告書を刊行した。平成30年度は縄文時代の遺構・遺物については当事業団ハッカム調査事務所で、それ以外の時代の遺構遺物については当事業団本部で整理等作業を行うこととし、5名の担当者が配置された。平成31・令和元年度は、縄文時代担当2名、天明泥流下建物担当1名と、これに該当しない遺構



第2図 石川原遺跡発掘区配置図 1/4000

第1章 石川原遺跡の発掘調査

発掘日記録	7区 1面廻、3面建物、平安時代相当面廻、5面石・グリッド等発見。	
平成20(2008)年度	8月 天明配流下の烟、角敷を確認。 9月 天明配流下遺構の発掘。縄文時代集落、河谷を確認、発掘。 10月 繩文時代遺構の発掘。 埋め戻し。	
平成26(2014)年度	4月 1区土塁脚部、天明配流下遺構確認。 5月 1区古土塁脚、天明配流下遺構確認。近世相当面、3面発見。 6月 1区の世相当面、縄文文化層発見。面下層・面頂層発見。 2区泥脚部。 7月 1区配流下層・復旧層発見。近世・縄文時代面発見。2区配流下建物、煙発見。 8月 1区近世・縄文時代面発見。2区天明配流下建物、煙発見。 9月 2区中、近世面遺構確認。煙、面下層発見。 10月 1区、2区天明配流下建物、水路発見。中世相当面、縄文時代面廻等発見。 11月 1区中、近世面墓坑・土坑等発見。1区D建物、水路発見。 12月 1区、2区1面水路、建物等発見。	9月 2区1面廻、道・石垣等発見。 10月 6区5面廻、水田等発見。 7区1面廻・溝・建物、2面土坑、3面建物、平安時代相当面廻、5面配石等発見。 8区1面廻・溝・溝・建物、2面土坑、平安時代相当面廻穴建物、土坑、5面廻穴建物等発見。 9区平安時代相当面廻建物等発見。 10月 5区1面廻、3面廻、2面廻、3面廻、平安時代相当面廻穴建物、土坑、ビット、5面土坑・ビット等発見。 7区1面廻・建物・道・溝・溝・平安時代相当面廻穴建物、5面配石等発見。 8区1面廻・溝・溝・平安時代相当面廻穴建物、土坑、5面廻穴建物等発見。 9区平安時代相当面廻穴建物等発見。 10月 1区面廻等発見。 11月 2区5面土坑等発見。 5区平安時代相当面廻穴建物、5面土坑・ビット等発見。 6区5面廻・道・溝・溝等発見。 7区1面廻・道・溝・敷居、平安時代相当面廻穴建物、5面配石等発見。 8区1面廻・溝・溝・平安時代相当面廻穴建物、土坑、5面廻穴建物等発見。 9区平安時代相当面廻穴建物等発見。 10月 8区1面廻・建物等発見。 9区平安時代相当面廻穴建物、5面廻穴建物等発見。 10月 5区1面廻・道・溝・石垣、平安時代相当面廻穴建物、土坑、ビット等発見。 2区・5区既往の成し。 大型石器品等委託。 4区1面廻・建物等発見。 6区5面廻確認、3面道構確認、5面廻穴建物等発見。 7区1面廻敷、2面流動、平安時代相当面廻穴建物、土坑・ビット、5面廻穴建物、土坑・ビット等発見。 8区2面廻・溝、平安時代相当面廻穴建物、土坑・ビット、5面廻穴建物、土坑・ビット等発見。 9区平安時代相当面廻穴建物、5面廻穴建物等発見。 10区平安時代相当面廻穴建物、5面含溶解等発見。 4~8区既往の成し。 5区1面建物等発見。 6区1面建物・溝等発見。 5区1面建物・道・溝・5面廻等発見。 6区1面建物・道・溝・2面土坑、3面土坑、平安時代相当面廻穴建物、土坑等発見。 5区1面建物、5面廻穴建物、土坑等発見。 季次(2010)度
平成27(2015)年度	4月 1区D天明配流下寺院部分発掘。 5月 1区土坑・シット発掘。1区D建物、中世・縄文時代相当面発見。 6月 1区C天明配流下寺院部分発掘。 1区平安時代相当面土坑・ビット等発見。 7月 1区平安時代相当面土坑・ビット等発見。	11月 1区5面廻等発見。
平成28(2016)年度	4月 3区配流下遺構確認。烟、道等発見。 5月 1区北側張部泥脚確認除去。 6月 1区D北側張部石垣・烟・道・水路等発見。 3区2面廻・石垣・水路発掘。 7月 1区D北側張部泥脚確認除去右石垣発掘。 3区西面遺構確認、中世相当面廻・道・溝等発見。 9月 3区中、近世面遺構確認。 10月 3区の世・縄文時代相当面土坑等発見。西側・北側配流跡除去。 11月 3区第4・5面ビット・底付柱建物等発見。北側配流下層発見。 12月 3区東側土坑尾端。西側溝発見。 3区西側延長区2・3面廻等発見。 3区底部延長区平安時代相当面遺構確認確認、積石。 1月 3区平安時代相当面・5面・試掘トレンチ発掘。 2月~3月 土端洗浄・遺物選別等。	12月 1区5面廻・建物等発見。
平成29(2017)年度	4月 1区1面廻等発見。 4区1面廻・道・3面土坑、平安時代相当面土坑発見。 5区1面廻等発見。2区・5面廻等発見。 7区5面・29号建物、5面配石・土坑等発見。 8区1面廻、平安時代相当面土坑発見。 5月 4区3面土坑、平安時代相当面廻穴建物・土坑発見。 5区3面廻・3面道構確認。5面土坑発見。 7区5面配石牙鑿。 8区5面田跡。1面5号建物、煙発見。 9区1面廻・溝等発見。 大型石器品等洗浄。 6月 1区2面廻・3面土坑。平安時代相当面廻穴建物・土坑等発見。 4区平安時代相当面廻穴建物、中世・縄文時代相当面廻確認。 5区1面廻・2面廻・3面土坑。平安時代相当面廻穴建物・土坑、5面道構確認。 6区1面廻等発見。 7区5面配石等発見。 8区1面廻・建物等発見。 9区1面溝等発見。 7月 1区平安時代相当面土坑・ビット等発見。 5区平安時代相当面廻穴建物・土坑・集石・5面土坑等発見。 6区1面廻・建物等発見。 7区5面配石等発見。 8区1面廻・建物等発見。 9区1面溝等発見。 8月 5区3面土坑等発見。 6区1面廻・建物等発見。	1月 5区1面廻・道・溝・水路・建物・羅列・2面壁等発見。 3月 6区3面水田、平安時代相当面廻穴建物・土坑、5面廻穴建物・土坑・配石・理縫等発見。 3月 7区3面水田、平安時代相当面廻穴建物・土坑、5面配石等発見。 3月 6区1面廻・道・溝・2面土坑、3面土坑、平安時代相当面廻穴建物・土坑等発見。 6区3面水田、5面廻穴建物・列石・配石・土坑・羅列等発見。 7区5面廻穴建物・配石・集石等発見。 7月 5区1面建物、平安時代相当面廻穴建物等発見。 5号建物から人骨出土。 6区3面水田、5面廻穴建物・土坑等発見。 7区5面廻穴建物・土坑・配石等発見。 7月 5区2面土坑・土坑・3面廻・土坑等化粧。 7区平安時代相当面廻穴建物・5面廻穴建物・配石・列石・理縫等発見。 9~12月 7区5面廻穴建物・配石・列石・理縫・水槽・ト子塚・土坑等発見。 3月 7区5面廻穴建物・配石・列石・理縫・土坑等発見。
平成31年/令和元年(2019)度	4月~6月 6区1面廻・建物、3面水田等発見。	4月~6月 7区5面廻穴建物・配石・列石・理縫・土坑等発見。

遺物の担当1名の計3名が配置された。縄文時代の遺構遺物及び、弥生、古墳時代の遺物についての発掘報告が本書に当たる。縄文時代及び天明泥流下の建物にかかる遺構遺物の整理等作業は令和2年度も継続され、報告書は令和3年度に刊行となった。

第4節 地理的・歴史的環境

石川原遺跡は群馬県の北西部、吾妻川上流域右岸の吾妻郡長野原町大字川原湯字石川原にある。長野原町は草津町、嬬恋村、東吾妻町、中之条町、高崎市と境を接し、長野県境にもある。

吾妻川は全長76.2kmの一級河川で、長野県境の鳥居峠付近に源を発し、東流して本県中央部の渋川市で利根川と合流する。石川原遺跡は長野原町の北東に位置し、吾妻川右岸の中位段丘上、標高約530～545mに位置する。吾妻川とは比高27mほどの段丘崖により隔てられる。「関東の耶馬溪」とも呼ばれる名勝吾妻渓谷の西端近くに当たる場所である。

吾妻川は南西から北東に向けて下流するが、遺跡近くで湾曲し、右岸の臥龍岩、左岸の昇龍岩の間を南東に流れのち、再び屈曲して北東に向きを変える。吾妻川右岸には山地が迫るが、遺跡のほぼ中央を北流する大沢からもたらされた堆積物や、土砂崩れなどによる崖邊堆積物が、吾妻側の湾曲部に向かって広がっており、この部分だけが緩傾斜地をなしている。発掘調査ではこの地域の地形環境を特徴づける天明三年浅間山噴火に伴う堆積物が遺跡の全面を覆っているほか、洪水起源の砂層が複数層にわたって認められ、この地点の地形的な特徴が示される。

周辺の遺跡及び本遺跡にかかる歴史的環境の詳細については、既刊の八ッ場ダム関連遺跡各調査報告に詳しい。

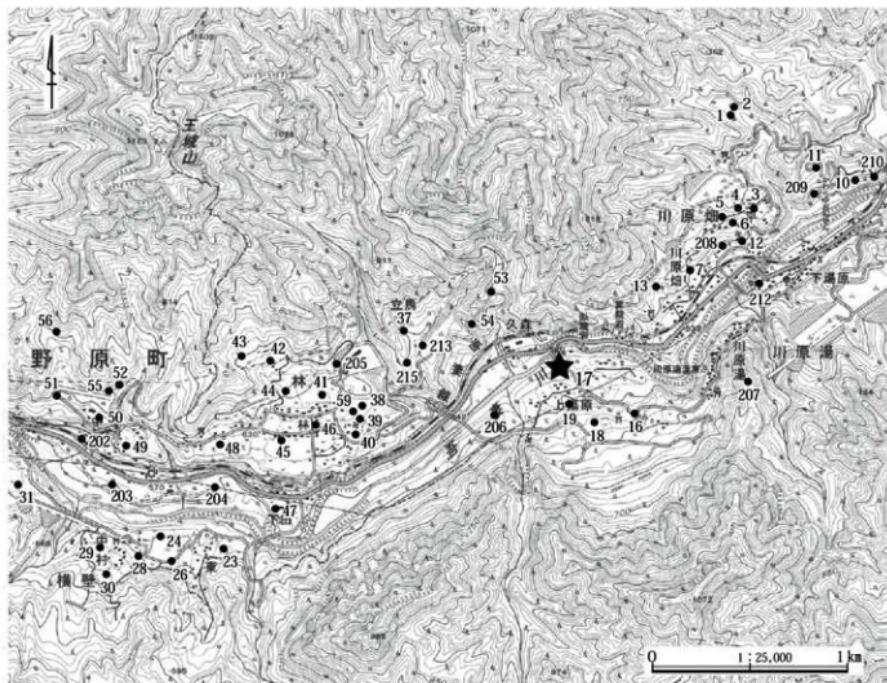
旧石器時代の遺跡は未確認であるが、縄文時代の遺跡は濃密な分布を示し、草創期から晩期に至る各時期の遺跡が比較的多く認められている。縄文時代草創期、早期の遺跡は吾妻川左岸で認められている。石畳岩陰、榎木Ⅱ遺跡では表裏縄文など草創期の土器片が出土しており、石畳岩陰は大規模な岩陰遺跡として、今後の本調査の成果が期待される。榎木Ⅱ遺跡、立馬Ⅱ遺跡などで櫛

系文、押型文、多縄文系土器がみられる。また、近年調査された居家以岩陰遺跡では埋葬人骨も発見されている。前期では立馬Ⅰ・Ⅱ遺跡、三平Ⅰ遺跡、林中原Ⅰ・Ⅱ遺跡などで前半期の遺構、遺物がみられるが、後半期の調査例は林中原Ⅰ遺跡で竪穴建物が、三平Ⅰ・Ⅱ遺跡や川原湯勝沼遺跡などで土坑が見つかっているものの、前期に比して少なくなる。中期に至ると、吾妻川を挟んで対峙するように立地する長野原一本松遺跡、横壁中村遺跡など、多数の竪穴建物や列石などで構成される大集落が営まれる。林中原Ⅱ遺跡も中期後半から後期にかけての大集落である。後期後半以後になると遺跡数は激減する。横壁中村遺跡では集落が継続するものの、他では晩期に至るまで、遺構・遺物とともに少数例にとどまるが、本遺跡は列石、配石墓を有する後晩期の大集落であった。

弥生時代の遺跡は乏しく、遺構としては川原湯勝沼遺跡、尾坂遺跡の再葬墓、立馬Ⅰ遺跡の土器棺墓、向原遺跡の土坑など、弥生時代前期から中期前葉の墓がみられるのみである。横壁中村遺跡、長野原一本松遺跡では弥生土器の出土がみられ、本遺跡も含めて弥生時代前期、中期前半の土器破片が散在的に認められるものの、居住にかかわる遺構は見つかっていない。

弥生時代中期後半から古墳時代、奈良時代も遺跡は希薄で、古墳は認められず、上原Ⅰ遺跡で古墳時代前期のS字状口縁付甕を伴う竪穴建物、上原Ⅳ遺跡、下原遺跡、林宮原遺跡で後期の竪穴建物がわずかに見つかっている程度である。本遺跡でも古墳時代前期の小型器台の小片が出土しているにとどまるが、北陸系のものであり、地域間の交流が盛んな時代相を良く示す資料である。

集落が再びそれとして認められるようになるのは、平安時代になってからのことである。本遺跡はじめ、三平Ⅰ・Ⅱ遺跡、二社平遺跡、川原湯勝沼遺跡、横壁勝沼遺跡、横壁中村遺跡、西久保Ⅰ遺跡、山根Ⅲ遺跡等々がある。榎木Ⅱ遺跡、上ノ平Ⅰ遺跡でそれぞれ30棟以上の竪穴建物が調査されていて、一定規模の集落が営まれたことが知られている。時期的にはどの遺跡においても9世紀後半から10世紀を中心としており、湧水をよりどころに営まれるのが一般的傾向のようである。上原Ⅲ遺跡や三平Ⅰ遺跡では鍛冶遺構も見つかっており、集落内に鍛冶工房があったことがわかる。上ノ平Ⅰ遺跡では住居内から炭化したオオムギ・コムギやアワが多出し、イネは



第3図 石川原遺跡と周辺の遺跡(国土地理院2万5千分の1地形図「長野原」使用)

わずかしか見られないことから、イネ以外に主食穀物を求める集落であったものと考えられる。また、陥穴の多くもこの時期に比定されていて、居住域と一緒に機能していたものとされる。中央小学校敷地内からは良い造りの瓦塔が出土しており、集落内寺院の存在も示唆される。本遺跡では60棟を越える竪穴建物や鍛冶遺構が確認されていて、かつ継続期間も長く、墨書き器が多く見られることも併せて、この地域の中核的な集落であったものと考えられる。

中世の遺跡としては城館跡がよく知られている。金花山砦跡、柳沢城跡、長野原城跡、丸岩城跡、羽根尾城跡や林城跡が交通の要衝に設けられた。川原湯温泉の起源が建久4年(1193)の源頼朝による三原巻狩に際しての発見であったとの伝承も忘れてはならない。横壁中村遺跡でも石垣を作った跡が調査されていて、柳沢城との関連が考えられている。三平I・II遺跡、東原I・II・III

遺跡、林中原I遺跡、林宮原遺跡、下原遺跡、二反沢遺跡、榎木II遺跡、尾坂遺跡などでは掘立柱建物や土坑が調査されている。また、本遺跡でも29号建物が鍛冶工房であるが、二反沢遺跡などでも羽口や鉄滓など製鉄関連の遺構が検出されている。墓坑が複数群認められているが、中でも宋銭のみを出土し、人骨の残りが非常に悪いものがあって、これらは中世にさかのぼる可能性が高い。また、畑が洪水層や斜面崩壊土に被覆されて残ることは他遺跡でも報告されているが、本遺跡では谷部に、狭いながらも水田が作られていたことが確認された。現代でも水田耕地の乏しい地域であり、近傍での水田発掘例は下原遺跡、西宮遺跡、前原遺跡がある程度である。下原遺跡、西宮遺跡では天明泥流下まで水田耕作が継続しているが、本遺跡では中世相当面で確認されていて、以後には継続していない。土地毎の開発状況の差違が示されたものであろう。

第1表 石川原遺跡周辺遺跡一覧

町遺跡番号	大字	遺跡名	時代	報告書等
1	川原郷	温泉I遺跡	縄文・平安	
2	川原郷	温泉II遺跡	縄文	
3	川原郷	三平I遺跡	縄文・弥生・平安	群理文303集2003/401集2007/664集2020/長野原町教委「町内遺跡目」2010
4	川原郷	三平II遺跡	縄文・平安	群理文401集2007
5	川原郷	上ノ平I遺跡	縄文・弥生・平安・中世・近世・現代	群理文440集2008/623集2017/637集2018
6	川原郷	上ノ平II遺跡	縄文・平安	群理文476集2021
7	川原郷	西宮遺跡	縄文・近世	群理文634集2018/674集2021/675集2021
10	川原郷	石畠遺跡・石畠別院	縄文・弥生・平安・中世・近世	群理文634集2018/674集2021/675集2021
11	川原郷	二社平I遺跡	縄文・弥生	群理文303集2003
12	川原郷	三少ヶ原跡	近世	群理文675集2021
13	川原郷	西宮I遺跡	近世	群理文634集2018
16	川原郷	川原町中原I遺跡	縄文	
17	川原郷	石川原遺跡	縄文・平安・近世	本書・群理文640集2018/群理文671集2020
18	川原郷	川原湯中原II遺跡	平安	
19	川原郷	川原湯中原III遺跡	縄文・平安	群理文639集2018
23	横壁	権現勝沼遺跡	縄文・弥生・平安・中世・近世	群理文303集2003
24	横壁	横壁中村遺跡	縄文・弥生・平安・中世	群理文319集2003/355集2005/368集2006/381集2007/436集2008/439集2008/488集2010/492集2010/526集2012/559集2013/587集2014/674集2021
26	横壁	山根I遺跡	縄文・平安	長野原町「長野原町話」1976
28	横壁	山根II遺跡	平安・近世	
29	横壁	山根III遺跡	縄文・弥生・平安・近世	群理文303集2003/429集2008
30	横壁	山根IV遺跡	縄文・平安	
31	横壁	西久保I遺跡	縄文・弥生・平安・中世・近世	群理文303集2003/655集2019
37	林	立馬I遺跡	縄文・弥生・平安・中世・近世	群理文388集2006
38	林	東原I遺跡	縄文・弥生・平安・中世・近世	長野原町教委「町内遺跡Ⅰ」2006/「同Ⅱ」2007/群理文502集2010
39	林	東原II遺跡	縄文・平安・中世・近世	群理文502集2010/674集2021
40	林	東原III遺跡	縄文・平安・中世・近世	長野原町教委「町内遺跡Ⅲ」2004/「同Ⅳ」2007/群理文502集2010
41	林	上原I遺跡	縄文・弥生・古墳・平安・中世・近世	群理文303集2003/604集2015/長野原町教委「町内遺跡Ⅰ」2007/「同Ⅱ」2013
42	林	上原II遺跡	縄文	長野原町教委「町内遺跡Ⅱ」2007/「同Ⅲ」2013/「林地I遺跡群」2015/群理文429集2008/627集2017
43	林	上原III遺跡	縄文	長野原町教委「町内遺跡Ⅲ」2007/「同Ⅳ」2007/「同Ⅴ」2010/「同Ⅵ」2013/群理文429集2008/549集2012
45	林	林中原I遺跡	縄文・弥生・平安・中世・近世	長野原町教委「町内遺跡Ⅲ」2003/「同Ⅳ」2004/「同Ⅴ」2005/「同Ⅵ」2006/「同Ⅶ」2007/「同Ⅷ」2009/「同Ⅸ・X」2011/「林中原I遺跡Ⅳ」2010/「林地II遺跡群」2015/群理文586集2014/667集2020
46	林	林中原II遺跡	縄文・弥生・平安・中世・近世	群理文303集2003/629集2017/665集2020
47	林	下田遺跡	平安・近世	群理文303集2003/629集2017/665集2020
48	林	林宮原遺跡	縄文・古墳・平安	長野原町教委「町内遺跡Ⅲ」2003/「同Ⅳ」2004/「同Ⅴ」2005/「同Ⅵ」2006/「同Ⅶ」2007/「同Ⅷ」2009/「同Ⅸ」2011/「林地区遺跡群」2015/群理文617集2016/643集2018/650集2019
49	林	中郷I遺跡	縄文・平安	長野原町教委「町内遺跡Ⅳ」2007/「同Ⅹ」2013/「林中郷I遺跡Ⅳ」2010/「林地区遺跡群」2015/群理文648集2019
50	林	榎木I遺跡	縄文・平安	群理文549集2012
51	林	榎木II遺跡	縄文・平安・中世・近世	長野原町教委「町内遺跡Ⅴ」2002/群理文432集2008/458集2009
52	林	二反沢遺跡	縄文・古墳・中世・近世	群理文379集2006
53	林	久森沢I岩塗群	不明	
54	林	久森沢II岩塗	不明	
55	林	湯沢湯治古墳	不明	
56	林	峰ノツリ塚	縄文	
59	林	林の御塚	近世	台妻教育会事務所「芦妻郡誌」1906/群理文303集2003
202	林	榎木II遺跡	縄文・弥生・平安・中世	群理文303集2003
203	林	中郷II遺跡	縄文・弥生・近世	群理文319集2003/349集2004/667集2020
204	林	下原遺跡	縄文・弥生・古墳・中世・近世	群理文319集2003/389集2007
205	林	花畠遺跡	縄文・平安	群理文303集2003
206	川原湯	川原湯沼遺跡	縄文・平安・近世	群理文303集2003/356集2005/658集2019/674集2021
207	川原湯	金花山古跡	中世	
208	川原郷	東宮遺跡	縄文・近世	長野原町教委「町内遺跡Ⅰ」2002/群理文303集2003/514集2011/536集2012/628集2017/633集2018/677集
209	川原郷	二社平遺跡	縄文・平安・近世	群理文303集2003/676集2021
210	川原郷	石畠遺跡	縄文・弥生・近世	群理文303集2003
212	川原湯	西ノ上遺跡	近世	群理文349集2004/651集2019
213	林	立馬I遺跡	縄文・弥生・平安・近世	群理文375集2006
215	林	立馬II遺跡	縄文・弥生・平安	群理文457集2009

第1章 石川原遺跡の発掘調査

近世を代表するのは天明三年浅間山噴火に伴う火山堆積物に埋もれた遺跡である。吾妻川の段丘面中位、下位は広くこれに覆われていて、被災遺跡は枚挙にいとまない。広大な烟遺構が多くの遺跡で認められ、麻栽培の可能性も指摘される。これ以前の洪水災害で埋没した烟遺構の調査例も増えているが、本遺跡でも複数面の烟遺構が痕跡的に残されている。また、当時の姿をほうふつとする屋敷跡が東宮遺跡、西宮遺跡、下田遺跡、榎木1遺跡、尾坂遺跡、町遺跡、小林家屋敷跡などでも調査されているが、本遺跡では主屋の他に蔵などの付属建物を持つ屋敷や築山を作った苑池のある寺院関連の建物がある一方で、土間と土座のみで床を持たない簡素な建物があるなど、当時の社会構造を反映した建物群や豊富な出土遺物が発掘されている。また、噴火災害からの復旧・復興の営みを示す復旧坑群も認められた。これら天明泥流上下の遺構・遺物については、統報される予定である。

第5節 対象範囲・基本土層・調査面

第1項 本報告の対象

石川原遺跡については、すでに中世～近世の烟等の遺構を中心に扱った「石川原遺跡(1)」と、古代～中世の遺構を扱った「石川原遺跡(2)」が刊行されている。

本報告は、石川原遺跡の調査で第5面とされた最下層の文化面で発掘調査された全ての遺構・遺物を扱う。第5面とされた文化層の内容はほとんどが縄文時代の遺構・遺物であるが、このなかには弥生時代・古墳時代のものも僅かながら含まれており、これらもここで扱うことになる。年代的には、縄文時代では早期後半から晚期終末までのものを含んでいるが、中心となるのは中期後半から晚期前半で、弥生時代では前期後半から後期までのものが含まれる。

本書で報告する遺構は、堅穴建物100軒、掘立柱建物21棟、水場遺構13箇所、トチ塚1箇所、低湿性土坑13箇所、自然流路2箇所、列石16基、配石墓78基、配石96基、集石8基、埋設土器30基、焼土18箇所、土坑1000基、ピット1600基、その他である。

第2項 遺跡略号と地区・区・グリッド及び発掘区

1 遺跡略号

八ッ場ダム建設関連発掘調査に於ける遺跡名称、略号、グリッド設定等は、平成6年度開始以来、「八ッ場ダム関連埋蔵文化財発掘調査方法」により設定されている。

遺跡名は八ッ場ダム建設に係る長野原町の5地区大字(川原畠、川原湯、横壁、林、長野原)に小字名を加えて命名されている。本遺跡は「石川原」を遺跡名称としているが、当初は「川原湯石川原遺跡」という遺跡名称で調査が行われていた。

遺跡略号は頭書に八ッ場ダムの略号「YD」が付され、これに統一して上記5地区に充てられた番号(川原畠:1、川原湯:2、横壁:3、林:4、長野原:5)が付され、「-」を記した後、地区毎の調査順の通し番号が付される。本遺跡の遺跡略号は「YD 2-03」となる。

2 地区・区・グリッド、発掘区

(1) 地区・区の設定 本遺跡の地区・区は、「八ッ場ダム関連埋蔵文化財発掘調査方法」による統一の仕様により設定した。

東西南北の1km四方を「地区」とし、同じく100m四方を区として設定している。起点は、世界測地系第9系のX=58100m、Y=-107400(北緯36°31'03"、東経138°38'03"付近)であり、これを南東隅とする地区を01地区として、その西側及び北側に向かい10地区づつ設定している。地区名称は西側に01～10地区、01区の北側が11地区、この区の更に北側が21地区と順に加算し、下1桁は西側に向かって1づつ加算して地区番号を付している。これにより、本遺跡は25・26・35地区に属することになる。

また、地区の中は東西方向10区画×南北方向10区画の100区画の「区」が入る。区の呼称は南東隅のものを01区として、西側に下一桁を加算して01～10区、北側に上一桁を加算して11区から91区と加算して区の名称を付している。これにより、本遺跡は25地区79・80・86～90・96～100区、26地区71・72・81・82・91区、35地区6～10区に属することになる。

(2) グリッドの設定 グリッドの設定も、八ッ場ダム地域埋蔵文化財発掘調査統一の仕様により行なった。東西

南北方向4m四方の規格を1グリッドとして設定している。1地区内に設定されるグリッドは、東西方向25グリッド×南北方向25グリッドから成る合わせて625グリッドである。なお、グリッドの呼称は各区の南東隅をA1とし、西に向かってA～Y、北に向かって1～25の記号と番号が付し、アルファベット・数字の順に標記することとしている。

(3)発掘区の設定 本遺跡は総面積10万平米に達しようかという広域を占めているため、発掘の便宜上、地形や道路を境界として、当初は8区画、最終的には10区画の発掘区を設定して作業に当たった。しかし、工事工程により、各発掘区がさらに細分されたこと、また、遺構のまとまりや分布状況が発掘区とは一致しないことなどから、本書では、発掘区を単位とした記載は行わないこととした。

第3項 発掘調査の方法

1 挖削 本遺跡では、表土及び硬質の天明泥流を爪隠しを装着した掘削重機で除去した後、天明泥流及びAs-A下の遺構面をスコップ、鋤、移植鍛当の道具を用いて人力で検出した。

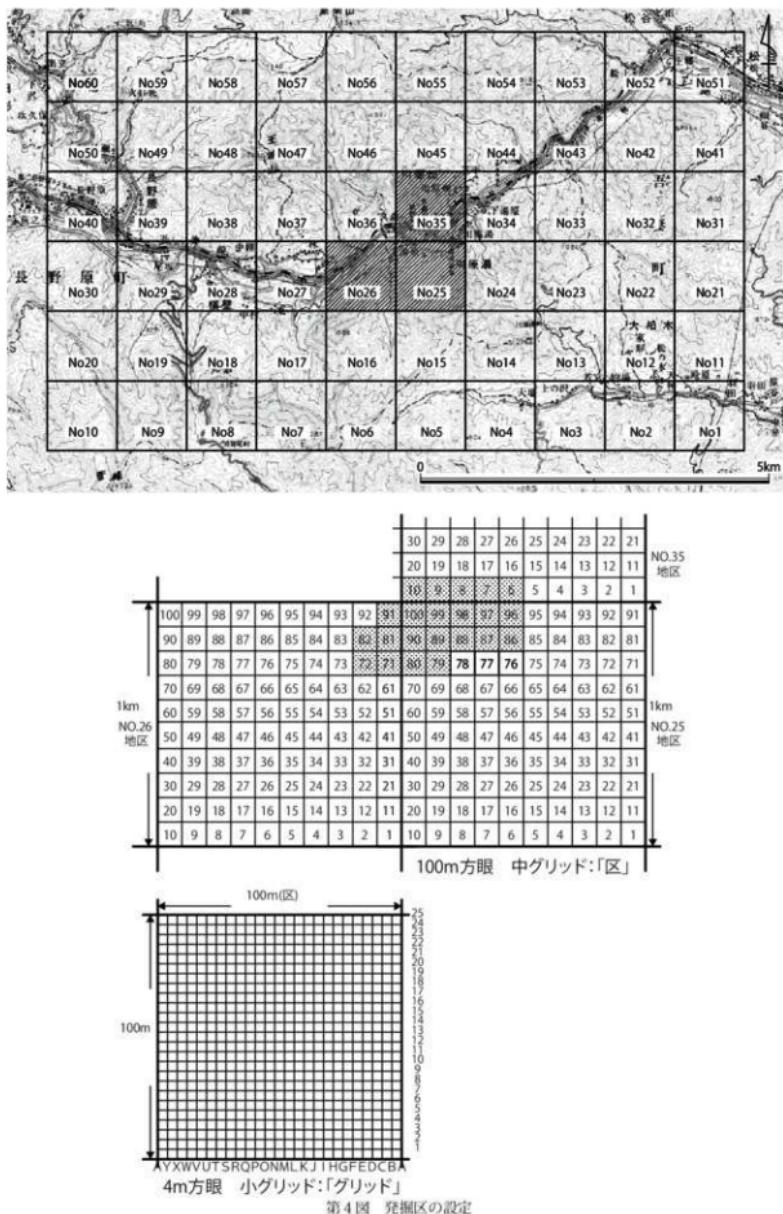
また、以下の発掘面では、事前に遺構確認用のトレチ子を掘削し、遺構の有無を確認した。遺構が確認された場合には、想定範囲を掘削重機あるいは人力で除去した後、遺構確認面を精査し、確認された遺構を掘削し、あるいは遺物包含層を掘削して遺物の記録、採取を行った。この他、必要に応じて適宜土層観察用のベルトを設け、あるいは対象を半截することにより土層の観察を行った。更に、標準土層を観察するグリッドを設定して、土層確認を行った。出土した遺物等は記録後、原位置より取り上げ、出土位置の記録等を付して収納した。なお、遺跡掘削業務、遺物の洗浄注記、一部の自然科学分析は専門業者の請負・委託により実施した。

2 記録 遺構の記録は測量と写真撮影による。遺構図はデジタル測量による地上測量、あるいは航空写真測量を基本として専門業者に委託した。

遺構平面図は1/40縮尺図での割図の作成を原則とし、全体図は1/100縮尺図で作図した。遺構断面図は剖図に合わせ、原則として1/40縮尺図として作図し、個別遺構については1/20縮尺図を基本として作図した。写

第2表 ハッ場ダム建設に伴う発掘調査遺跡の略号

所在大字	YD番号	遺跡名	調査年度
川原畠	YD1 01	—	
	YD1 02 東宮	9・19～21・26～29	
	YD1 03 石畠	10・29	
	YD1 04 三平I	16・17・24・25	
	YD1 05 二社平	10・29	
	YD1 06 三平II	16	
	YD1 07 上ノ平I	18・19・28	
	YD1 08 西宮	20・26～29	
	YD1 09 西宮岩陰	26	
	YD1 10 ミツ堂岩陰	28	
川原湯	YD1 11 川原湯の宝篋印塔	29	
	YD1 12 石畠I岩陰	29	
	YD2 01 川原湯勝沼	9・15・16・28	
	YD2 02 西ノ上	14・27～29	
	YD2 03 石川原	20・26～R1	
	YD2 04 下源原	27～29	
横壁	YD2 05 川原湯中原Ⅲ	28	
	YD2 06 前原	29	
	YD3 01 横壁勝沼	6	
	YD3 02 西久保I	6・10・12・29	
	YD3 03 横壁中村	8～18	
	YD3 04 山根Ⅲ	10・13・18	
林	YD3 05 西久保V	21・23	
	YD3 06 西久保V	28・29	
	YD4 01 下田	7・25・26・28・29	
	YD4 02 —		
	YD4 03 上原I	24	
	YD4 04 —		
長野原	YD4 05 花畠	10～12	
	YD4 06 檜木Ⅲ	10	
	YD4 07 中郷II	11～13・28～30	
	YD4 08 下原	12・13・15・16・29	
	YD4 09 檜木II	11～13・16・17	
	YD4 10 二反沢	12	
	YD4 11 立馬I	13・14・17	
	YD4 12 立馬II	14	
	YD4 13 上原IV	15・21	
	YD4 14 林中原I	16・19～21	
三島	YD4 15 林中原II	16・20・21	
	YD4 16 上原II	16	
	YD4 17 林の御塚		
	YD4 18 立馬III	19	
	YD4 19 東原I	20	
	YD4 20 東原II	20	
	YD4 21 東原III	20・21	
	YD4 22 檜木I	21	
	YD4 23 林宮原	24・27	
	YD4 24 上原III	25・27	
大柏木	YD5 01 長野原一本松	6～10・12～17・19・20	
	YD5 02 尾坂	11・18～22・25・26	
	YD5 03 久々子	7・9・10・15・27・28	
	YD5 04 幸神	8・9・14・17	
	YD5 05 長野原城跡	23	
	YD5 06 町	23～25	
松谷	YD6 01 上郷B	13・14	
	YD6 02 上郷岡原	13～15・17・18	
	YD6 03 上郷A	15・19・20	
	YD6 04 上郷西	19	
	YD6 05 三島大沢		
	YD7 01 廣石A	13	
岩下	YD7 02 大柏木上ノ沢		
	YD8 岩下前田		
岩下	YD9 —		



第4図 発掘区の設定

真はデジタル写真撮影とプロニ版による銀塩写真により、発掘担当者が撮影した。また、空中写真は当事業団職員により、ドローンを使用して撮影したが、一部専門業者に委託した撮影も行った。

調査面ごとの原図や撮影データに含まれている。このため、これらとの対照が必要となる場合を想定して、遺構番号は調査時点の番号を踏襲している。

第4項 地形と基本土層

石川原遺跡は吾妻川右岸の中位段丘面にある。地元では上湯原と呼ばれており、川に沿って10万m²ほどの細長い平坦面が広がっている。この地域では比較的広い平坦面であり、標高は540m前後で、吾妻川との比高は30mほどである。すぐ裏側(南側)に標高1000mほどの金草山を背負っているが、この山は南側に大きく抉れたような形状をしており、その間は扇状地図のゆるやかな傾斜地となっている。その先端に僅かに最上位段丘面があり、その一部が本遺跡地内の7区と5区の間に突き出している。ここには川原湯中原Ⅲ遺跡があり、本遺跡と一緒に遺跡だったと想定する。本来、最上位段丘面は標高580m前後であるが、この突き出した部分は標高が556mほどであり、上位段丘面の可能性もある。

発掘調査前の本地区では、南西にある不動滝付近から引いた水を水路で東側に掛け流していたが、発掘調査では西側の7区から6区にかけて縄文～中世の浅い沢が検出されている。

なお、第5図に基本土層模式図を示す。各時代に砂やシルト層の堆積があり、洪水堆積物としているが、山崩れに伴う堆積物の可能性が高い。本書で扱う第5面は、この図の15～13層に該当するが、山沿いの7区では縄文時代後期の段階で14層とした黄白色粘質土～砂礫層の堆積が、明瞭な状態で確認されている。

1	表土
2	砂礫層 ←天明泥流上面(復旧防群 発掘時1面)
3	天明泥流
4	As-K ←天明泥流下面(屋敷・塙・道・水路等 発掘時1面)
5	灰褐色～暗褐色土
6	黃白色砂層(洪水堆積物)
7	近世相当面(塙・溝・墓等 発掘時2面) 暗灰褐色土
8	灰褐色～黃白色砂シルト(洪水堆積物) ←中世相当面(塙・郷治・墓等 発掘時3面・3-1面)
9	黒褐色～黒灰褐色土
10	灰褐色・黃白色・灰白色シルト・砂(洪水堆積物) ←中世相当面(水田・塙等 発掘時3-2・3面)
11	灰褐色土
12	As-Kk ←平安時代相当面(窓穴建物・鐵冶・陥穴等 発掘時4面)
13	灰黒色・暗褐色～黒褐色土(縄文後期後半～晩期)
14	黃白色粘質土～砂礫層(山崩れ堆積物)
15	灰褐色～暗褐色土(縄文早期～後期前半)
16	黃褐色土

第5図 基本土層・発掘面模式図

第2章 発掘された遺構と遺物

第1節 縄文時代の遺構

第1項 竪穴建物

本遺跡では縄文時代の竪穴建物が106軒確認された。時期は中期前半の勝坂2式期から晩期後葉の女鳥羽川式までのものがあり、その開始時期は周辺で確認されている大規模集落の開始時期とほぼ一致しているが、後期後半以後の集落が確認されたのはハッ場地域では初めてのことになる。

建物106軒のうち、発掘時に名称が付けられたのは137号までの73軒であり、138号から171号までの33軒は整理作業のなかで検討・協議した上で竪穴建物と判断したものである。本遺跡では縄文時代の遺構確認面が黒色土中にあり、建物の多くはその輪郭や柱穴等の施設が不明瞭な事例が多い。そのため、単独の埋甕や焼土として扱ったものも多く、それらのなかには埋甕としながらも方形状の大きな掘り方をもつものや焼土を伴うものもある。また、後期前半期に盛んにつくられた柄鏡形敷石タイプの建物は、出入り口とされる柄部に伴う対ピットや柄部の方向性に強い規格性をもっており、こうした遺構のもつ特性も考慮して判断したものもある。

1号竪穴建物(第6～8図、PL.7-1、2)

調査年度 平成20年度

位置 100区M-5

経過 6区北西部の沢沿い台地上で確認した。西半部を台地縁辺の崖で消失する。

重複 南側を6号竪穴建物と重複するが、切り合い関係は不明である。

形状 平面形は円形を呈すると想定されるが、おそらく全体の2/3程度を失っている。

床面 中央部分で貼床状の硬化面を確認。周縁部の床相当面は地山に礫が多く認められた。

炉 確認できていない。

柱穴 7本確認したが浅いものが多く、主柱とみられる

ものは見当たらない。

遺物 覆土中から中期加曾利E3式期に比定される郷土式を主体とする土器類が数多く出土している(2～18)。また、本遺跡では出土数の少ない打製石斧(19、20)も出土している。

時期 中期後半加曾利E3式期に比定される。

2号竪穴建物(第9～10図、PL.7-3)

調査年度 平成20年度

位置 100区M-6

経過 1号竪穴建物の東側3mほどに至近にあり、北側に3号建物がほぼ接している。確認できたのは同一面で検出された1号埋甕と2号埋甕のみであり、その他の施設は確認できていない。両埋甕はほぼ東西方向に1.5mほどの距離を置いて埋設しており、調査段階では1号を炉に、2号を出入り口の埋甕に比定している。1号埋甕は深鉢の口縁部が数片しか残っておらず、焼土もほとんど認められなかった。2号埋甕は大型の深鉢を逆位に埋設したもので、胴部下半を欠失しているものの、その他は完存している。竪穴建物とするには不足する要素が多く、2号埋甕のみが単独の埋設土器となる可能性も否めないが、ここでは調査時の所見を尊重し、2号竪穴建物として報告する。

時期 炉とされた1号埋甕(第10図-1)、および2号埋甕(2)共に中期加曾利E3式新段階に比定される。

3号竪穴建物(第11図、PL.7-6)

調査年度 平成20年度

位置 100区L-7

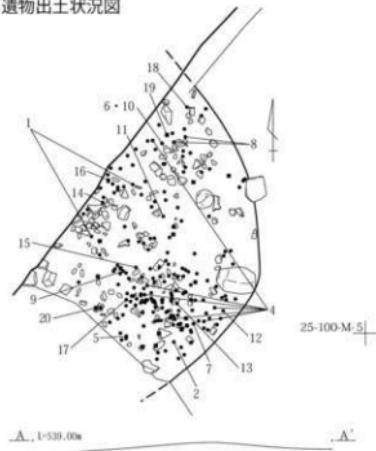
経過 2号竪穴建物の北側至近に隣接する。深鉢の胴上半部を正位に埋設した炉があり、その南東側2mほどのところから扁平な川原石3個と鉄平石1個をコの字状に並べた状態で確認された。ここは台地縁辺にあたり、上面の削平がかなり及んでいることから出土遺物は少なく、その他の施設も確認されなかった。

形状 判然としない。

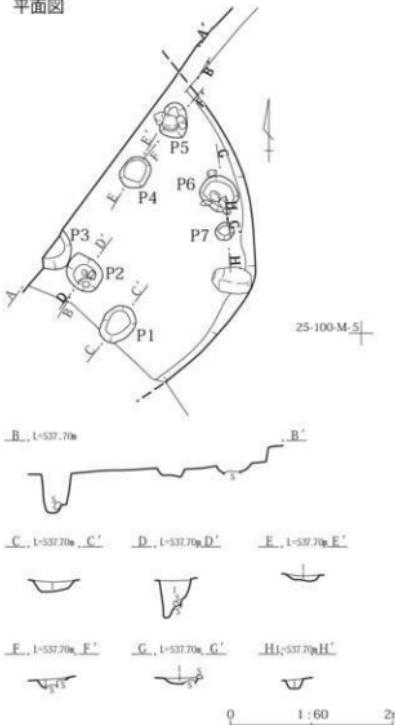
床面 炉の確認面は黒褐色土で、硬化面は認められない

第3表 積穴建物一覽表

遺物出土状況図



平面図



第6図 1号堅穴建物(1)

が、数は少ないが周囲に板状礫や扁平な川原石が点在しており、敷石があった可能性もある。

炉 明瞭な焼土は残っていなかったが、埋設された土器が被熱していることから、炉と判断した。

遺物 炉内埋甕は堀之内2式に比定されるが、現在所在不明で提示できない。ここでは周囲から出土した土器を表示した(1)。

時期 後期前半堀之内2式期に比定される。

4号堅穴建物(第11、12図、PL. 7)

調査年度 平成20年度

位置 100区L-7

経過 3号建物の北東側に近接する。堀之内1式期の大

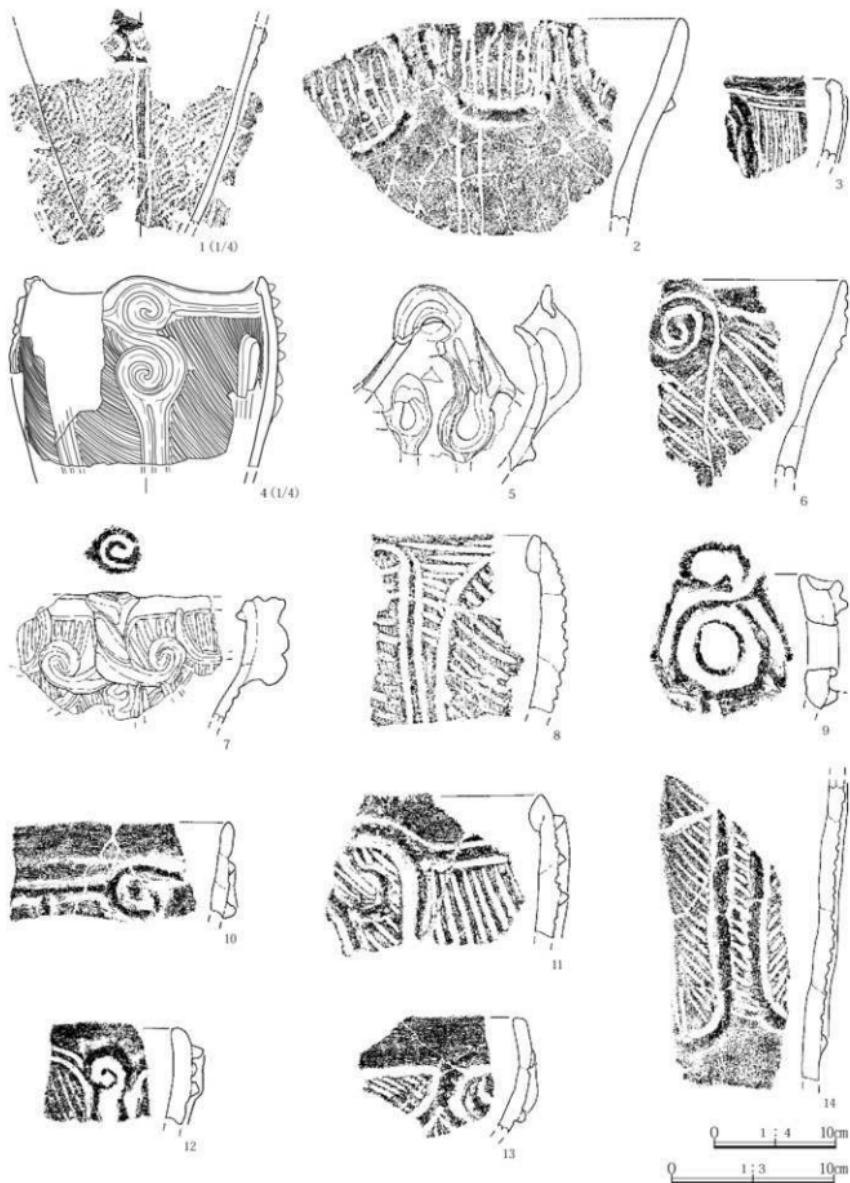
型深鉢の脚下半部を正位に埋設したものを炉と判断し、建物を想定して調査したが、その他の施設は確認できなかった。しかし、埋設土器のすぐ北側にある3号土坑の上面にはやや大型の川原石や扁平礫が敷かれたように集積しており、この土器は敷石建物の出入り口部に埋設されていた可能性が強い。

形状 確認されていない。

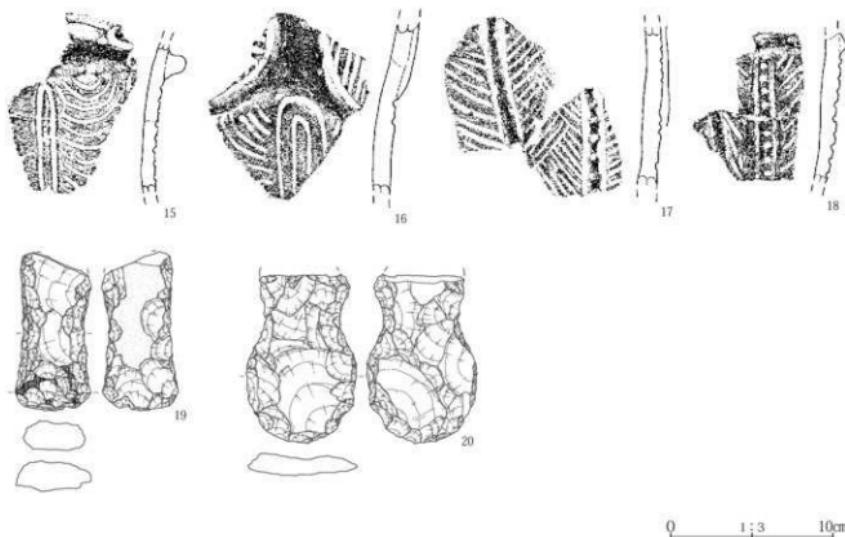
埋甕 埋設土器およびその周囲に焼土は認められず、近接する大小数個の川原石にも被熱痕跡は全く認められない。

遺物 第12図-1は埋設土器で堀之内1式に比定される。

時期 後期前半堀之内1式期に比定される。



第7図 1号竪穴建物(2)



第8図 1号竪穴建物(3)

5号竪穴建物(第13～18図、PL.7、8)

調査年度 平成20年度、平成29年度

位置 100区H-8

経過 6区北側の台地縁辺のほぼ中央部で確認した。土器埋設石囲い炉を中心とした建物で、南側の壁に沿つて2本の柱穴と埋甕が確認されている。

重複 建物内東半部に89号竪穴建物が重複してこれに切られ、西側に9号竪穴建物とわずかに重複し、これを切る。
形状 南北方向にやや長い椭円形を想定した。このうち、南側の2m分が平成30年度、北側は平成29年度の調査分である。南側に埋甕があるため、それを含むとの想定だが、埋甕は炉から4mほど離れており、通常では直径8m以上の規模を想定しなければならず、平成30年度部分の輪郭との整合がとれない。

床面 ほぼ水平な床面が認められているが、大きく重複する89号建物床面が直上にあり、両者の見分けが判然としない。

炉 大きな石数個で方形に組んだ石囲い炉で、内側で1m四方もあり、北側の炉石に接するように小型の深鉢を斜めに埋設している。炉内には中央部を中心に焼土が残り、

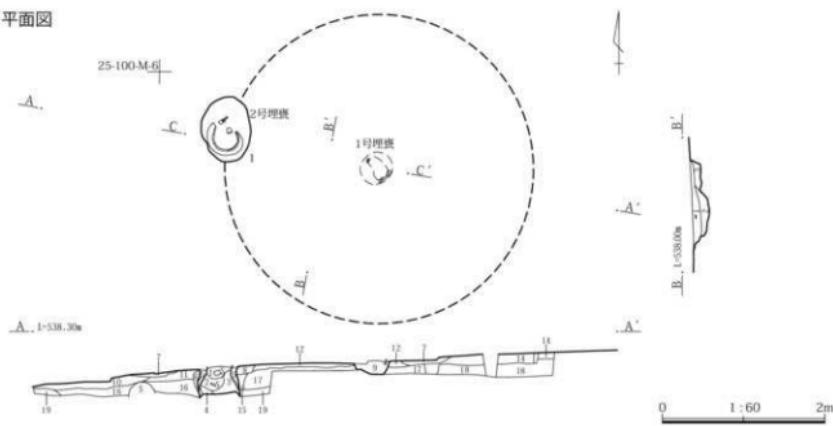
炉石の大半は被熱・変色して亀裂が生じている。

埋甕 炉の南南東4mほどのところにあるが、北向きの斜面にある集落ではまれに見られることではある。埋甕は後世の1号土坑に南側を切られるが、かろうじて残つており、調査時の写真記録では隅丸方形状の掘り方内に2個体の土器を正位に埋め込んだ状態で確認されている。埋設された土器の上端部は5号建物の床面より低い位置にあるが、土器の上面を1号土坑に切られたとは思われない。また、1号土坑とは別の隅丸方形状の掘り方内にあること、掘り方が埋甕を埋設するための形状とは異なること、埋甕は炉から4m離れており、直径8mの輪郭を想定すると現状の図の輪郭と異なること等を考慮すると、埋甕は別の建物の炉であった可能性が高いと考えたい。

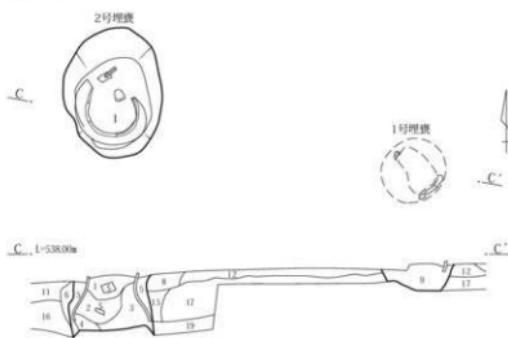
柱穴 平成20年度の調査範囲で2本の柱穴が確認されているが、いずれも浅く、主柱とするには心許ない。

遺物 床面付近から中期後半加曾利E3式新段階の土器や郷土式土器が数多く出土した。1、3、5～10は加曾利E3式新段階、2、4、11～15は郷土式、16は加曾利E3式併行の曾利系土器である。ほかに曾利I式

平面図



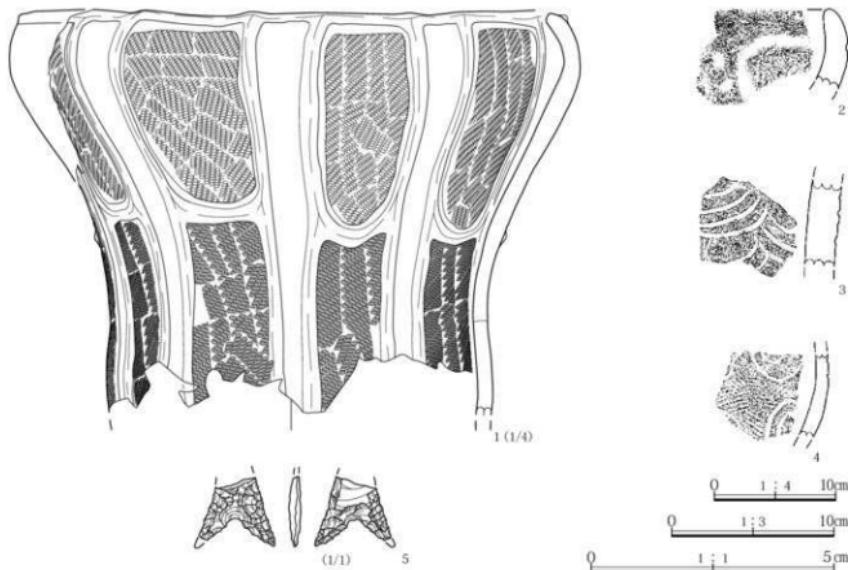
埋蔵平面図



埋蔵掘り方



第9図 2号竖穴建物(1)



第10図 2号竪穴建物(2)

(20)、称名寺1式(21、22)等も少量認められた。2は炉体土器、11は埋甕である、両者とも胴部下端部を研磨して使用している。下端部を研磨する土器は、3と4も挙げられており、埋甕や炉体土器として転用されたものが廃棄された可能性が考えられる。

時期 中期加曾利E 3式新段階に比定されよう。

6号竪穴建物(第19、20図、PL. 9)

調査年度 平成20年度

位置 100区M-4

経過 1号と7号竪穴建物の間で確認された。残っていたのは、石囲炉の一部と炉内埋設土器のみであり、炉石の周囲には貼り床面が一部認められたが、遺物はほとんど確認できなかった。

重複 西側で1号建物、南側で7号建物と重複するが、切り合い関係は確認できない。また、北東側に2号建物が隣接する。

形状 炉が大型であり、直径6m前後の円形状を呈するものと想定する。

床面 炉の周間に貼床が認められた。

炉 炉石は東辺に長さ40cm前後の石をほぼ南北方向に並

べて設置し、その南東端に胴下半部を打ち欠いた深鉢を正位に埋設していた。大型の土器埋設石囲い炉であるが、その他の炉石は失われており、炉内に焼土もほとんど残っていなかった。

柱穴 炉を中心にして直径6mの円を描くと、その内側に数本のピットが並んでおり、これらが本建物の柱穴となる可能性がある。

遺物 炉内に埋設されていた土器のみである。この土器は郷土式のやや小型深鉢(第20図-1)で、炉内に正位で埋設されていた。

時期 中期加曾利E 3式古段階に比定される。

7号竪穴建物(第20、21図、PL. 9)

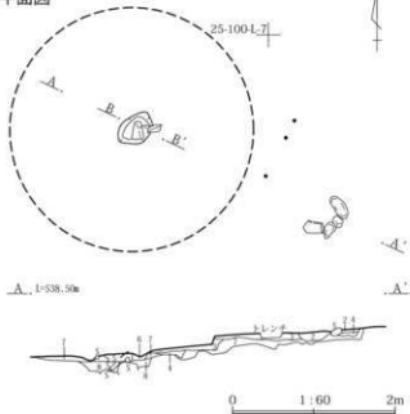
調査年度 平成20年度

位置 100区G-7

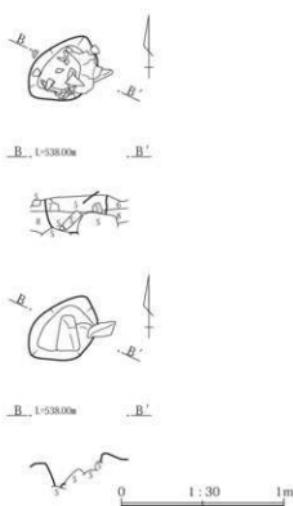
経過 6号建物のすぐ南側で確認された。中央にいわゆる両耳壺鉢(第20図-1)の上半部を逆さにして据えた炉(第21図)があり、その南側1mのところに曾利式系深鉢を正位に埋設した埋甕が確認された。周辺部で土坑やピットも數か所確認されているが、本建物に帰属するものを見特定するのは難しい。

3号竪穴建物

平面図

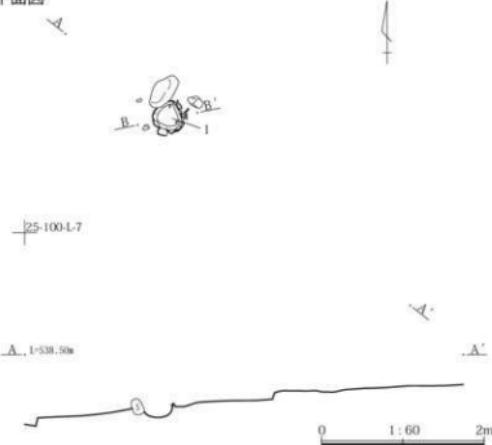


埋甕平面図

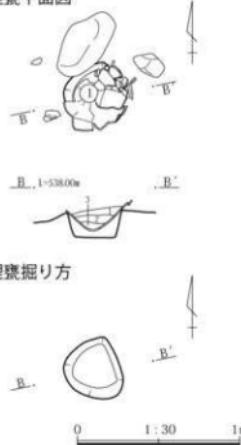


4号竪穴建物

平面図

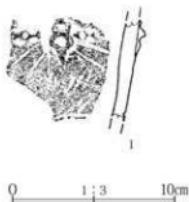


埋甕平面図

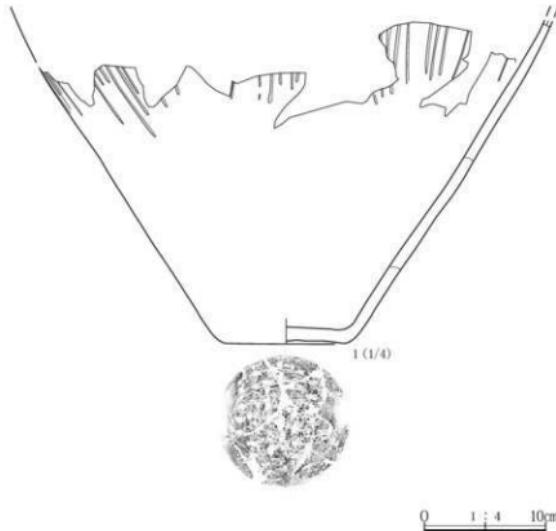


第11図 3・4号竪穴建物(1)

3号竪穴建物



4号竪穴建物



第12図 3・4号竪穴建物(2)

沢沿いの一帯は中近世にも使用されており、後期段階に
もかなりの削平を行っているものと想定される。

重複 北側を6号竪穴建物と重複するが、切り合い関係
は確認できない。東側に10号竪穴建物が隣接する。

形状 確認できていない。

床面 確認できていない。炉に埋設された土器の確認面
は本来の床面より下がっていると考えられる。

炉 胴部以下を欠損した両耳壺を逆位に埋設したもの
を炉としている(第21図)が、焼土は確認されていない。

柱穴 炉を中心には数個の土坑・ピットが確認されている
が、主柱は特定できない。

遺物 想定された建物範囲から少量の土器が出土して
いるが、いずれも後期前半期(第20図3～7)のもので、
本建物に伴うものではない。

時期 中期加曾利E3式期に比定されよう。

8号竪穴建物(第22、23図、PL.10)

調査年度 平成20年度、平成29年度

位置 100区N-4

経過 6区台地中央の北側縁辺で確認された。5号竪穴
建物の南側に隣接する。平成20年度の調査で小型の石圓
炉とわずかな遺物が確認され、その9年後に建物東側の
立ち上がりと想定されるものが検出されたが、遺物はほ
とんど確認されなかった。

形状 直径5m前後の円形を呈するものと思われる。

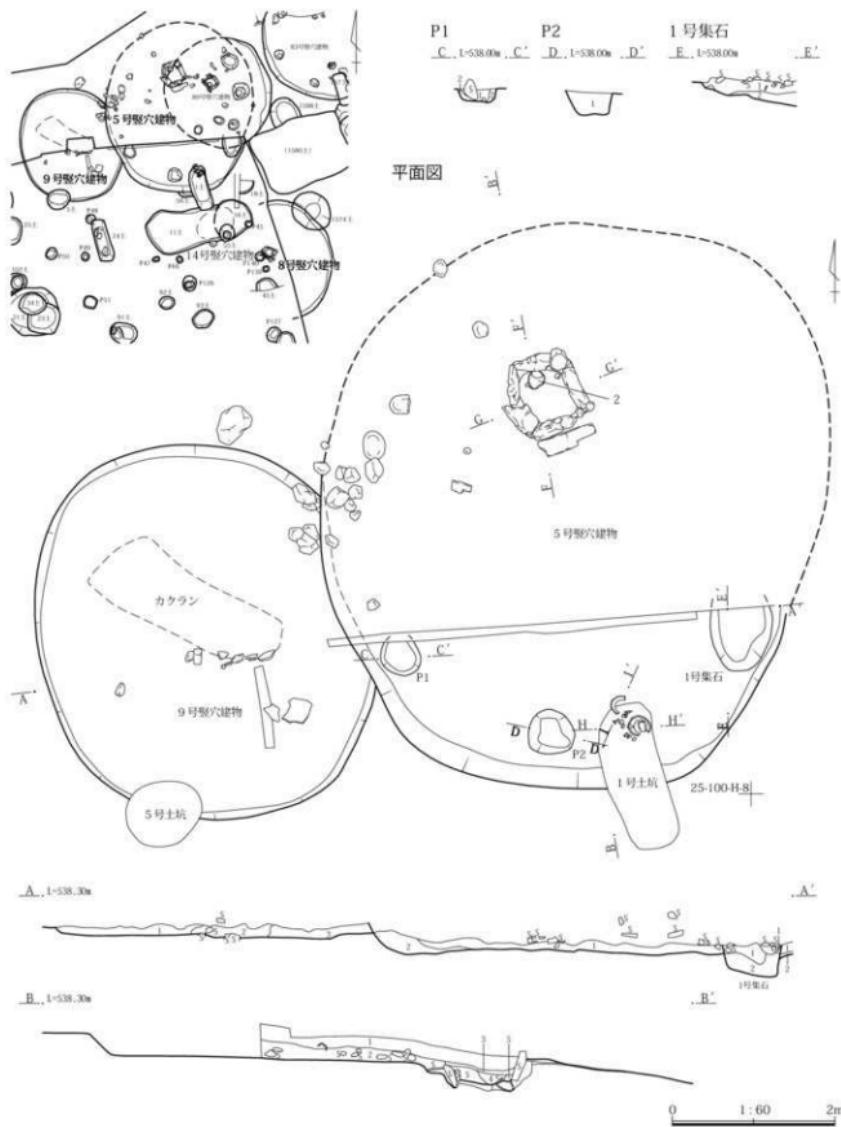
床面 明瞭な床面は確認できていない。

炉 一辺40cmほどの小さな方形石圓炉で、南北方向の2
石は失われていた。炉内に焼土は認められないが、残っ
ていた2石は被熱痕跡が認められる。

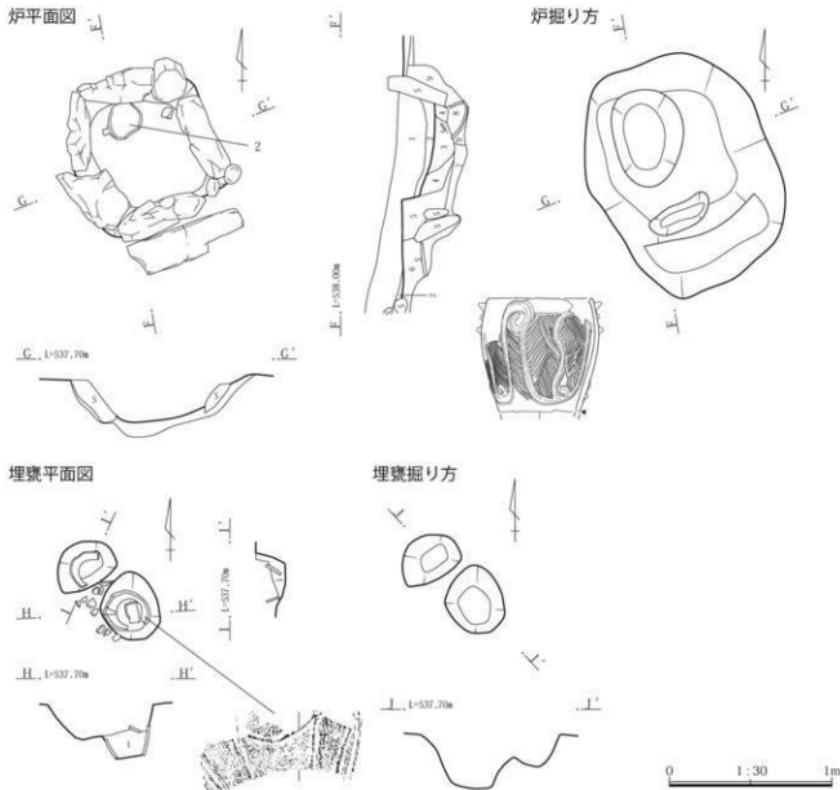
柱穴 確認されていない。

遺物 炉の周囲から加曾利E3式を中心に出土する(1
～4、6)。

時期 炉周囲出土の土器から、中期加曾利E3式新段階
に比定されよう。



第13図 5・9号竪穴建物(1)



第14図 5・9号竪穴建物(2)

9号竪穴建物(第13～15図)

調査年度 平成20年度、平成29年度

位置 100区H-8

経過 5号竪穴建物の西側で確認された。本建物も南半部を平成20年度に調査され、北側は9年後の調査となつた。

重複 東側を5号竪穴建物と重複し、これに切られる。

形状 南北方向の長さ4.6mほどの円形に近い楕円形をした形状で、中央部を大きく攢乱されて炉を失っている。

床面 地山面をほぼ水平に調整して床面としているが、硬化面はほとんど確認できなかった。

炉 建物の中央部を大きく攢乱されており、炉は見つ

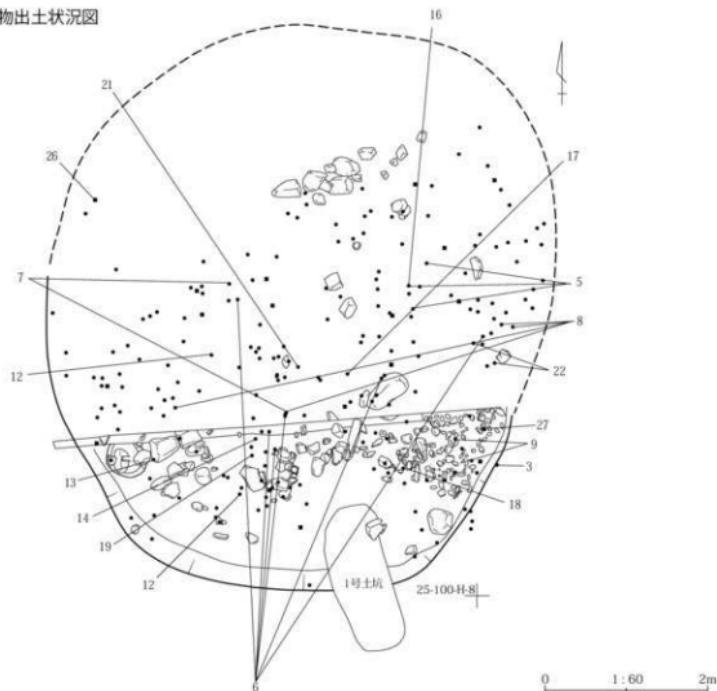
かっていない。

柱穴 確認されていない。

遺物 覆土中から少量の遺物が出土している(第23図-1)。

時期 中期加曾利E3式期に比定されよう。

5号竪穴建物遺物出土状況図



第15図 5・9号竪穴建物(3)

10号竪穴建物(第24図、PL.10)

調査年度 平成20年度

位置 100区

経過 7号竪穴建物の東側で確認された。確認されたのは石囲炉のみで、その他の施設は検出されていない。

重複 重複する建物は無いが、炉の東西を80号・105号土坑に切られている。西側の80号は浅い土坑だが、炉の東側を105号土坑で失っている。

形状 炉を中心直径5mの円形を想定した。

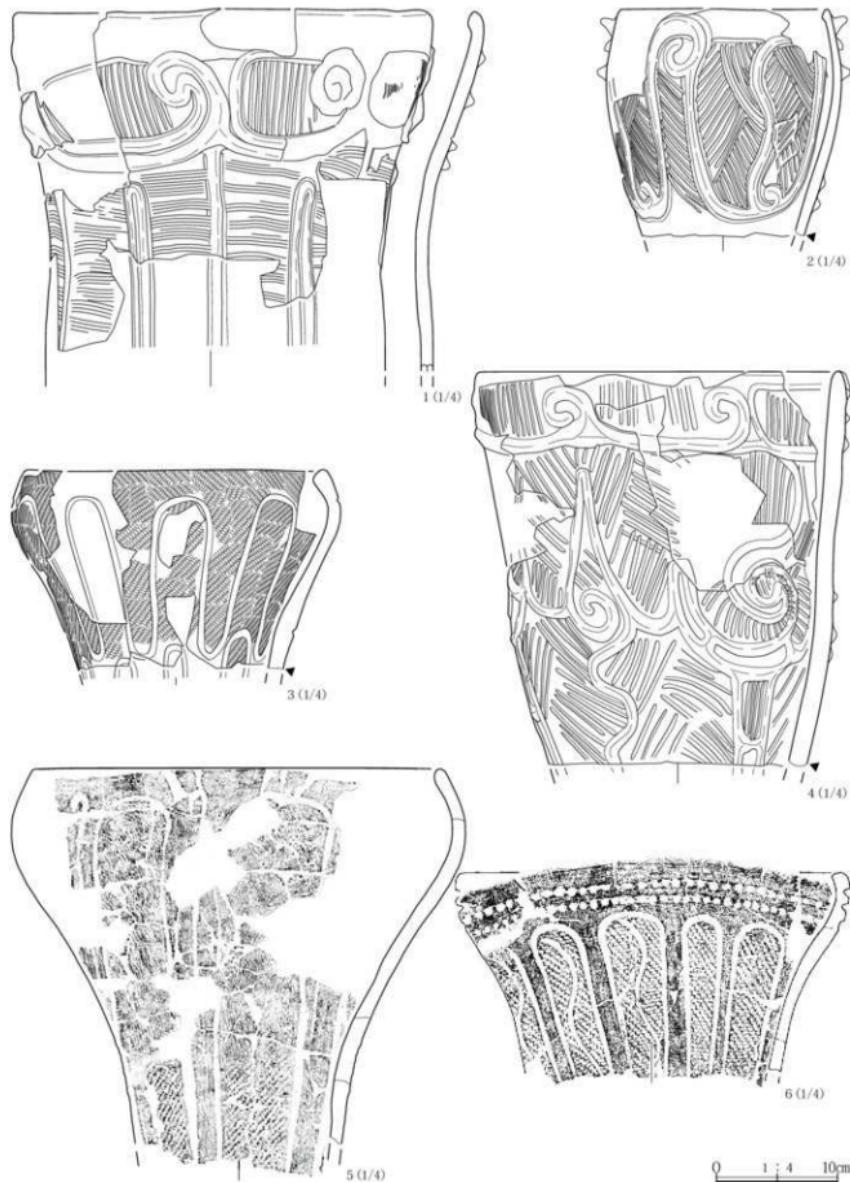
床面 確認できていない。

炉 40cm以上の大さな石などを4石で組んだ方形石囲炉で、南辺の一部と東辺の炉石は失っている。炉の底面は焼土化しており、残った炉石も被熱痕跡が明瞭に認められた。

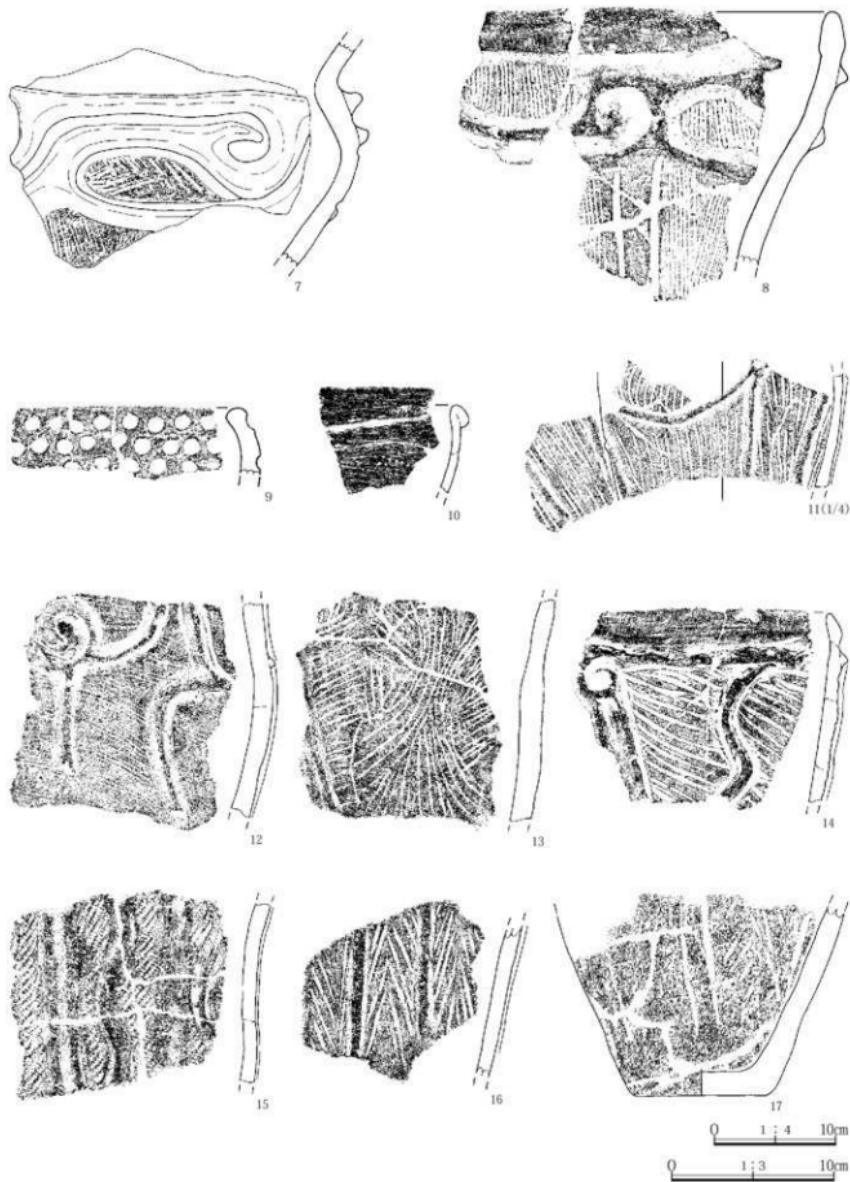
柱穴 確認されていない。

遺物 炉辺から少量の土器が出土している。第24図-1は加曾利E3式である。

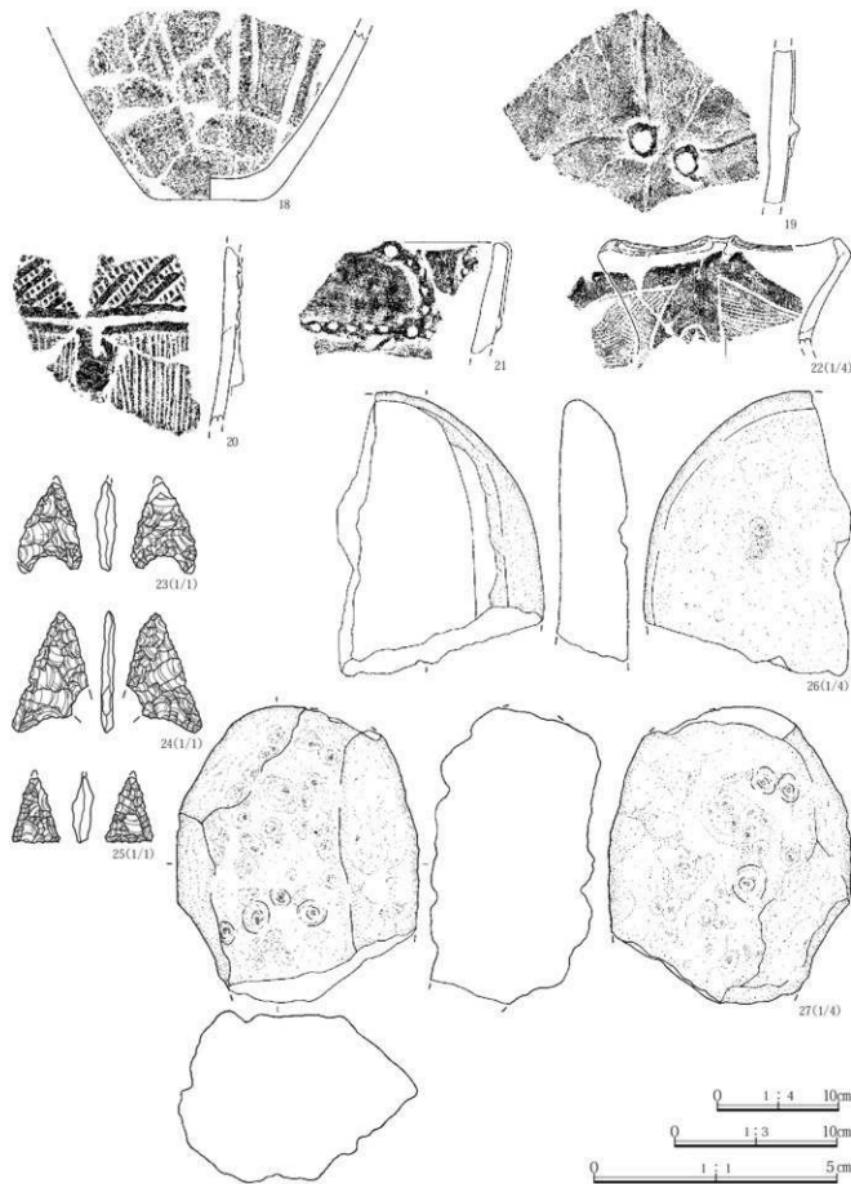
時期 炉辺出土の土器から、中期加曾利E3式期に比定されよう。



第16図 5号竪穴建物(1)



第17図 5号竖穴建物(2)

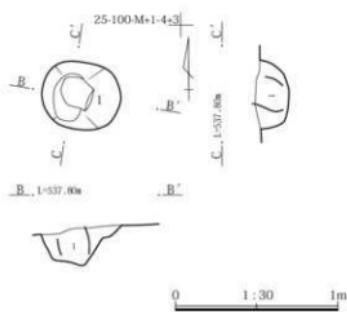


第18図 5号竪穴建物(3)

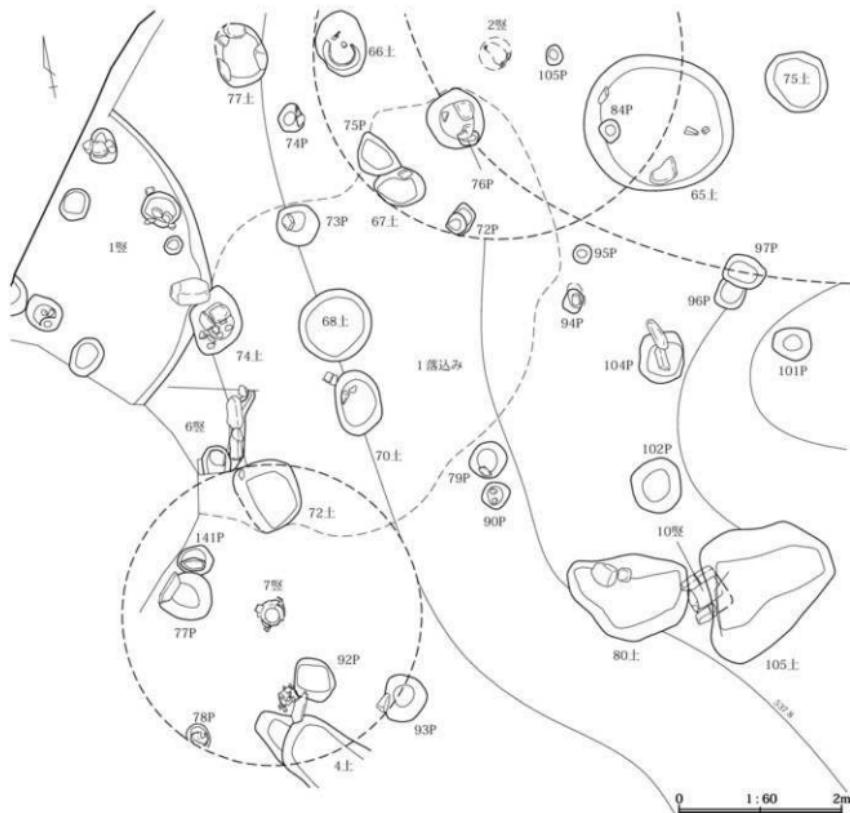
石囲い炉平面図



埋甕平面図

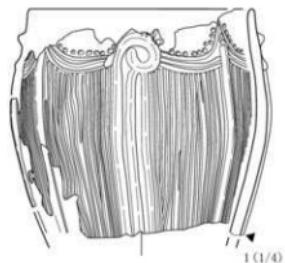


0 1:30 1m

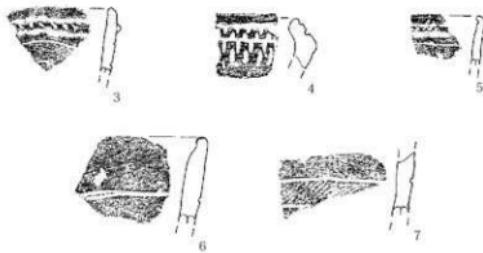
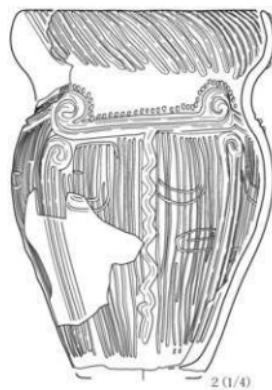
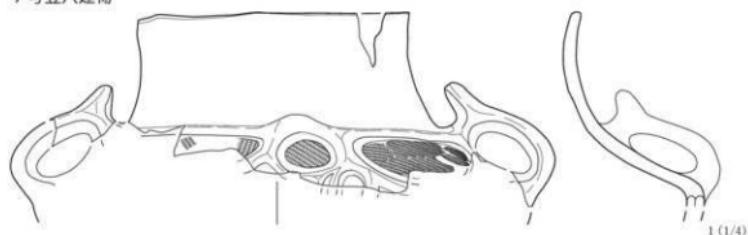


第19図 6号竖穴建物

6号竪穴建物



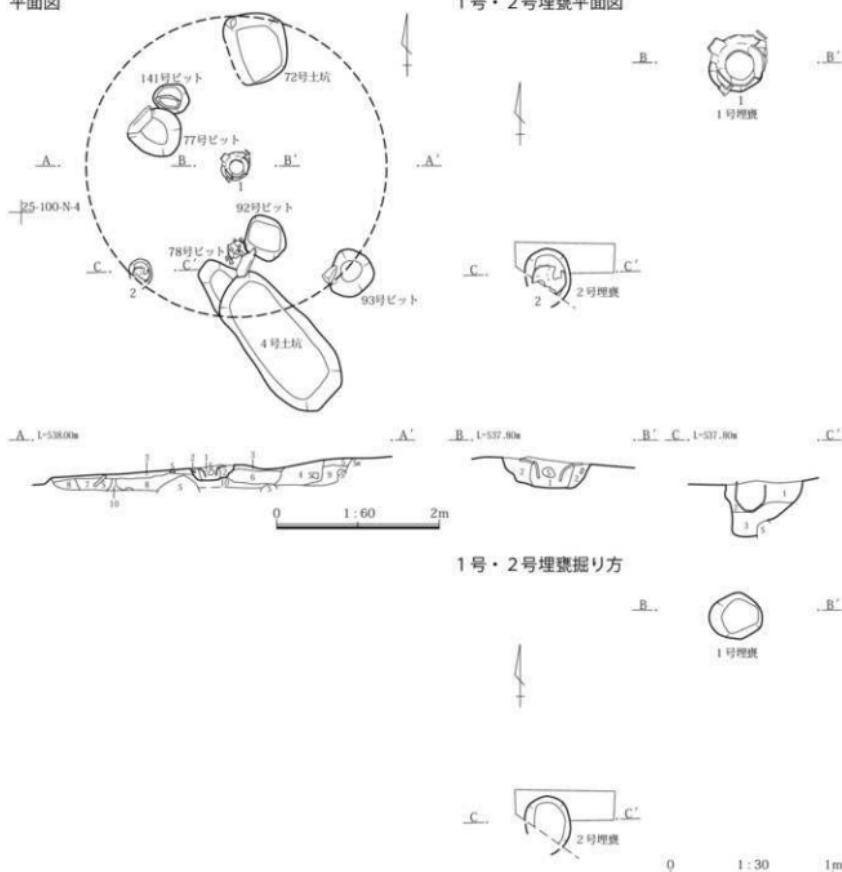
7号竪穴建物



0 1 : 4 10cm
0 1 : 3 10cm

第20図 6・7号竪穴建物

平面図



第21図 7号竪穴建物

11号竪穴建物(第25～29図、PL.10、11)

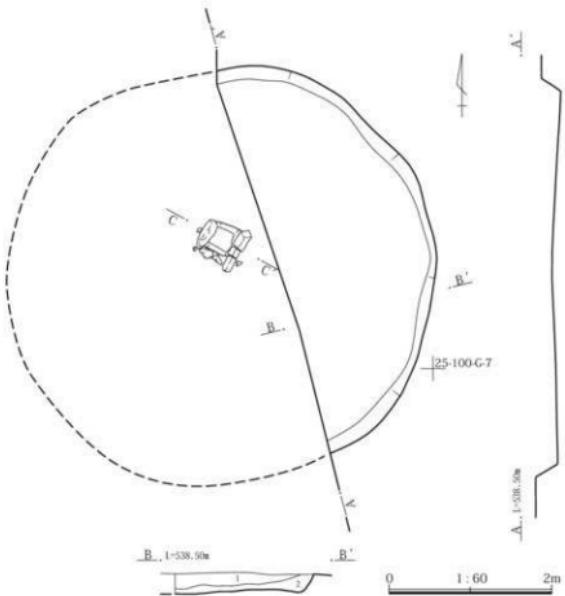
調査年度 平成20年度

位置 100区H-5

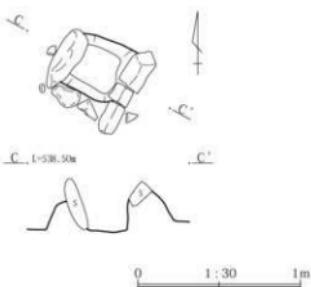
経過 10号竪穴建物の東側12mほどのところで確認した。数m四方に比較的多くの遺物が集中する箇所があり、その南西側に大小10個前後の扁平な川原石と鉄平石が同一面に敷いた状態で確認された。そのなかで2mの距離を置いて二つの埋設土器が確認された。調査時には西側の

ものを1号、東側のものを2号とし、1号をがと判定した。1号は高さ50cm以上の深鉢を正位に埋設したもので、そのなかに高さ30cm以上の深鉢が入れ子状態で確認された。一方、2号は口径27cm、残存する高さ26cmほどの無文深鉢を正位に埋設したものである。これらについて整理段階で検討した結果、1号は単独の埋設土器に変更し、2号を本竪穴建物のがと判断した。また、整理段階で本竪穴建物周囲の土坑の配置を検討した結果、本竪穴建物

平面図



炉平面図



第22図 8号竪穴建物

の大半を覆う規模の竪穴建物が想定され、140号竪穴建物としたが、これについては後で記述する。

1号埋設土器を炉とした場合の復元案(第25図)では南西側の敷石を出入り口部と想定し、西側にある沢の方向に出入り口を向けた建物と考えた。

形状 直径7.4mの円形のプランで、傾斜する西側に柄部を想定した。

床面 出土土器や敷石の一部とみられる礫がほぼ同一面にあることから、この面を床面と想定するが、明瞭な硬面化等は確認されていない。

炉 2号埋甕(第26図-4)を炉と想定した(第25図)。

柱穴 確認されていない。

遺物 一定範囲に集中した状態で遺物が出土している。1～32、35、36は堀之内2式、33と34は堀之内1式、39は加曾利B1式に比定される。1と35は石神類型に比定される。4は炉体土器として認定した2号埋甕である。

時期 炉に埋設した土器および覆土中から出土した土器から、後期堀之内2式期に比定される。

8号竪穴建物



9号竪穴建物



第23図 8・9号竪穴建物

17号竪穴建物(第30、31図、PL.11)

調査年度 平成20年度

位置 100区I-2

経過 11号建物の南南東5mほどのところで確認した。近接した位置で2個体の埋甕があり、一つは口径38cm、高さ45cmほどの底部付近を打ち欠いた深鉢を正位に埋設したもの、もう一つは口縁部と胴下半部を打ち欠いた深鉢を正位に埋設したもの(PL.11)、調査時にこれらを炉とする建物が想定された。

形状 調査時には確認されていないが、直径7mほどの円形プランで、傾斜する西側の沢に向かって柄部を想定したい。この柄部の南側には、等高線に沿って並ぶ列石状の石列がある。この石列は幅1m、長さ5mほどの帶状に川原石等を集めしたもので、若干の空白を置いて1号列石に近接している。想像を逞しくすれば、本建物は台地縁辺に沿って1号列石の北側に連なる列石に取り付く建物だった可能性がある。

床面 確認されていない。

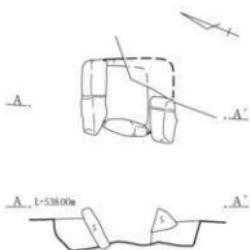
炉 土器埋設石圓炉だったと想定されるが、炉石・焼土は確認されていない。

柱穴 確認されていない。

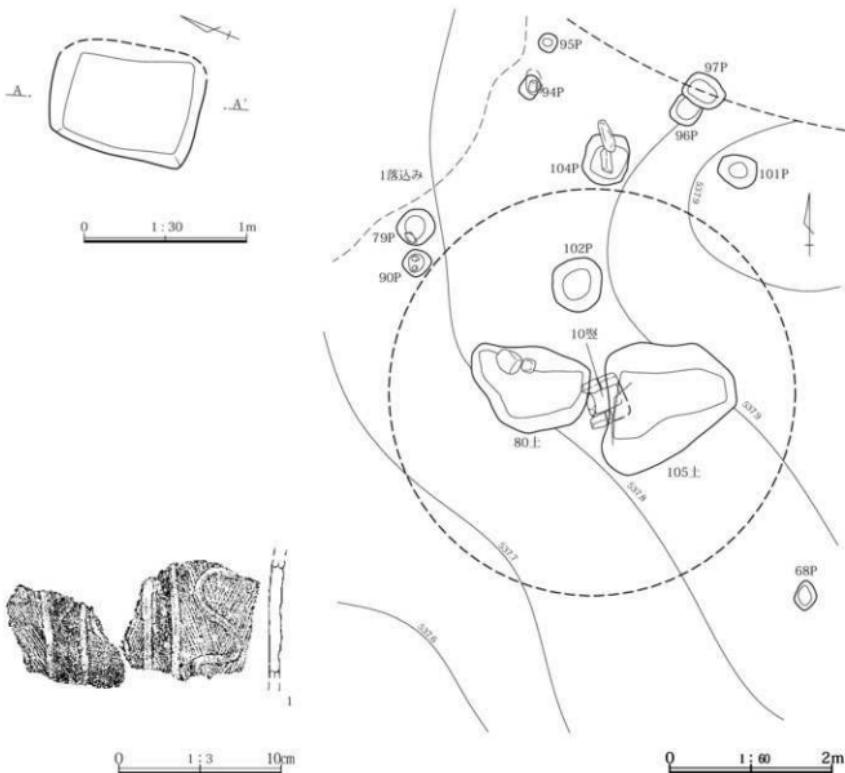
遺物 埋甕の調査に伴って数点の土器が出土した。1～4は加曾利B1式である。1と5は埋甕として利用され、1はクランク状の沈線文を施す。2は、石神類型の小型鉢である。

時期 後期加曾利B1式期に比定されよう。

石囲い炉平面図

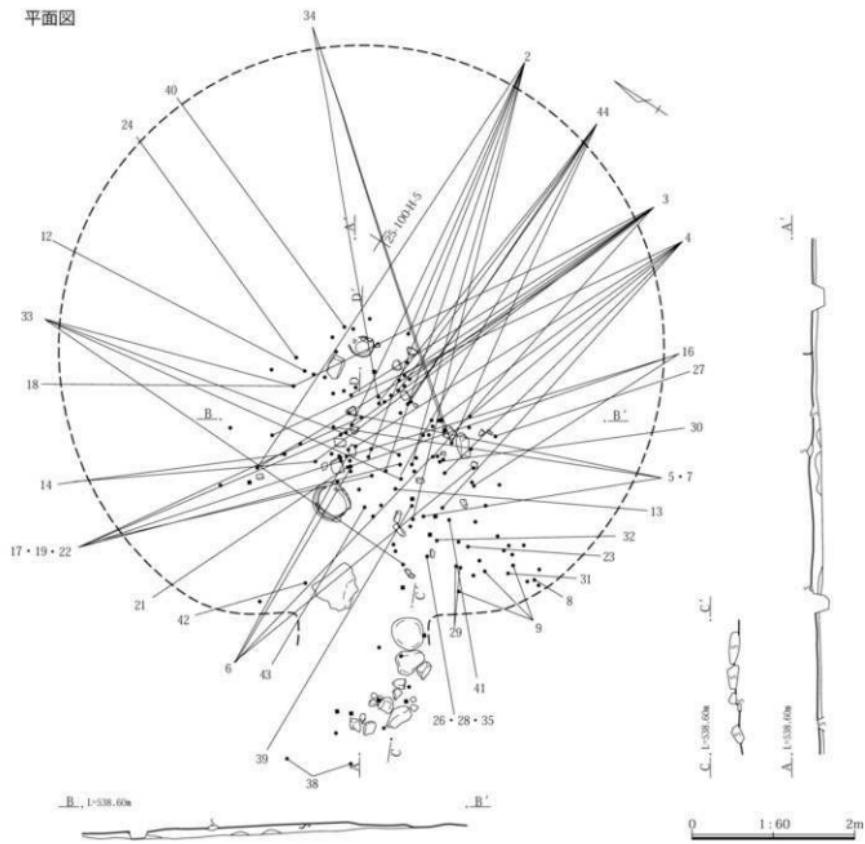


石囲い炉掘り方

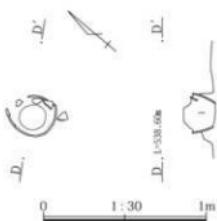


第24図 10号竪穴建物

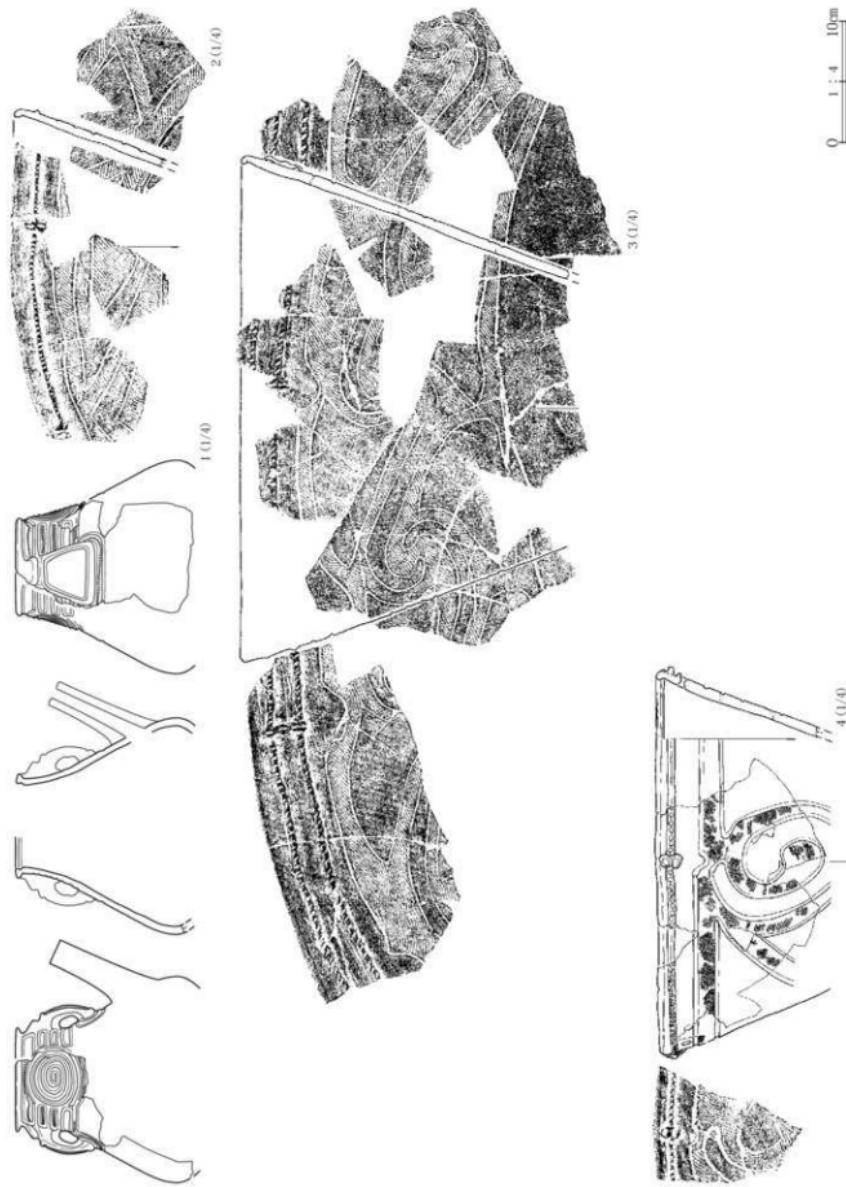
平面図



炉平面図



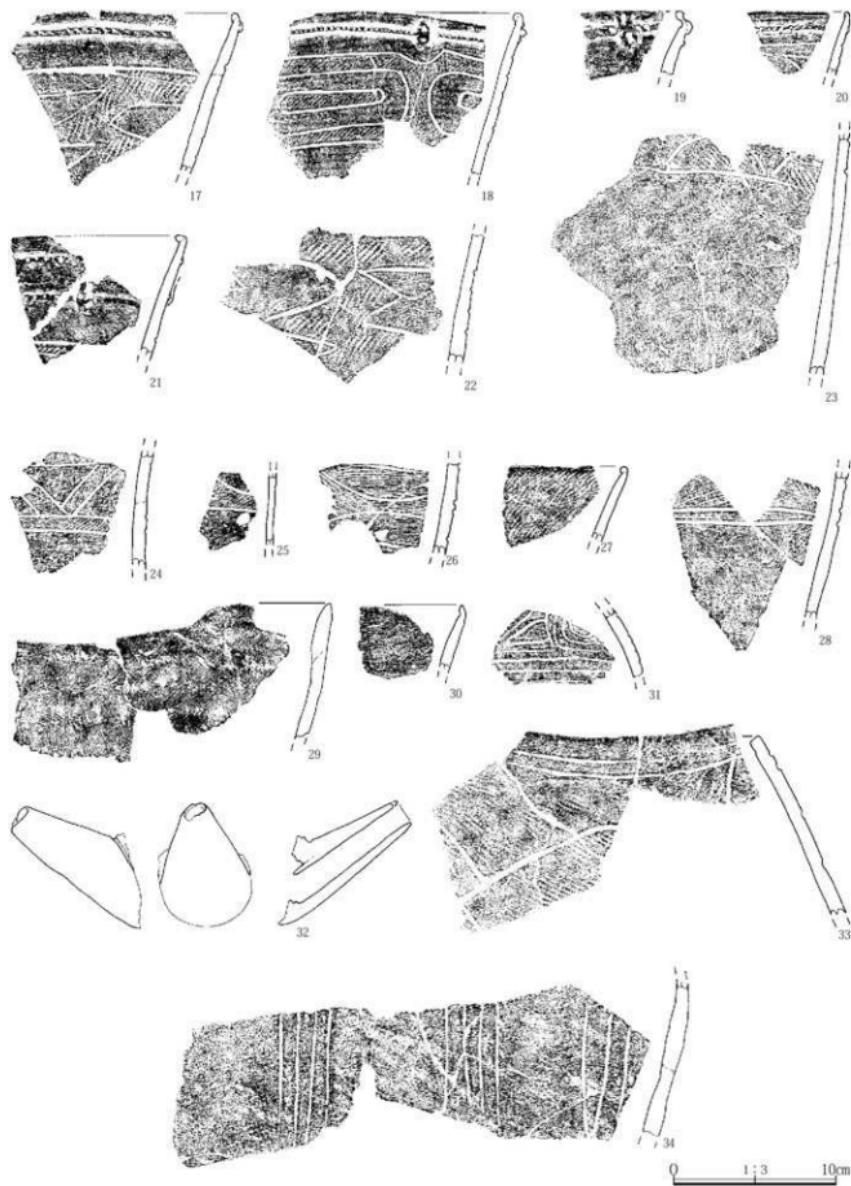
第25図 11号竪穴建物(1)



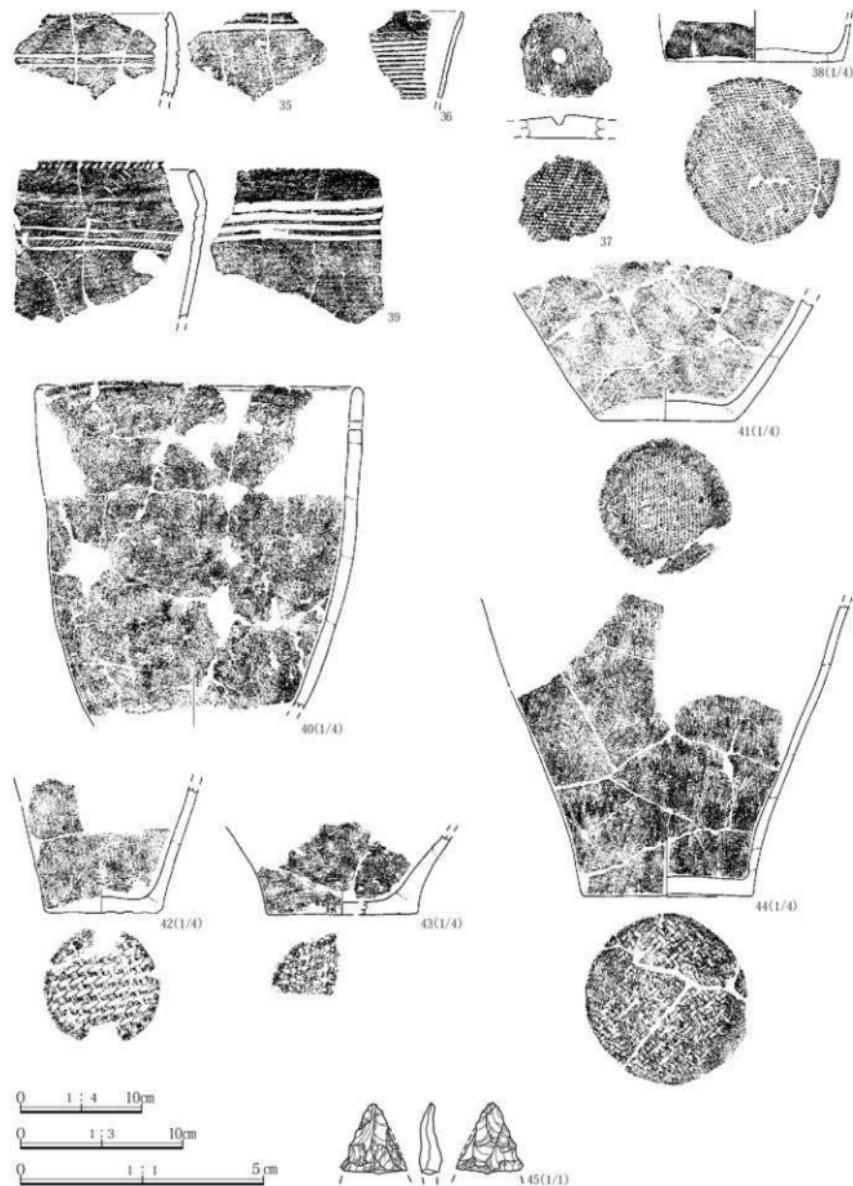
第26図 11号竪穴建物(2)



第27図 11号竪穴建物(3)

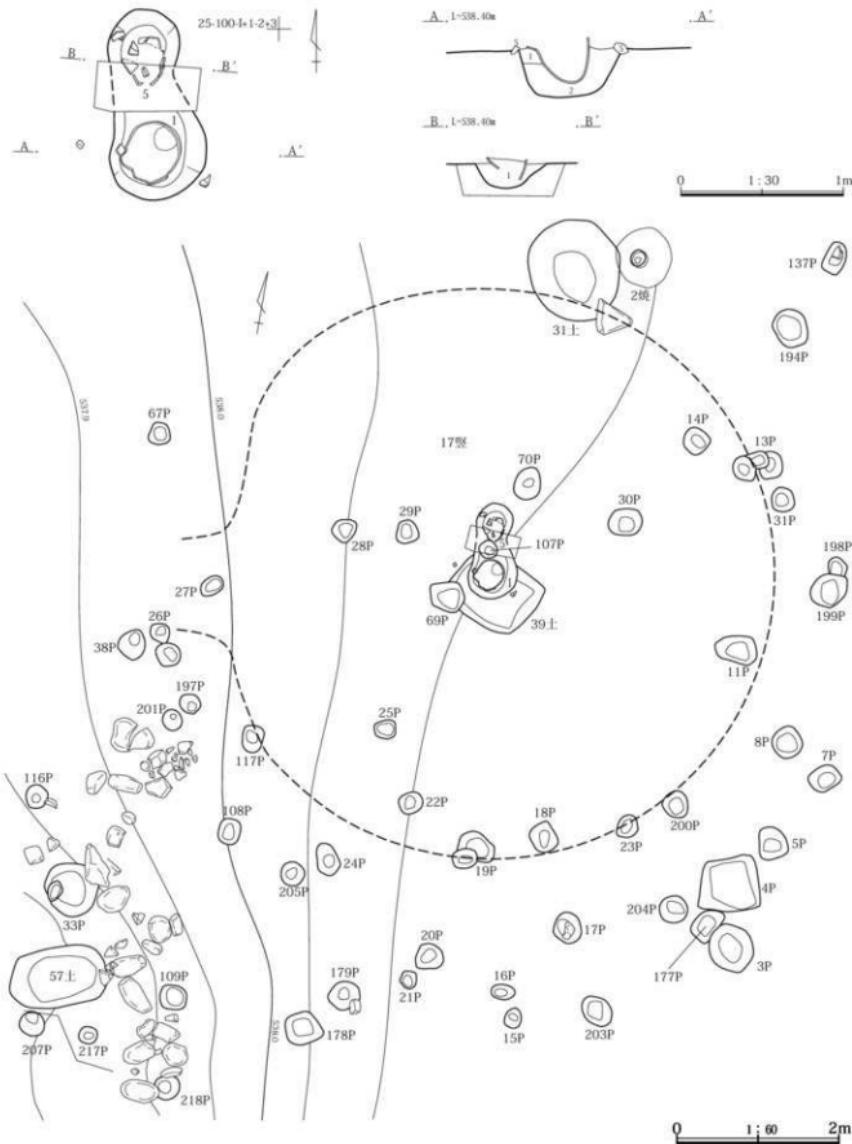


第28図 11号竪穴建物(4)

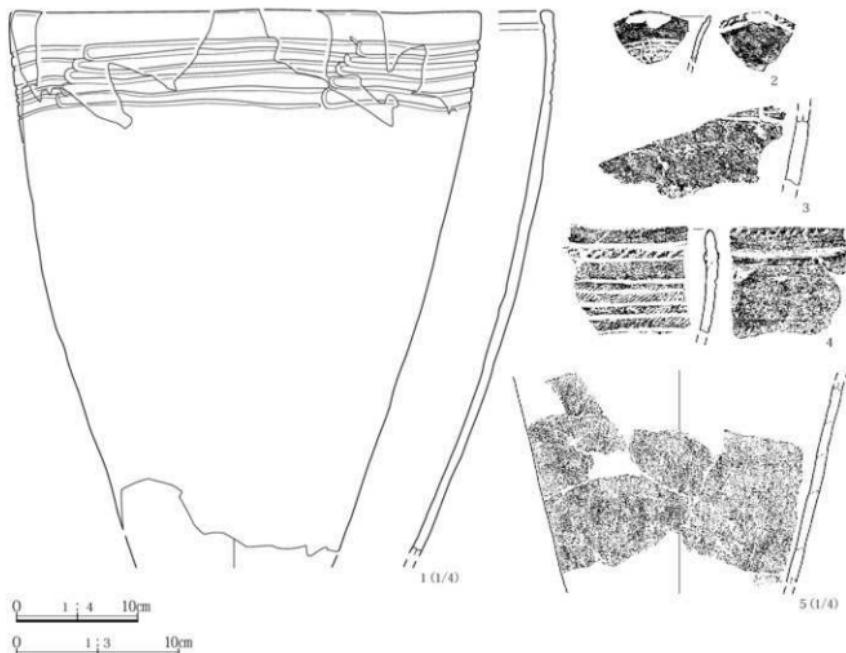


第29図 11号竪穴建物(5)

埋設平面図



第30図 17号豊穴建物(1)



第31図 17号竪穴建物(2)

18号竪穴建物(第32、33図、PL.11)

調査年度 平成20年度

位置 90区 F-24

経過 6区台地南側に迫る丘陵部末端の直下で確認された。北側に向かって傾斜する斜面で焼土と埋甕が確認され、建物として調査を行ったが、関連する施設等は確認できなかった。

重複 西側に焼土や数多くの土坑があるが、重複関係ははっきりしない、また、北東側5mに100号・102号建物が隣接する。

炉 方形状の掘り方内に口縁部と胴下半部を打ち欠いた深鉢を正位に埋設しており(1)、掘り方部分にわずかに焼土が認められた。炉石は確認されていないが、土器の上端部には被熱痕跡が認められる。

時期 後期前半に比定されよう。

28号竪穴建物(第34図、PL.12)

調査年度 平成28年度

位置 99区 L-11

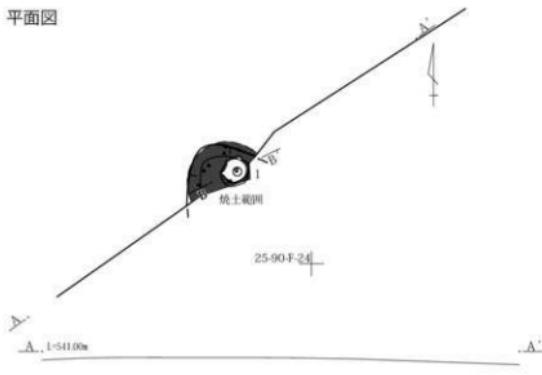
経過 5区台地中央部で確認された。本遺跡で確認された建物では最も東側に位置するもので、周囲に縄文時代の遺構はほとんど見当たらず、最も近い建物は西方28mにある41号建物である。周辺には遺物の分布も希薄だったが、黒褐色土中に長さ20cmほどの棒状円礫が立てた状態で見つかり、注意深く掘り下げたところ、石圓炉と小さな深鉢が確認された。

形狀 南北3.8mほどのほぼ円形を呈する。本建物発見の契機となった棒状礫は、南側の壁面に立てて設置されたもので、用途等は不明である。

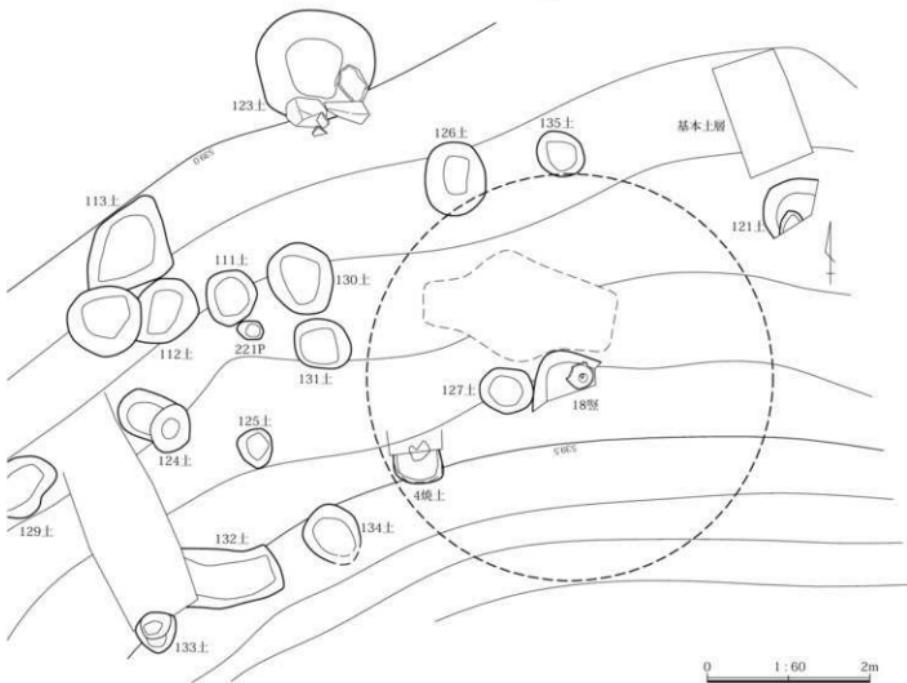
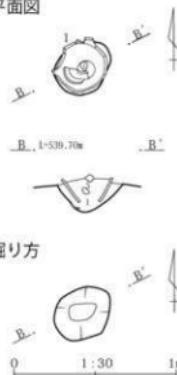
床面 黒褐色土中に平坦な床面を構築しており、炉の周囲ではやや硬化した床が確認できた。

炉 20~30cmの扁平な川原石や地山礫を円形状に組んだ

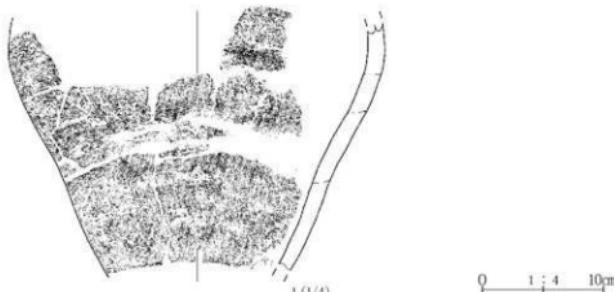
平面図



埋甕平面図



第32図 18号竪穴建物(1)



第33図 18号竪穴建物(2)

石圓炉で、一部の炉石は抜き取られていた。炉内に焼土は残っていなかったが、炉石の一部には被熱痕跡が認められた。

遺物 口辺部を打ち欠いた小型深鉢(第34図-1)が東側の床面上に横倒しの状態で出土した以外には、数片の土器破片のみである。

時期 中期加曾利E 3式期に比定される。

34号竪穴建物(第34図、PL.12)

調査年度 平成28年度

位置 99区T-17

経過 28号竪穴建物の西北35mで確認した。5区台地縁辺にあり、28号竪穴建物と同じ周囲に縄文時代の遺構はほとんどない。地山礫が集中する場所から深鉢の胴部を正位に埋設した深鉢の胴部と焼土が確認され、建物として調査したがその他の施設は見当たらなかった。

形状 形状を示すものは確認されていないが、直径4.5mほどの円形の建物を想定した。

床面 確認されていない。

炉 深鉢の胴部3分の1ほどを正位に埋設した状態で確認され、その周囲にわずかに焼土が認められた。

遺物 ほとんど出土していない。

時期 中期加曾利E 3式期に比定される。

41号竪穴建物(第35図、PL.12)

調査年度 平成29年度

位置 99区T-9

経過 5区台地西側の中央で確認した。6区に近い位置

にあり、遺物の出土量も比較的多く認められた。遺物を取り上げて遺構確認面まで提げた段階で大型の石圓炉を確認し、建物としての調査を実施した。

重複 建物との重複は無いが、大型の土坑が数多く重複している。切り合い関係は不明である。

形状 壁は確認できなかったが、直径6mの円形を想定した。

床面 炉の周囲でわずかに硬化面を確認した。

炉 大小の石を組み合わせた長方形の石圓炉で、北側に寄せて胴下部を打ち欠いた小型の深鉢を正位に埋設している。炉内にはわずかな焼土しか残っていないが、炉石には明瞭な被熱痕跡が確認できた。

柱穴 柱穴は床面よりかなり提げた状態で調査し、3本の柱穴を確認した。このうちP 1とP 2が主柱の可能性がある。なお、炉の南側主軸線上1.8mで直径20cmほどの穴を確認した。床面より下がった状態での確認であることを考慮すると、出入り口部に伴う埋甕があった可能性がある。

遺物 遺構面の確認が最終となつたため、本建物に帰属する遺物は炉内に埋設された土器のみである(1)。

時期 中期後半加曾利E 3式期に比定される。

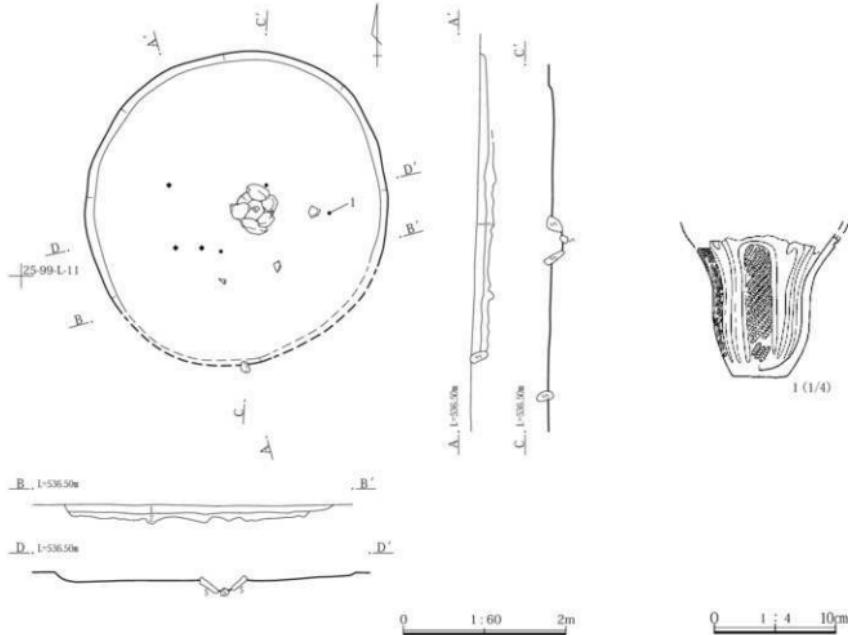
49号竪穴建物(第36～38図、PL.14、15)

調査年度 平成29年度

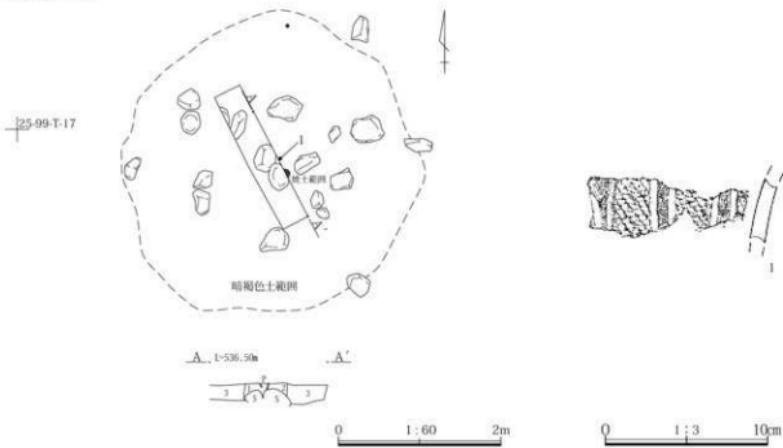
位置 90区S-15

経過 6区沢沿い左岸側には後期前半期を中心に数多くの建物が点在しており、本建物もその一つとして確認された。沢沿いは黒色土の堆積が厚く、後世の大型土坑も

28号竪穴建物平面図

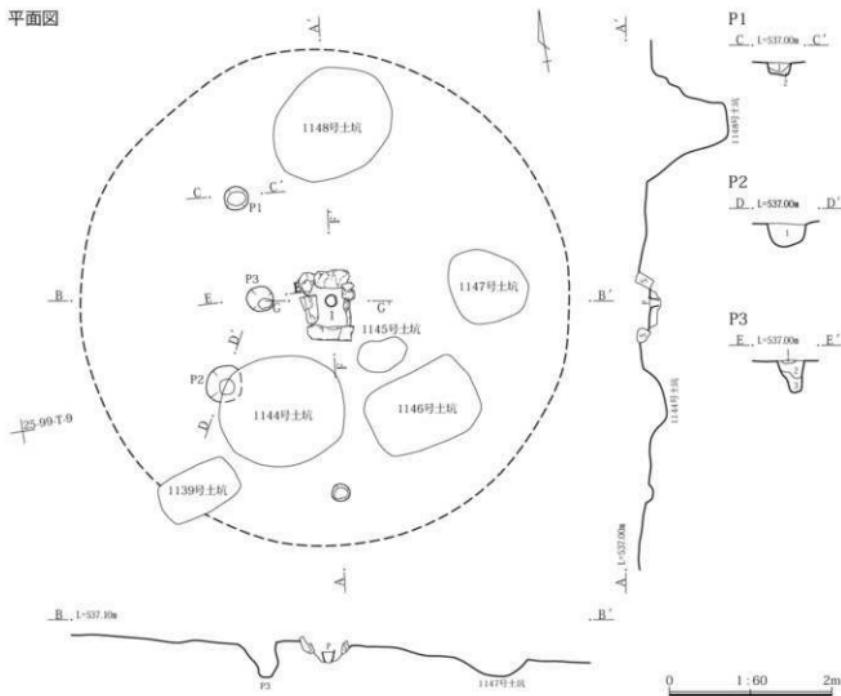


34号竪穴建物平面図



第34図 28・34号竪穴建物

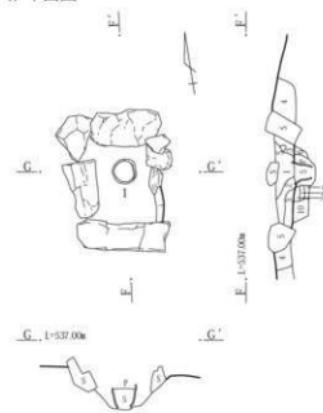
平面図



炉平面図

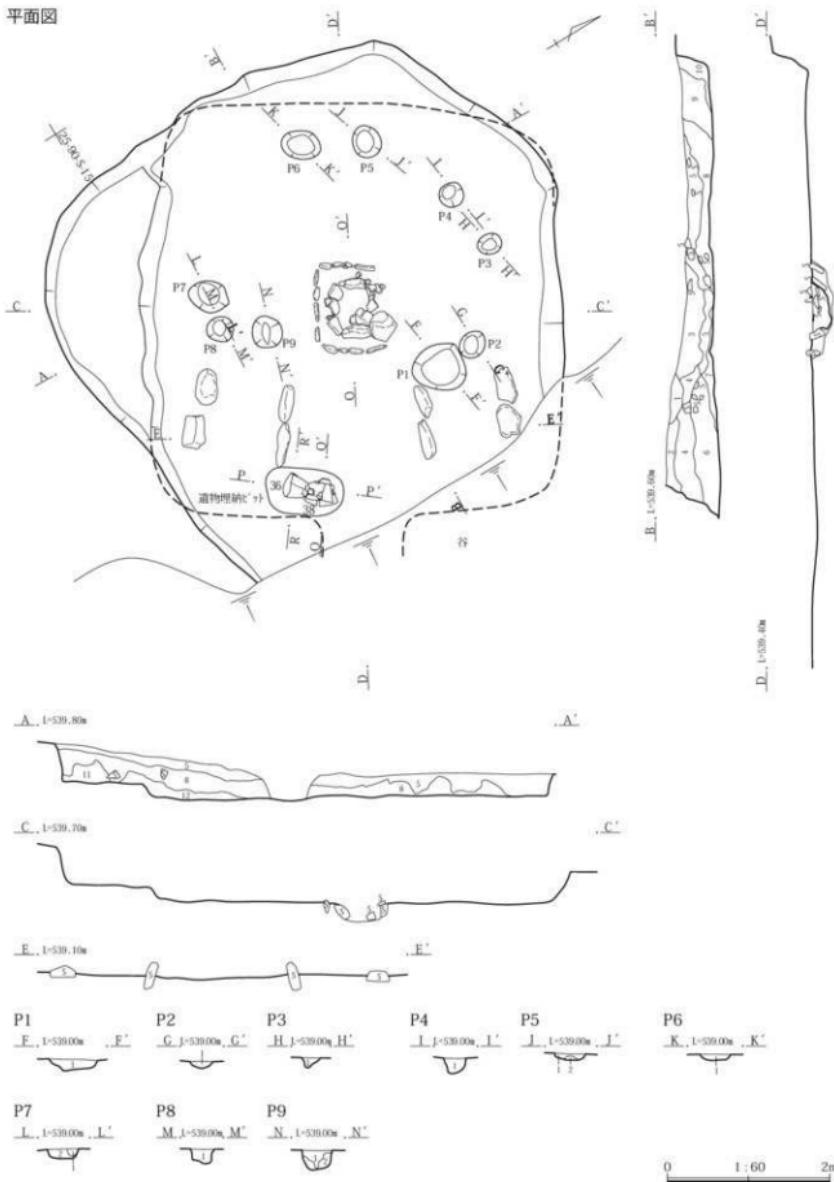


炉掘り方



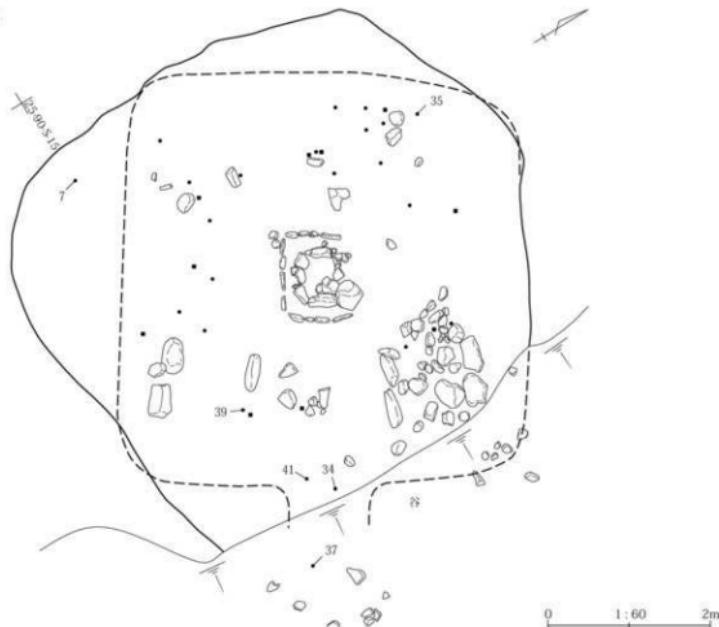
第35図 41号竖穴建物

平面図



第36図 49号竪穴建物(1)

遺物出土状況図



第37図 49号竪穴建物(2)

多いため、建物の特定作業は難易度が高い作業となった。当初は北東側に柄部が付く柄鏡形を想定されたが、調査進捗に伴って炉の南東側に石列と埋設土器が確認された。

形状 建物の輪郭は炉と相似形の方形を呈し、南東側の床面に設置された石列と埋設土器を出入り口側に伴うものと判断した。

床面 沢沿いの傾斜地を大きく掘り込んで平坦面を設置して床としており、明瞭な貼床は施していないため、沢側は黒色土面上に若干の土を入れて調整しているに留まる。床はほぼ平坦で、中央部分はよく締まっている。

また、南東側の床面に4本の石列が設置されていた。これは長さ50cm前後、幅20~30cmの扁平な川原石を縱に揃えた状態で4列を配置したもので、内側の2列は炉の中心を通した中軸線上を挟んで1.5mの間隔で側面を立てて床に埋め込み、外側の2列はそこから1mの間隔で床面に平坦に埋め込んで設置している。なお、内側の2

列はやや中心軸側に傾けて埋め込んでおり、理由はまだ解らないが、ここにも意図的な行為を看取される。また、北東側の石列間の床面上から板状の礫が多量に出土している。

なお、床面から鉄平石や板石が少量だが出土している。

炉 鉄平石や川原石などの扁平な石で組んだ二重圓形石囲炉である。外側の囲いはやや小さな石の側面を並べて方形状に仕切り、内側にはやや大きな石を斜めに使って円形状に組んでいる。

北東側の外囲いが残っていないかったが、これは意図的に設置しなかったのか、その後もしくは最終段階で抜き取ったのか、はっきりしない。内囲いも同じ北東側が抜かれて乱れていた。

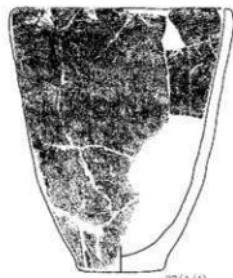
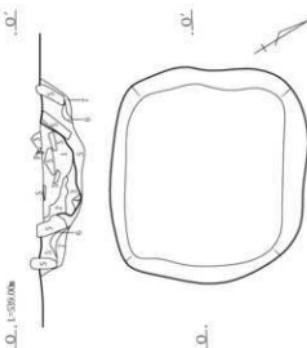
なお、炉内に焼土はほとんど残っていなかったが、炉石には明瞭な被熱痕跡が認められた。

埋設土器 南東側の床面下に2個体の深鉢を横位に埋め込んだ状態で確認された。場所は床面に設置された内側

炉平面図



炉掘り方



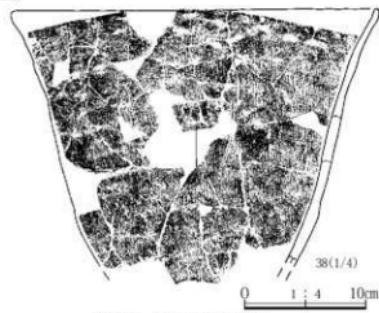
遺物埋納ビット



0 1:30 1m

の石列のうち、南側にある石列の先端部に接する位置にあり、長さ88cm、幅56cm、深さ18cmなどの楕円形状の掘り方に、一つは中軸線に平行する状態で、もう一つはそれに交差する状態で、横位に潰れた状態で埋設されていた。埋設された土器はいずれも無文の粗製深鉢で、底部まではほぼ完存状態で出土している。このうち、南側に位置する土器は床面調査時に口縁部の一部が床上に露出していた。なお、掘り方や土器内の内容物等を注意深く探ったが、確認できたものはなかった。

遺物 後期前葉から晩期中葉までの遺物が出土し、晩期前葉が主体を占めた。1~4は堀之内1式。5は加曾利B1式、6~8は加曾利B3式、10は上ノ段1式、14、15は晩期初頭、16~18、20は佐野Ia式、19は御經塚式、21~25は佐野II式古~中段階に否定される。27~35は

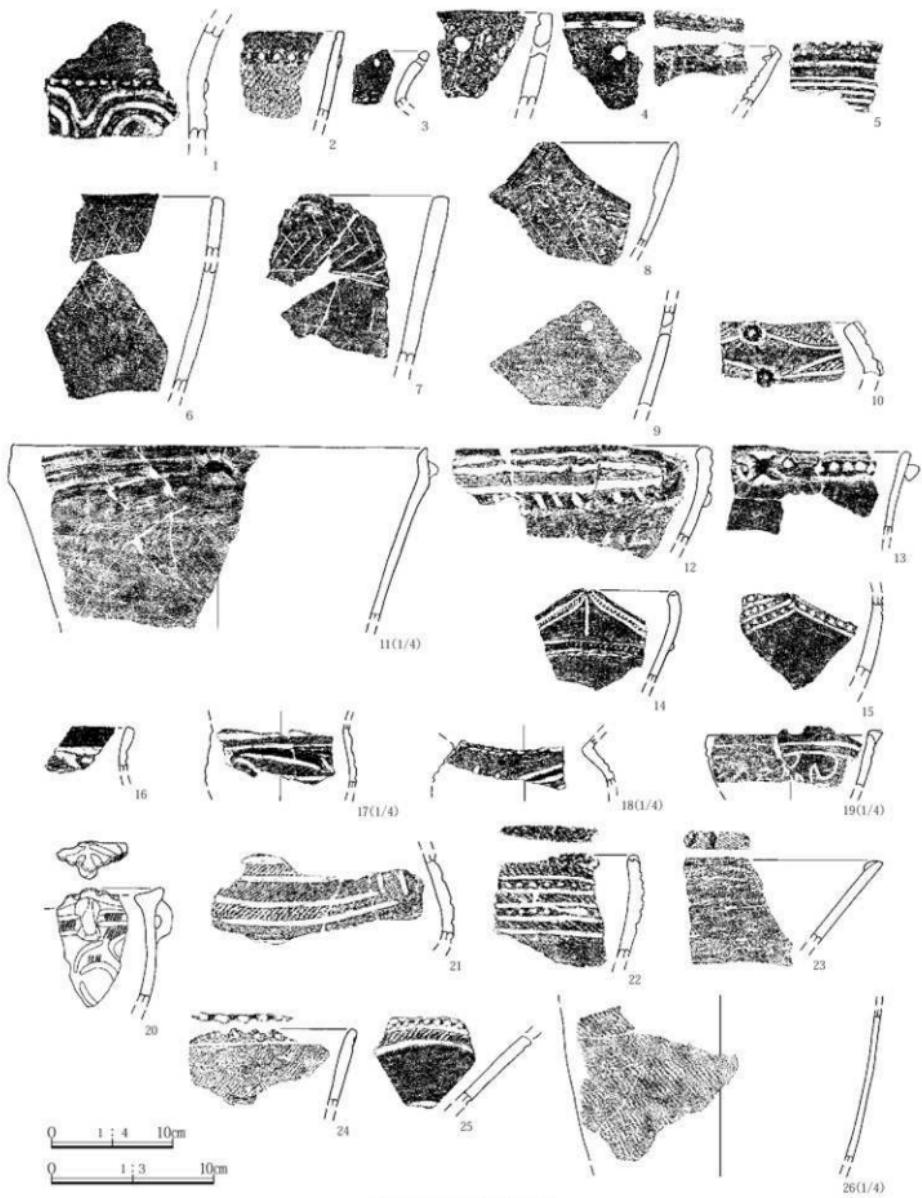


0 1:4 10cm

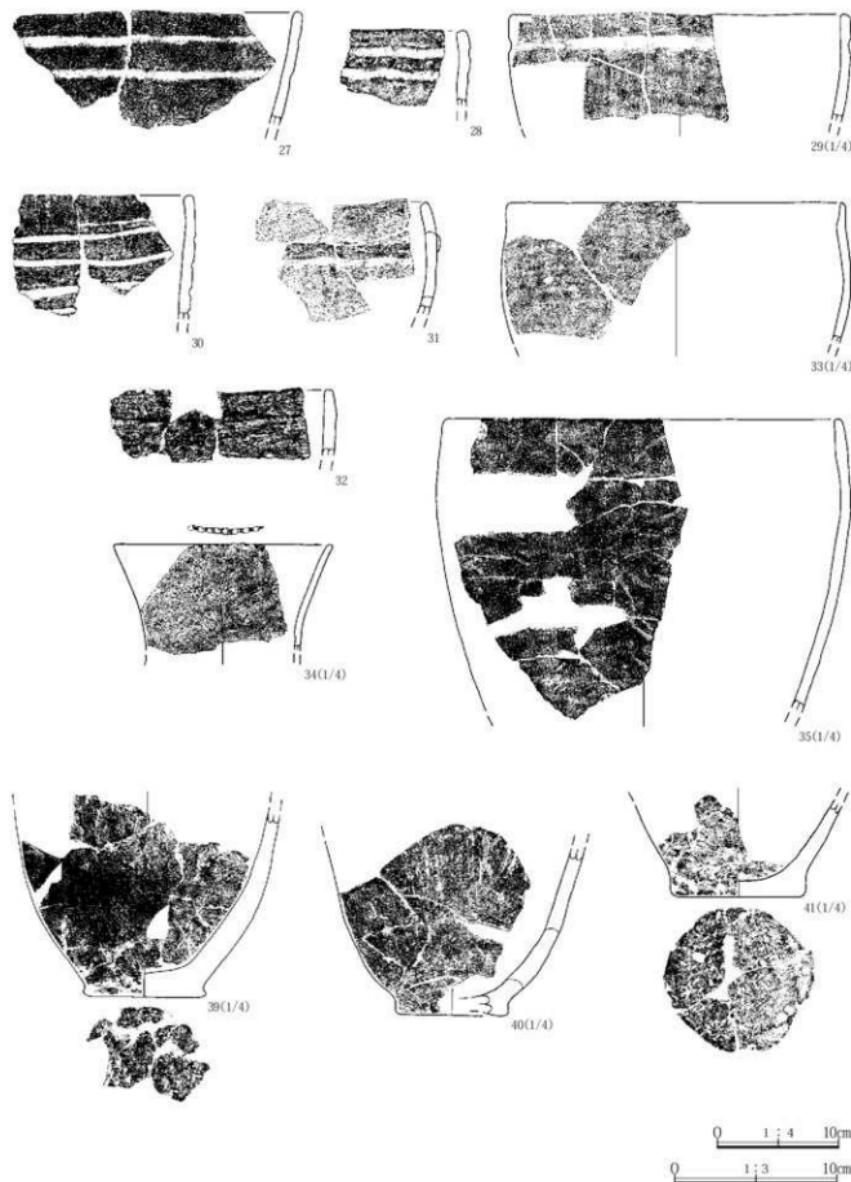
第38図 49号豊穴建物(3)

晩期前葉に併行する粗製土器である。土製品は、耳飾り(48~51)と土偶(52、53)が出土し、後期後葉の山形土偶である。耳飾りは、後期前葉と考えられる。

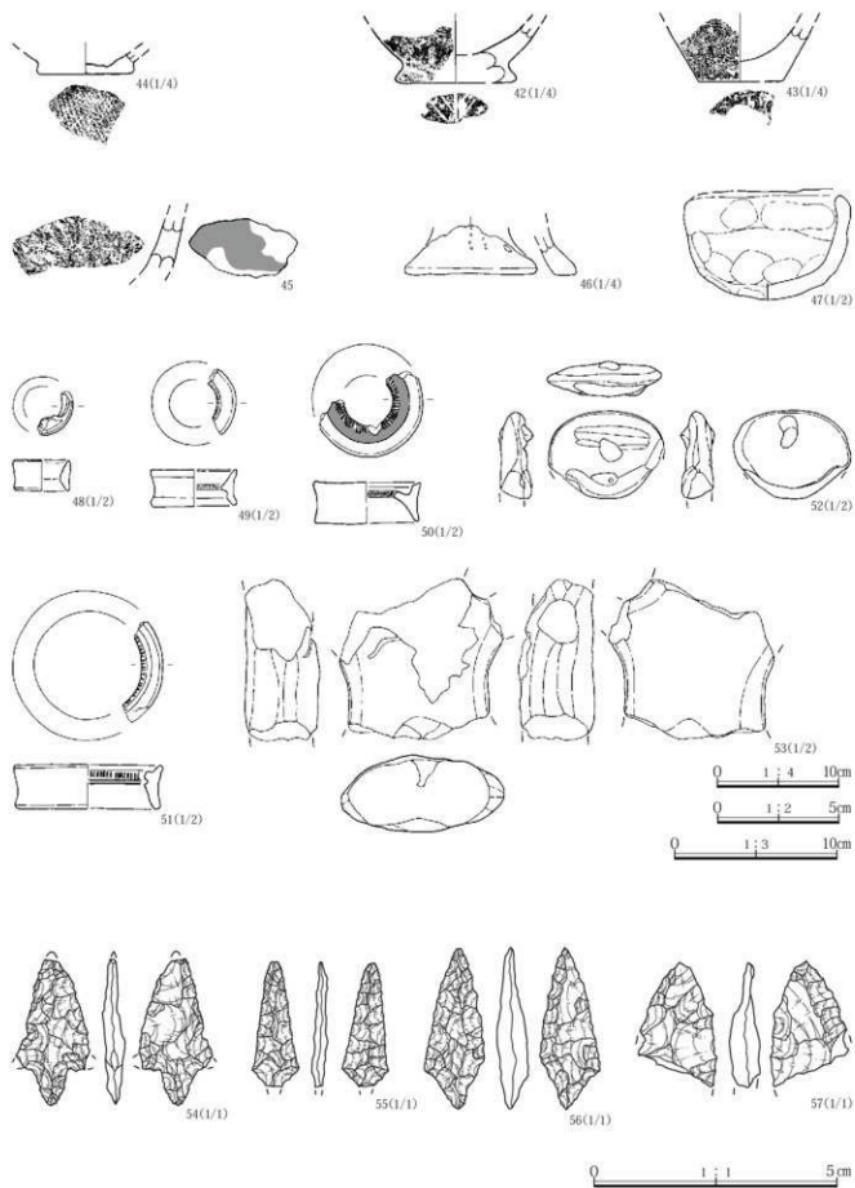
時期 晩期前葉に比定されよう。



第39図 49号竪穴建物(4)

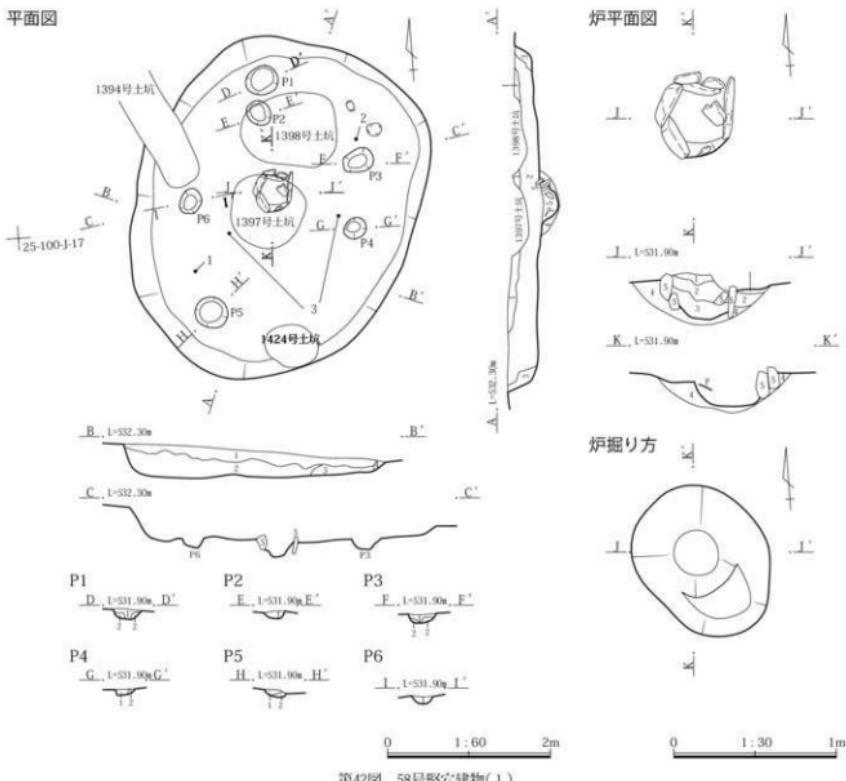


第40図 49号竪穴建物(5)



第41図 49号竪穴建物(6)

平面図



第42図 58号竪穴建物(1)

58号竪穴建物(第42、43図、PL.16)

調査年度 平成29年度

位置 9区(100区H・I-16・17)

経過 9区台地縁辺で確認された。9区は南側直上の6区台地より5mほど下位にある段丘面で、中期を中心とする遺物が6区台地直下を中心に出土しているが、明確な竪穴建物は67号建物の2軒だけである。調査はまず包含層調査から開始し、遺構確認面まで掘り下げた段階で楕円形の遺構面が確認された。

重複 中央部上面を1397号・1398号土坑に切られる。

形状 南北方向に長い楕円形の建物で、ほぼ中央部に石圓炉が位置する。

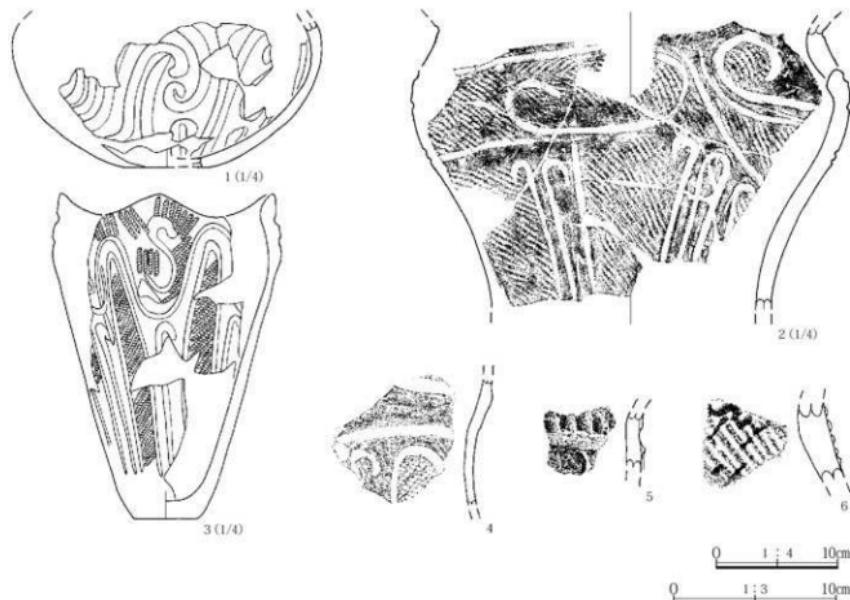
床面 磚を多く含む地山の上面を整えて床としたのである。貼床や硬化面ははっきりしない。

炉 大きな鉄平石1個と扁平磚数個を縱位に使用して組んだ石圓炉で、5角形状を呈している。床面からの深さは40cm以上あり、焼土は残っていなかったが、が石には明瞭な被熱痕跡が認められた。

柱穴 6本の柱穴状の掘り込みが検出されたが、いずれも浅いもので、主柱とするには不足がある。

遺物 覆土中からの出土遺物は少なかったが、床面上から比較的まとまった土器が出土している。

時期 中期後半加曾利E3式新段階に比定されよう。



第43図 58号竪穴建物(2)

67号竪穴建物(第44、45図、PL.16)

調査年度 平成29年度

位置 9区(25地区90区Y-25、26地区81区A-25)

経過 9区で確認された。本建物は6区沢の西側にあり、58号建物の西側を吾妻川に沿って90mも遡った位置に位置する。ここは南側の8区から北側の吾妻川に向かって下る急傾斜地で、周囲に平坦地が無く、北側は直に比高差16mの急傾斜を下って吾妻川沿いの段丘平坦面に至る。この崖下には最近までワサビを作っていた小さな水場があり、本建物から間近の位置にある。

調査は、黒褐色土面でやや大型の埋設土器と平坦面をほぼ水平に置かれた扁平な川原石や鉄平石を数個確認し、敷石住居を想定して調査を進めたが、敷石用の石は確認できない。

重複 重複する遺構は無いが、本建物の北側1mで平安時代の竪穴建物が隣接する。

形状 直径3m前後の不正円形を呈する。

床面 平坦な床面は確認できない。傾斜地を大きく掘り

込んでおり、山側には多量の地山礫を含む。炉とした埋設土器のすぐ南側にも、土器よりも大きな円錐が露出している。

これらの状況と建物の大きさや大型の埋設土器等を考慮すると、本遺構は水場として使われていた可能性もあり、検討の余地を残す。

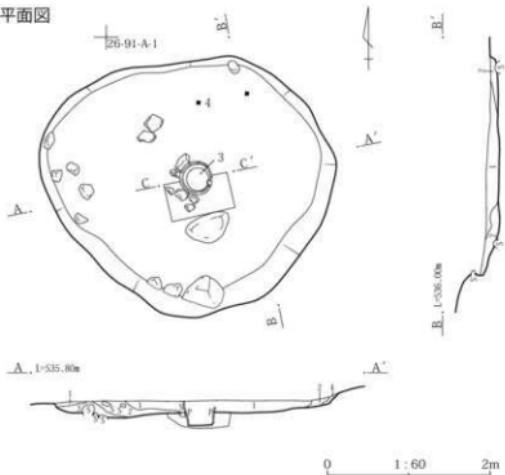
炉 脚下半部を打ち欠いた大型の深鉢を正位に埋設したもので、石固いを伴っていた可能性もあるが、炉石は確認できなかった(PL.17-3)

柱穴 確認できない。

遺物 黒色土中から少量の土器が出土しており、埋設土器の南側では大きな石皿が伏せた状態(第45図-4)で出土している。

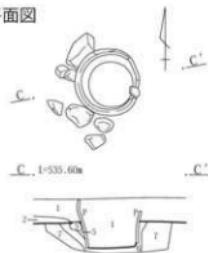
時期 中期後半加曾利E 4式期古段階に比定されよう。

平面図

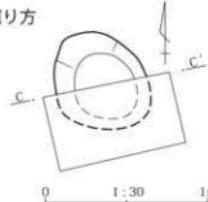


第44図 67号竪穴建物(1)

炉平面図



炉掘り方



68号竪穴建物(第46～48図、PL.17、18)

調査年度 平成29年度

位置 8区(90区Q・R-19・20)

経過 8区西側の沢沿いで確認された。

重複 柄鏡形敷石タイプの建物であったと考えられるが、建物の中央部から北東部にかけて74号・80号・78号建物に切られ、さらに中央部を1307号・1333号土坑に、北東部を1489号土坑に切られ、残ったのは建物本体の周縁部分と敷石の一部のみである。74号建物との切り合いでは炉とその周辺を失ったと考えられ、辛うじて敷石南辺の一部がわずかに残った。写真で確認すると、この時の74号建物の輪郭がよくわかる。本建物の北側床面に敷石の一部が残っているが、原位置を保っているかどうかはっきりしない。

床面 周縁部と南辺の一部が辛うじて削平を免れ、南辺の敷石がわずかに残った。

炉 確認できない。

柱穴 8本検出されているが、いずれも主柱とするには深さが物足りない。

遺物 覆土中から比較的多くの遺物が出土しているが、重複する74号や78号が確定しない段階で取り上げたもの

である。このうち、後期堀之内1式土器や高井東式土器は74号および78号竪穴建物の所産と考える。

時期 本建物の時期は、重複関係等から後期初頭称名寺1式期に比定したい。

72号竪穴建物(第49～52図、PL.17、18)

調査年度 平成29年度

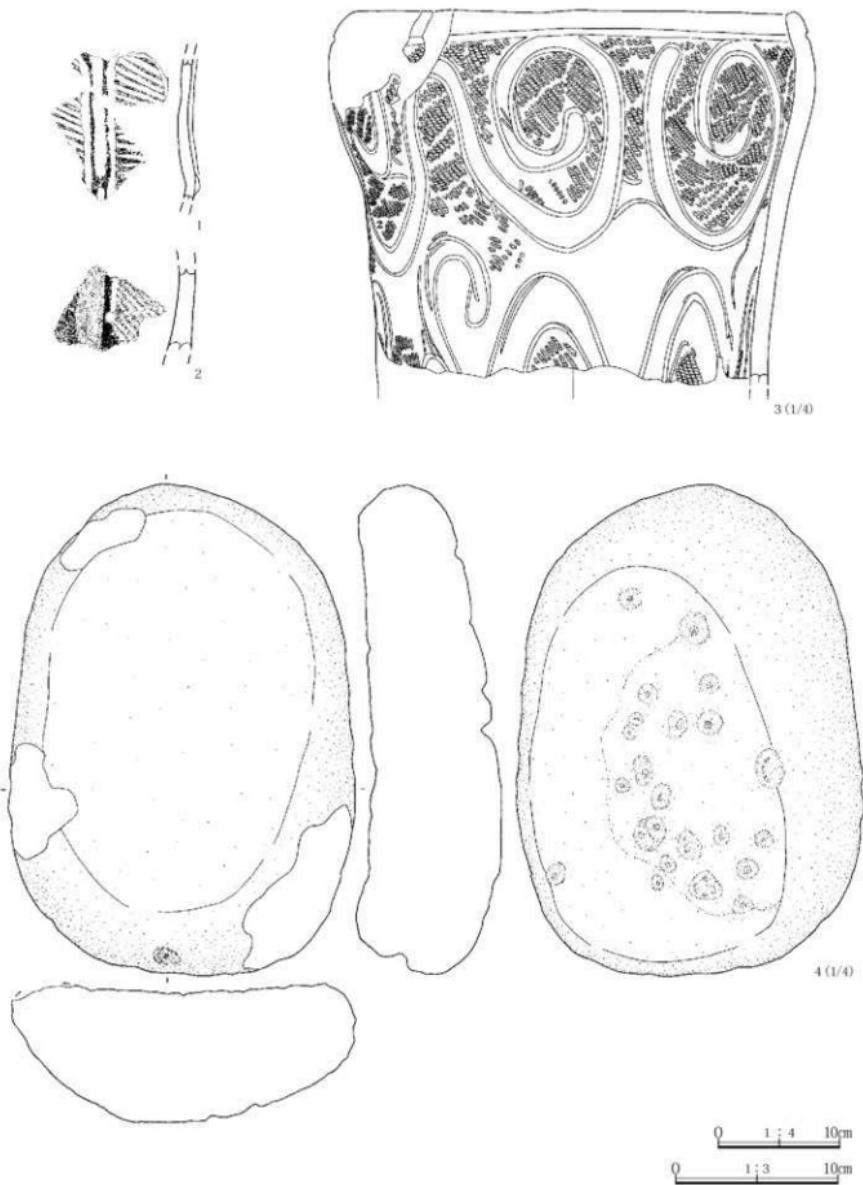
位置 8区(90区Q-22・23、R-21～23)

経過 8区東側沢沿いにあり、68号竪穴建物の北側6mほどのところで確認した。柄部の敷石が比較的良好な状態で残っていたため、まずこの部分を先行して形状と方向性を確認し、主体部の位置と形状を想定しながら調査を進めた。

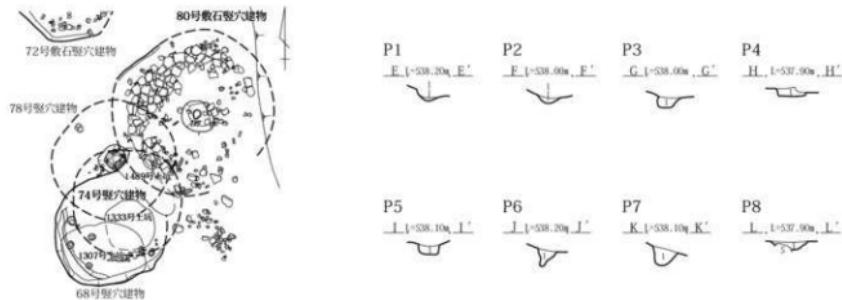
重複 重複する遺構はなかった。

形状 北東方向に入り口を向けた柄鏡形敷石タイプの建物で、建物主軸のほぼ中央よりやや入り口部寄りに土器埋設方形石壠炉を設置し、入り口部との接合部に方形石壠の施設を設置する。

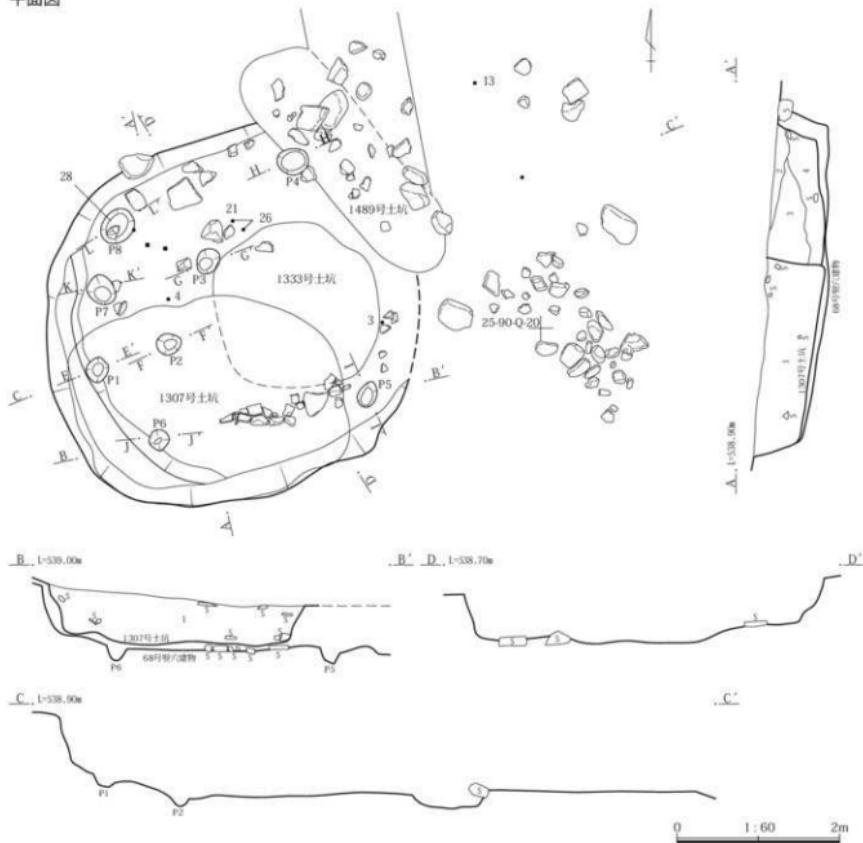
建物主体部では、入り口部南側の一部から南西方向に鉄平石を敷き込んだ敷石が部分的に残っており、入り口部には幅1m前後、長さ2.25mにわたって鉄平石を



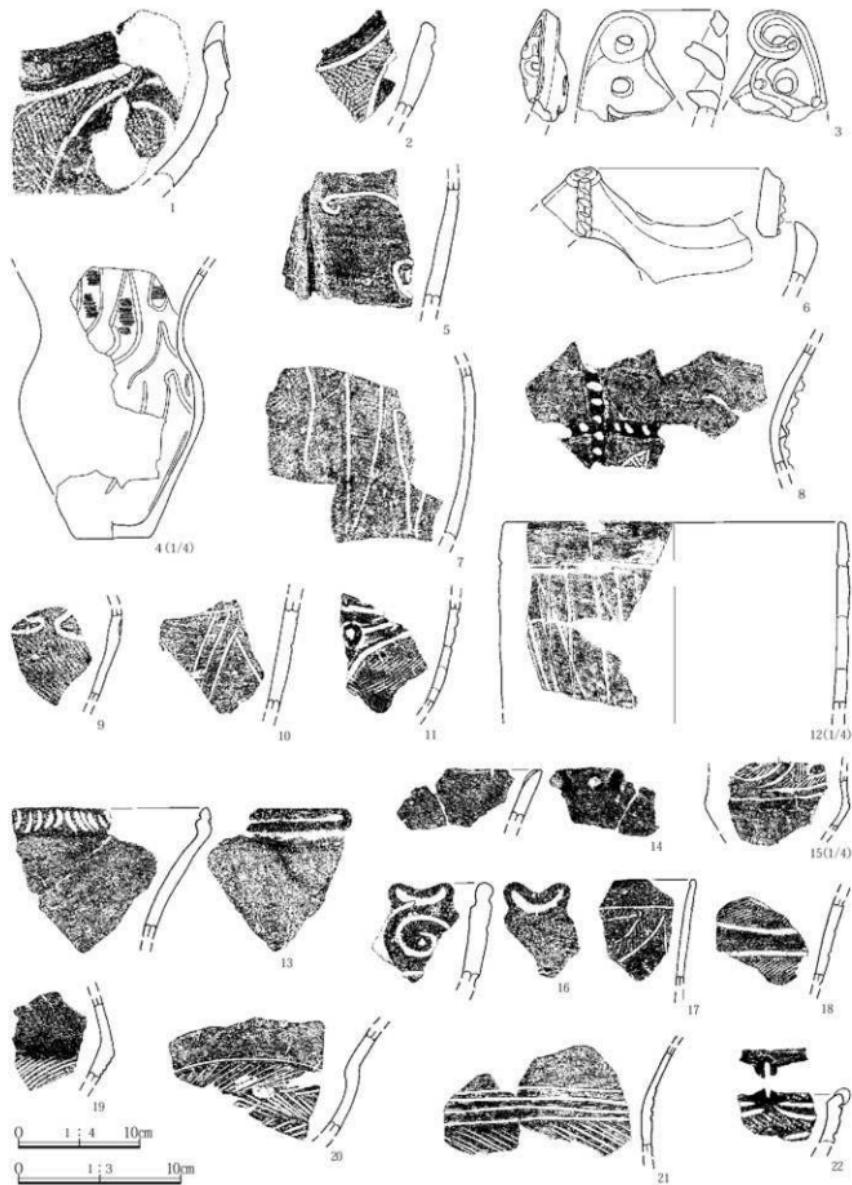
第45図 67号竪穴建物(2)



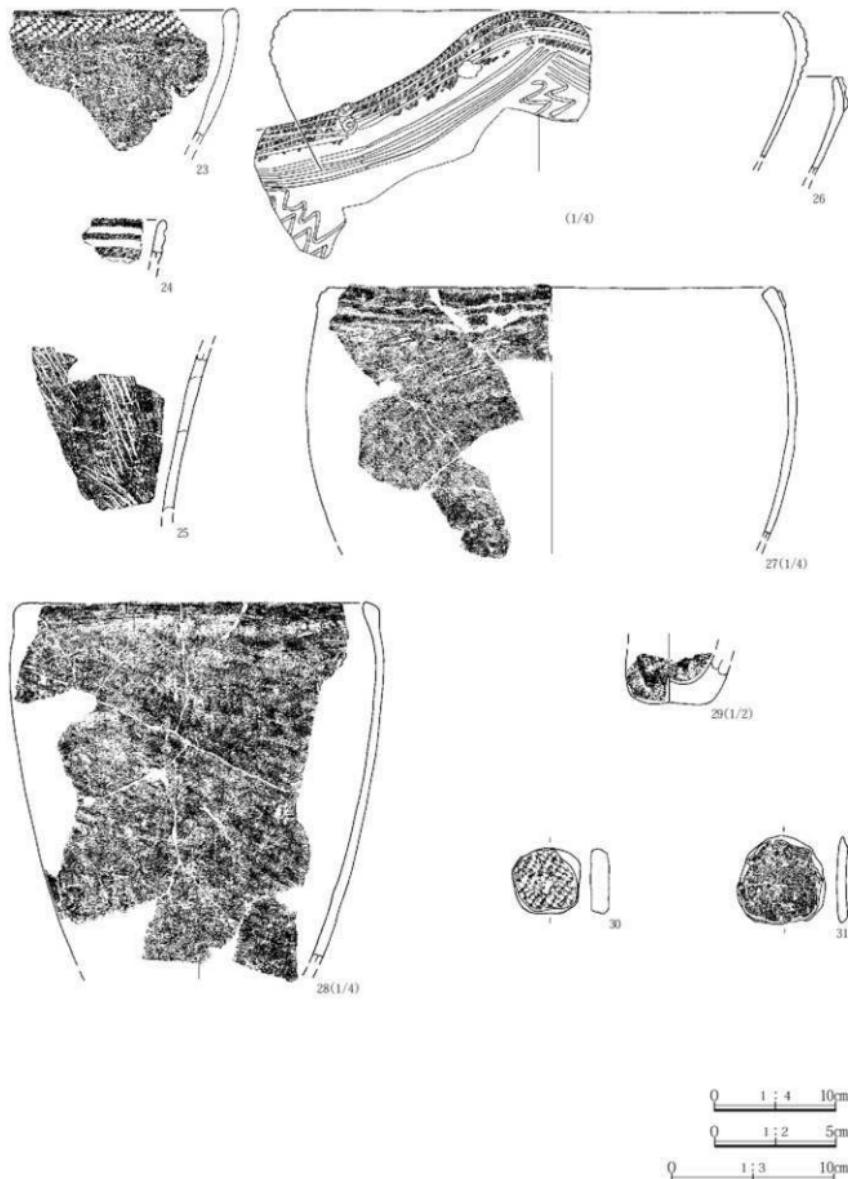
平面図



第46図 68号竖穴建物(1)

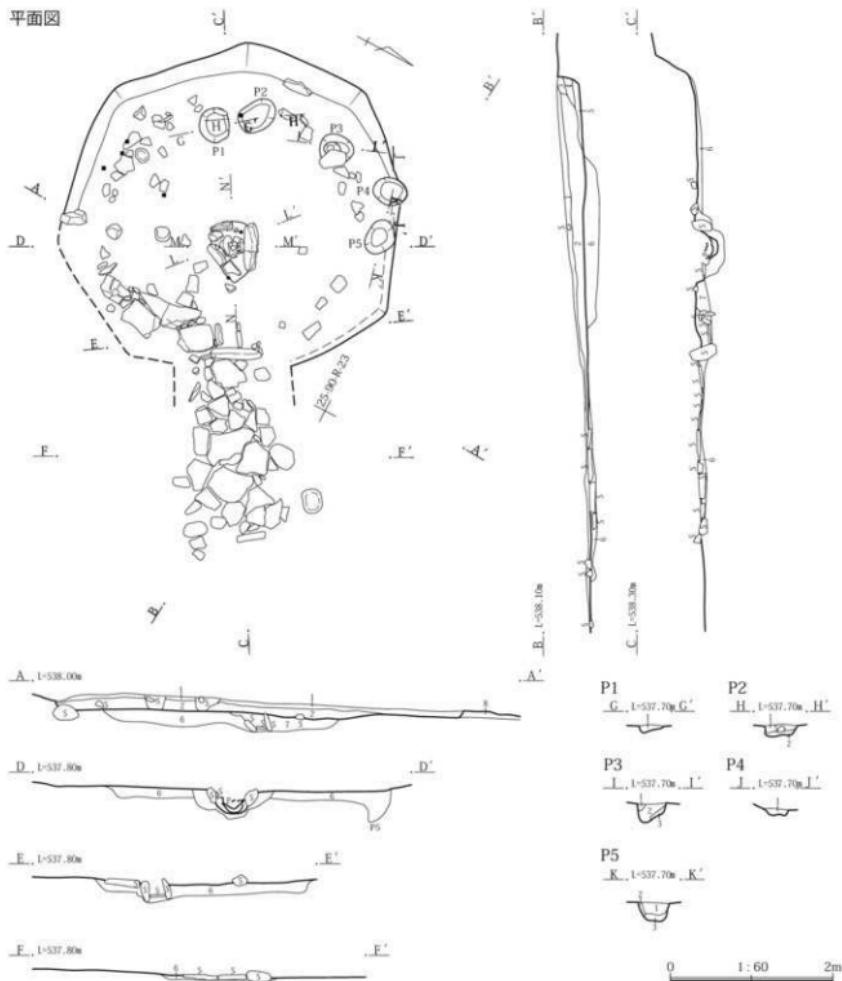


第47図 68号竪穴建物(2)



第48図 68号竪穴建物(3)

平面図



第49図 72号竖穴建物(1)

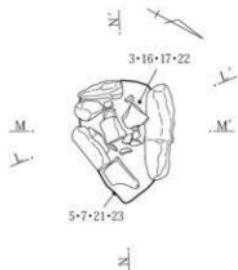
水平に敷き込んだ敷石が認められた。また、本体部分では、柱穴の位置に沿うように鉄平石や丸い川原石が点々と残っており、このうち柱穴の外側では床面よりやや浮いた状態での出土が認められた。

出入り口部の方形石匂いは、出入り口部敷石との間に長さ60cmの大きな扁平礫を縦位に設置し、その内側に長

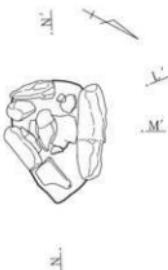
さ30cm前後の小さな扁平礫を20cmの間隔をおいて直行方向に2石、南西側には2つの石を重ねるようにして設置し、底面には薄い鉄平石を敷いて石匂い施設を形成している。なお、方形石匂い内からの遺物等の出土は認められなかった。

炉 炉は確認時に三角形状に歪んでいたが、掘り方等の

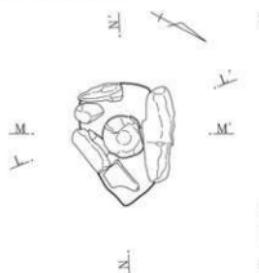
炉平面図1面目



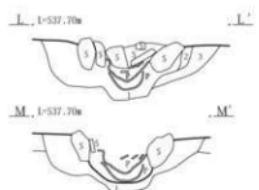
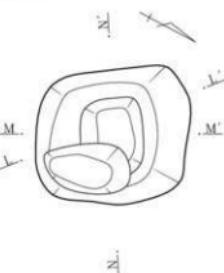
炉平面図2面目



炉平面図3面目



炉掘り方



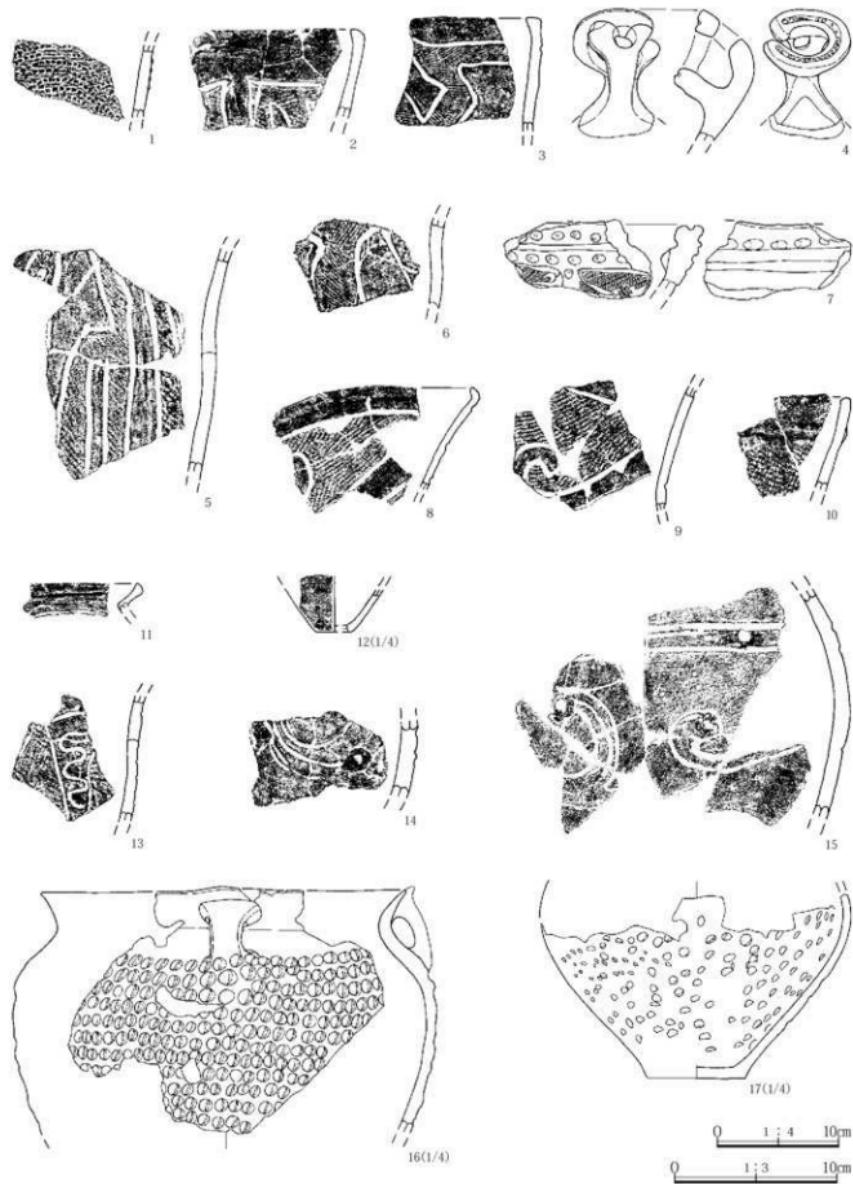
0 1:30 1m

第50図 72号竪穴建物(2)

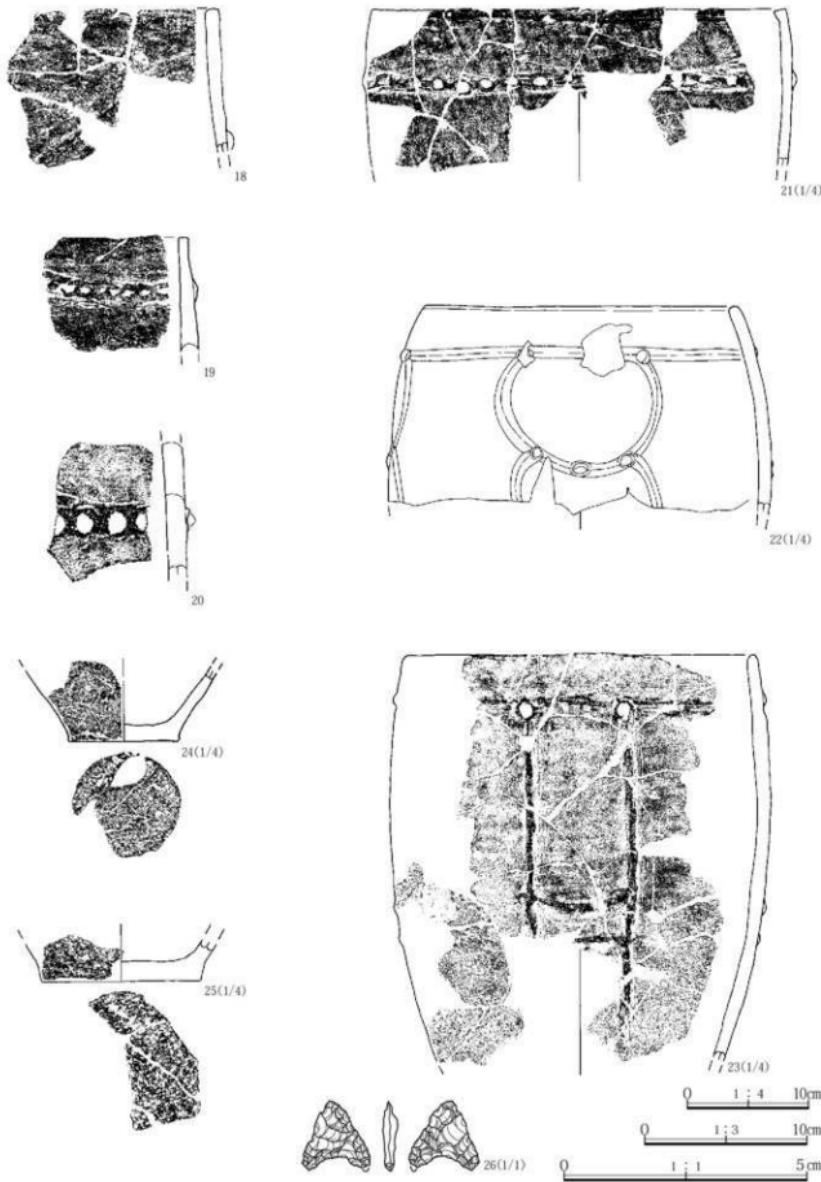
検討から、本来は大きな石を方形に組んだものと考える。炉内には中央部に埋設土器があり、確認時には鉢形の土器(16)が上面を覆うように置かれていたが、その下に上半部を打ち欠いた鉢形土器(17)が正位に埋設されていた。なお、炉内に焼土は僅かしか残っていなかったが、炉石には明瞭な被熱痕跡が認められた。

柱穴 5本調査したが、主柱とするにはいずれも浅い。
遺物 覆土中から比較的多くの土器が出土している。16、17は炉の埋設土器に利用された個体で、三十船場式に比定される。1～15は称名寺2式に比定される。

時期 後期初頭称名寺2式段階に比定されよう。

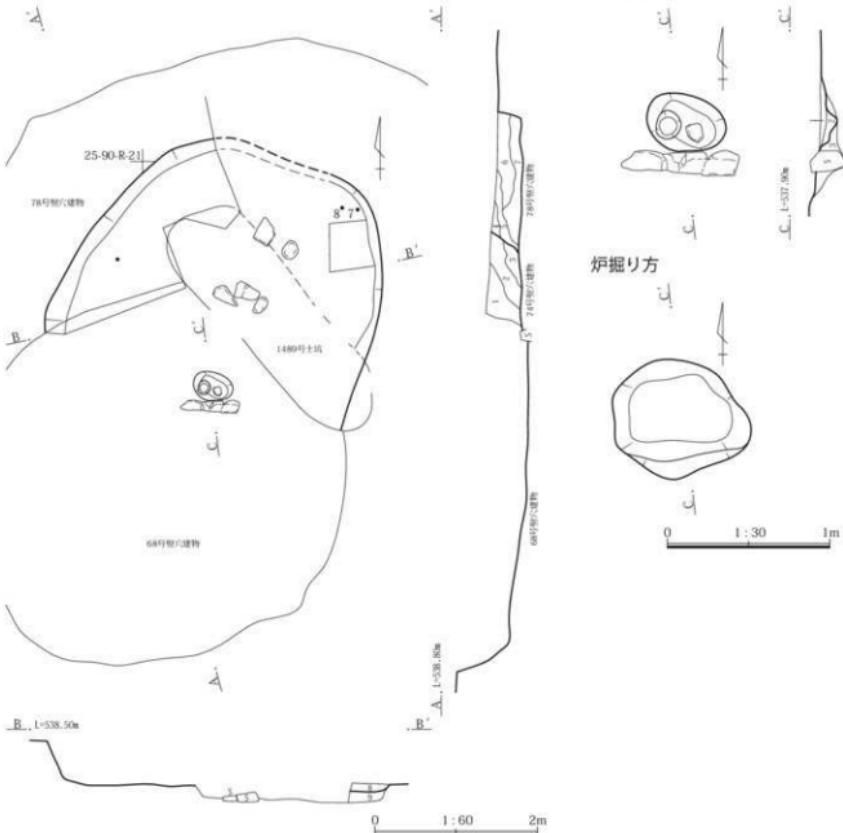


第51図 72号竪穴建物(3)



第52図 72号竖穴建物(4)

平面図



第53図 74号竪穴建物(1)

74号竪穴建物(第53、54図、PL.19)

調査年度 平成29年度

位置 8区(90区Q-20・21、R-20)

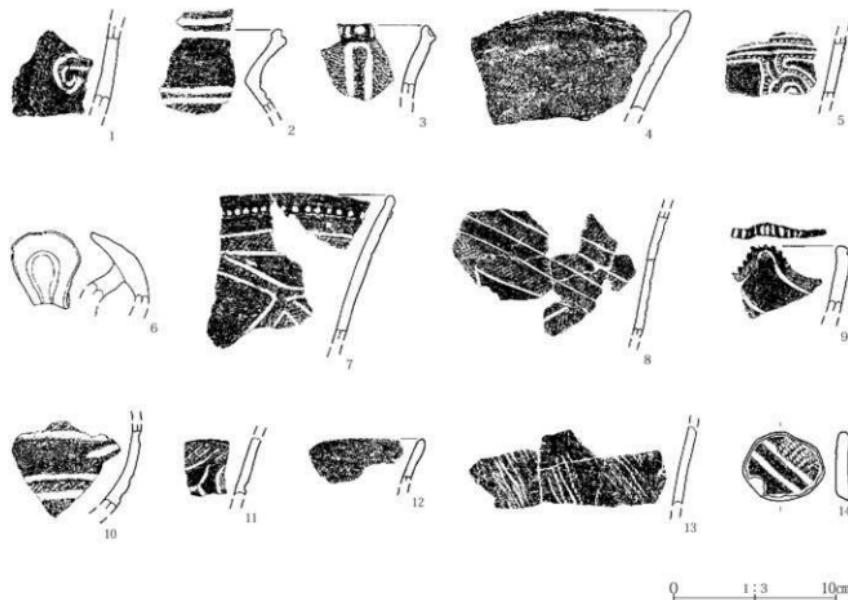
経過 8区68号建物を切った建物で、上面を大きく80号・78号建物に切られ、さらに1489号土坑に切られている。本来は石圓炉を備えた柄鏡形敷石タイプの建物であったと想定するが、残されていたのは炉のわずかな焼土と炉石の一部のみであった。

形状 調査で判明した証拠は少ないが、わずかに残った

焼土と炉石の一部から、本建物の中心と方向性を読み取ることができる。また、重複する68号竪穴建物の床に残されたわずかな段差による輪郭から、炉を中心にして直径4.4m前後の円形状のプランを想定した。柄部は炉石と同様に東側に設けていたと思われる。

炉 重複する68号竪穴建物の床下から楕円形状の焼土と南辺の炉石が検出された。炉石は長さ70cmあり、本来は大きな方形状石圓炉であったと考えられる。

柱穴 確認されていない。



第54図 74号竪穴建物(2)

遺物 堀之内1式が主体を占める(1~6)。

時期 わざかな出土土器と重複する建物の検討等から、後期堀之内1式段階に比定しておきたい。

75号竪穴建物(第55~57図、PL.20、21)

調査年度 平成29年度

位置 8区(90区V・W-1・2)

経過 8区東側の緩傾斜地で確認した。北東側の一部を平安時代の73号竪穴建物に切られており、そこに敷石の一部が露出していたことから調査となつた。

重複 平安時代の73号竪穴建物以外に重複する遺構はない。

形状 土器埋設の石囲炉を備え、南側に向けて出入り口部を設置した柄鏡形敷石タイブの建物だが、柄部は確認できなかつた。主体部は東西4.05m、南北3.8mほどである。

床面 南西側に地山疊を多く含む場所があるが、黒色戸が厚く堆積した場所を選んで平坦面をつくり、小さな石で輪郭を決めてから、そのなかに鉄平石を水平に敷き込んでいる。西辺の敷石は輪郭の小石も失っていることか

ら、その後に失ったものとみられるが、東辺の一部は直線的な規格で空いており、輪郭の小石もあることから、敷石を省いていたものと考えられる。出入り口部の石囲いは、厚手の鉄平石で方形に組み、底面に割った扁平礫を敷き込んでいるが、北辺の囲み石は失っている。

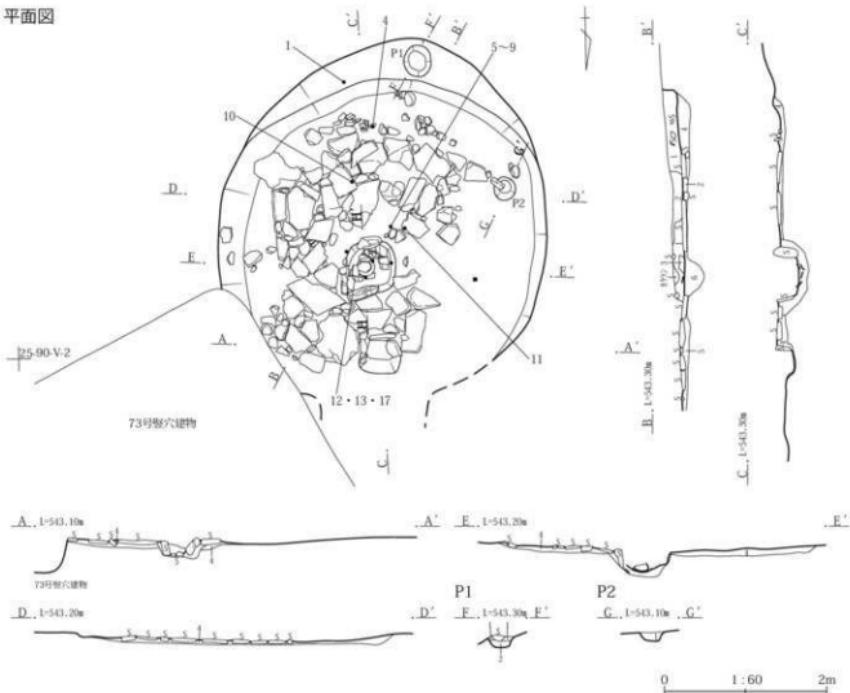
炉 建物の中心軸の中央部よりやや出入り口部に寄った位置に設置し、その軸上の出入り口部には方形の石囲い施設がある。炉は厚手の鉄平石を中心にして設置した方形石囲炉だが、炉石の半数は失っていた。炉内には深鉢の大破片を横位に敷き(第56図-1)、その上に屈曲のある小型深鉢の脚下半部を正位に据えている。炉内に焼土はほとんど残つていなかつたが、炉石には明瞭な被熱痕跡が認められた。

柱穴 2本を調査したがいずれも浅く、主柱とは認めがたい。

遺物 敷石面の直上からまとまつた状態で出土し、1や2など称名寺2式の終末期を中心とした。

時期 炉内および覆土中出土土器等から、後期称名寺2式期に比定されよう。

平面図



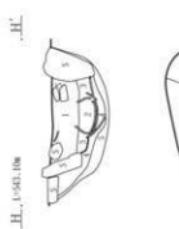
炉平面図 1 面目



炉平面図 2 面目

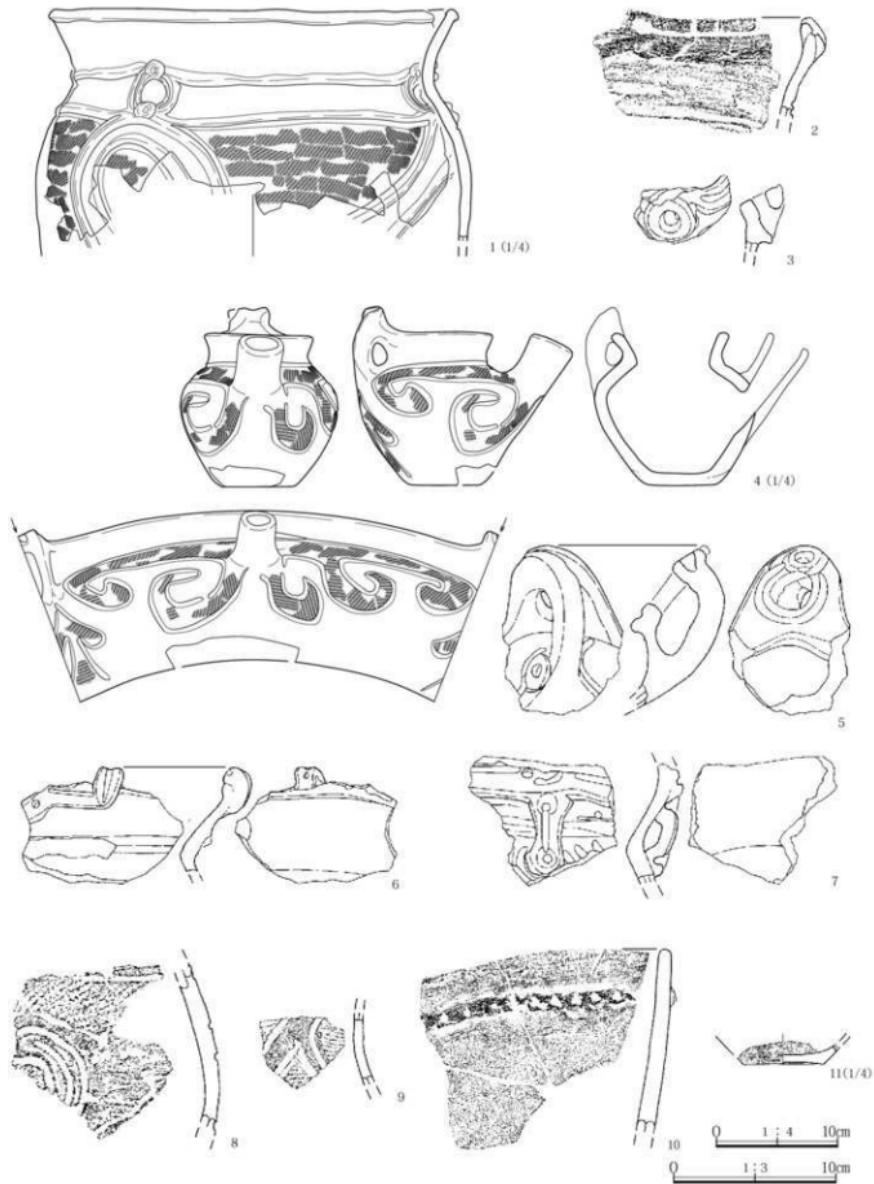


炉掘り方

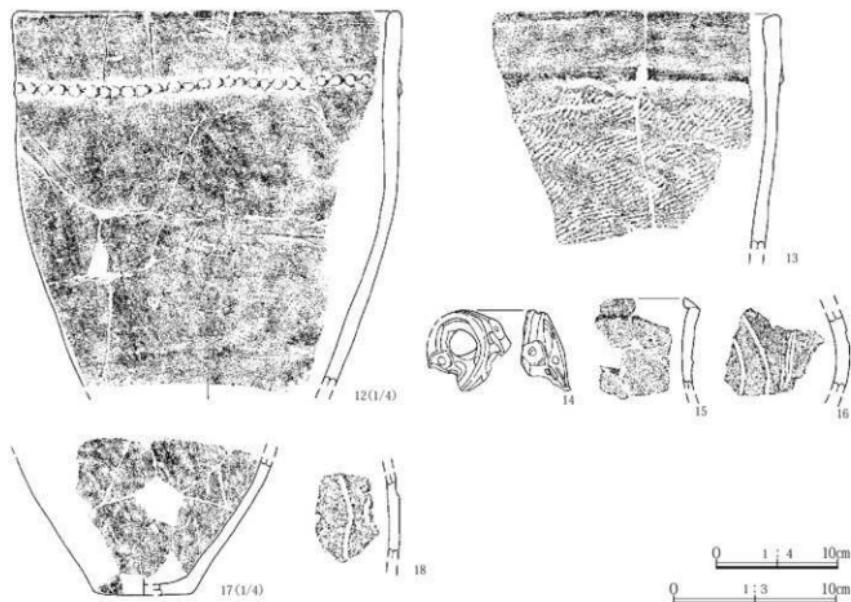


0 1:30 1m

第55図 75号竖穴建物(1)



第56図 75号竖穴建物(2)



第57図 75号竖穴建物(3)

77号竖穴建物(第58、59図、PL.22)

調査年度 平成29年度

位置 8区(90区Q・R-24)

経過 8区東側の沢沿いで確認した。遺物の分布状況を見ながら遺構確認作業を進めているなかで敷石の一部が確認され、竖穴建物の調査となった。

重複 本建物の確認とほぼ同時に、すぐ東側で28号・29号埋設土器の調査があった。両埋甕はその後の検討で竖穴建物の出入り口部に伴うものと認定し、150号竖穴建物とした。この建物の形状は本建物の東側半分に重なることが想定される。切り合ひ関係は不明だが、150号が本建物を切っている可能性が高い。また、主体部南東側を1560号土坑と重複する。

形状 石圍炉を備えた柄鏡形敷石タイプの建物で、出入り口部を沢の上流部側の南南東に向けて配置している。山側にあたる西側に立ち上がりは辛うじて認められたが、その他の壁と床面は失っている。敷石部の範囲は東

西・南北ともに3mに満たない小型の建物で、炉の南側60cmのところに方形石圍い施設を設置している。これは鉄平石と板状礫長さ40cm、幅20cmに長方形に組み、底面にも薄い鉄平石を敷いている。この施設の南側が柄部で、床面の敷石よりやや高い位置に板状の石を敷き、先に行くに従って立ち上げるように数石を配置している。

床面 六角形状に鉄平石を前面に敷き込むが、沢に面した東側半分は敷石と床を失っている。これは東側に重複する150号建物に削平されたことを示している可能性もある。

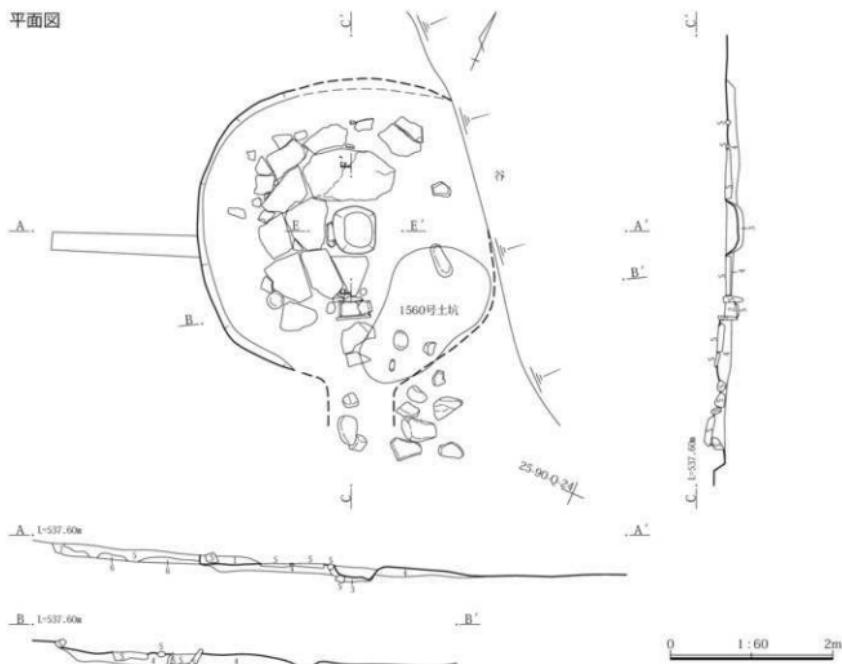
炉 建物のほぼ中央にあるが、残っているのは方形状の掘り方と西側の炉石の一部のみである。なお、炉内に焼土は残っていない。

柱穴 確認されていない。

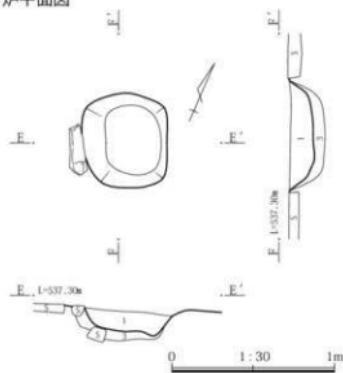
遺物 調査に伴って少量の土器が出土している。

時期 本建物の時期を示す遺物は無いが、後期前半期に比定されよう。

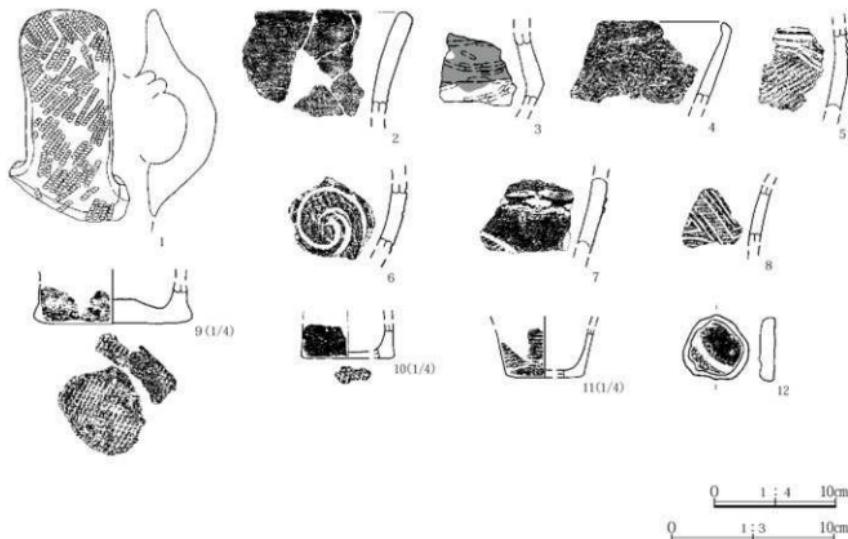
平面図



炉平面図



第58図 77号竪穴建物(1)



第50図 77号竪穴建物(2)

78号竪穴建物(第60～62図、PL23、24)

調査年度 平成29年度

位置 8区(90区Q・R-19～21)

経過 8区東側の沢沿いで次々と竪穴建物が判明し、調査が進むなかで本建物も出現した。

重複 68号建物の調査の中で重複する74号建物が判明し、さらにそれと重複する本建物判明した。その後の調査で本建物の東に重複する80号の全貌が判明し、この地点では4軒の竪穴建物が重複していることがわかった。明瞭な切り合い関係を示す成果は得られていないが、各建物の調査結果と出土遺物等の検討から、68号を74号が切り、74号と80号を本建物が切っていると判断した。

形状 調査段階では栗のような梢円形形状のプランが記録されているが、建物の中心を示す石圓炉があり、床面から時期を示す土器も得られていることから、炉を中心にして石圓炉の形状を拡大し、東西4.7m、南北4.8mの隅丸方形形状のプランを想定したい。

床面 地山面を調整して平坦な床をつくっている。

炉 大きな川原石5石で組んだ方形石圓炉である。炉内

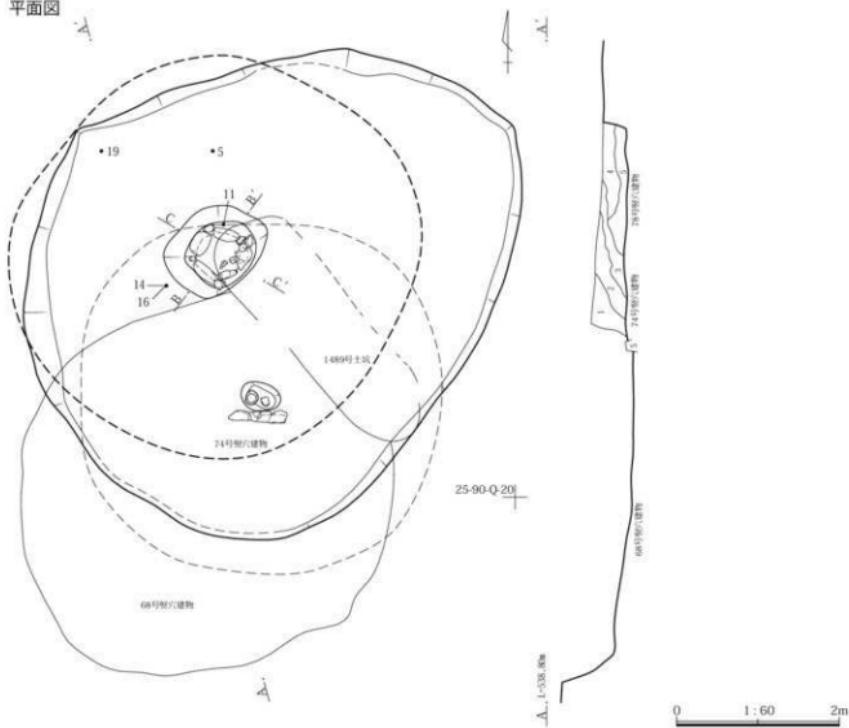
に焼土はほとんど残っていなかったが、炉石の一部に被熱痕跡が認められた。

柱穴 確認されていない。

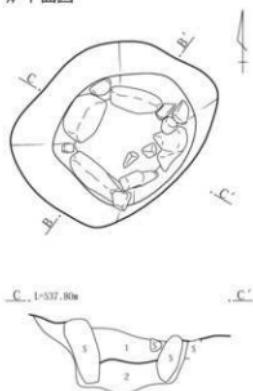
遺物 12は炉の外縁部、14と16は炉周辺から出土しており、その他の遺物も覆土中および床面から比較的まとまった状態で遺物が出土した。11と12は高井東式古段階に否定される。14は口縁部がラッパ状の形態を有し、弧状沈線間にLR縄文を施す土器で、高井東式古段階に併行する。13～16も同様の時期と考えられる。高井東式古段階に次いで、堀之内2式が多い。堀之内2式に比定される、80号竪穴建物を切っていることからも80号の影響だと考えられる。

時期 出土土器から後期高井東式古段階に比定されよう。

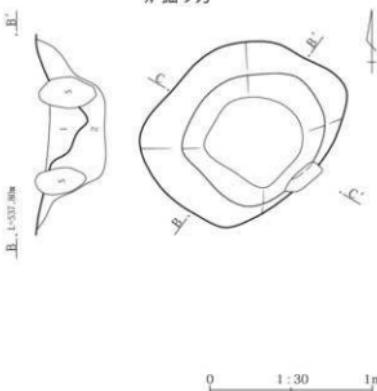
平面図



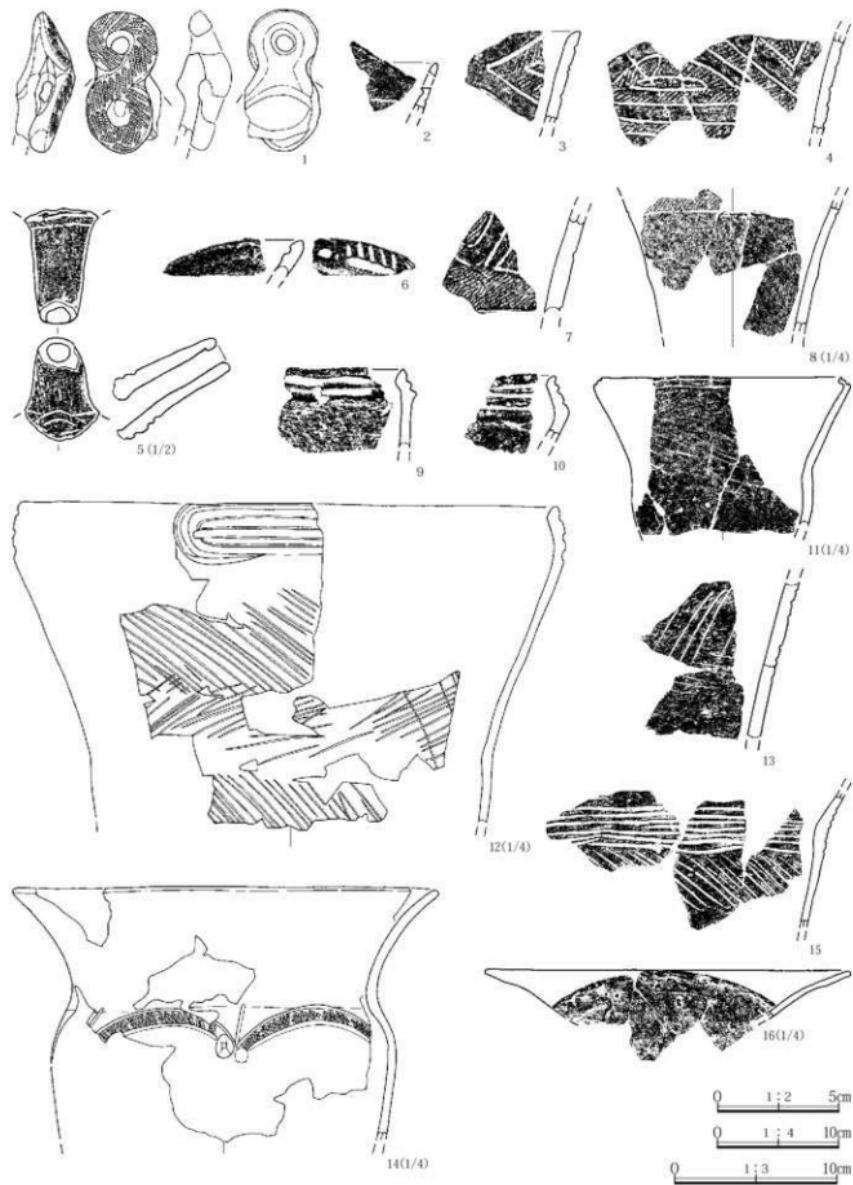
炉平面図



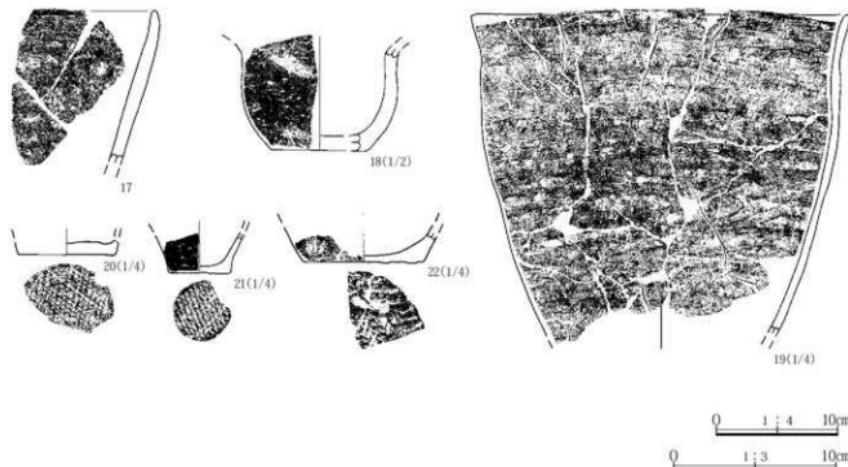
炉掘り方



第60図 78号竖穴建物(1)



第61図 78号竪穴建物(2)



第62図 78号竪穴建物(3)

79号竪穴建物(第63~66図、PL.24)

調査年度 平成29年度

位置 7区(90区P・Q-9~11)

経過 6区沢の左岸側の一連の調査のなかで確認した。下流域では数多くの竪穴建物が検出されているが、上流域は希薄であり、周囲に遺構は少ないが、遺物の出土が認められたことと敷石が残っていたことが契機となった。

重複 重複する遺構はない。

形状 敷石が残っていた東側の一画は地山に2次堆積の黄色土があった場所で、その他の場所は黒色土で覆土と地山の見分けが難しく、敷石も残っていないため、調査時にはプランが確認できなかった。整理作業のなかで焼土と埋甕を基準に中軸線を設定し、左右対称の形態を想定した。

床面 明瞭な床は確認できていないが、東側に散き込まれた敷石面を基準に調査を実施した。

炉 床相当面に直径50cmほどの円形状に残る焼土を炉と判断した。焼土の北東側1.5mほどのところで胴部上半までを失った鉢の底部が正位に埋設された状態で確認さ

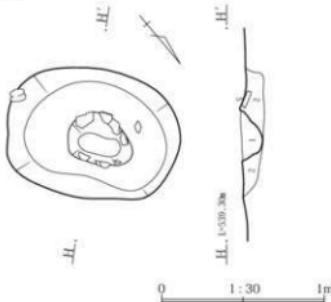
れた。これを出入り口部に伴う埋甕と判断した。

柱穴 4本確認されているが、主柱と判断できるものは見当たらない。

遺物 後期前半の土器(1、8、21~29)と後期後半~晚期(9~18)の土器が出土している。床面からは、27~29が出土した。

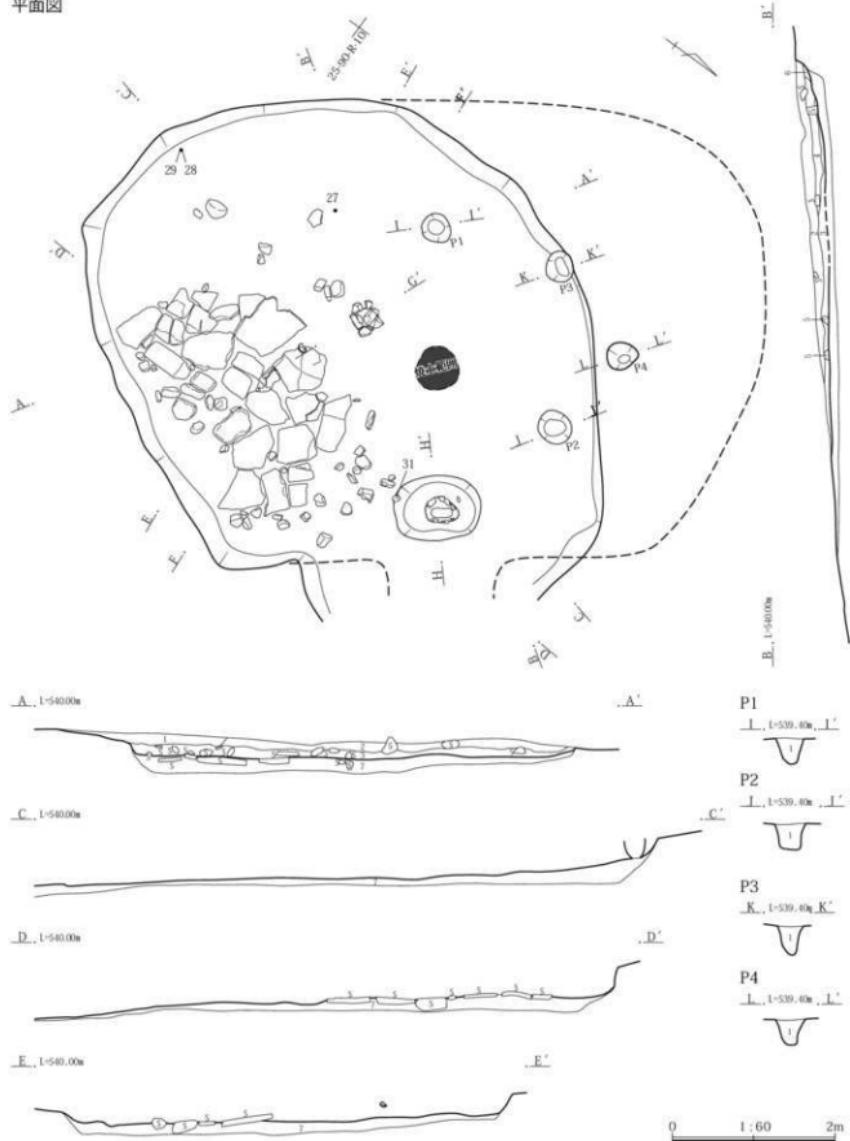
時期 後期前半塙之内1式期に比定される。

埋甕平面図

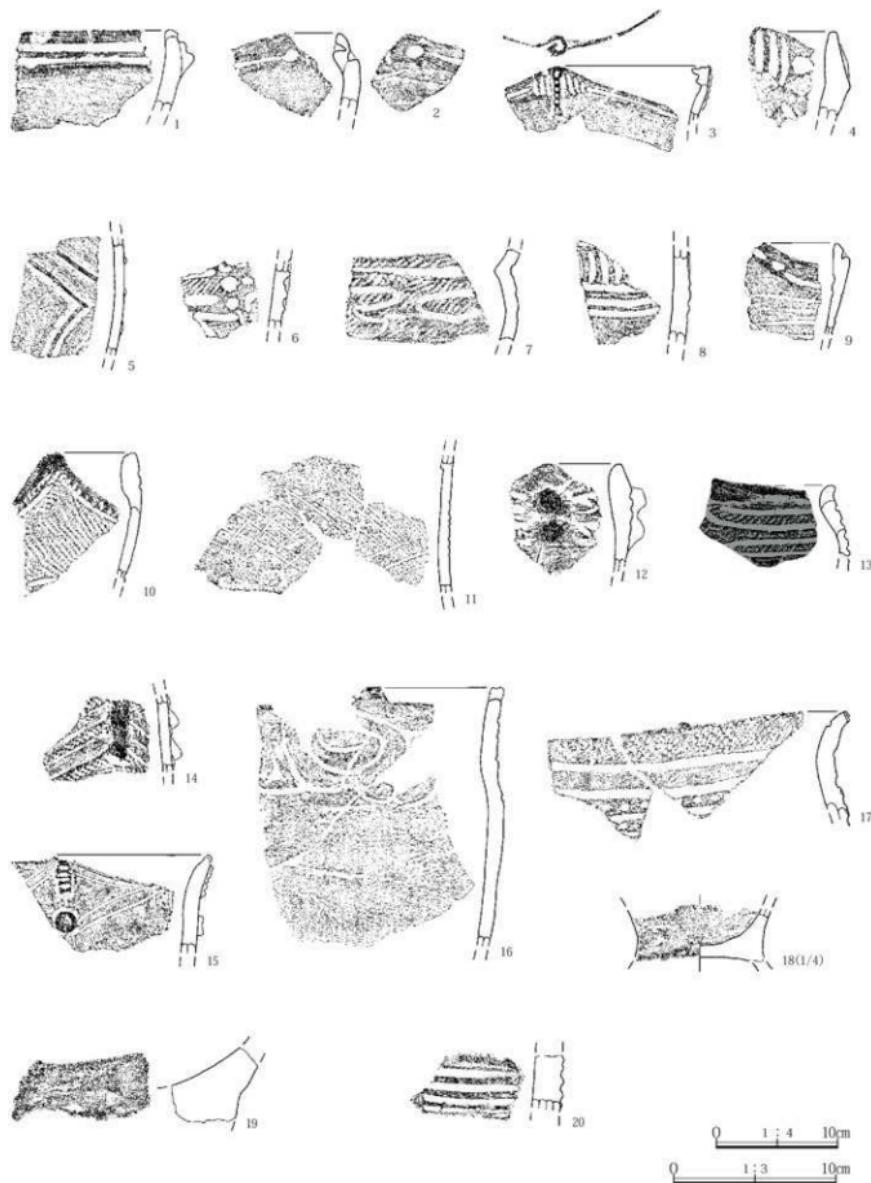


第63図 79号竪穴建物(1)

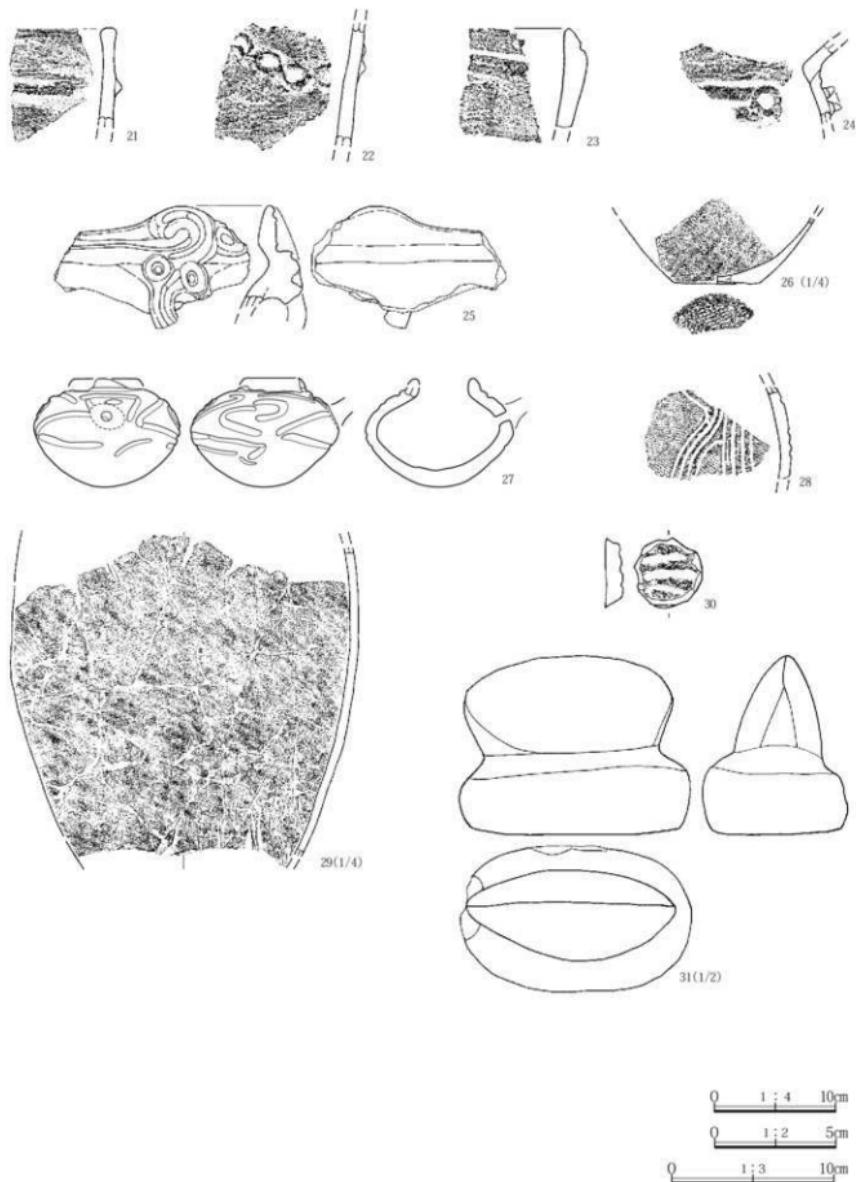
平面図



第64図 79号竪穴建物(2)

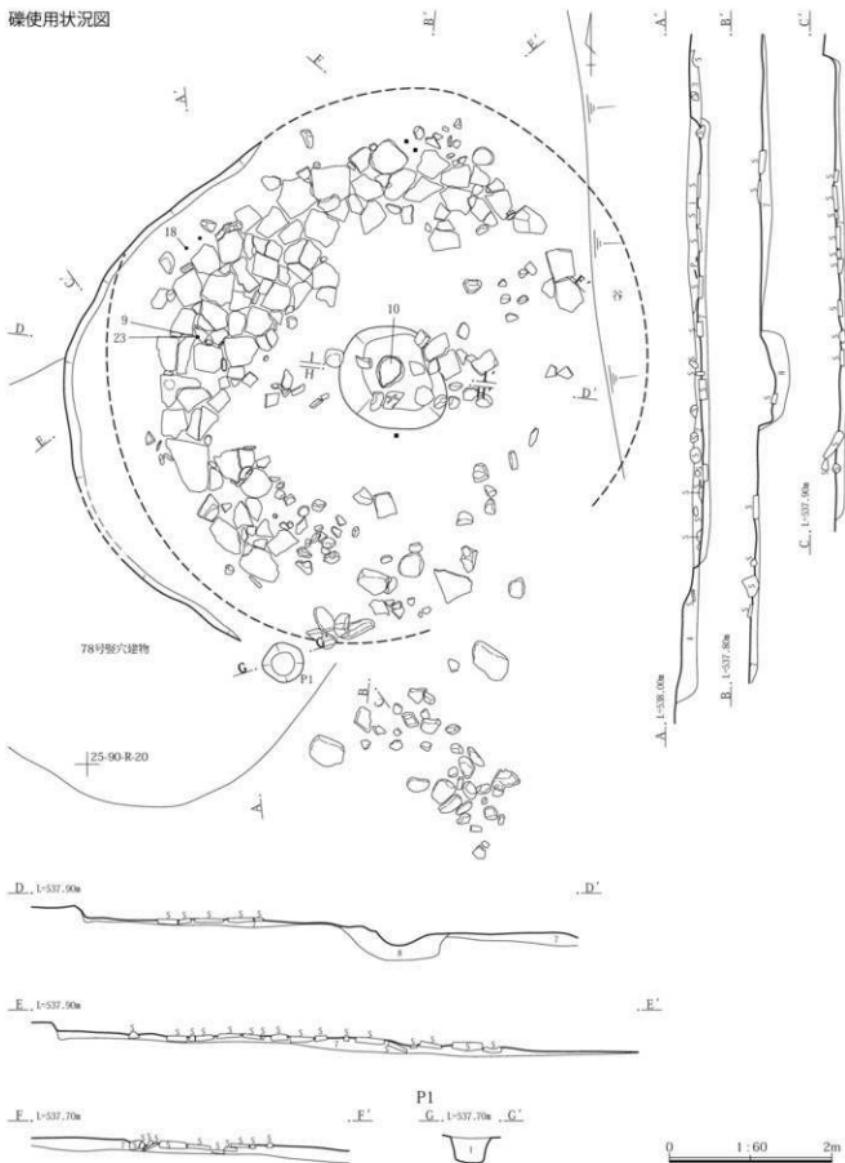


第65図 79号竪穴建物(3)



第66図 79号竪穴建物(4)

縄使用状況図

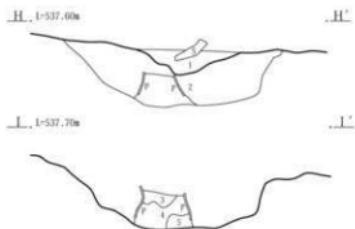


第67図 80号竪穴建物(1)

炉平面図



炉掘り方



第68図 80号竪穴建物(2)

80号竪穴建物(第67～69図、PL.25)

調査年度 平成29年度

位置 8区(90区Q・R-20・21)

経過 本建物と重複する78号竪穴建物の調査に伴って敷石面の一部が判明し、本建物の調査が開始された。

重複 南西側を78号竪穴建物と重複し、これに切られるが、78号竪穴建物の床は本建物の床より高い位置にあるため、重複部分の敷石は失っていない。なお、東側は沢に面するため、ここでは一部を失っている。

形状 周縁部を中心に敷石が残っており、その形状を参考に北西側の敷石部と壁の間隔をトレースすると、長軸4.5m、短軸4mの楕円形となり、沢の上流側に当たる南東側に柄部をもつ柄鏡形を想定した。

床面 沢に面した傾斜地を削平して平坦面をつくり、地山面を調整して床とし、周縁部を中心に鉄平石を組み合わせて敷石を敷き詰めている。炉の南東側にも一部敷石部があるが、前面に敷き詰めていたかは判然としない。柄部の方向にもいくつか鉄平石があるが、柄部は確認できない。

炉 建物のほぼ中央にあり、確認時には上面の周囲に被覆して欠けた石がいくつかあったが、炉石は確認できなかった。掘り方は一辺1.25mほどの隅丸方形を呈し、

内面の焼土混じりの土のなかに胴部以下を打ち欠いた深鉢を逆位に埋設した埋甕が残されていた(第68図)。おそらくは大型の土器埋設石臼炉であったと思われる。なお、炉の埋め土上部から破損した小型の石棒(PL25-4)が出土している。

柱穴 確認されていない。

遺物 床面付近から少量の遺物が出土している。9は敷石面の直上からまとまって出土した深鉢、10は炉内埋設土器である。10は堀之内2式に比定され、11～15も同時期のものである。土器片加工円盤が多いことも特徴として挙げられる。

時期 後期前半堀之内2式古段階に比定される。

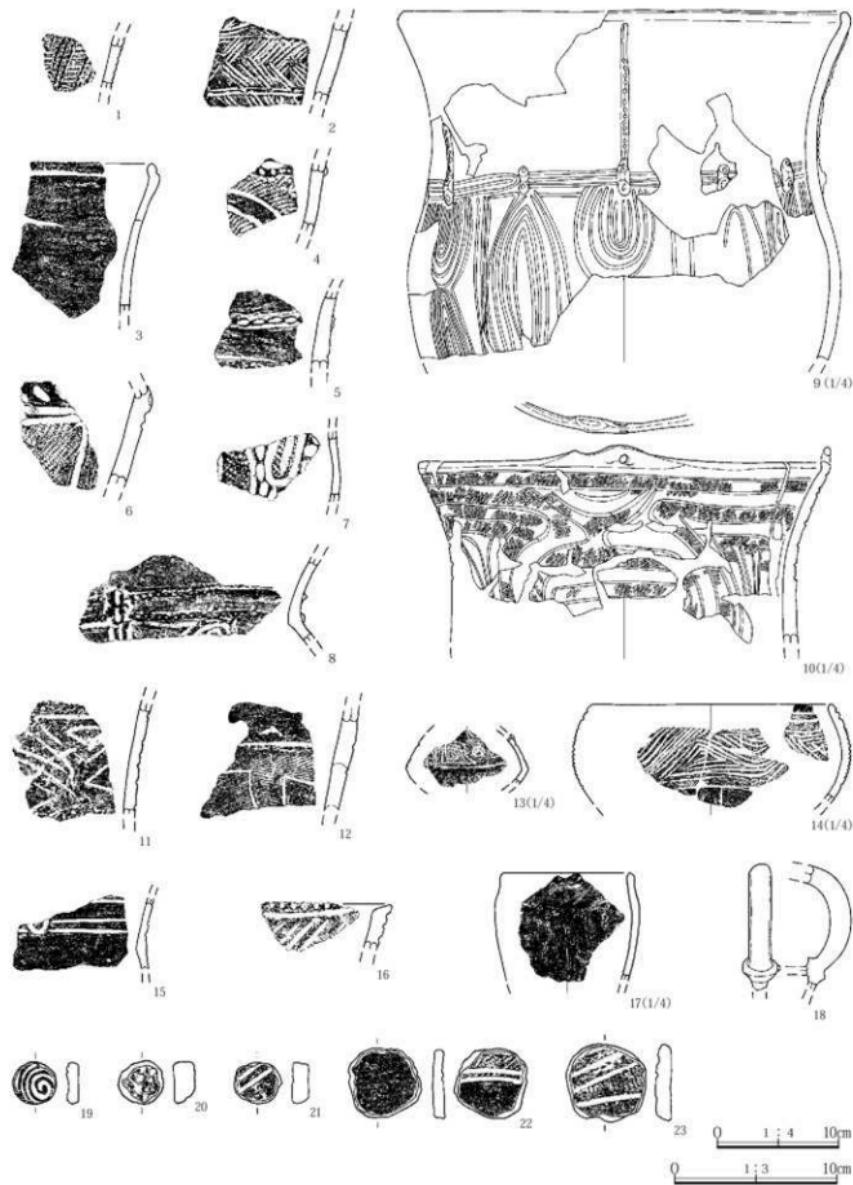
82号竪穴建物(第70～72図、PL.26)

調査年度 平成30年度

位置 6区(100区E・F-8・9)

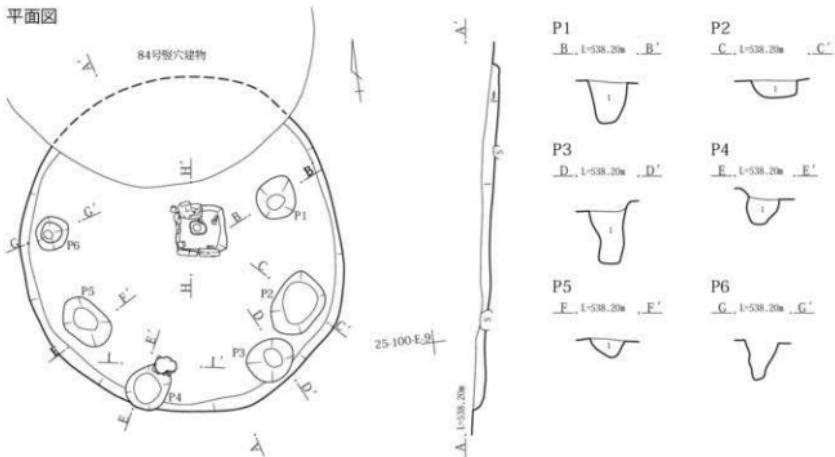
経過 6区中央の台地縁辺で確認された。ここは中期後半の竪穴建物が集中する地区で、一連の調査のなかで本建物も発見された。

重複 北側を84号に、南東部を85号竪穴建物と重複し、84号竪穴建物を切り、85号竪穴建物に切られる。また、

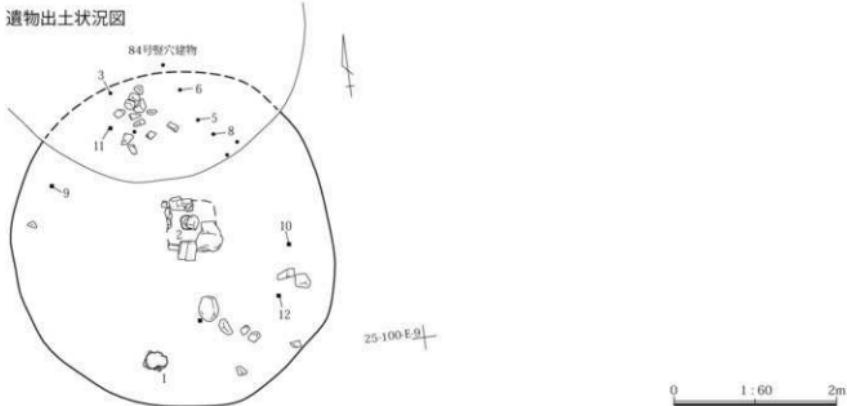


第69図 80号竖穴建物(3)

平面図



遺物出土状況図



第70図 82号竪穴建物(1)

東西にはその他の各建物が近接する。

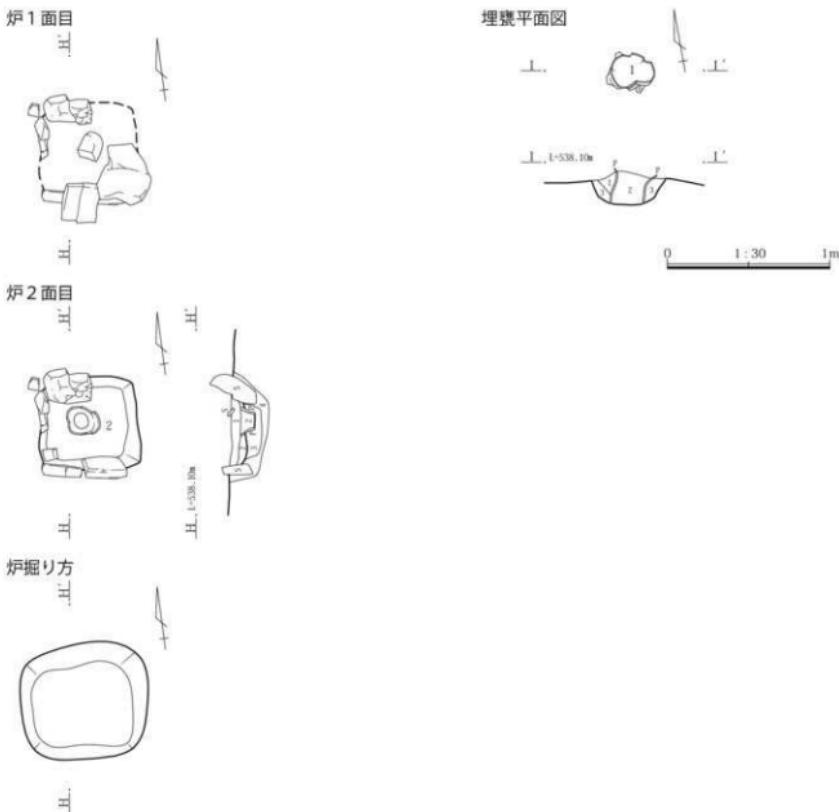
形状 南北4.2m、東西3.95mの南北にやや長い円形状を呈する。

床面 地山面を調整して平坦な床としており、炉の周囲にはやや硬化した面が認められた。

炉 土器埋設を伴った方形石圍炉で、建物のほぼ中央にある。一辺60cmほどの大きさで、炉内中央よりやや北西に寄せて土器を正位に埋設している。使用された土器は

口縁部と胴下半部を打ち欠いた小型の深鉢(第72図2)で、明瞭な被熱痕跡が認められる。また、炉石は東辺と北辺・西辺の一部が残っておらず、抜き取られた可能性が高い。炉内に焼土はほとんど残っていなかったが、炉石には明瞭な被熱痕跡が認められた。

埋甕 P 4の北東隅に重複した状態で確認された。炉との距離は1.3mほどあり、炉の中心を通る主軸から西側にややずれている。使用された土器は胴下半部を打ち欠



第71図 82号竪穴建物(2)

いたやや小型の深鉢(第72図1)で、正面に埋設されていた。

柱穴 6本確認されており、このうちP1・P3・P6は主柱となる可能性が高い。

遺物 加曾利E3式(2~4)と郷土式(1)の他に、石鐵や打製石斧が出土している。

時期 中期後半加曾利E3式期に比定される。

83号竪穴建物(第73~75図、PL.26、27)

調査年度 平成29年度

位置 8区(100区F-9~10、G-8・9)

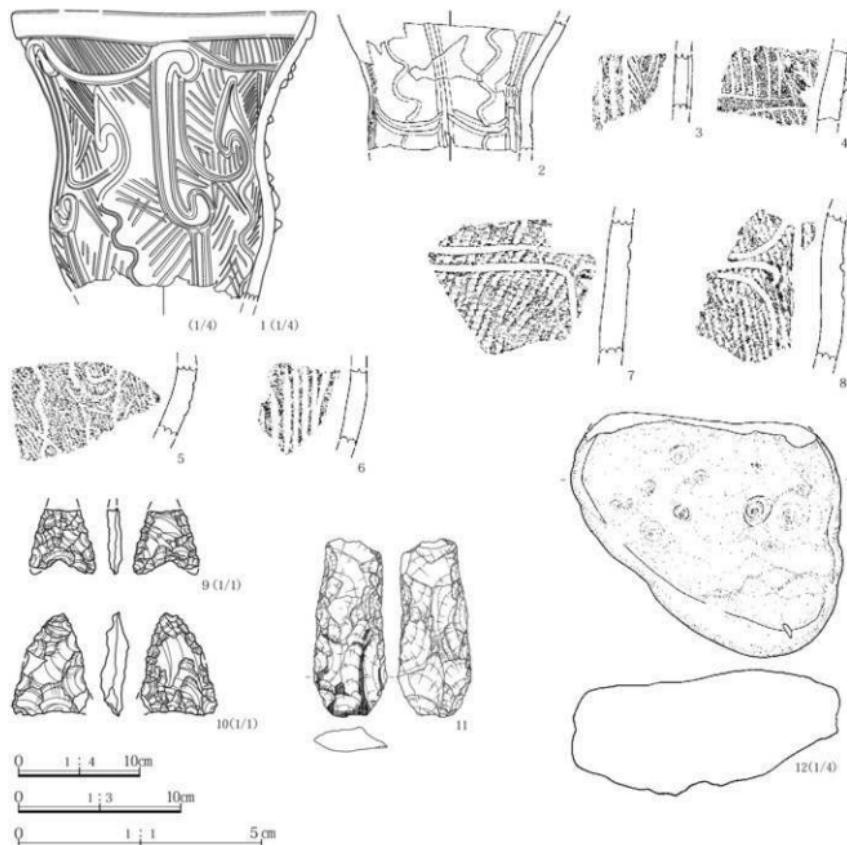
経過 82号竪穴建物のすぐ西側で確認された。本建物も

6区中央北側の台地縁辺に集中する一画にある建物で、その中央部に位置する。

重複 北側に86号竪穴建物が重複し、調査時の切り合い関係は不明だが本建物のが痕跡すら無いことから、86号に切られているものと判断する。また、南側の一部を後世の土坑2基に切られる。

形状 86号建物と重複する北半部は不明だが、東西5.4mほどあり、やや南北方向に長い円形状を呈する。

床面 傾斜する地山を切って平坦面を構築し、地山面を調整して床としている。また、南側壁から1.2mほど内側で埋甕を確認した。使用されていた土器は胴下半部を



第72図 82号竪穴建物(3)

打ち欠いたやや大きな深鉢で、建物の内側にやや傾けた状態で正位に埋設されていた。

炉 確認されていない。炉のあるべき位置には炉石や焼土の痕跡すら確認できない。

柱穴 8本確認されており、P 1・P 6以外は主柱と考えられる。

遺物 量はさほど多くはないが、覆土下層を主体に遺物が出土している。5はこの地域ではよく見かける釣手形土器である。

時期 中期後半加曾利E 3式古段階に比定される。

84号竪穴建物(第76、77図、PL.28)

調査年度 平成30年度

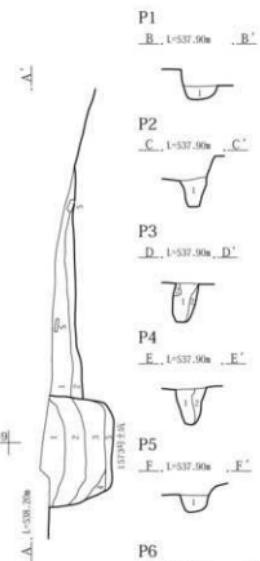
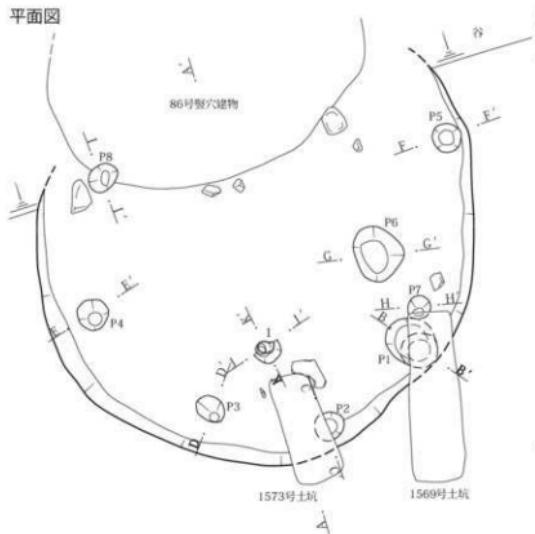
位置 6区(100区E・F-9・10)

経過 82号竪穴建物の北側に重複する建物として確認された。

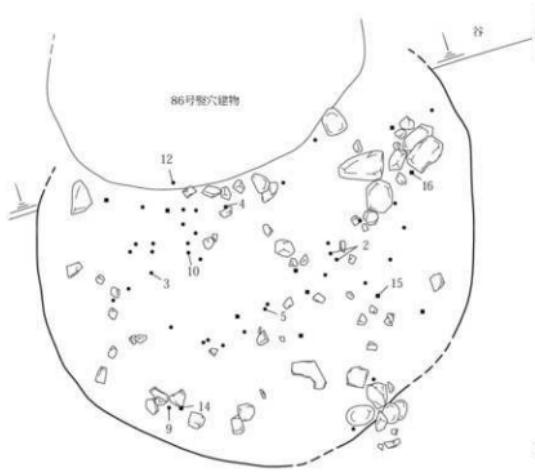
重複 南側を82号竪穴建物と、東側を88号・93号竪穴建物と重複し、それらの建物に切られているものと判断する。また、北側の一部が台地縁辺にかかっており、これを失う。

形状 炉を中心に東西4m前後の円形状のプランだった

平面図

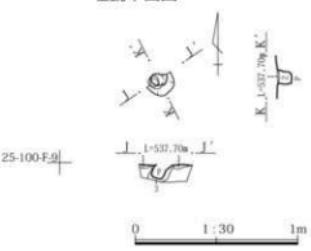


遺物出土状況図



25-100-F.0

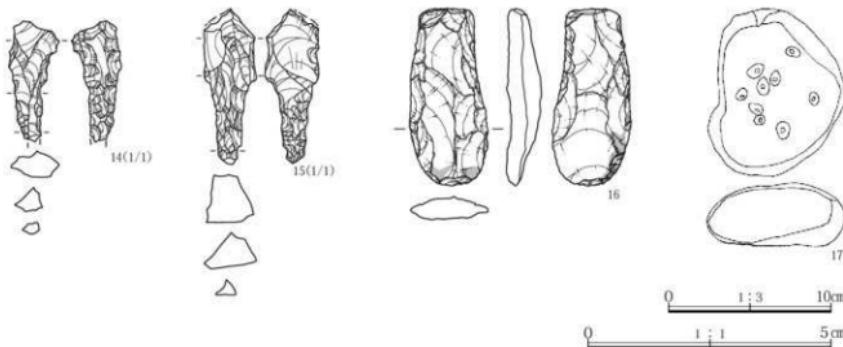
埋甕平面図



第73図 83号竪穴建物(1)



第74図 83号竪穴建物(2)



第75図 83号竪穴建物(3)

と想定する。

床面 台地縁辺の灰褐色土中に床面を構築しており、地山面を調整して平坦面を作り出している。

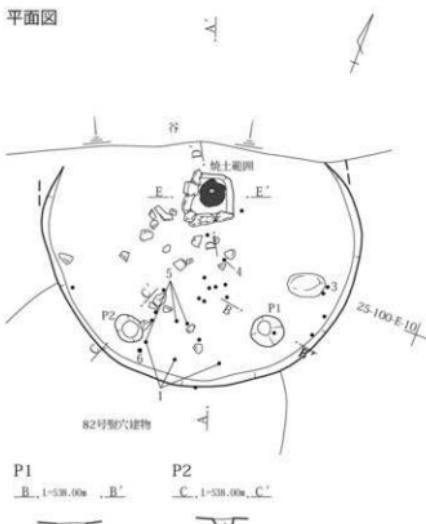
炉 一辺60cm前後の方形石圍炉で、北辺と東辺のガラス石を失っている。炉内底面には直径35cmほどの円形状に焼土が残り、残されたガラス石には明瞭な被熱痕跡が確認できた。

柱穴 2本確認されており、やや浅いが主柱となる可能性が高い。

遺物 覆土下層から少量の遺物が出土している。南東側壁際から石皿(第77-6)の未製品が出土した。

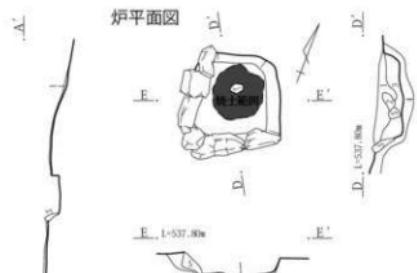
時期 中期後半加曾利E2式期に比定されよう。

平面図



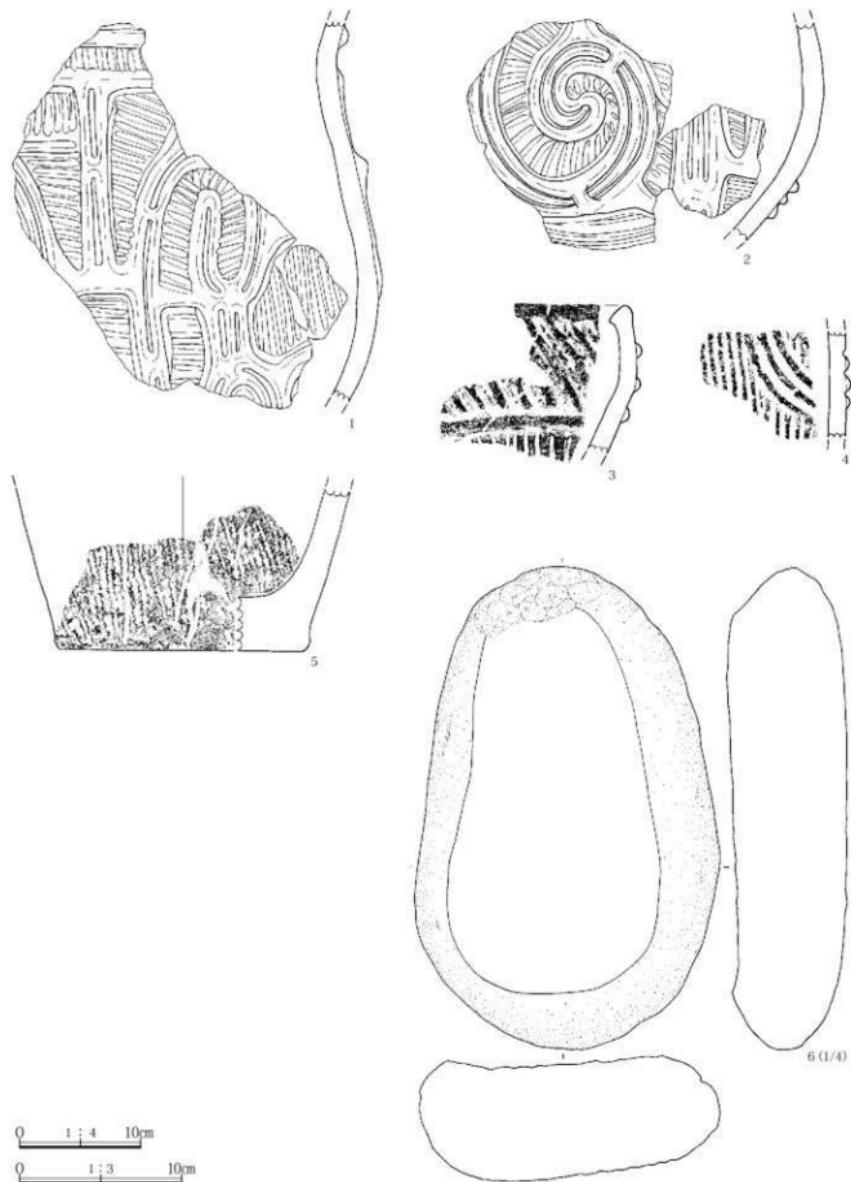
第76図 84号竪穴建物(1)

炉平面図



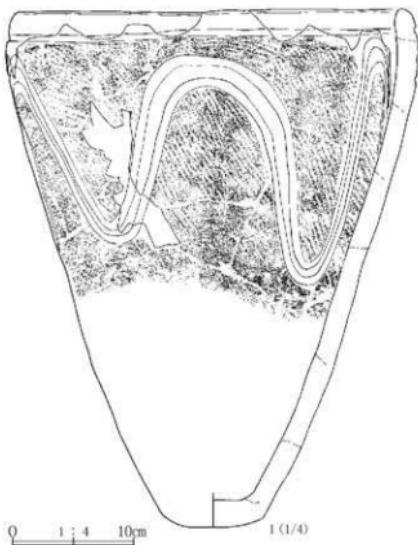
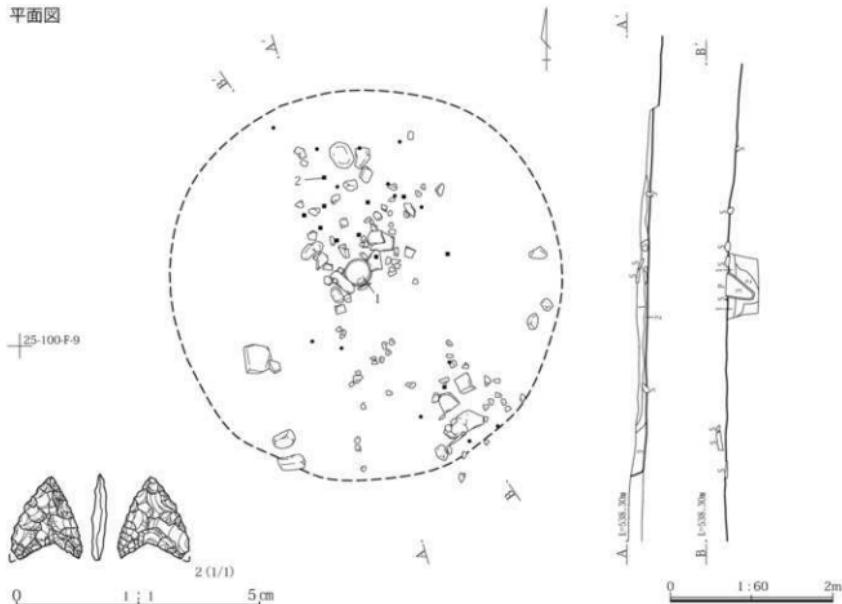
炉掘り方





第77図 84号竪穴建物(2)

平面図



第78図 85号竪穴建物

85号竪穴建物(第78、PL.28、29)**調査年度** 平成29年度**位置** 6区(100区D・E-8・9)

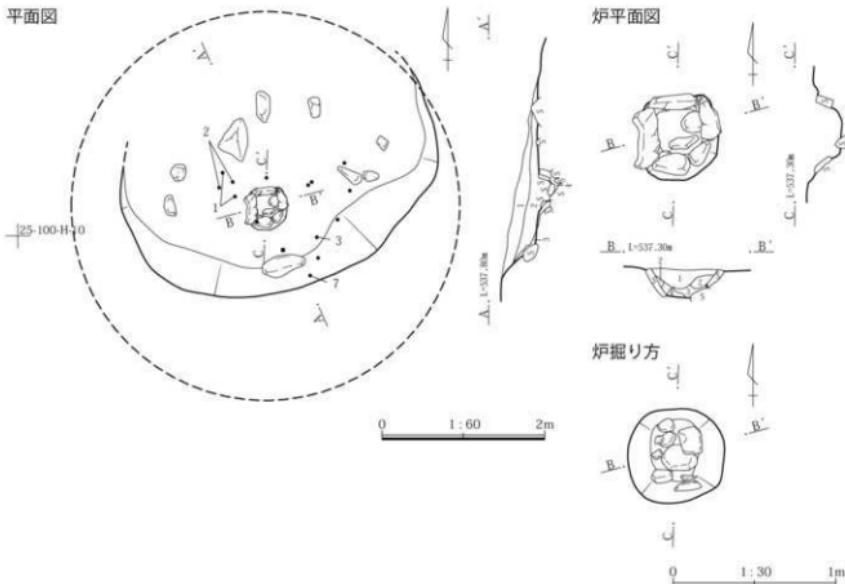
経過 82号竪穴建物等の調査と共に確認された。敷石の一部が1.5mの距離で2箇所に集中した状態で確認され、ほぼ同レベルであることから1軒の建物として扱うことになった。このうち北側の敷石部から埋甕が確認され、これを炉と見なして調査が行われた。

重複 北側に82号・88号竪穴建物が重複し、これらを切っているものと思われる。

形状 建物の形状を示すものは見当たらないが、埋甕を中心にして直径4.8mの範囲に敷石が収まることから、その範囲を建物の範囲と見なした。

床面 くすんだ暗褐色土中に敷石を敷き込んでいる。敷石の多くは原位置を失って重なったり、小石等の上に乗って傾いたものも多い。そうしたなかで、北端部の敷石は当時の状態を保っており、その端部に鉄平石を立てて設置している点で注目される。

炉 口縁部は一部欠けているが、ほぼ完存状態の深鉢を



第79図 86号竪穴建物(1)

正位に埋設(第78図-1)している。使用された土器は口縁部直径33.5cm、高さ42cmの深鉢で、埋設された口縁部の周囲に小さな棒状円碟や小石、鉄平石が取り巻くように配置されたものが一部残っており、その周囲にも大小の円碟が多く認められる。敷石に使用されたとみられる大きな鉄平石は、それらの上に乗る状態で集積しており、二次的に集められたような状態が看取される。また、埋甕の周囲に焼土は認められないことから、この埋甕は出入り口部に伴うものか、あるいは単独の埋設土器の可能性も考慮する必要がある。

柱穴 確認されていない。

遺物 調査に伴って少量の遺物が出土している。

時期 炉とされた埋甕から、中期後半加曾利E 4式古段階に比定されよう。

86号竪穴建物(第79、80図、PL.30)

調査年度 平成29年度

位置 6区(100区F・G-9・10)

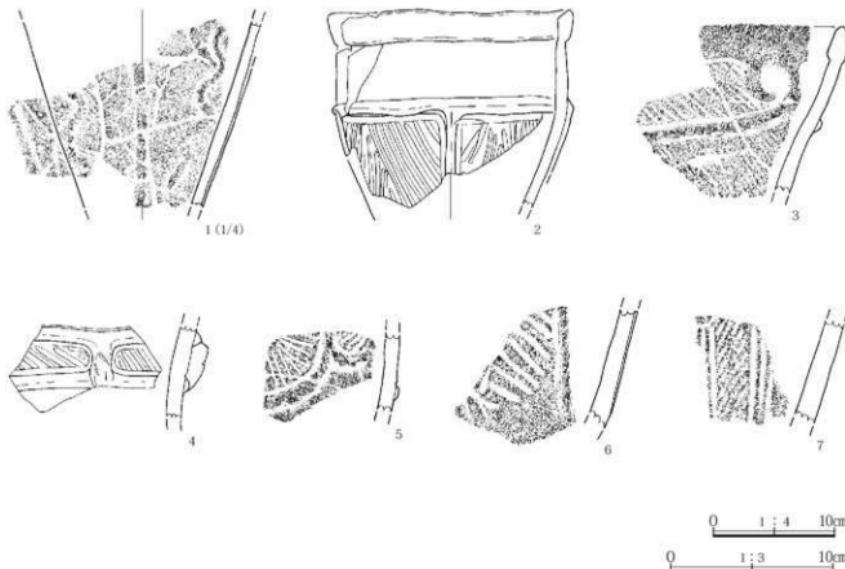
経過 83号竪穴建物の調査に伴って、その北側に重複する建物として調査された。建物の規模が小さく、埋め土から土器等は出土したが、当初は炉が見当たらないので土坑の可能性もあった。

重複 南側で83号竪穴建物と重複するが切り合い関係は判然としない。

形状 炉を中心で直径4.7mの円形プランを想定したが、炉の南側50cmに大きな石があつて壁の立ち上がりがあり、北側にも50cmで大きな地山石がある。また、炉の東西とも1mで床面レベルに地山の礫が多く突出し、平坦面はわずかに東西1.8m、南北1.6mほどしかない。その場合、壁の上端では直径2.5m前後の建物が想定される。

床面 台地縁辺部の傾斜面を大きく切り込んでおり、地山の黄灰色砂質土をほぼそのまま床としている。

炉 鉄平石や扁平な川原石を組み合わせた方形形状の石圓炉で、底面に焼土が残り、炉石には明瞭な被熱痕跡が認められた。この炉は炉石が床面より少し低い位置にあるため、床面検出時には確認できなかった。



第80図 86号竪穴建物(2)

柱穴 確認されていない。

遺物 小さな建物だが、覆土中からそれなりの遺物が出土している。

時期 中期後半加曾利E3式期に比定されよう。

88号竪穴建物(第81、82図、PL.31)

調査年度 平成30年度

位置 100区D-10

経過 85号竪穴建物の北側に重複する建物で、石圓炉が検出されたことで調査となった。

重複 建物の大半を93号竪穴建物と重複し、これを切る。また、西側の一部を82号・84号竪穴建物と重複するが、切り合い関係は不明である。南側では一部を85号竪穴建物と重複し、これに切られる。

形状 85号竪穴建物と重複する南西側で、高さ10cm前後の弧状にめぐる立ち上がりが調査されているが、その位置と柱穴の位置を勘案すると、炉を中心と6.15mほどの円形プランを想定したほうが、それらとの位置関係が良

いと判断した。

床面 暗褐色や灰褐色の地山をほとんどそのまま平坦にして床としている。

炉 一边65cmほどの方形石圓炉で、北西辺の炉石は打ち割られているが、内側に倒れ込んでほぼ残っている。炉内底面に焼土か残っており、炉石内面には明瞭な被熱痕跡が確認できた。

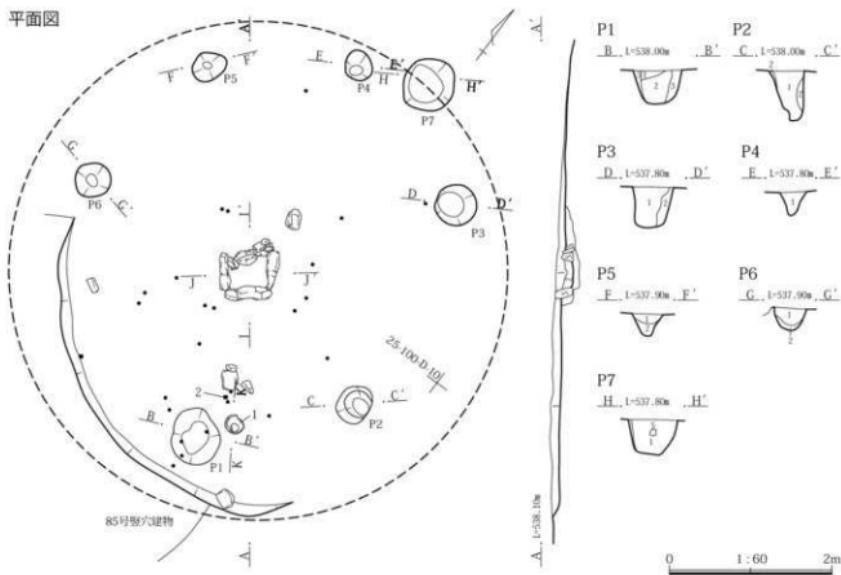
柱穴 7本確認されており、P7以外は主柱となる可能性が高い。

埋甕 炉の南側1.5mほどのところにあり、南壁まで1m前後である。使用されていた土器は口縁部と胴部下半部を打ち欠いた深鉢で、建物内側にやや傾けた状態で正面に埋設されていた。埋甕の北側80cmほどのところに大きな扁平甕が据えられていたが、用途は不明である。

遺物 覆土下層から少量の遺物が出土している(1、2)。

時期 中期後半加曾利E3式新段階に比定される。

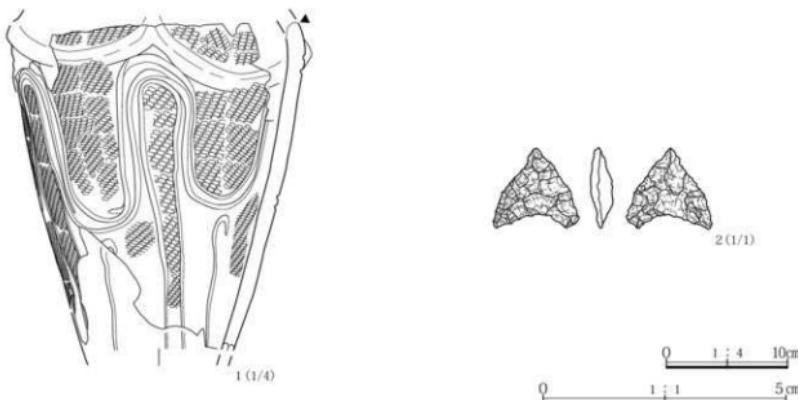
平面図



炉平面図



第81図 88号竪穴建物(1)



第82図 88号竖穴建物(2)

89号竖穴建物(第83～85図、PL.32)

調査年度 平成30年度

位置 6区(100区G・H-8・9)

経過 平成20年度の調査で一部が確認されていた5号竖穴建物の範囲を調査するなかで、隣接する位置から床面の異なる2つの石壺が確認され、下位にある大型の石壺を5号とし、上位のものを本建物と判断された。

重複 5号竖穴建物と重複し、これを切る。

形状 5号竖穴建物と重複する部分では壁は確認できなかったが、円形状の形状を想定する。

床面 地山面を調整して平坦な床としており、炉の周囲ではやや硬化した床が認められた。

炉 長さ50cm前後の鉄平石4石で組んだ方形石壺炉で、炉内北側隅で埋甃を確認した。埋甃は胴下半部を打ち欠いた小型の深鉢(第84図1)を使用し、内側に傾けた状態で埋設していた。

柱穴 5本確認されているが、いずれも浅い。このうち、P4とP5は一辺60cm前後の剛丸方形状あるいは円形状のもので、深さは10～20cmほどであり、石壺炉の掘り方となる可能性が高い。つまり、本建物構築以前にもこの場所に竖穴建物があったと考えられる。

遺物 覆土下層から比較的多くの遺物が出土し、加曾利E3式新段階を主体とした(1～10)。

時期 中期後半加曾利E3式新段階に比定されよう。

90号竖穴建物(第86図、PL.33)

調査年度 平成29年度

位置 6区(99区W・X-11・12)

経過 5区北側の台地縁辺で確認した。すぐ西側は6区となるが、6区建物集中部から18mほど離れている。上面が擾乱されて遺物の出土量も少なかったが、炉石の一端と焼土が残っていた。

重複 後世の擾乱や土坑等に切られ、残っている部分は少ない。

形状 炉を中心とした円形状のプランを想定した。

床面 確認できない。

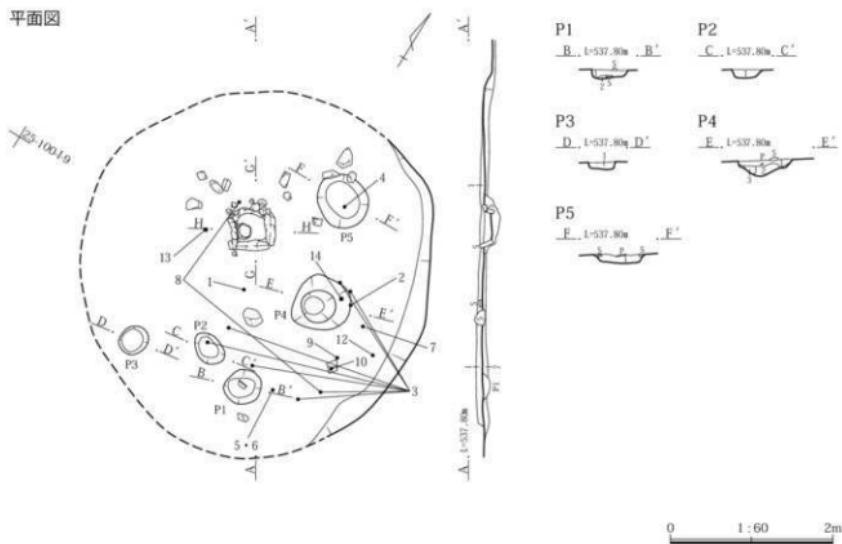
炉 炉石の一端とみられる石が2点残っており、その内側の地山面が直径30cmの範囲で焼土化していた。

柱穴 南側にわずかに残った立ち上がり付近で3本確認したが、いずれも浅い。

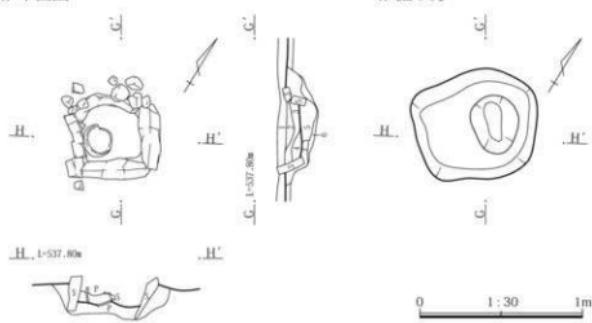
遺物 建物に帰属する出土遺物はほとんど無く、土器の細片数点にとどまる。

時期 時期を判定する材料に欠けるが、炉の形態や出土遺物から中期後半段階に比定したい。

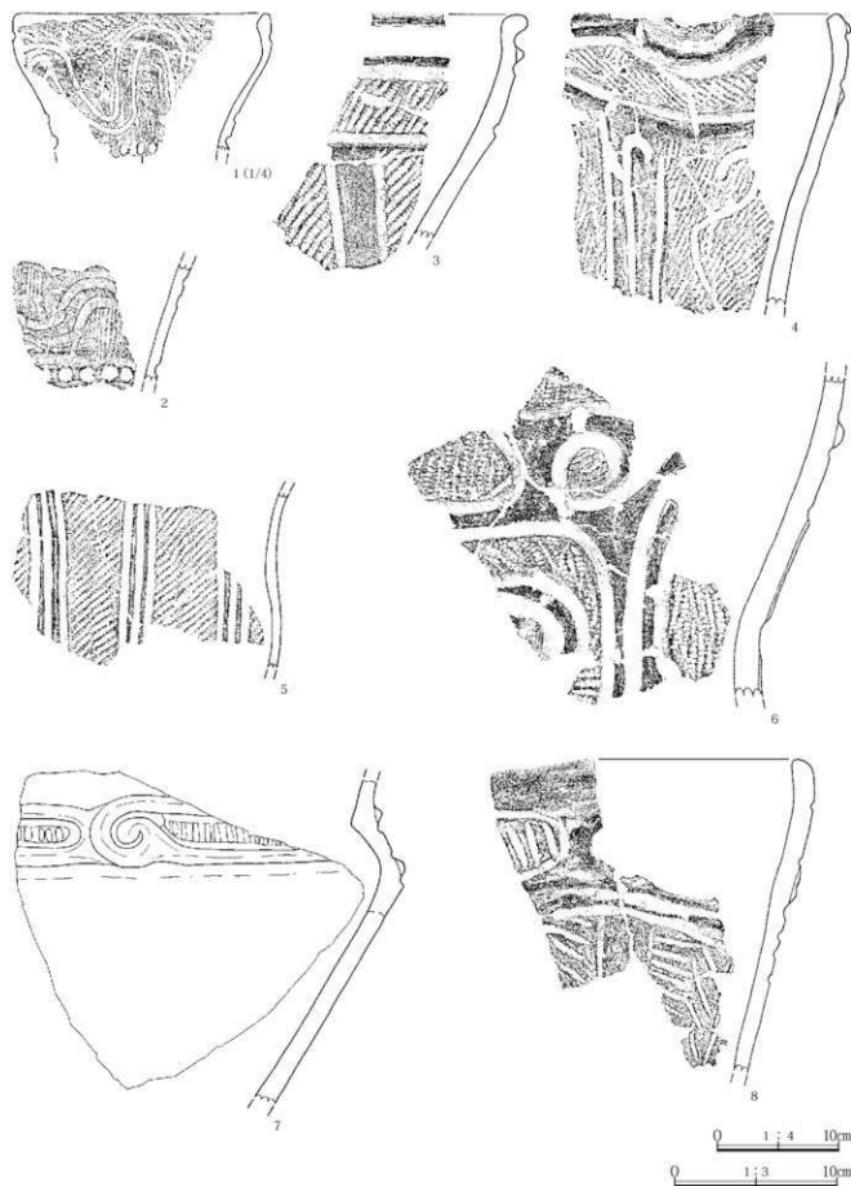
平面図



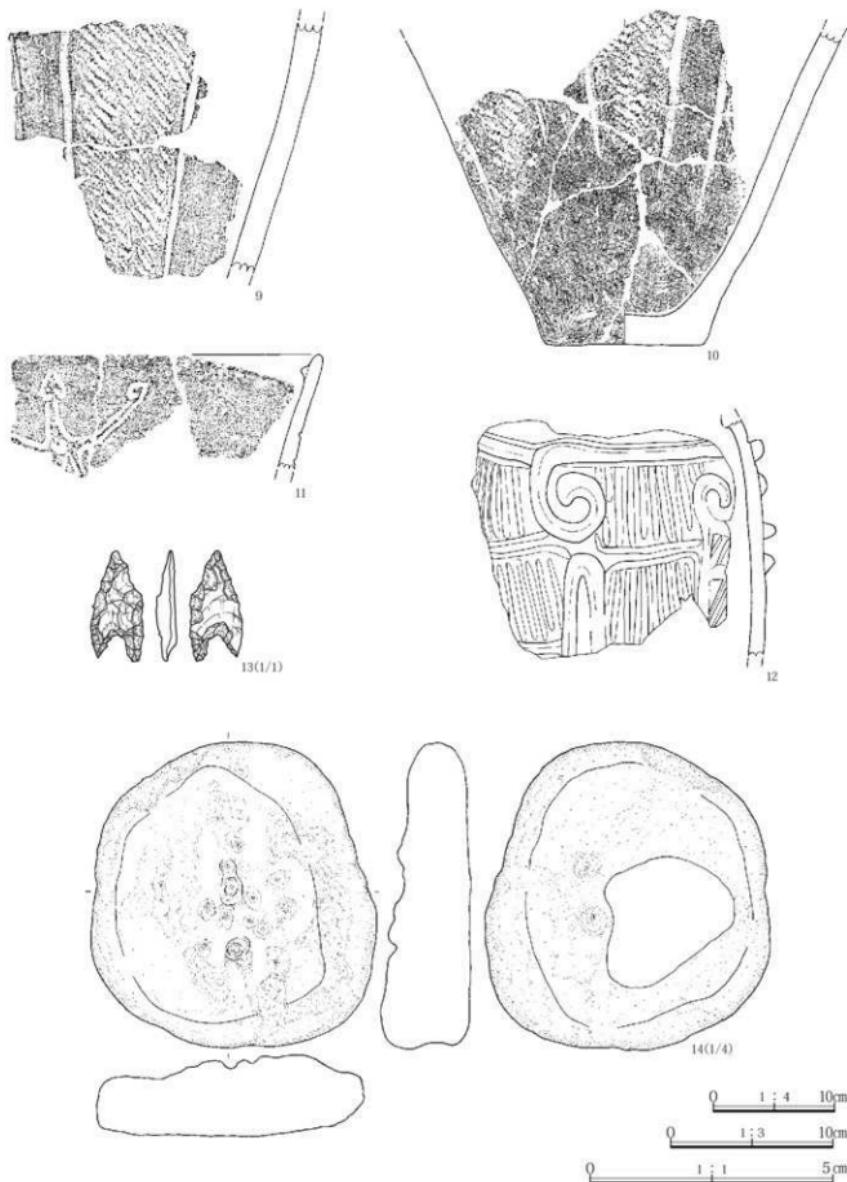
炉平面図



第83図 89号竪穴建物(1)

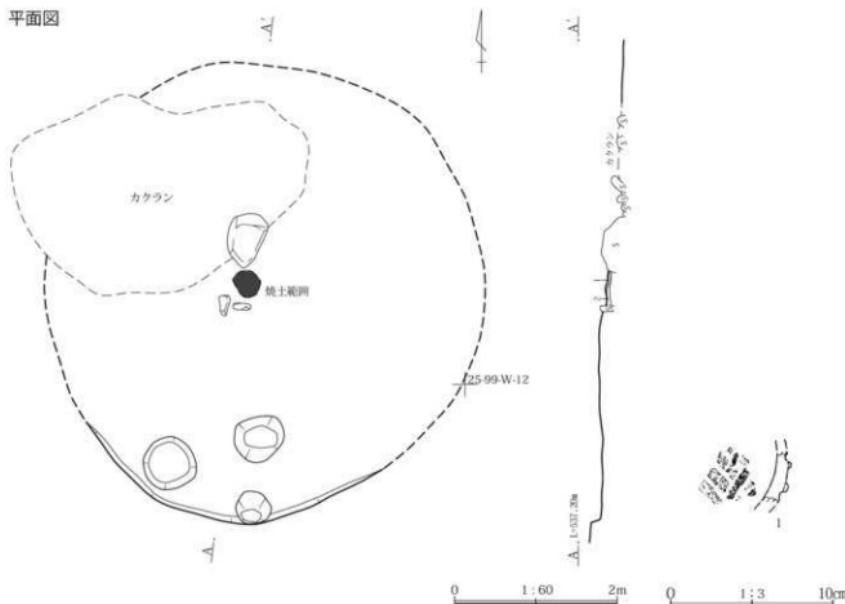


第84図 89号竪穴建物(2)



第85図 89号竪穴建物(3)

平面図



第86図 90号竪穴建物

93号竪穴建物(第87、88図、PL.34)

調査年度 平成30年度

位置 6区(100区C～E-9～11)

経過 重複する88号竪穴建物の調査段階で、床下から石圓炉が確認されて調査となった。

重複 南側を大きく88号竪穴建物と重複し、これに切られる。また、炉の北東隅を1632号土坑と重複し、これを切る。

形状 炉を中心にして直径6m前後の円形のプランを想定したい。調査では南北9mほどの楕円形の大型建物を想定されたが、南西の壁は重複する88号竪穴建物のものを借用しており、炉の規模からみても規格にそぐわない。炉と重複する1632号土坑(第774図)は、その形態から石圓炉だった可能性が高く、ここには以前にも竪穴建物があったと考えたい。

床面 地山面を調整して平坦な床としており、貼床等は確認できない。

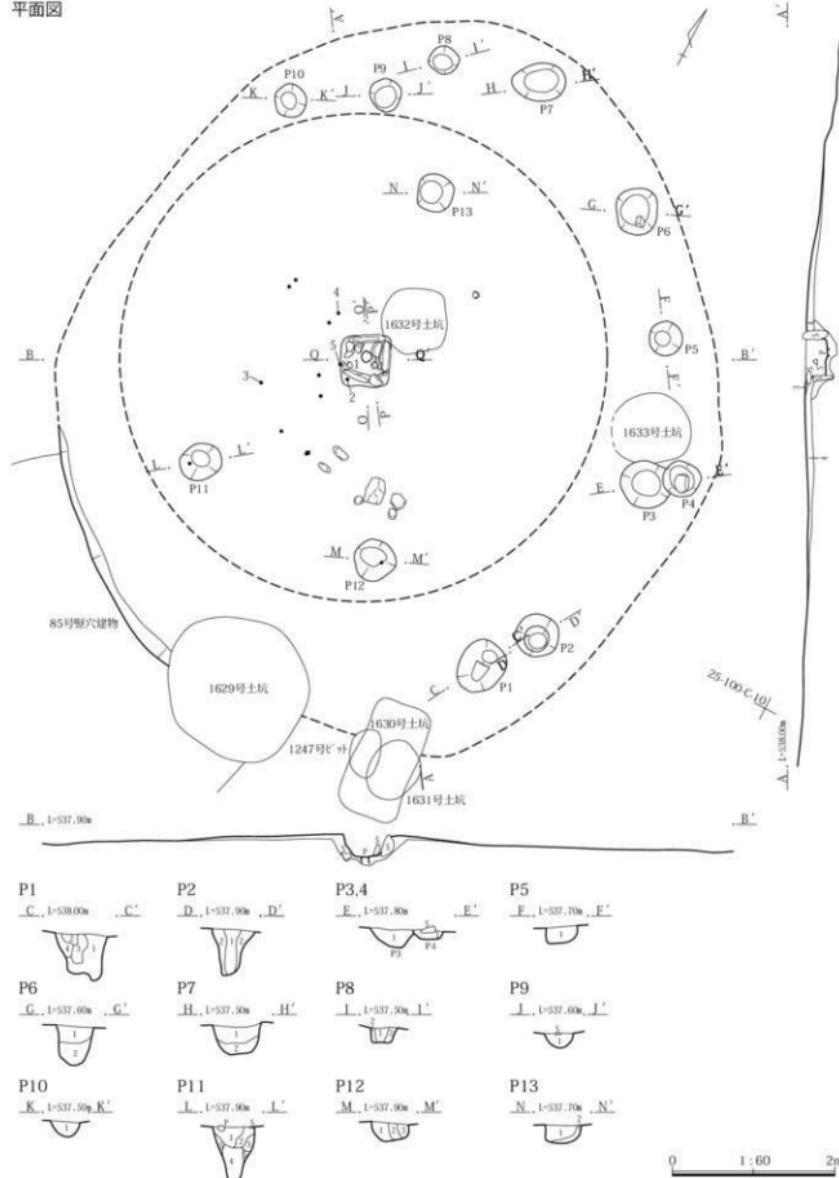
炉 長さ40cm前後の大きな川原石を主体にして組んだ方形石圓炉で、炉内底面で埋甕が確認された(第88図)。使用していた土器は口縁部と胴下半部を打ち欠いた小型の深鉢で、ほぼ中央に正位に埋設されていた。炉内に焼土はほとんど残っていなかったが、炉石には明瞭な被熱痕跡が認められた。

柱穴 本建物の柱穴とされたものは13本あり、このうちP1・P2・P6・P7・P11は主柱の可能性が高い。

遺物 炉に周囲から南西側の床面付近から、少量の遺物が出土している(1～5)。

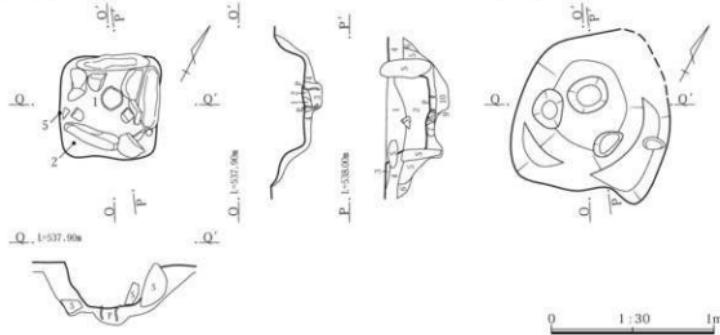
時期 中期後半加曾利E3式期に比定される。

平面図

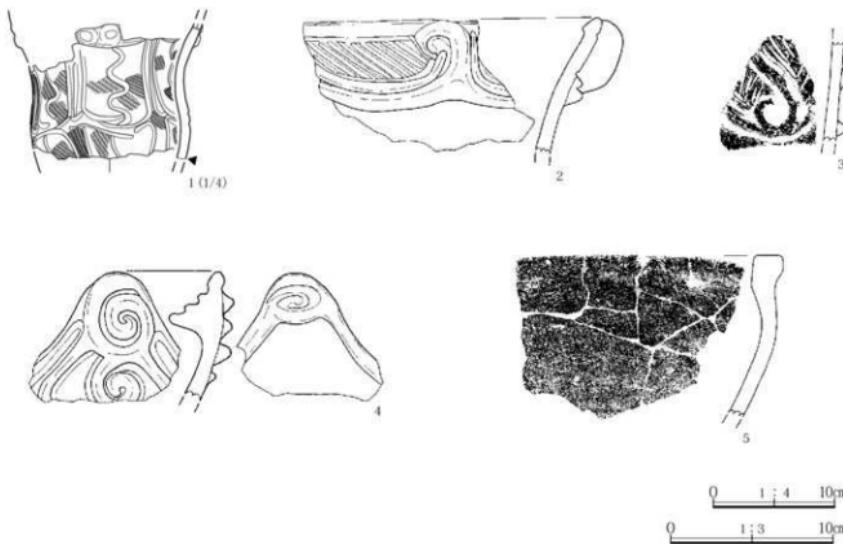


第87図 93号竖穴建物(1)

炉平面図

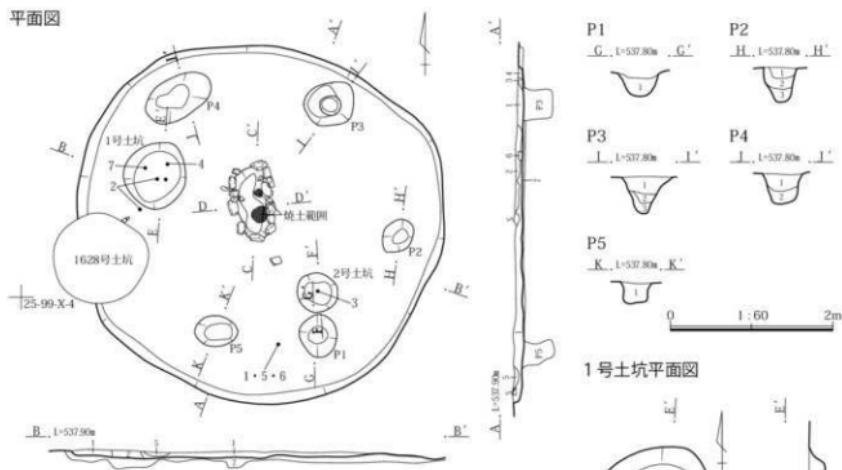


炉掘り方

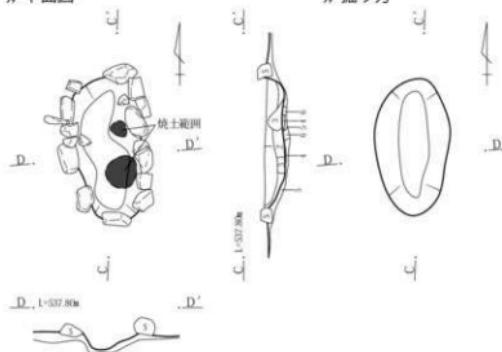


第88図 93号竪穴建物(2)

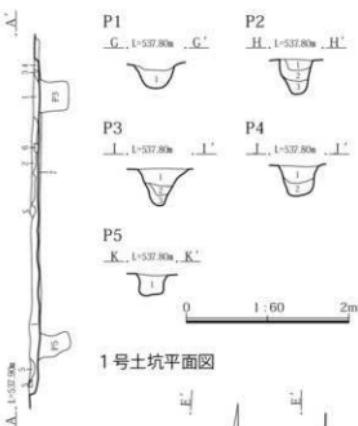
平面図



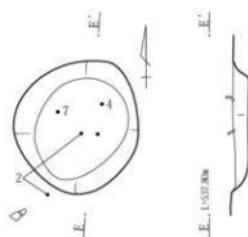
炉平面図



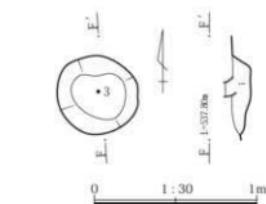
炉掘り方



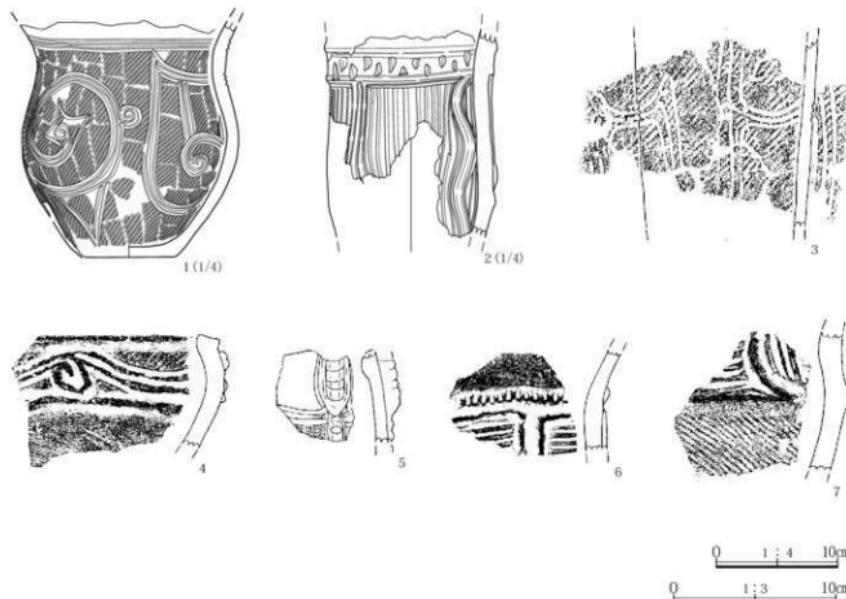
1号土坑平面図



2号土坑平面図



第89図 94号竖穴建物(1)



第90図 94号竪穴建物(2)

94号竪穴建物(第89、90図、PL.34)

調査年度 平成30年度

位置 6区(99区V・W-3・4)

経過 6区東側の台地中央部で確認した。暗褐色土の分布と遺物の出土状況から竪穴建物を想定し、調査を進めるなかで細長い楕円形の石圓炉を検出した。

重複 建物内で1号・2号土坑を確認し、西側で1628号土坑と重複する。切り合い関係は判然としない。

形状 炉を中心にして直径3m前後の円形状のプランを呈する。

床面 地山面を調整して平坦な床としており、部分的に黄色土を使用した貼床が認められた。

炉 10~20cmほどの小さな石を並べて長さ100cm、幅55cmほどの細長い楕円形状の石圓炉を構築しており、炉内底面の地山2箇所が焼土化しており、炉石にも明瞭な被熱痕跡が認められた。炉の形態から複式炉の可能性があり、第90図-1の大木系の出土からも東北地方との関連

性が考えられる。

柱穴 5本確認しており、これらが主柱となるであろう。

遺物 出土遺物は少ないが、床面付近からまとまった状態で土器が出土している(1~7)。1と3は大木式系の深鉢である。

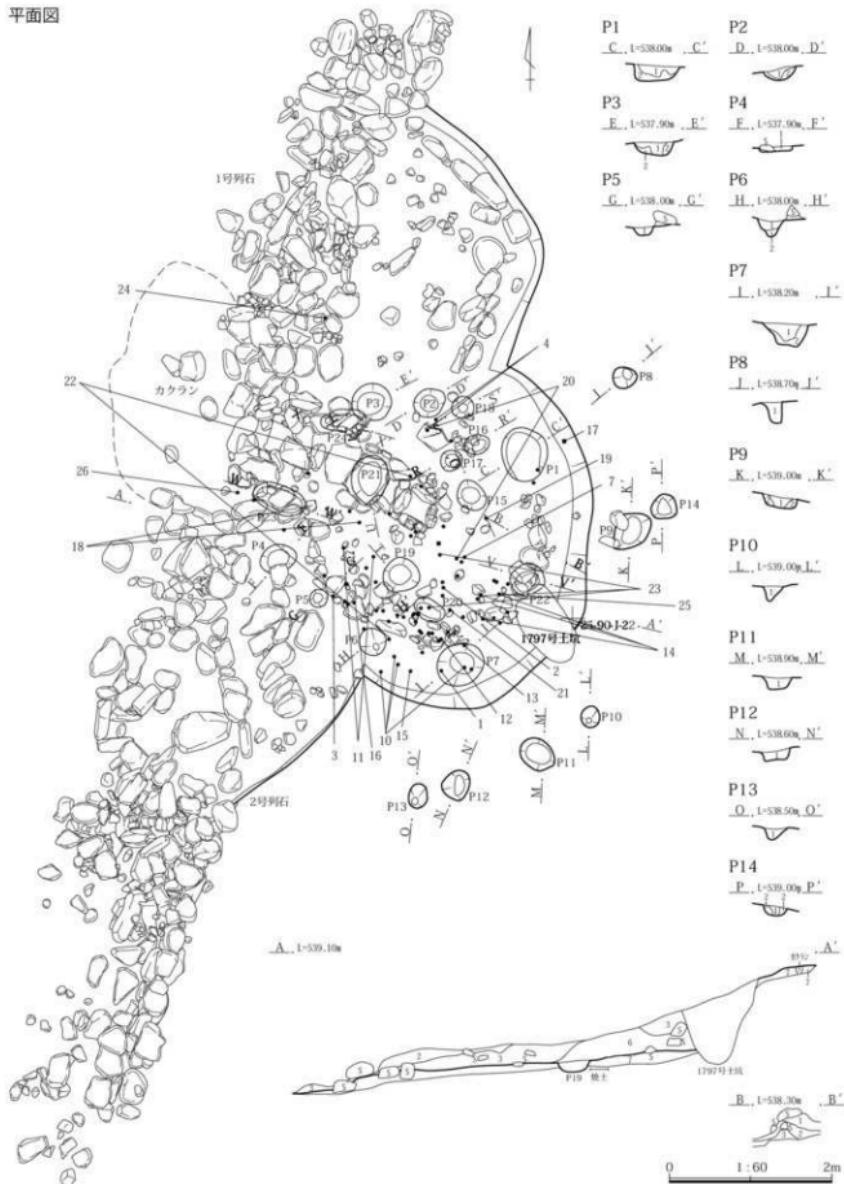
時期 中期後半加曾利E2式期に比定されよう。

95号竪穴建物 平面図
1号列石

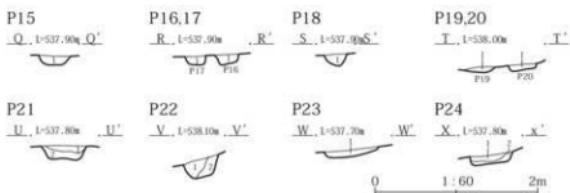
+



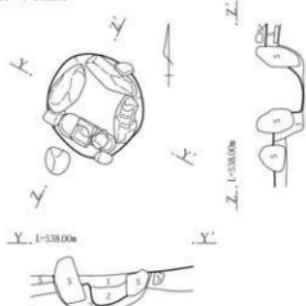
平面図



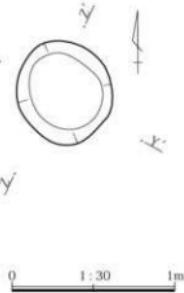
第92図 95号竪穴建物(1)



炉平面図



炉掘り方



第93図 95号竪穴建物(2)

95号竪穴建物(第91～97図、PL.35～38)

調査年度 平成20年度、平成30年度

位置 6区(90区J-21～23)

経過 平成20年度に列石のほぼ北半部、竪穴建物の北側楕状部分から北側の列石について調査が行われた。調査当時は、列石の所々に球形をした大型の丸石が伴い、さらには長さ1mほどもある大きな棒状礫が他の石の上にのし掛かるような状態で何本も確認されたことから、大規模な環状列石の一部だと想定された(PL.152～154)。また、当時は6区沢の状況や竪穴建物との関係も判明していないこともあり、調査が再開される時に備えて列石は埋め戻すことになった。その際、上面にのし掛かる立石は動く可能性があることから取り上げることとなり、その他は土囊を完て養生した上でシートで覆い、埋め戻された。

その後10年が経過し、平成30年度に調査が再開となり、本列石は6区の沢に面してくの字状に配置された弧状列石で、95号竪穴建物が付随していることが判明した。列石は1号列石と命名されたが、これについては後述する。

重複 建物本体の南東側壁面に後世の墓坑(1797号土坑

が重複し、これに切られる。また、沢に面した出入り口部を擾乱されている。

形状 本体は南北4.2m、東西3.8m前後の円形にちかい椭円形で、沢のある西北西に出入り口部を向いている。

床面 傾斜する地山を大きく切り込んで平坦面を作りだし、その面を調整して床としており、柱穴で囲まれた床の縁辺部と炉辺の一部に鉄平石等を敷いた敷石が残っていた。炉の西北西には出入り口部に伴う敷石が残っており、沢に向かって僅かに下りながら配置されている。

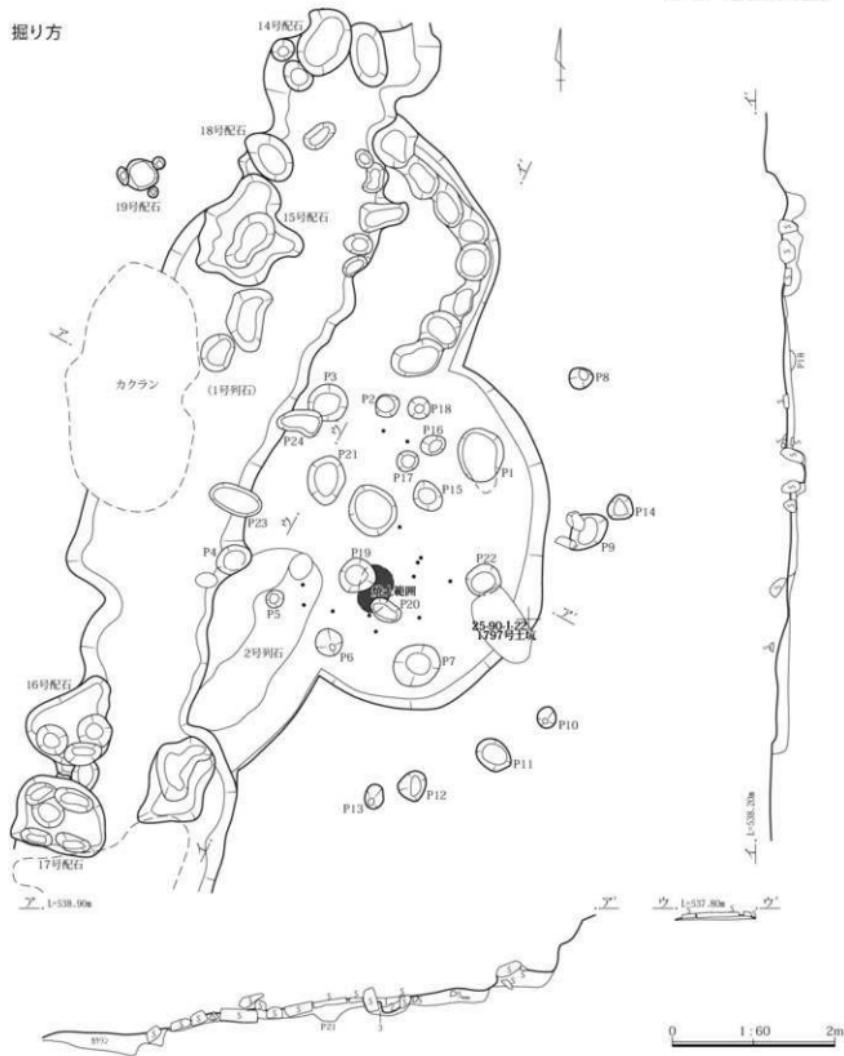
炉 長さ40cm前後の川原石4個で組んだ方形石圍炉で、炉内に焼土が僅かに残っており、炉石には被熱痕跡が認められた。

柱穴 柱穴は19本確認されており、そのうち12本が本体内部、7本が本体外部としているが、いずれも浅く、主柱と判断できる結果は得られていない。

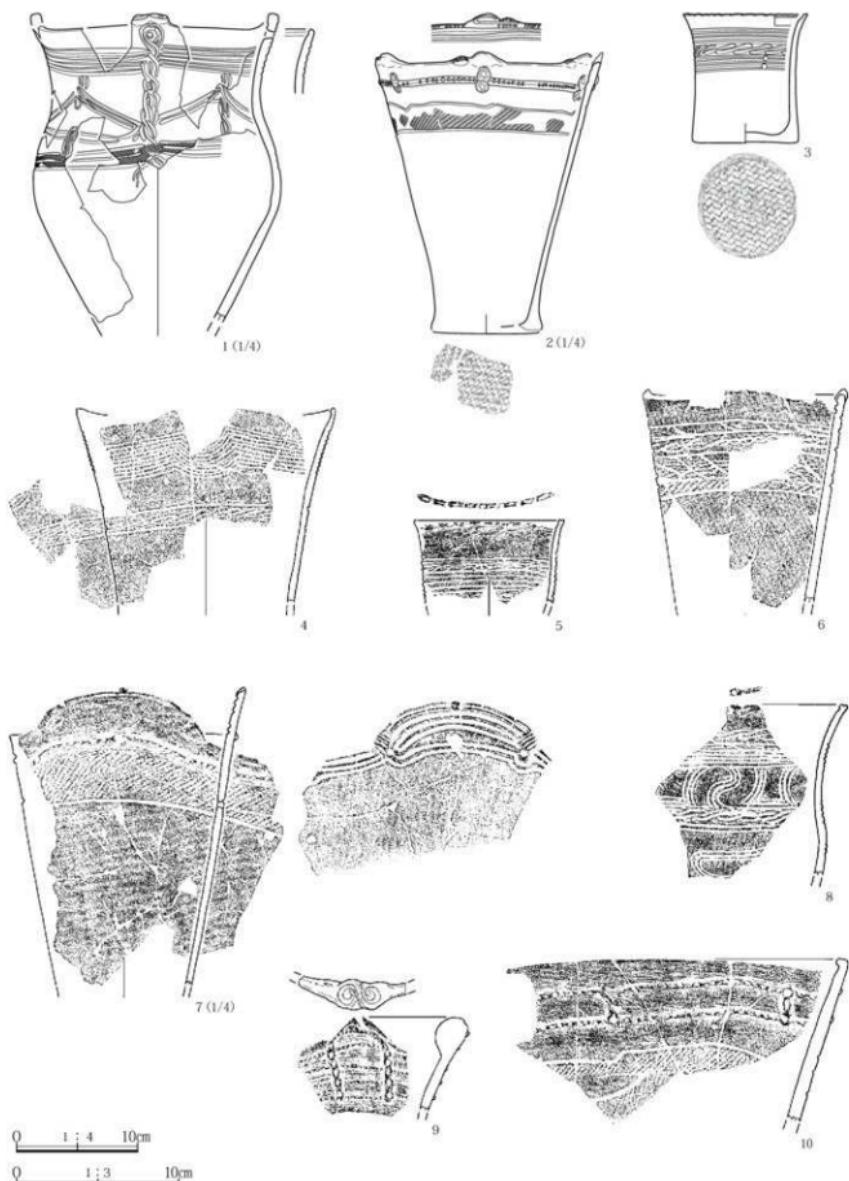
遺物 床面付近から比較的多くの遺物がまとまった状態で出土している(1～29)。

時期 床面出土土器から、後期墳之内2式新段階から加曾利B1式古段階に比定されよう。

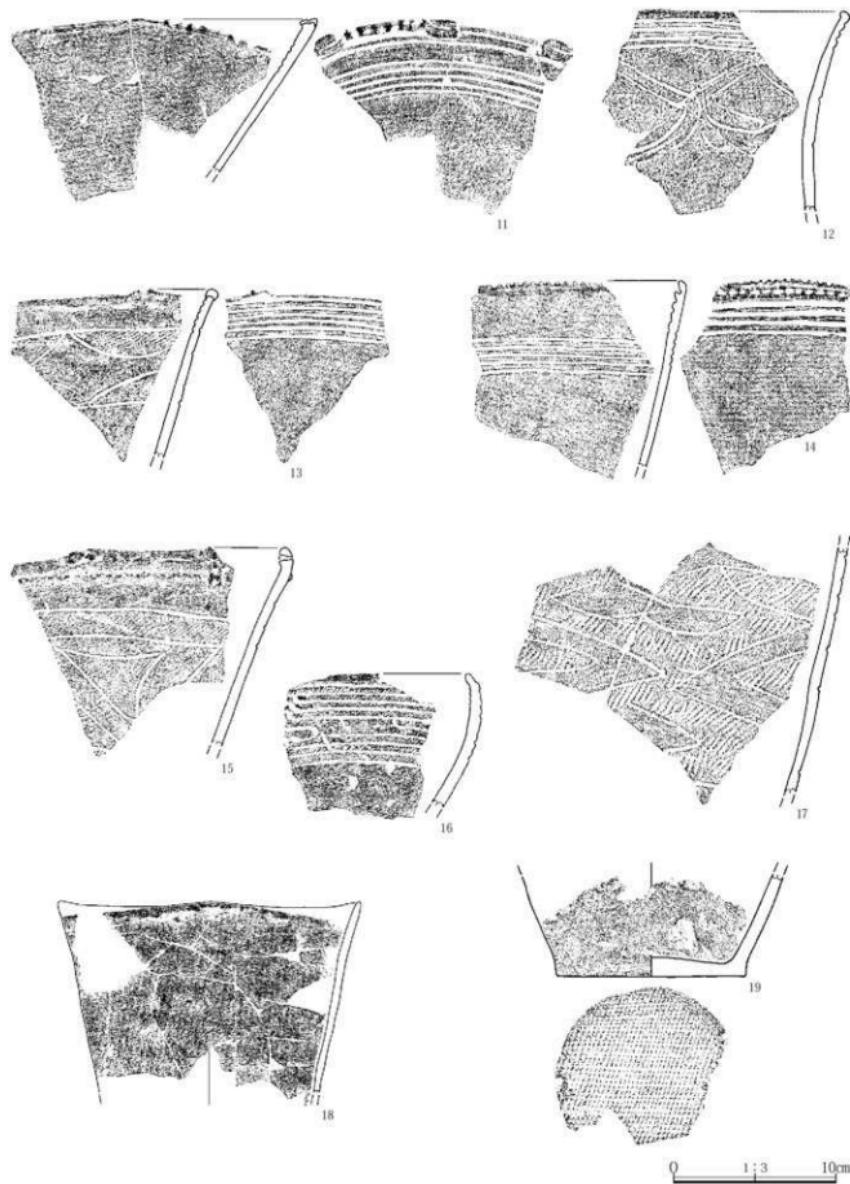
掘り方



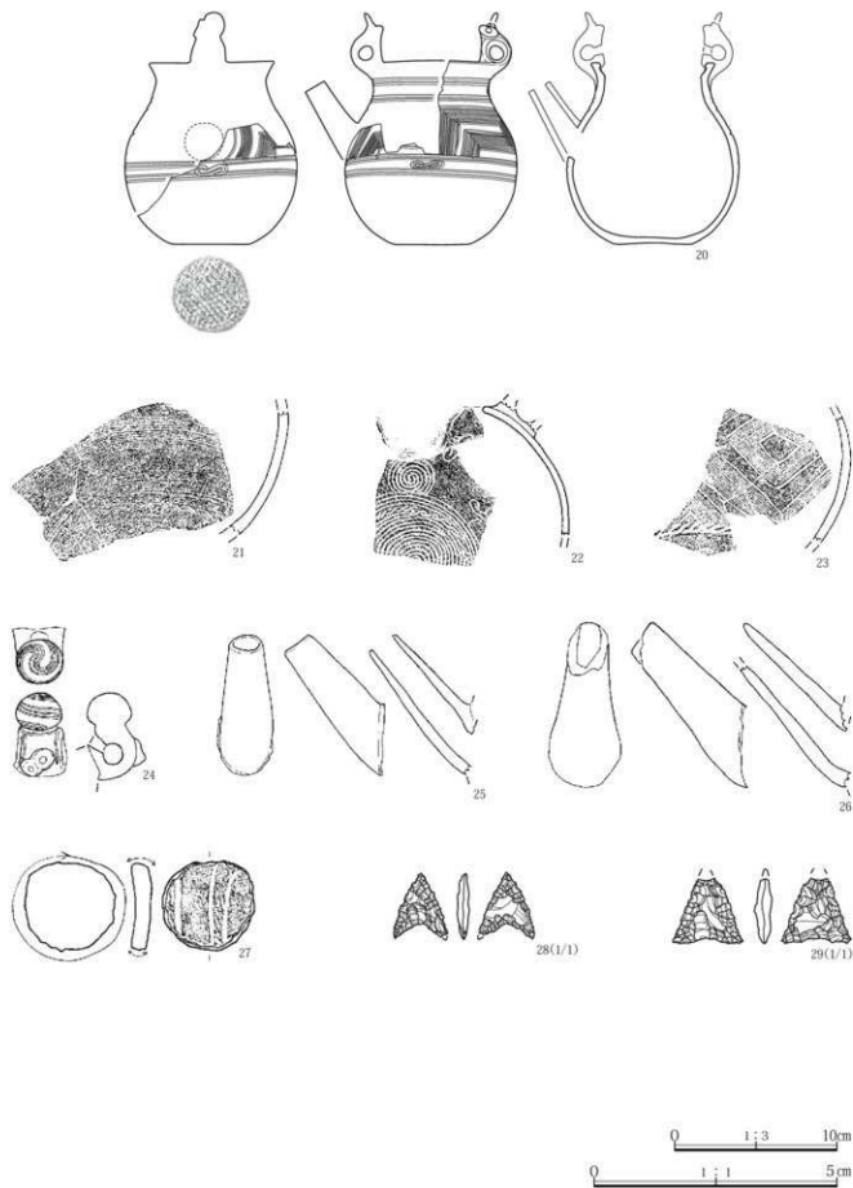
第94図 95号竖穴建物(3)



第95図 95号竪穴建物(4)



第96図 95号竪穴建物(5)



第97図 95号竪穴建物(6)

96号竪穴建物(第98、99図、PL.39、40)

調査年度 平成30年度

位置 6区(90区G・H-19・20)

経過 6区丘陵下の斜面で確認された。95号竪穴建物の東側の丘陵部下での遺構確認作業により、大きな地山礫のすぐ南西側で遺物を含有する黒褐色土の落ち込みが確認され、建物の調査となった。

重複 建物内部に101号竪穴建物が重複し、これを切る。また北西側表面を1828号・1940号土坑と重複し、これに切られる。

形状 池に面する北西側を失っているが、東西5.4mの楕円形状を呈しており、北西側に入出入口が付く柄鏡形であったと想定する。また、炉の位置から想定されるプランは現状とは異なっており、再考する必要がある。

床面 南東側の山側を大きく切り込んで平坦面を作り出し、そこを調整して床としている。本来は柄鏡形敷石タイプの建物だったと想定するが、床面の敷石は周縁部等

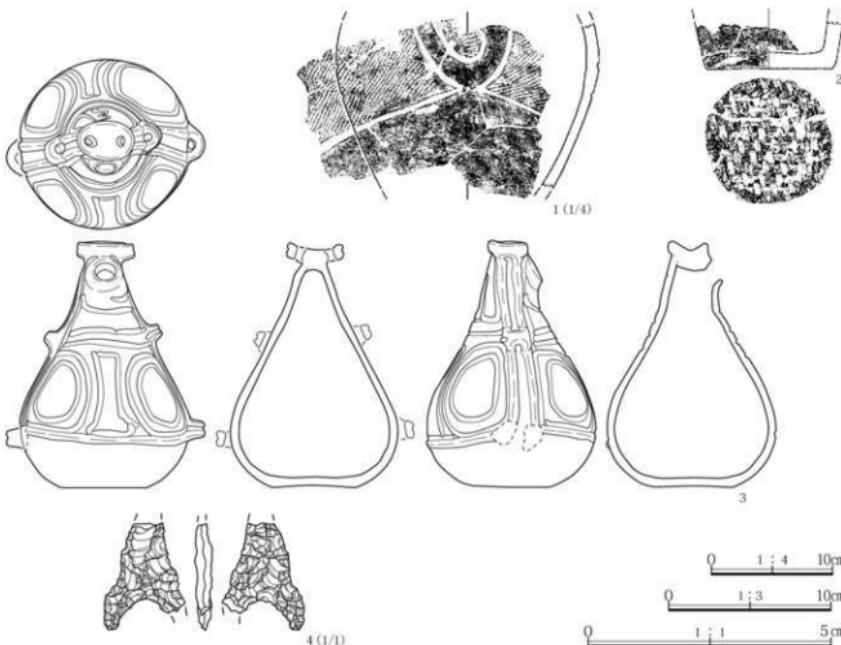
の一部に残るだけで、大半を失っている。敷石の根詰めに使用される棒状の小さな川原石が床面の所々に残されていることが、そのことを示している。

炉 北西部の床面下で、炉内に埋設された埋甕(1)を確認した。埋甕は深鉢の脚下半部を正位に埋設したもので、東西108cm、南北86cmの隅丸長方形の掘り方の北西部隅に設置されていた。焼土等はほとんど残っていなかったが、埋甕には被熱痕跡が認められた。なお、炉とした埋甕の位置と本建物の形状は整合しておらず、再考の余地がある。

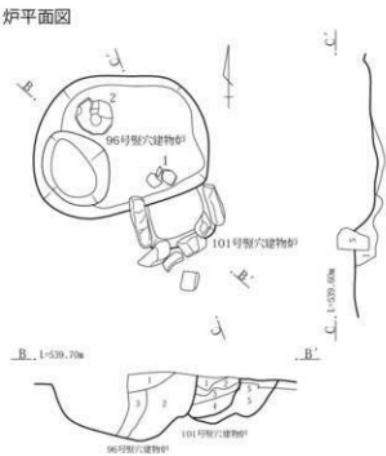
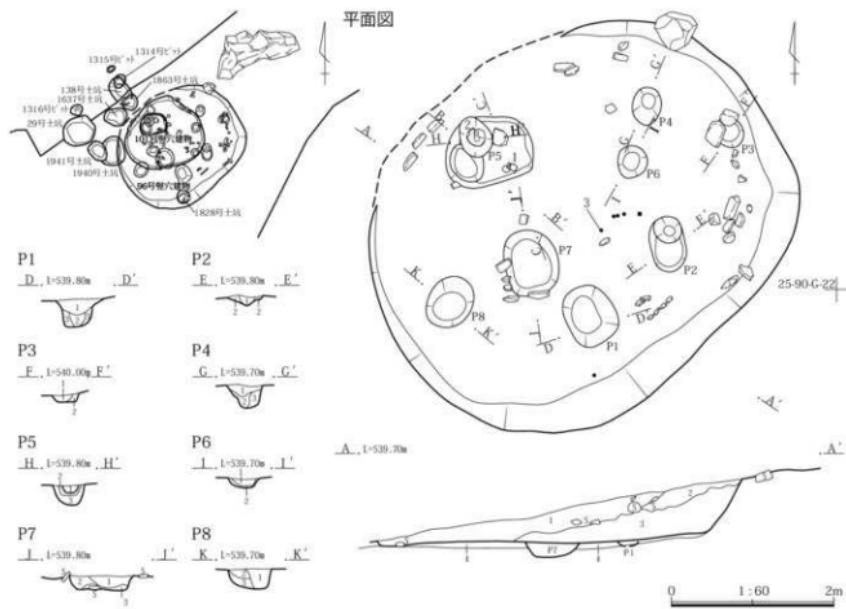
柱穴 8本確認されたがいずれも浅く、主柱となる柱穴は検出できていない。

遺物 覆土中を中心に少量の遺物が出土している。1は炉に使用された埋甕、3は床面から横転した状態で出土した注口付きの瓢形土器である。

時期 後期前半称名寺2式から棚之内1式古段階に比定されよう。

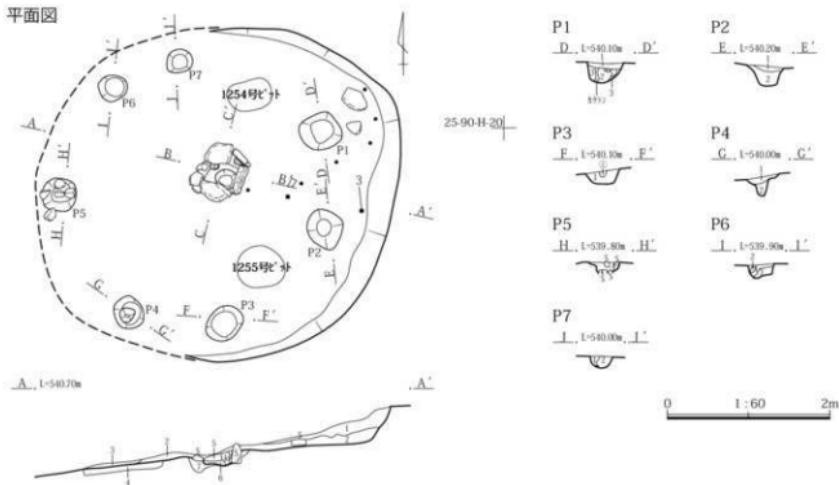


第98図 96号竪穴建物(1)

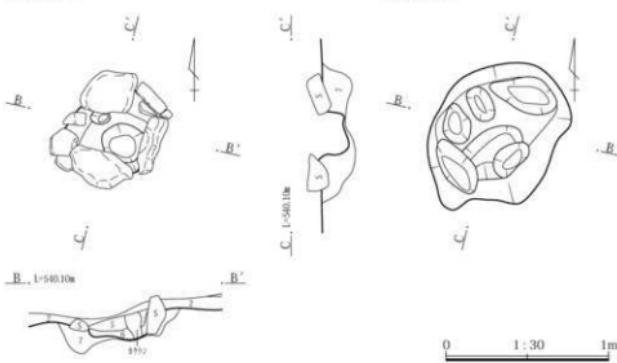


第99図 96号墳穴建物(2)

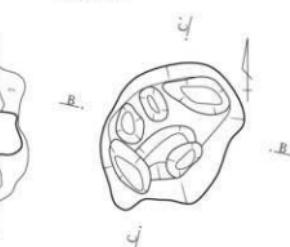
平面図



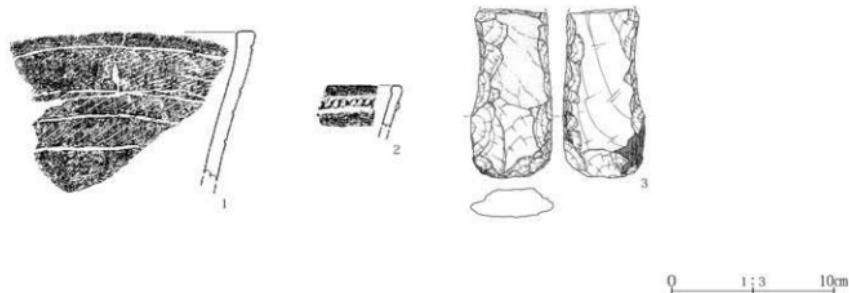
炉平面図



炉掘り方



第100図 97号竪穴建物(1)



第101図 97号竪穴建物(2)

97号竪穴建物(第100、101図、PL.40)

調査年度 平成30年度

位置 6区(90区H・I-19・20)

経過 96号竪穴建物の南側6mで確認した。96号と同様に丘陵部下の遺構確認作業で検出され、建物の調査となつた。

重複 1254号・1255号ピットが建物内に重複するが、切り合い関係ははつきりしない。

形状 確認時は東西4.3m前後、南北4.1mの円形状であったが、時期的には柄鏡形敷石タイプが一般化する時期に該当しており、本建物もそうであったと想定する。

床面 傾斜する地山を大きく掘り込んで平坦面をつくり床としているが、地山は砂質で多量の礫を含んでおり、調整された床は確認できなかつた。沢に面した西側はすでに壁が失われており、床も残っていなかつた。

炉 長さ40cm前後の石で組んだ方形石壠炉だったと想定されるが、炉石の多くは動いており、設置時のまま残っているのは東側の炉石のみである。炉内に焼土もほとんど確認できなかつた。

柱穴 7本確認されたがいずれも浅く、主柱と判断できるものは見当たらない。

遺物 覆土下層から少量の遺物が出土した(第101図-1～3)。

時期 出土遺物から、後期堀之内2式期に比定しておきたい。

98号竪穴建物(第102、103図、PL.40、41)

調査年度 平成30年度

位置 6区(99区X-1・2)

経過 6区台地中央部の南東側で確認された。北東側5mに94号竪穴建物が隣接するが、周囲にはその他の建物は少ない。南西側で多量の土坑が確認されており、その一画から炉石が見つかったことで竪穴建物の調査となつた。

重複 東西の一部を後世の土坑により切られている。

形状 直径3.9mの円形状を呈する。

床面 地山を平坦に削平して床としており、明瞭な貼床等は認められない。

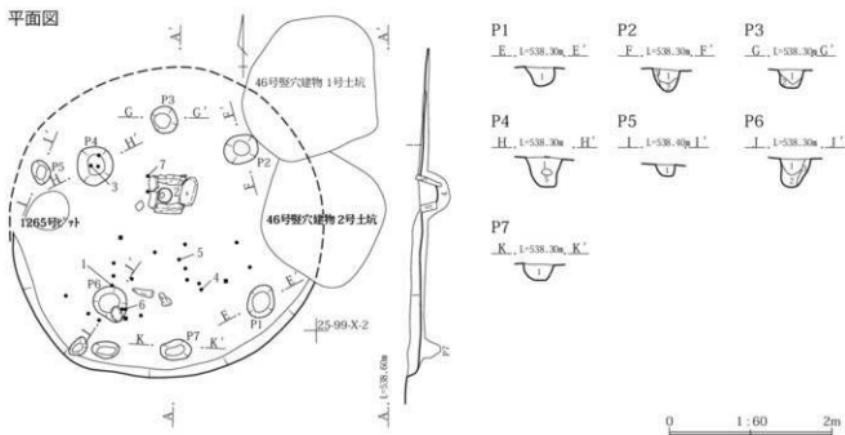
炉 長さ40cm前後の石で組んだ方形石壠炉で、炉内の南西隅に埋甕を埋設している。埋甕は口縁部と胴下半を打ち欠いたやや小型の深鉢(第103図-1)を正位に埋設したもので、開口部を東側に傾けて設置している。また、東西の炉石は両方とも東側に大きく傾いており、西側の炉石は中央で割れているが、おそらく意図的に動かされたものであろう。なお、炉内に焼土はほとんど残っていないなかつたが、炉石には明瞭な被熱痕跡が認められた。

柱穴 7本確認されたが、そのうちP1～P4・P6の5本は主柱となるであろう。このうち、P4の中央部遺物に礫が詰め込んでおり、その上を塞ぐように土器(第103図-3)が正位に置かれていた。

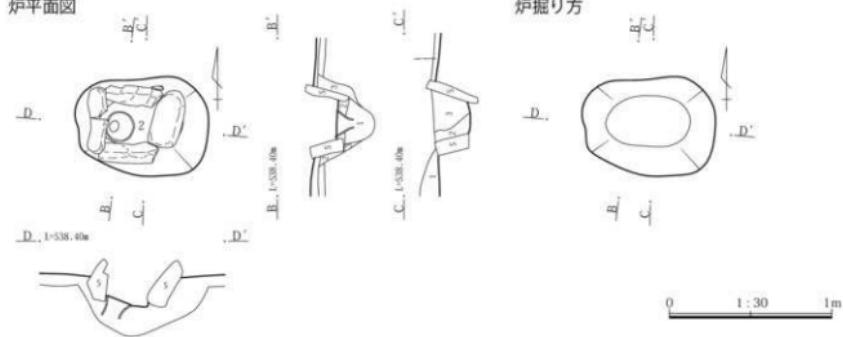
遺物 炉の南側の床面直上から比較的多くの遺物が出土し、加曾利E3式に限られる。

時期 出土遺物から、中期後半加曾利E3式に比定しておきたい。

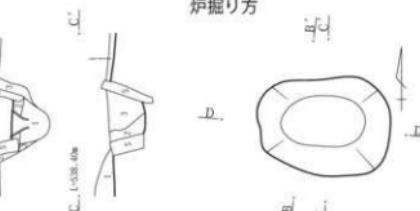
平面図



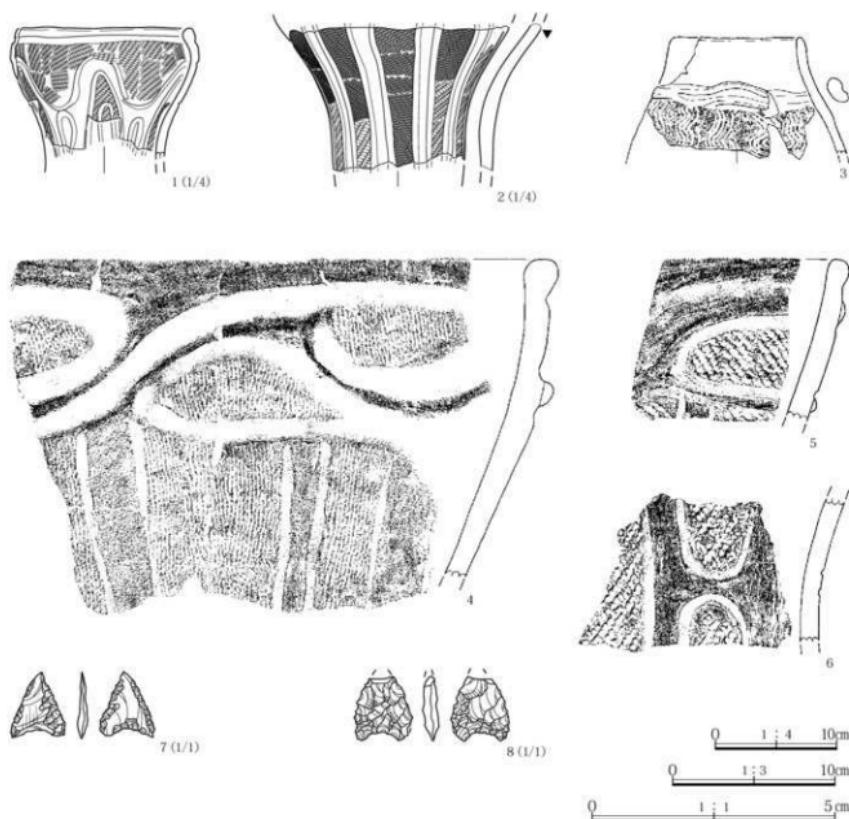
炉平面図



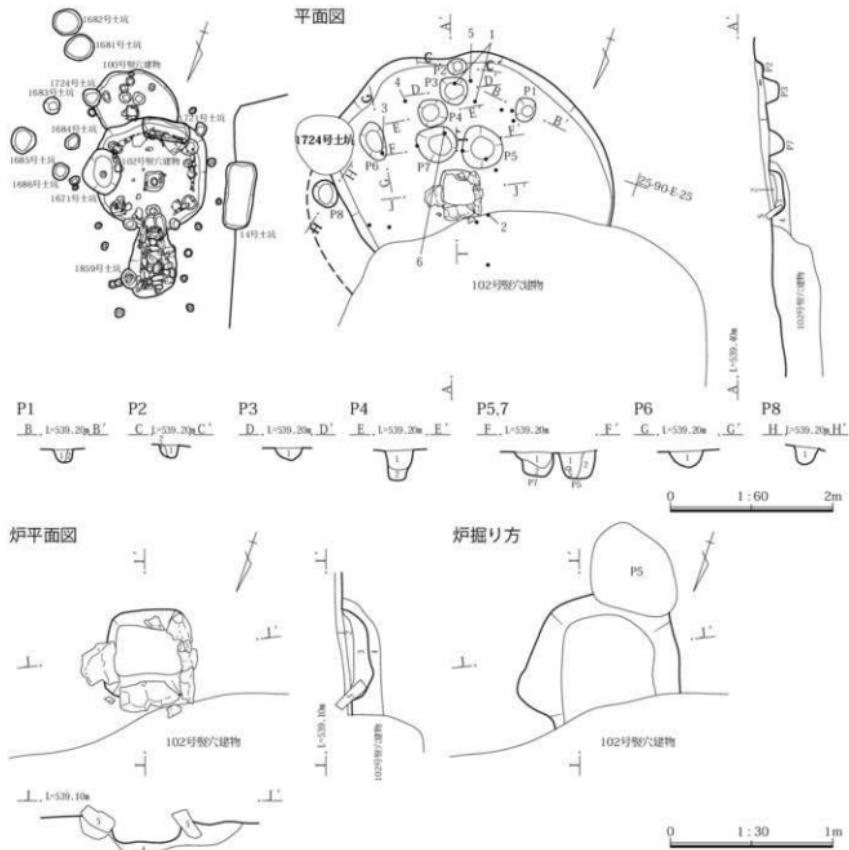
炉掘り方



第102図 98号竪穴建物(1)



第103図 98号竖穴建物(2)



第104図 100号竪穴建物(1)

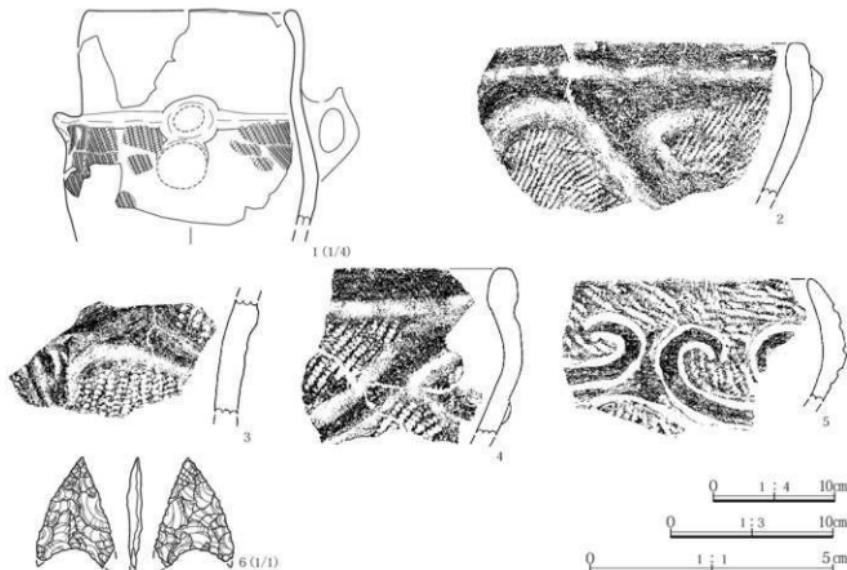
100号竪穴建物(第104、105図、PL.40、41)**調査年度** 平成30年度**位置** 6区(90区D-24・25)**経過** 6区中央の丘陵部下の緩斜面で確認した。**重複** 北側に102号竪穴建物と重複し、これに切られる。また、東壁に1724号土坑が重複している。**形状** 直径3.8m前後の円形を呈するものと思われる。**床面** 地山を平坦に調整して床としており、炉の周囲には硬化した床が認められた。

炉 長さ40~50cmの石で組んだ方形石囲炉で、東側と南側の炉石は一部を残して失っている。炉内底面に僅かに焼土が残っており、炉石には明瞭な被熱痕跡が認められた。

柱穴 8本確認されたが、このうちP4は主柱の可能性が高い。

遺物 覆土中から少量の遺物が出土している(1~6)。

時期 中期後半加曾利E3式新段階に比定されよう。



第105図 100号竪穴建物(2)

101号竪穴建物(第106、107図、PL.42)

調査年度 平成30年度

位置 90区G-21・22

経過 6区西側の沢部東側縁辺部、丘陵から伸びる傾斜地から埋め沢へ段丘状に下る裾部分に位置する。平成30年度に96号竪穴建物を調査中に当初96号竪穴建物の炉と想定していた石囲炉の南北西側に隣接して埋設土器を伴った掘り込みを確認した。Pit 5として石囲炉との新旧関係を確認したところ、埋設土器内に焼土を確認し、炉と判断した。断面切り合いで関係を確認したところ、石囲炉が古いことが明らかとなったことから、埋設土器炉を96号竪穴建物炉、石囲炉を101号竪穴建物炉として調査を行った。

規模 竪穴建物規模:不明 石囲炉:54cm×(40cm)

重複 96号竪穴建物よりも古い。

形状 炉のみ確認されており、形態は不明である。が、上面に礫が散在していること、P3～P5、P6の関係などから、柄鏡形敷石建物だったと想定される。平面図は、96号竪穴建物として記録を行ったが、堀方の形態が、101号竪穴建

物の形状に近いものと考えられる。

床面 確認されていないが、周囲に礫が散在することから、敷石が敷設されたと考えられる。

炉 1辺54cm規模の石囲炉が確認された。南北軸に5度を振った状態で縦位に扁平碟を配置する。内面は火熱が明瞭である。

方位 N-17°-W

柱穴 明瞭な柱穴は得ることはできなかった。P3～P5と石囲炉の間隔等しく、柱穴間も65cmを測り、101号竪穴建物の柱穴の可能性が高い。P3:25×25×30、P4:25×25×30、P5:35×20×30

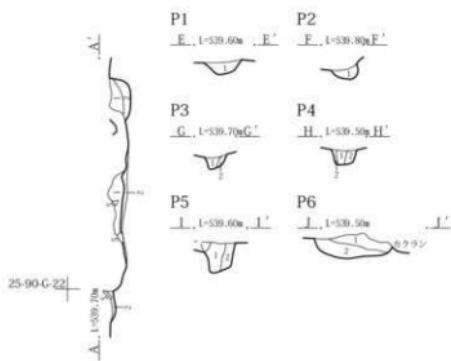
入口部 入口部は確認できていないが、南西部に想定される。石囲炉の直線上にP6が確認され、底面には30cm程の扁平碟が敷かれており、入口部の施設の可能性がある。

立石 北西部と南西部には、列状に10cm程の扁平碟が並んでいる。96、101号竪穴建物のどちらに付属するかは不明であるが、壁縁辺部の列石と考えられる。

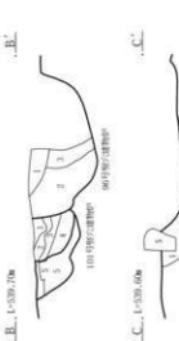
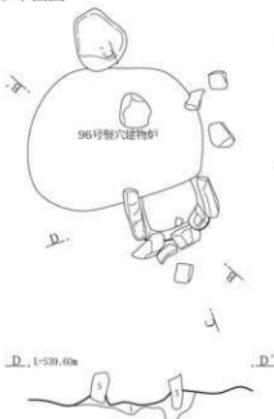
遺物 1は堀之内1式、2は称名寺2式である。

時期 称名寺2式から堀之内1式古段階に比定される。

平面図



炉平面図

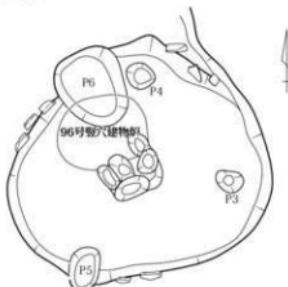


炉掘り方

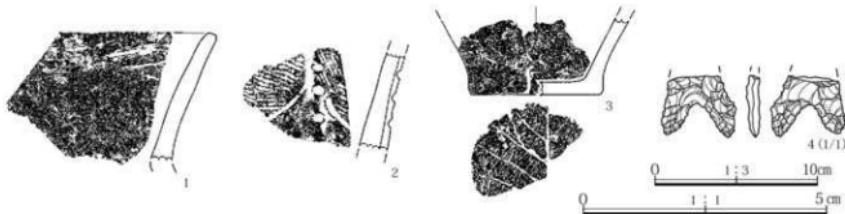


0 1:30 1m

掘り方



第106図 101号竪穴建物(1)



第107図 101号竪穴建物(2)

102号竪穴建物(第108～115図、PL.44・45)

調査年度 平成30年度

位置 6区(90区D・E-25、100区D・E-1)

経過 100号竪穴建物の北側に重複する建物だが、当初は南北に連なる一連の遺構群として調査を開始した。注目されたのは柄部の確認状況で、大きな石で長方形に囲まれた中に多量の小石が集積された状態だったので、単独の集石土坑だとみられていた。

重複 南側の100号竪穴建物を切り、東壁を後世の1671号土坑に切られる。

形状 緩傾斜する北側に入出入口を向けた柄鏡形敷石タイプの建物である。主体部は東西・南北ともに4.5mの整った隅丸六角形を呈し、南北方向の柄部を含めると7.35mとなる。ちなみに、柄部敷石面の大きさは幅60～80cm、長さ2.4mである。

床面 地山の黄色砂質土を80cmも掘り込んで床面とし、そこに鉄平石を中心とする敷石を施している。主体部では、各柱穴を直線で繋ぐ範囲に敷石が配置されているが、周縁以外の石は大半を失っている。転用されたのであろうか。出入り口施設である柄部にも鉄平石と扁平な川原石を使った敷石が精緻に施されており、本体との接合部および先端部では壁面にも縦位あるいは小口積にした造作を施している。先端部西側に置いた3個の川原石は高さが段々に上がっており、あたかも階段のようである。なお、出入り口部敷石の南端には長さ50cmの棒状円礫を側面を立てて設置しており、いわゆる敷居石に位置付ける造作となっている。

炉 主体部の中軸線上にあり、中央よりやや出入り口部に寄せて設置されている。一边80cm四方の掘り方内に、西側の炉石だけが一部欠損した状態で残されていた。掘

り方の底面中央に浅い凹みがあるが、これは炉内埋甕の痕跡であろう。つまり、この炉は土器埋設方形石囲炉であったと考えられ、建物廃絶時に撤去されたのであろう。

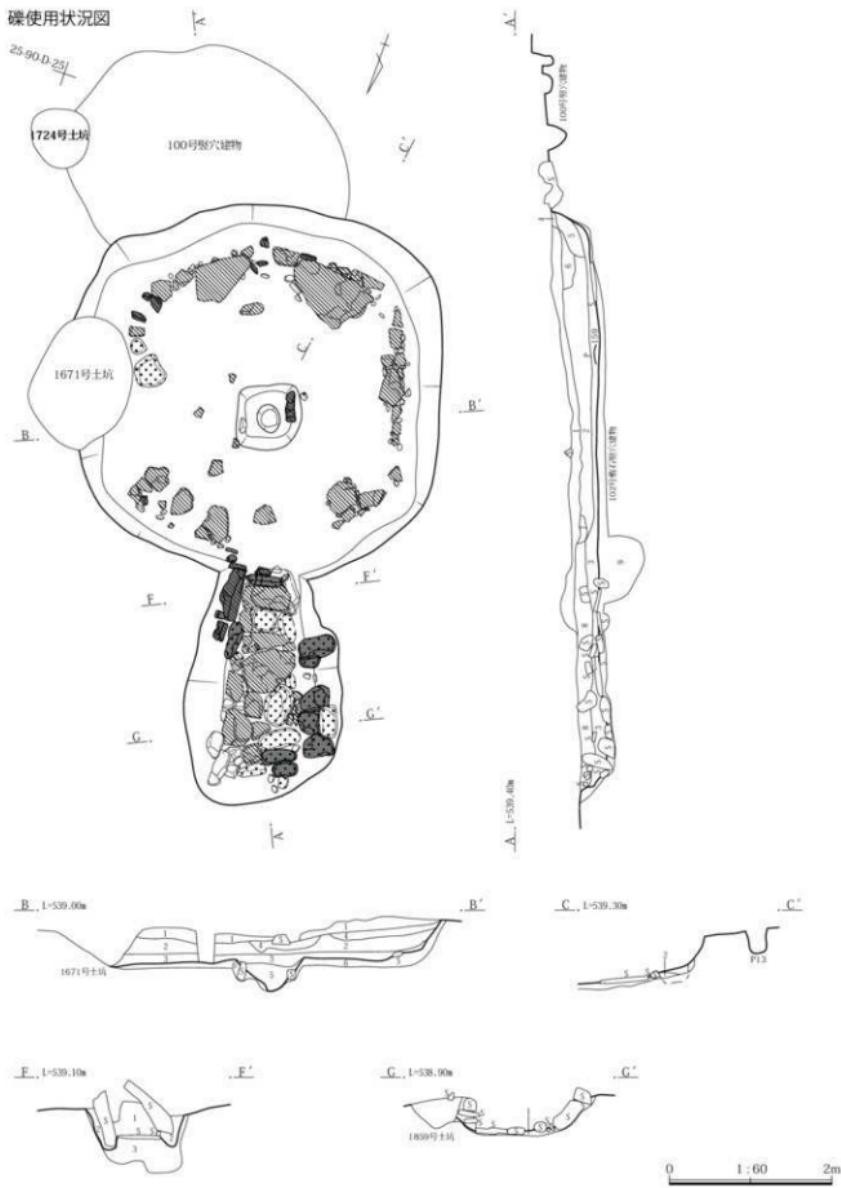
柱穴 27本確認しているが、このうち12本が建物内に、15本が建物外で検出された。主柱はP1・P2・P3・P6・P7・P21・P24・P25・P26の9本が該当するであろう。このうちP24とP25はいわゆる対ビットに相当する。この2本は比較的浅い造りで心許ないように見えるが、その両側にあって補助具のようにみえるP6・P26と底面が揃っており、これらが一体となって出入り口の支える構造だったのであろう。また、対ビットの両側には高さが70cmを越える大きな板状の石が出入り口の壁面に設置されており、これも対ビットの柱と一緒に構造だったと考えられる。住居外で確認された柱穴17本は屋根構造等を想定して調査したものだが、左右対称の位置にあるものが多く、今後検討が必要となるであろう。

なお、対ビットの南側にP4があり、その底面には鉄平石が敷かれていた。掘り方が円形だから、方形石組みではなく土器が埋設されていた可能性が高いと考えている。

遺物 覆土中および床面から多量の遺物が出土した。炉内からは加曾利E V式(3)が出土し、7～11、13も同様である。1と2、15～20は称名寺1式に併行する。21～25は加曾利E V式から称名寺1式に併行する粗製土器である。石器は石鎚(27～32)が多く出土した。

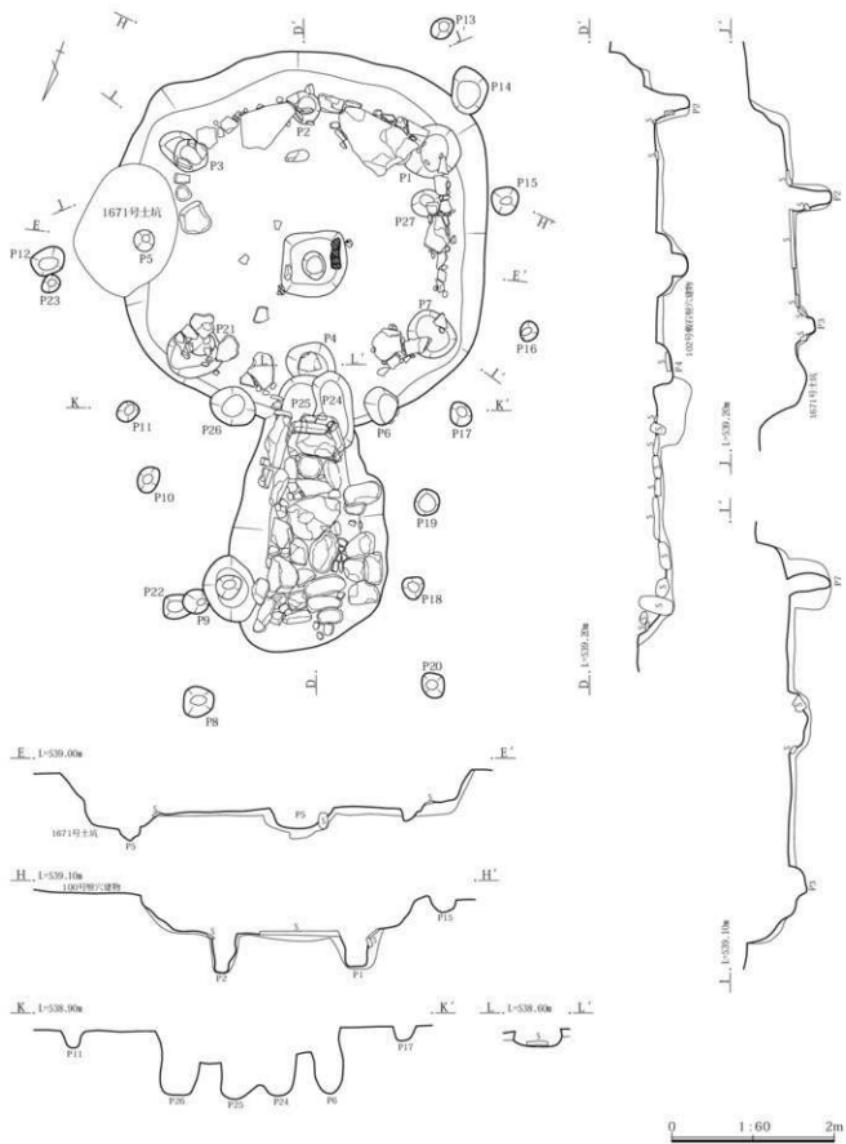
時期 後期初頭称名寺1式期に比定される。

縄使用状況図



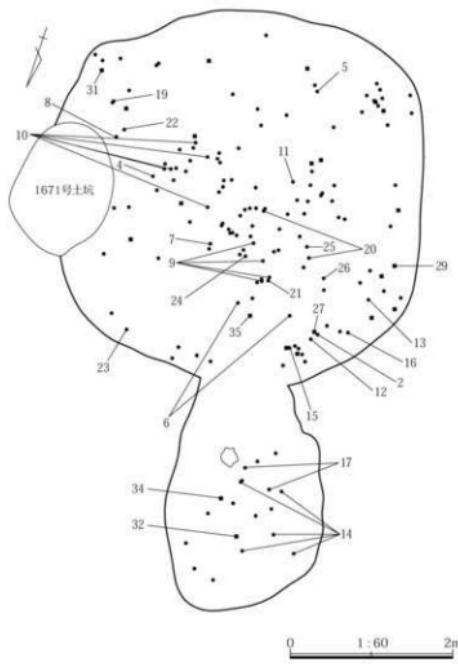
第108図 102号竪穴建物(1)

平面図

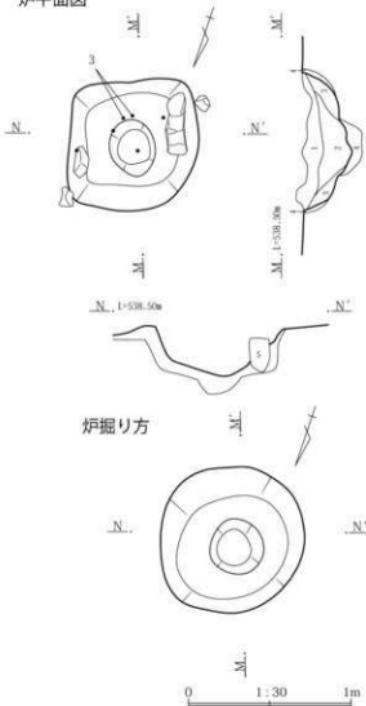


第109図 102号壁穴建物(2)

遺物出土状況図

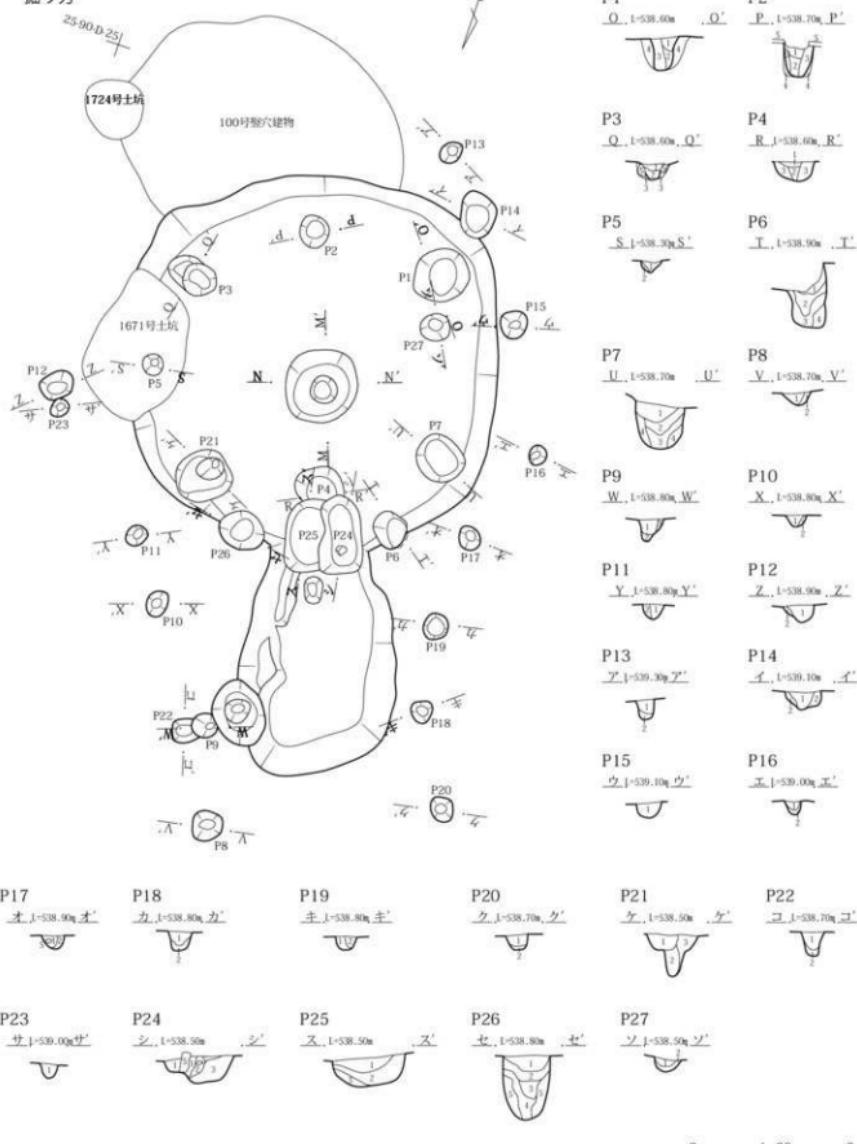


炉平面図



第110図 102号竪穴建物(3)

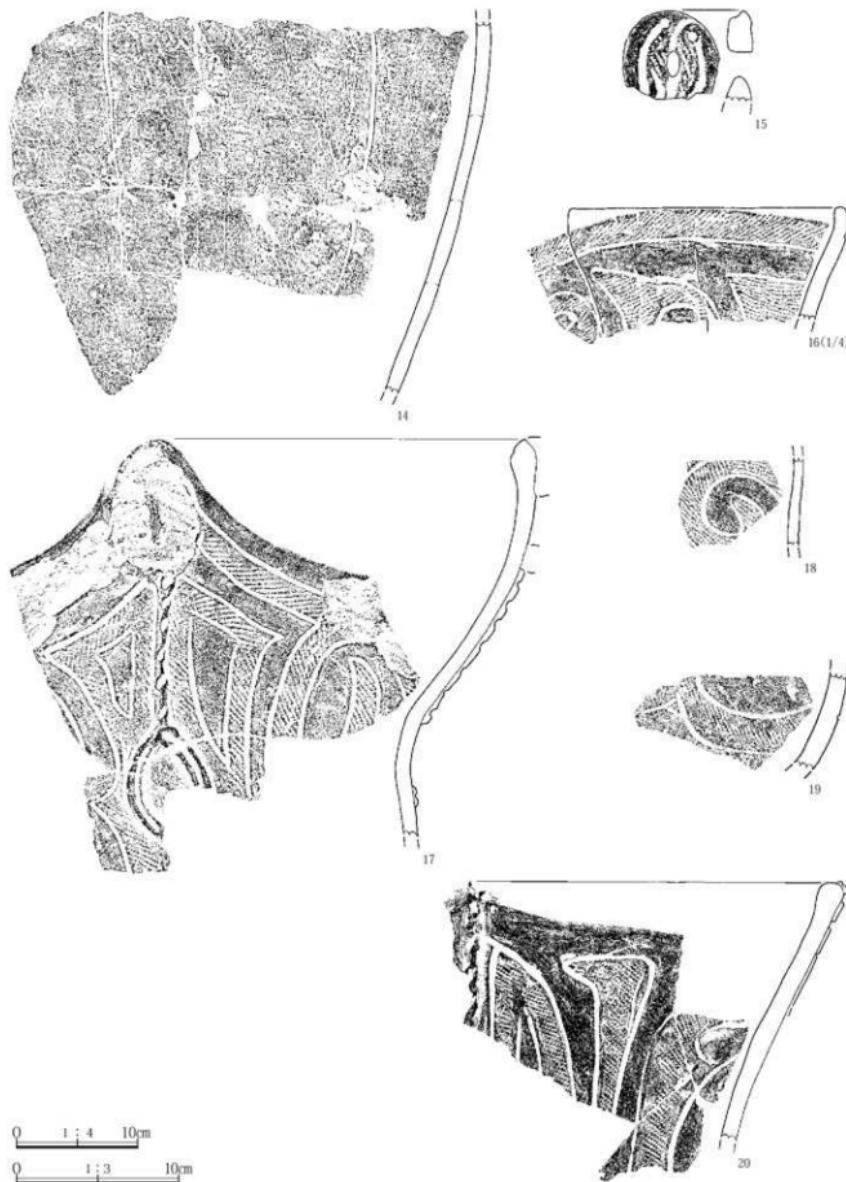
掘り方



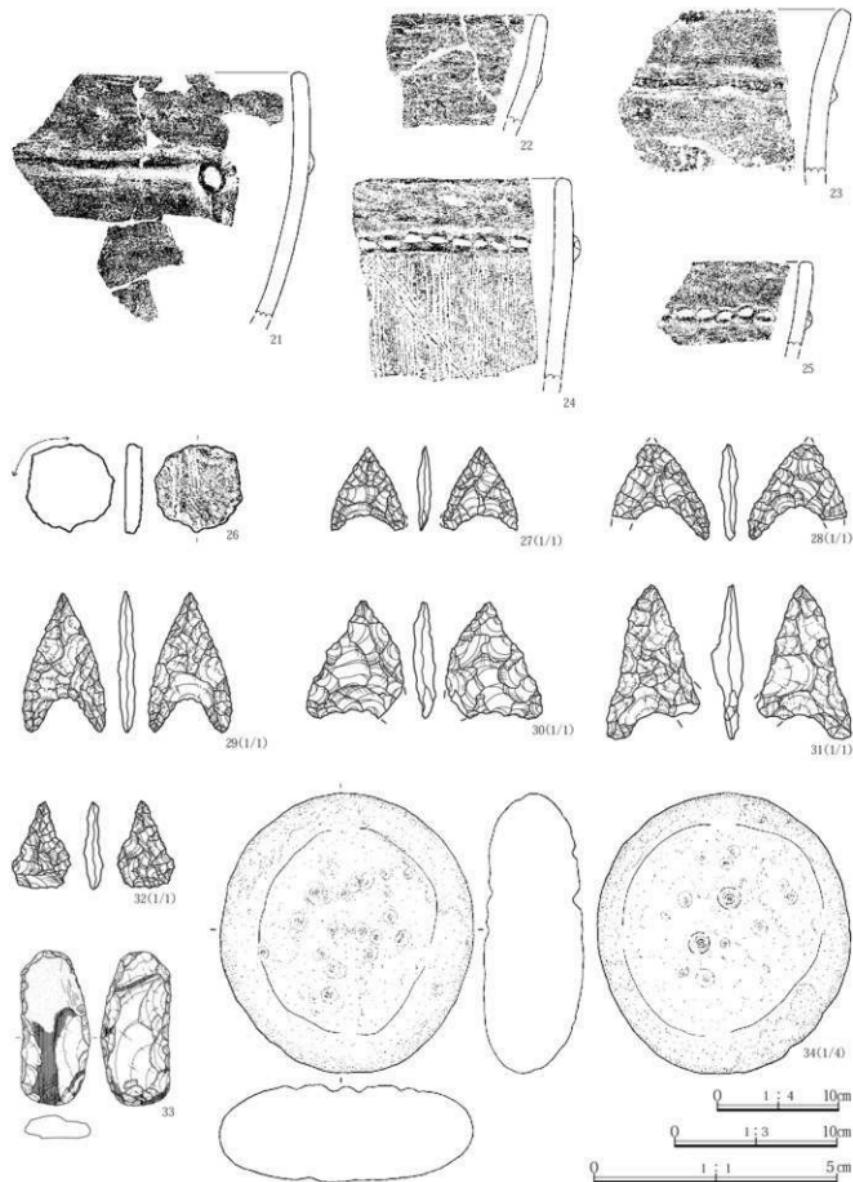
第111図 102号壁穴建物(4)



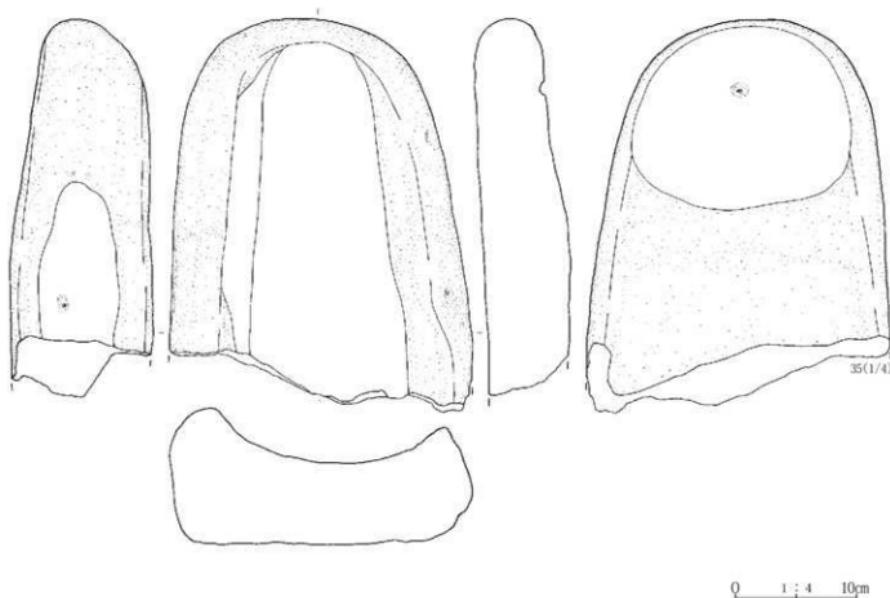
第112図 102号竖穴建物(5)



第113図 102号竪穴建物(6)



第114図 102号壁穴建物(7)



第115図 102号竖穴建物(8)

106号竖穴建物(第116～123図、P.L. 46～50)

調査年度 平成30年度

位置 90区-F・G-22～24

経過 7区北側の緩傾斜地に位置する。平成29年調査時に1号配石として調査を行っていた下部遺構に相当する。106号竖穴建物の南側には、他に3棟確認されている。

規模 主体部は、半円形状に周礫をめぐらせた部分で、南北に17m、東西に18mを図る。主体部中央には、敷石を直径13.5mの範囲に敷設する。東西方向には、台形状の張り出しを有し、張り出し部を含めると東西軸は28.5mを図る。張り出し部は南北に5.5m、主体部からの幅は5mを測る。主体部北側には入口部を伴った石列を敷設し、28.5mを測る。

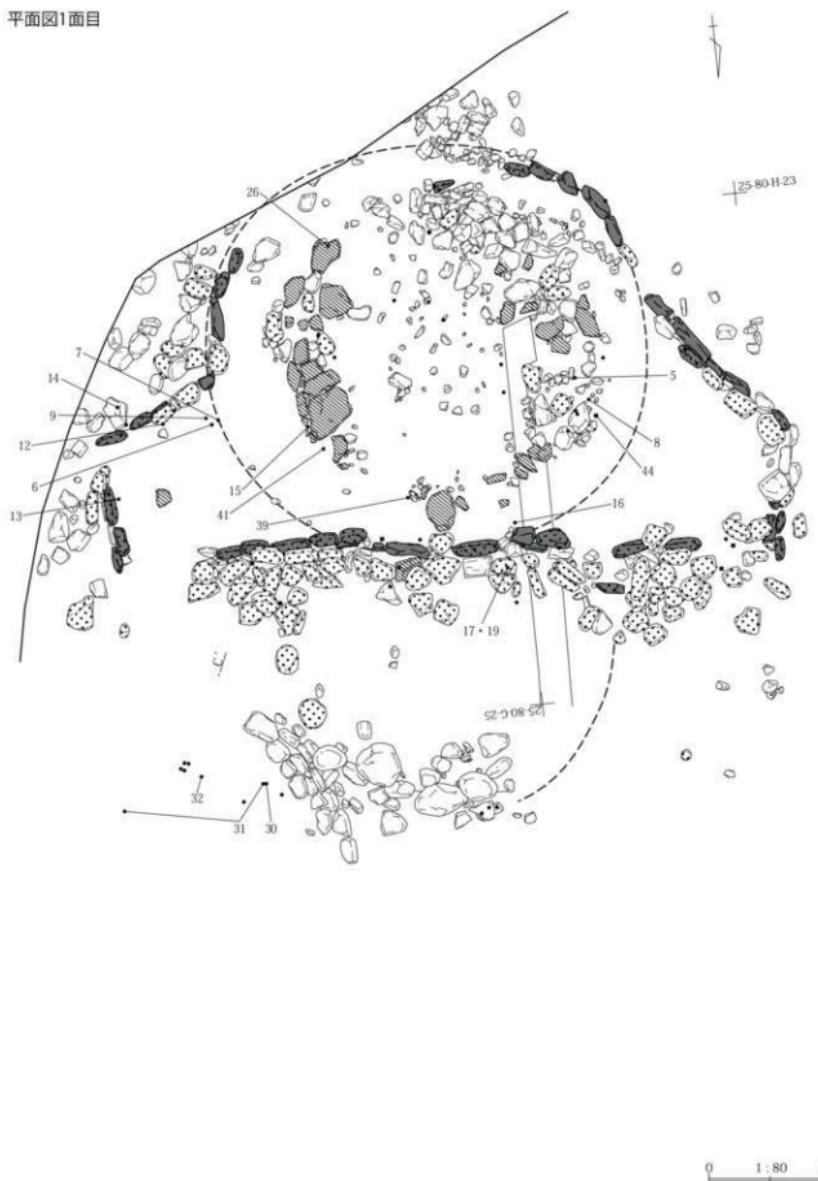
石列の北側は、後期前葉以降の遺構更新や遺構の構築などによって、石が動かされているが、弧状の石列によつて空間が設けられていたと想定され、東西に1.5m、南北に2.0mを測る。

重複 本竖穴建物の東側には、埋設土器が3個体確認された。調査時には上面の土層はすぐではなく、本竖穴建物に帰属するものと判断した。整理作業時に本竖穴建物と埋設土器との関係について、検討した結果、埋設土器の土器型式が古いことから、本来は竖穴建物として構築されていたものと捉えた。埋設土器は、154、156、157号竖穴建物として認定を行い、後述する。

形状 張り出し付の柄鏡形敷石建物

周堤 南側に半円状、東西に張り出し状に石列を敷設する。石列は、50cm前後の礫を用いて、1列ないし2列で構成される。西側、南側石列の外縁に礫が散在し、当初は周堤状を呈しており、崩落によって散在したとみられる。北側の周堤(石列)は、入口部を軸として、主体部寄りに縱位の河原石を東西軸に沿って、敷設している。外縁部は、入口部を軸に北側を開口する形で、横位に河原石を敷設する。周堤礫の基礎列には掘り方があり、底面レベルは描っていない。上面の高さを描えるようにして

平面図1面目

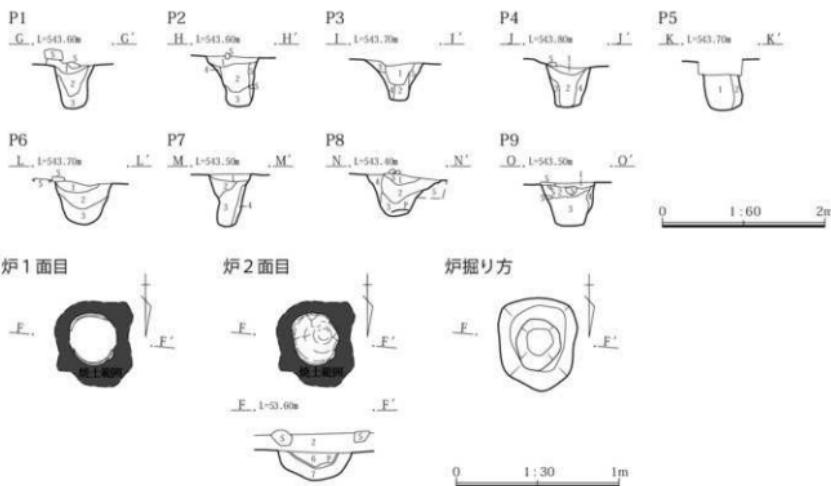


第116図 106号竪穴建物(1)

平面図2面目



第117図 106号竪穴建物(2)



第118図 106号竖穴建物(3)

いると考えられる。

主体部 半円状の周縁をめぐらした北側に敷設されている。形態は円形を呈し、直径13.5mの範囲内に50cm程の鉄平石を敷設する。敷石は、東、南、西側縁辺に確認され、中央部と南側の入口付近には、残っておらず、後世に抜き取ったと考えられる。柱穴近辺には比較的多くの鉄平石が用いられており、柱を支える役割を有していたと想定される。

入口 南北軸に主体部から1列に横位に50cm程の河原石、鉄平石を敷設し、通路として利用したと考えられる。南側はP8とP9の間を通り、北側は石列の北側の空間に伸びていた。北側は、石列と接する部分で途切れており、さらに北側の状況は不明であるが、石の散財状況からもともと、石のない空間を設けていたと判断した。

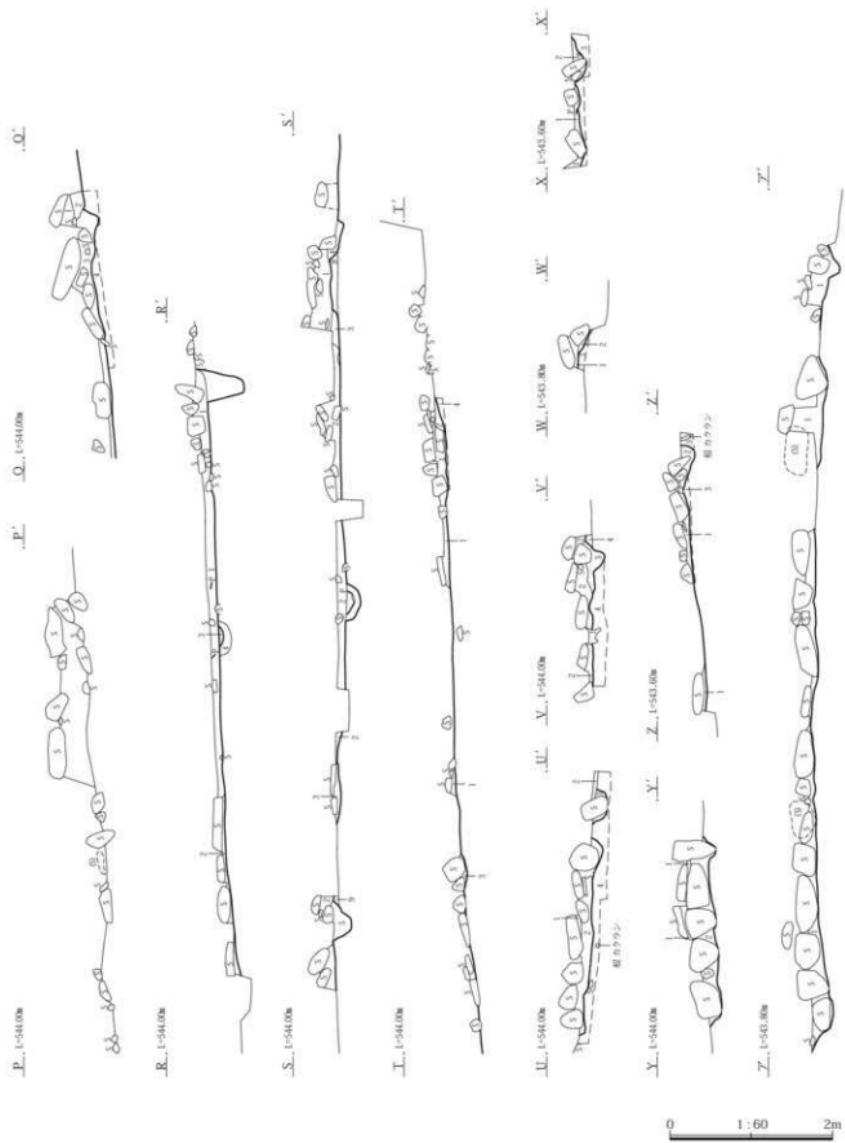
炉 主体部の中央に位置する。30cm程の炉体土器を埋設し、周囲に焼土が認められる。規模は、焼土範囲を含めると、50cm×44cmを測る。炉体土器は、上半部は打ちかかれ、下半部から底部のみを残す(PL.50-5, 6)。土器型式は堀之内1式土器を使用している(第121図-10)。炉の堀の方は、規模が大きいことから本来は炉石が存在したと想定される。

方位 N-7°-E

柱穴 柱穴は、9基確認され、主体部外縁に巡る。P1～P7は主柱穴、P8、P9は入口施設関係である。それぞれの規模(長辺×短辺×深さ)は、P1：45×40×55、P2：60×55×60、P3：60×60×55、P4：40×40×50、P5：40×40×50、P6：60×60×50、P7：40×40×60、P8：50×40×60、P9：40×40×55である。柱痕側面部に根積め石が確認される。

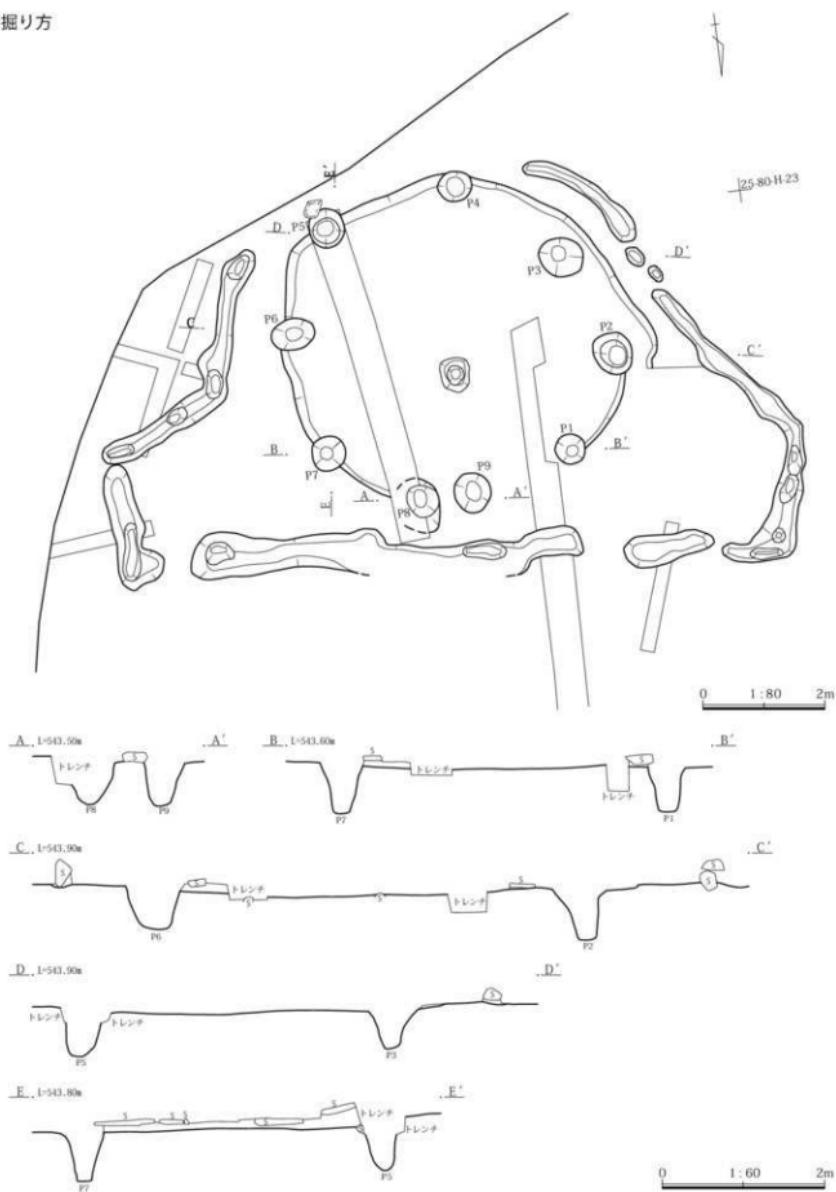
遺物 土器は142点確認され、堀之内1式が主体を占め(1～5、7、12、13、15～24、30)、上面に位置する1号配石の帰属時期に相当する後期後葉以降の含有は少量であった。10の炉体土器と利用され、大半が床面から出土した。堀之内2式(8、9、25、29、41)も出土し、床面に近いこと、出土状況などから堀之内2式まで建物としての機能が継続していた可能性も有り得る。41は入口部欠損後、土器片加工円盤で塞いでアスファルトで接着し、容器として再利用した土器利用を考えるうえで貴重な例である。底面は長期間の利用によって摩滅している。

時期 後期前葉。

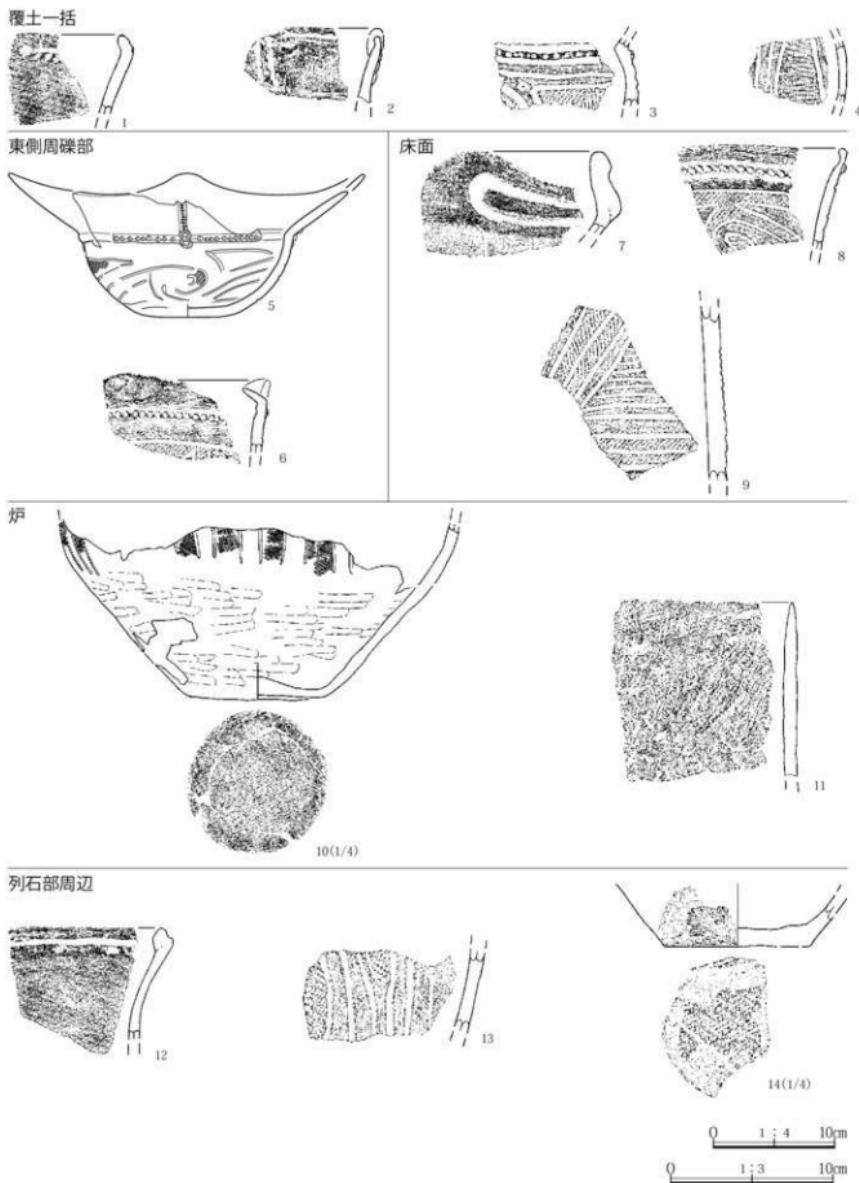


第119図 106号竖穴建物(4)

掘り方

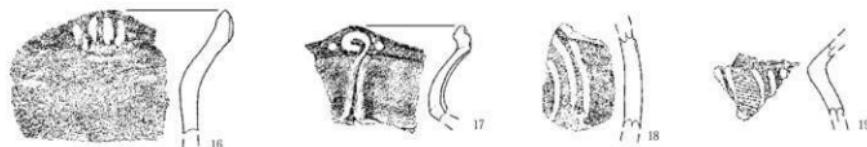
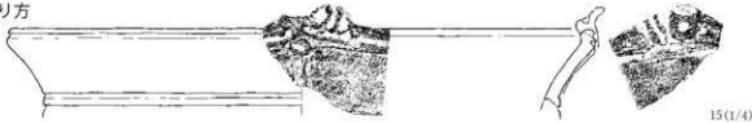


第120図 106号竖穴建物(5)



第121図 106号竪穴建物(6)

列石掘り方



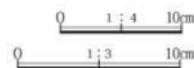
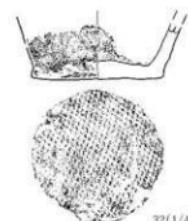
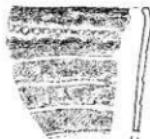
周縫掘り方



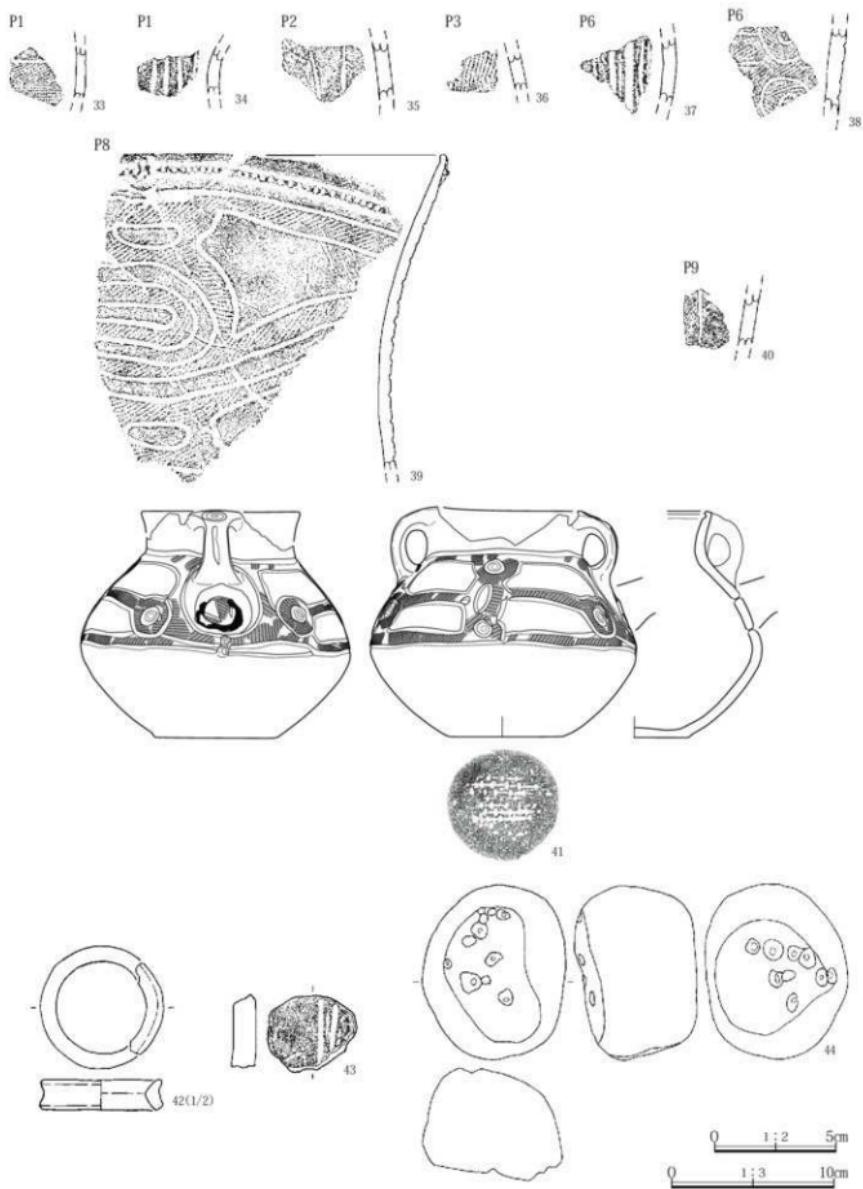
主体部掘り方



弧状列石部

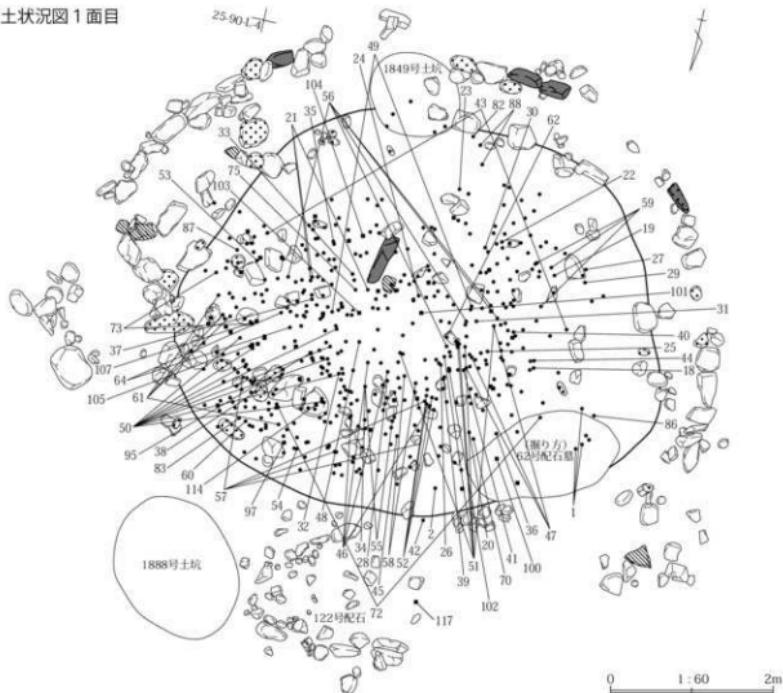


第122図 106号竪穴建物(7)



第123図 106号竪穴建物(8)

遺物出土状況図 1面目



第124図 107号竖穴建物(1)

107号竖穴建物(第124～138図、PL.51～54)

調査年度 平成30年度

位置 90区・K・L・M-4・5

経過 7区北東部に位置し、108号竖穴建物の北側に隣接する。礫が円形状に多量に散在しており、当初上面を3号配石Cとして調査を行い、その後竖穴建物に切り替えた。

規模 570×480cm

重複 108号竖穴建物の周堤に一部を切られる。

形状 開丸方形

周堤 周堤は、北側を除いて、東、南、西側に巡る。50cm前後の扁平な河原石、地山礫を横位に1列敷設している。縦位の石も確認できるが規則性はない。本石列は、周堤の基礎面の可能性があり、本来は、108号竖穴建物でみられた周堤が伴った可能性がある。本竖穴建物の縁辺部から50cm～100cm離れた位置に構築され、周礫まで

含めた規模は800cmを測る。

黒色土 黒色土は、床面正面にレンズ状に堆積し、土器の大形片や焼骨が多量に出土した(第132図～第134図)。建物廃絶後に、窪地を廃棄場として一定期間利用していたと想定される。

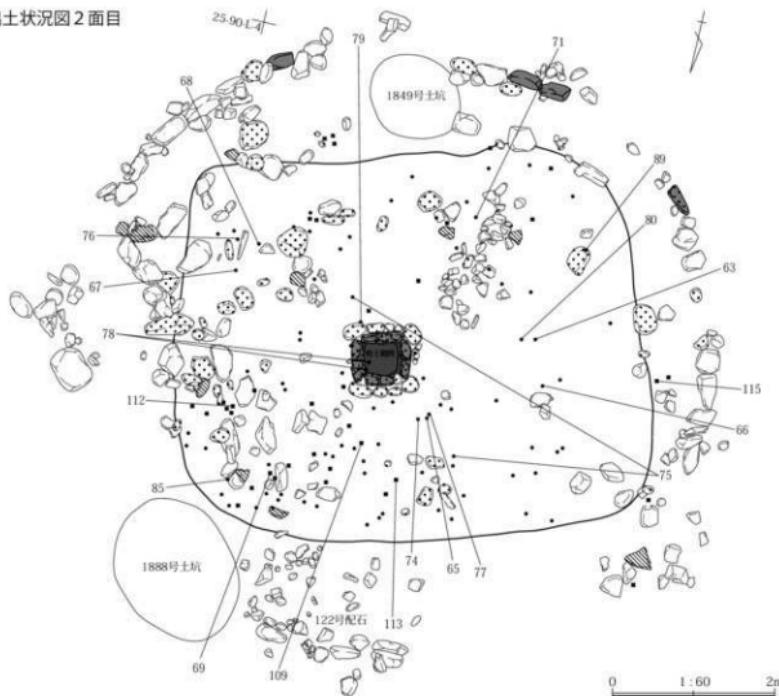
床面 貼床、敷石は確認されていないが、地山礫層を整地して床面としたと考えられる。

炉 方形石圓炉。50cm前後の河原石を縦位に据え、炉石の南辺と北辺の外縁に偏平川原石を敷き詰めている。西辺と東辺は、5cm程度の偏平礫が数点あるが、南北辺と比較し貧弱である。意図的なものでない可能性もある。炉内には焼土とともに角礫を多く含む。炉体土器は、確認されていない。

方位 N-80°-W

柱穴 4基確認され、それぞれの規模(長辺×短辺×深さ)は、P 1:110×80×100、P 2:125×100×90、P 3:

遺物出土状況図2面目



第125図 107号竪穴建物(2)

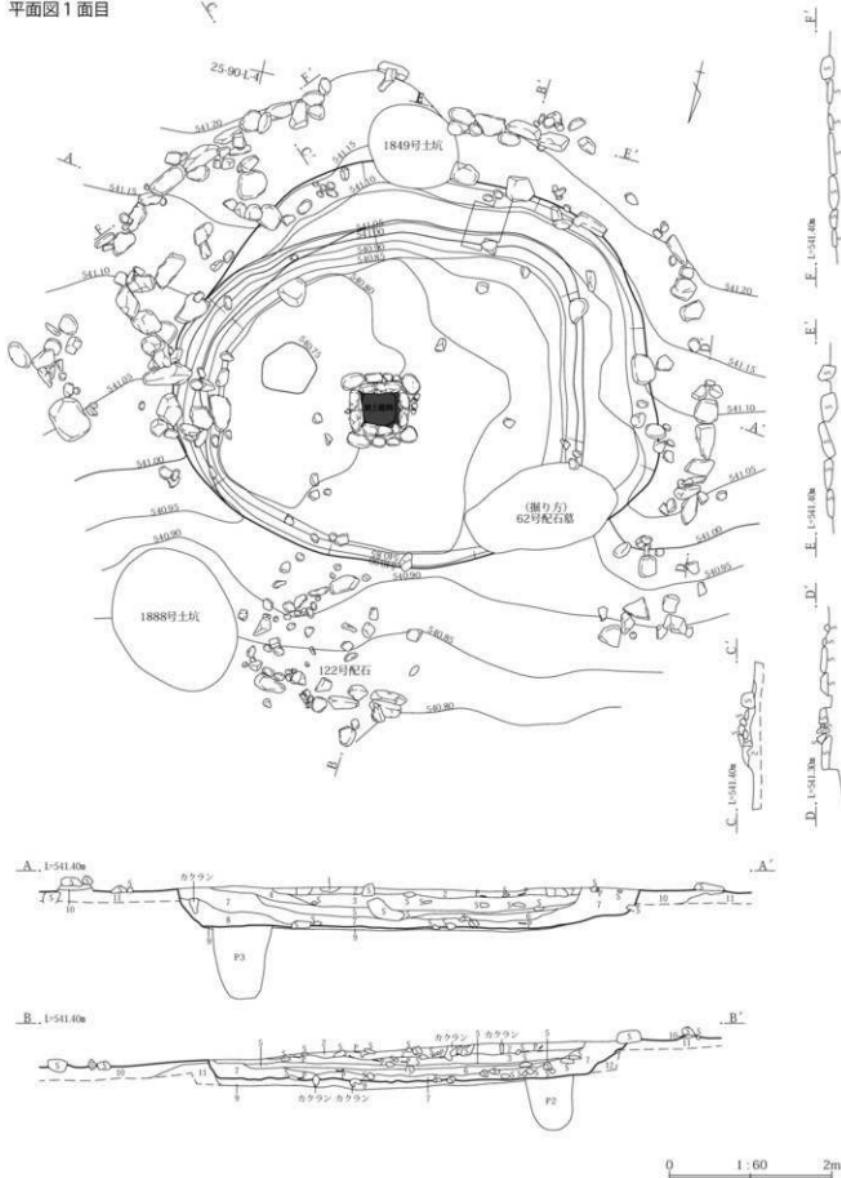
100×90×90、P 4 : 100×100×90である。石川原遺跡で確認できた竪穴建物の中では、大きい部類に含まれる。柱穴の側面部には、柱を支えるための根積め石が詰め込まれていた。P 2、P 4の柱痕部分の下には石が据えられている。確認状況から根詰めの崩落石ではなく、礎石のような役割が考えられる。

遺物 土器は、205点出土している。佐野I b式が主体を占め、大洞B C式も多くみられる。床面からは、69～81が出土した。69～71は佐野I b式で、73～75は併行する粗製土器である。72と81は、晩期後葉の長竹式に比定されるもので、全体の中で様相が異なっており、後世の混入と判断される。黒色土層中からは、佐野I b式(35～40)、大洞B C式(47～49)、安行3 b式(50、51、53、54)が、天神原式古段階(52)が出土した。

36と41では、鍵の手文が工字文化しており、佐野I b式の後に黒色土が形成されたと考えられる。上層及び上面(旧3号配石C)では、佐野I b式(20、21)よりも佐野II式(4～10)が主体を占める。上面からは安行3 b式(1)なども出土した。土製品は、人面付土器(82)、耳飾り(83～87)、土器片加工円盤(89～93)が出土した。石器類は、打製石斧や石鎌のほかに人面付の岩板が出土した(112、113)。

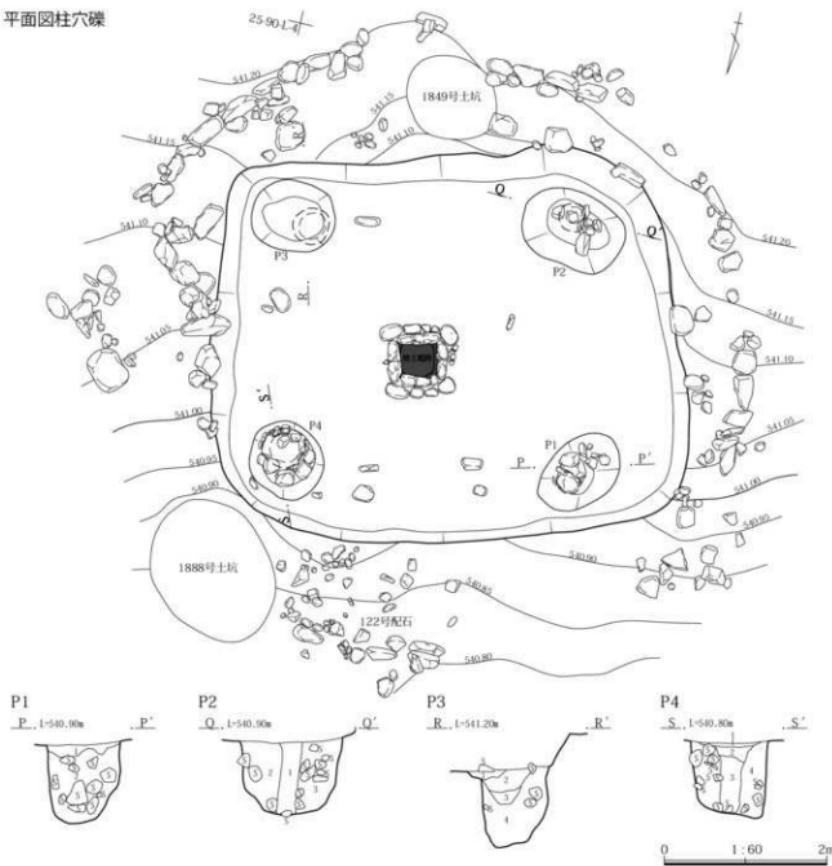
時期 佐野I b式

图 1



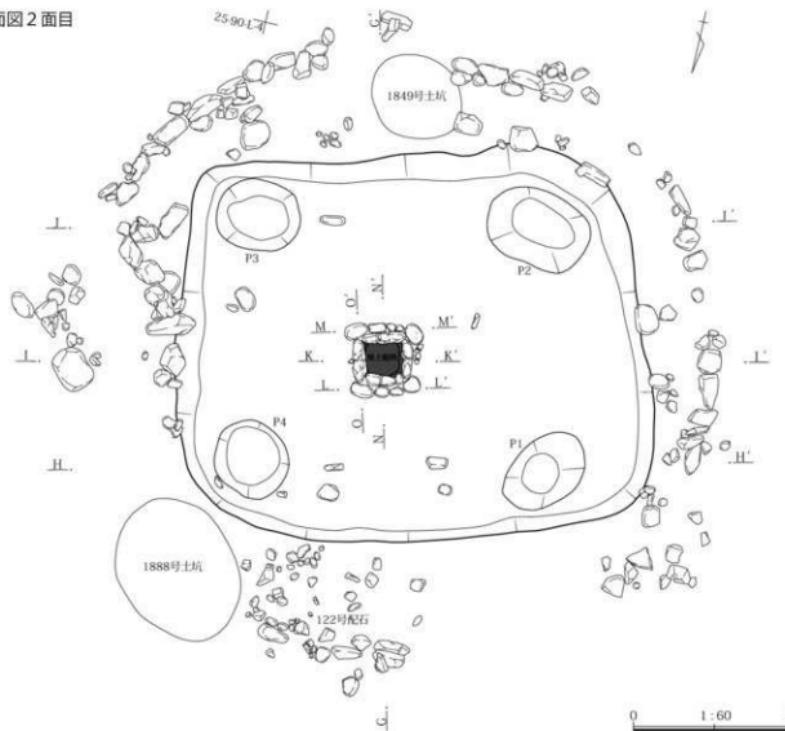
第126図 107号竪穴建物(3)

平面図柱穴櫛

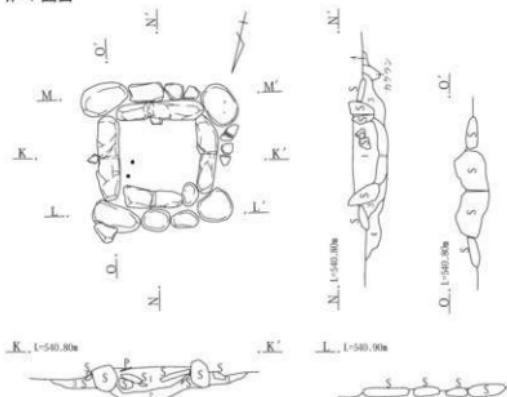


第127図 107号竪穴建物(4)

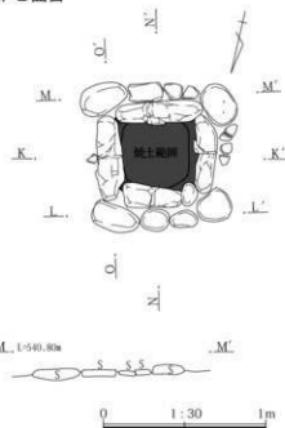
平面図2面目



炉1面目

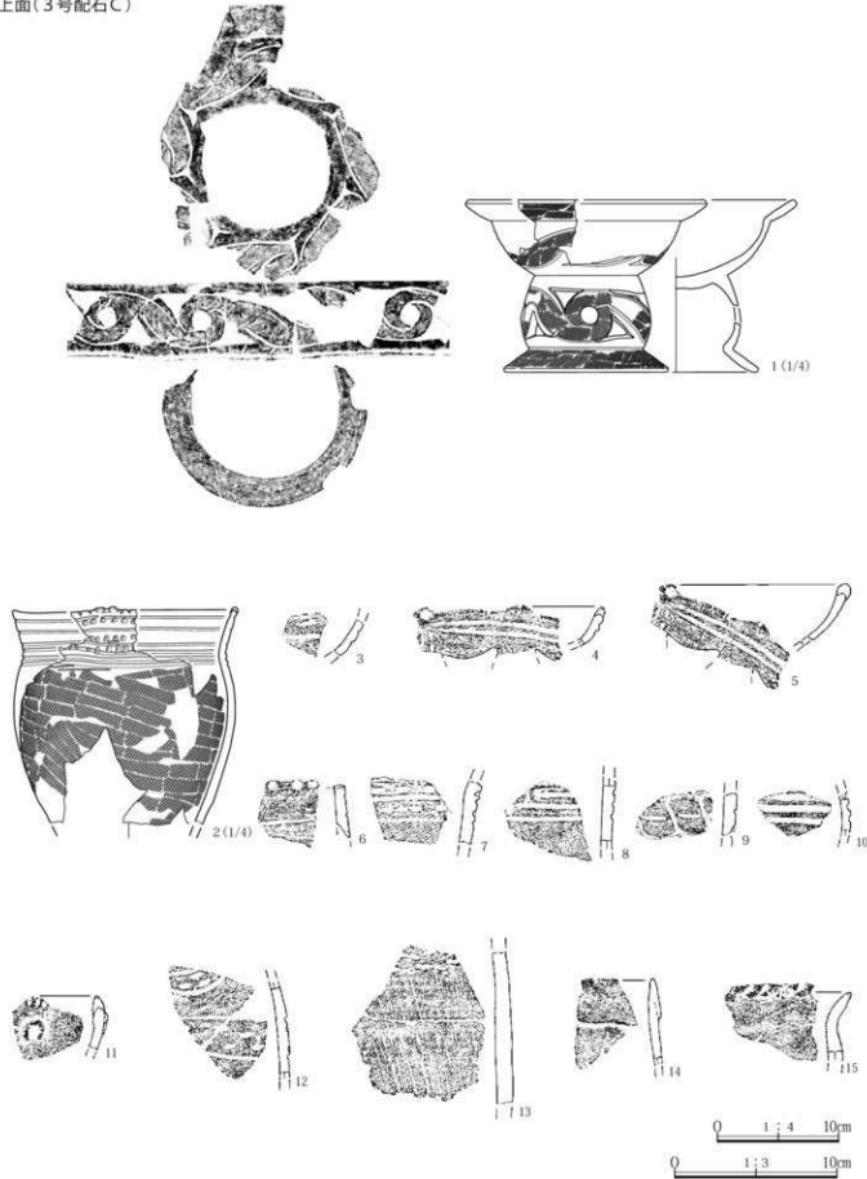


炉2面目

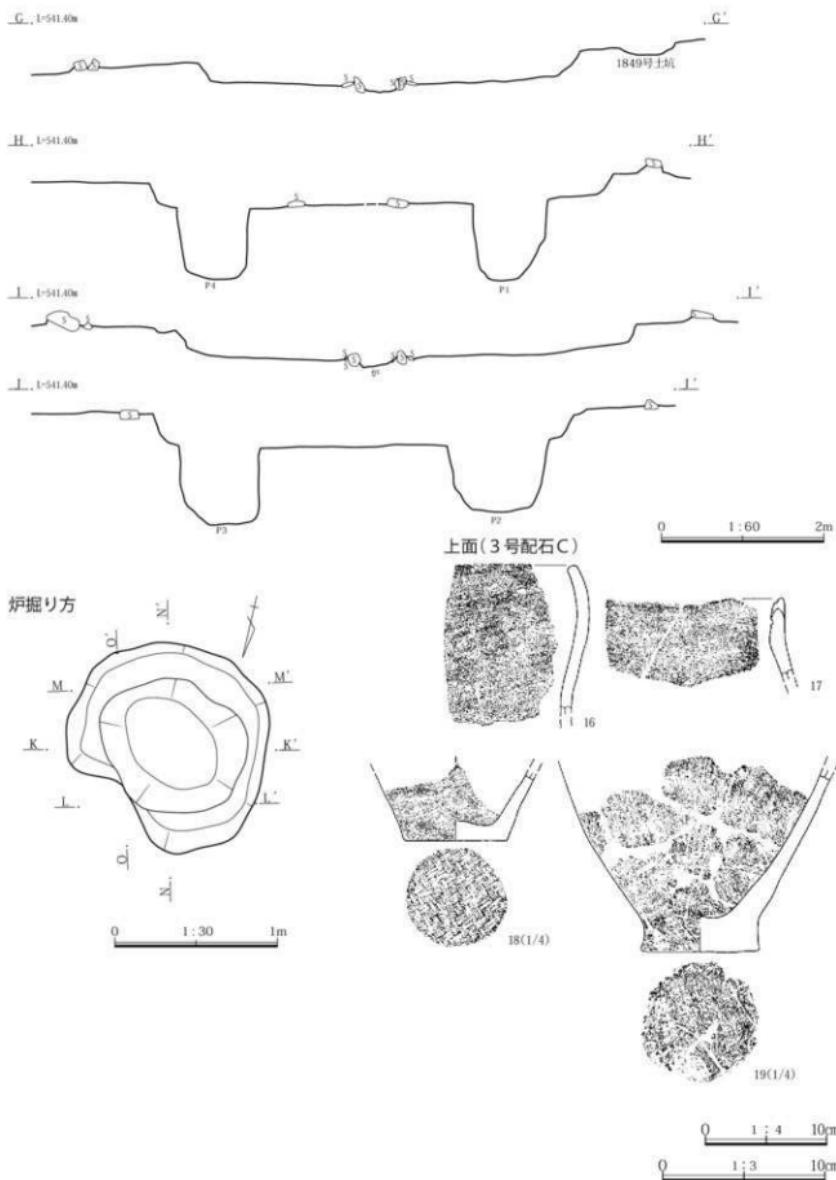


第128図 107号竖穴建物(5)

上面(3号配石C)

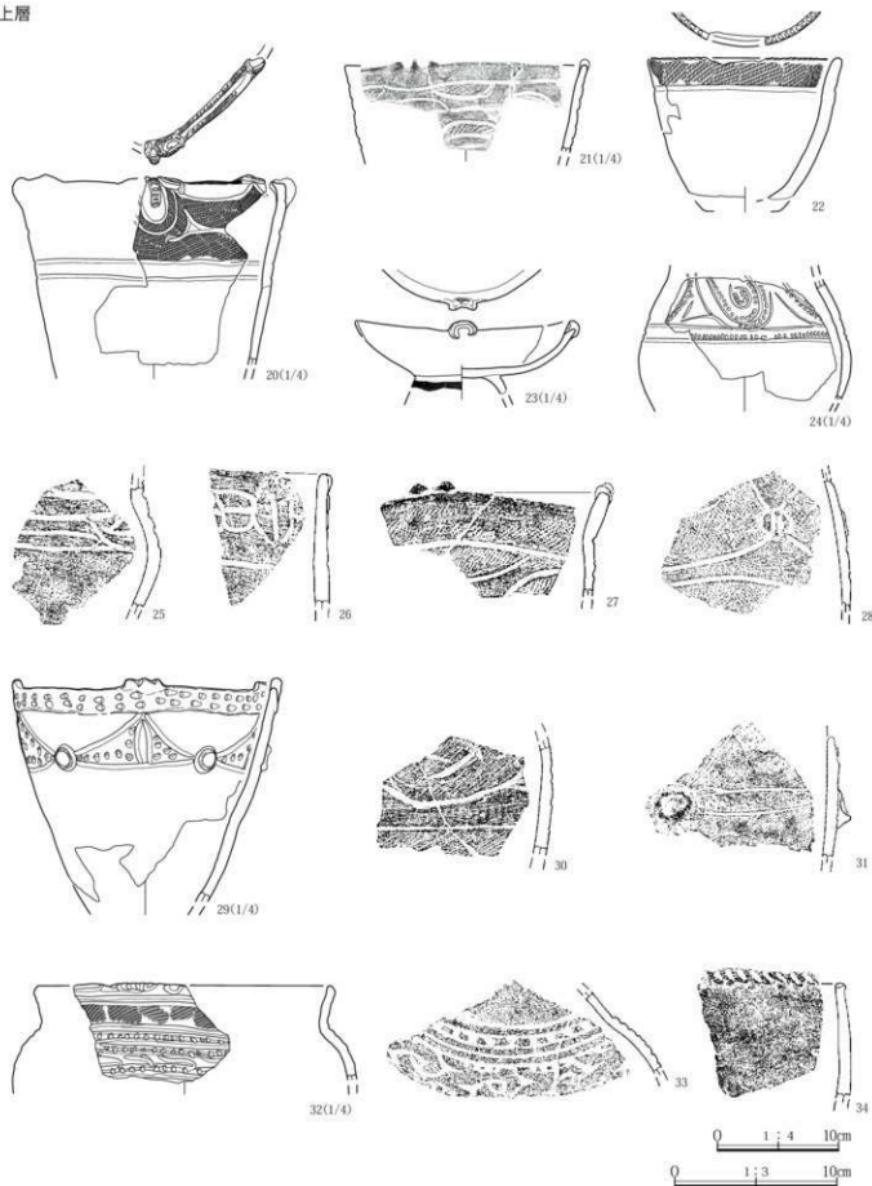


第129図 107号竪穴建物(6)

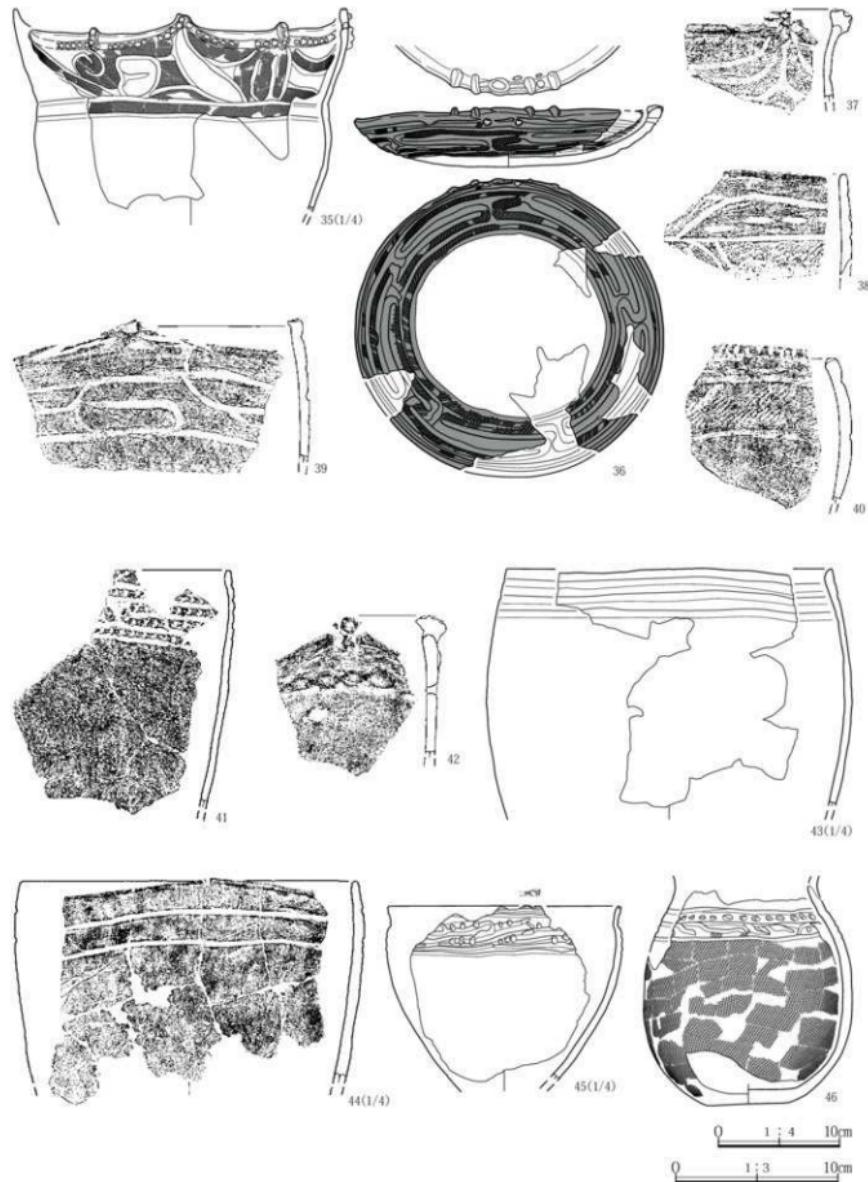


第130図 107号竪穴建物(7)

上層

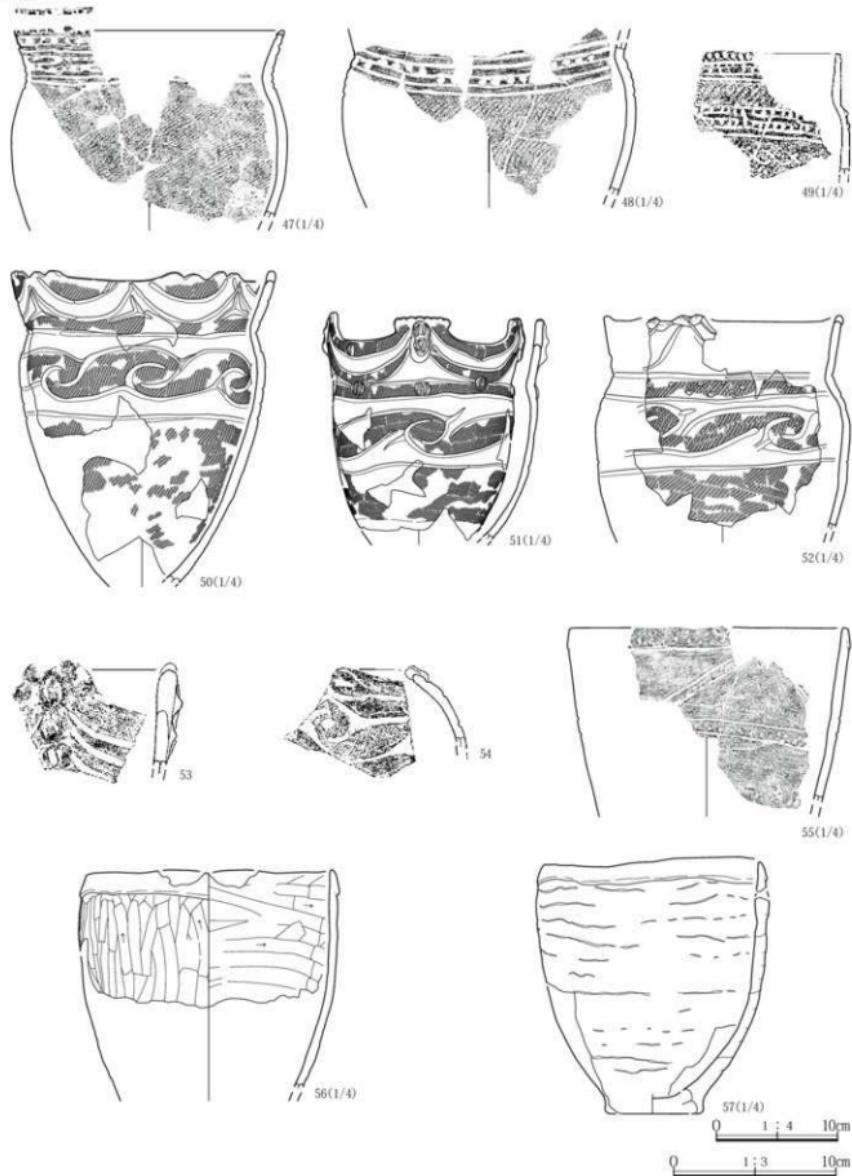


第131図 107号墳穴建物(8)

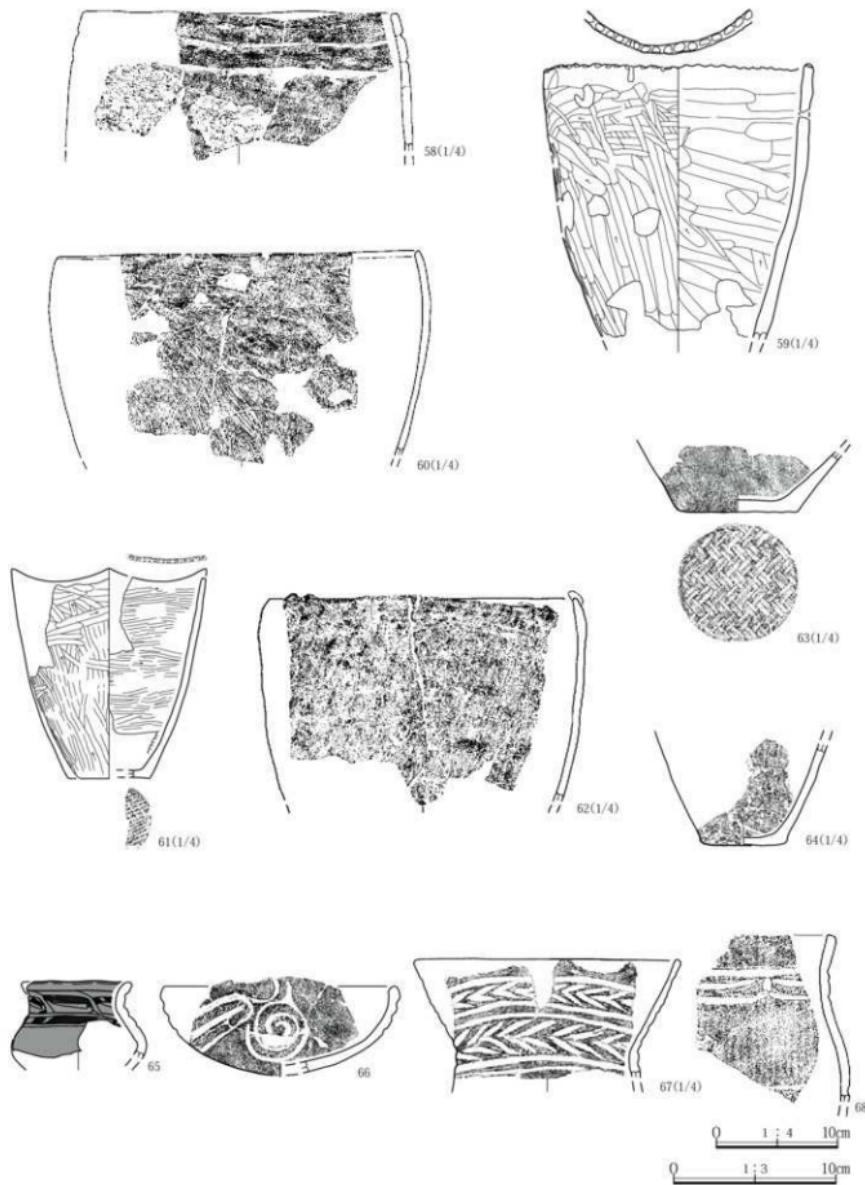


第132図 107号竪穴建物(9)

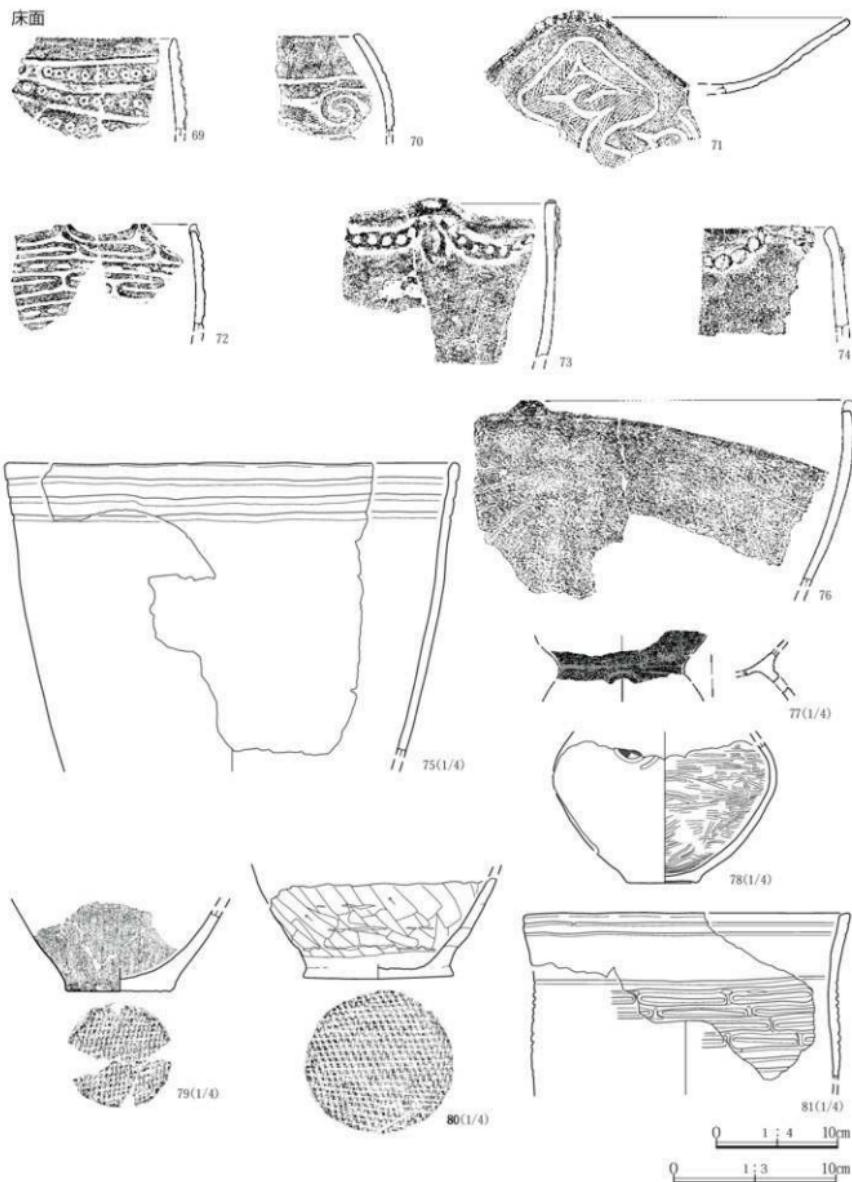
第2章 発掘された遺構と遺物
黒色土層



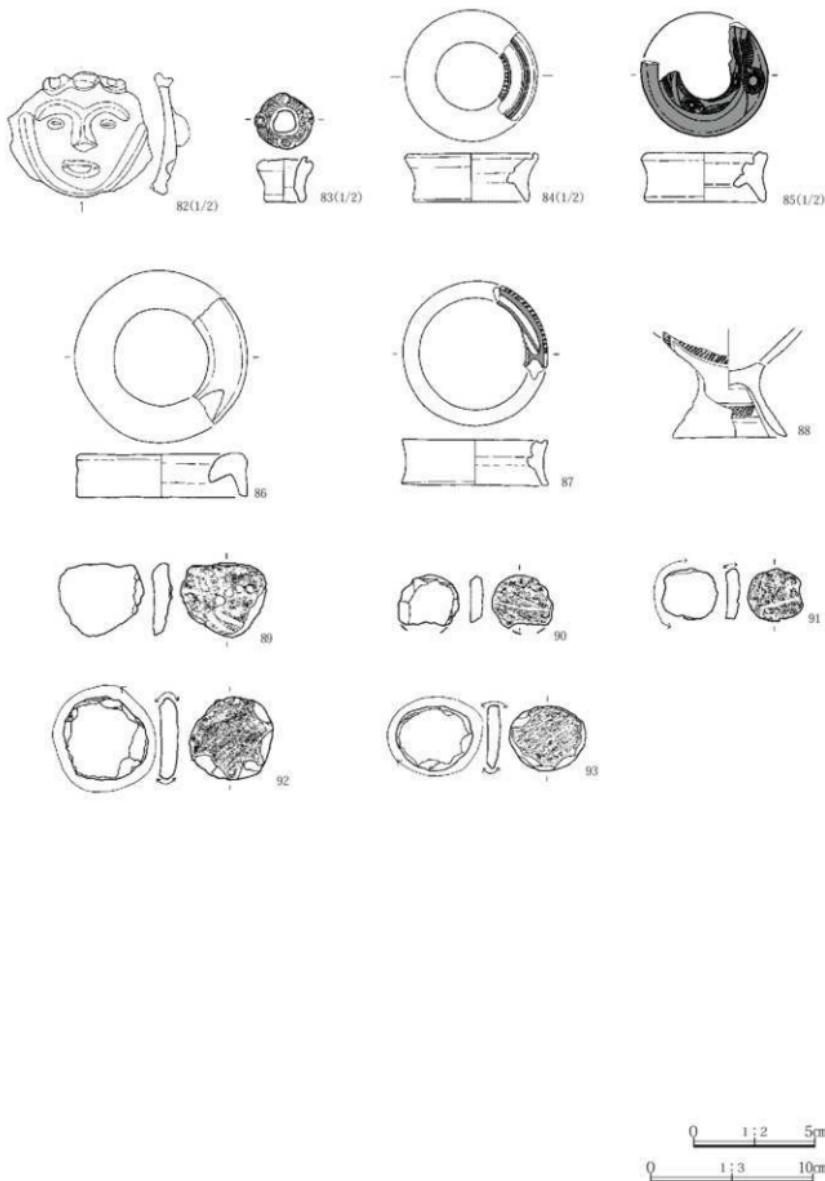
第133図 107号竪穴建物(10)



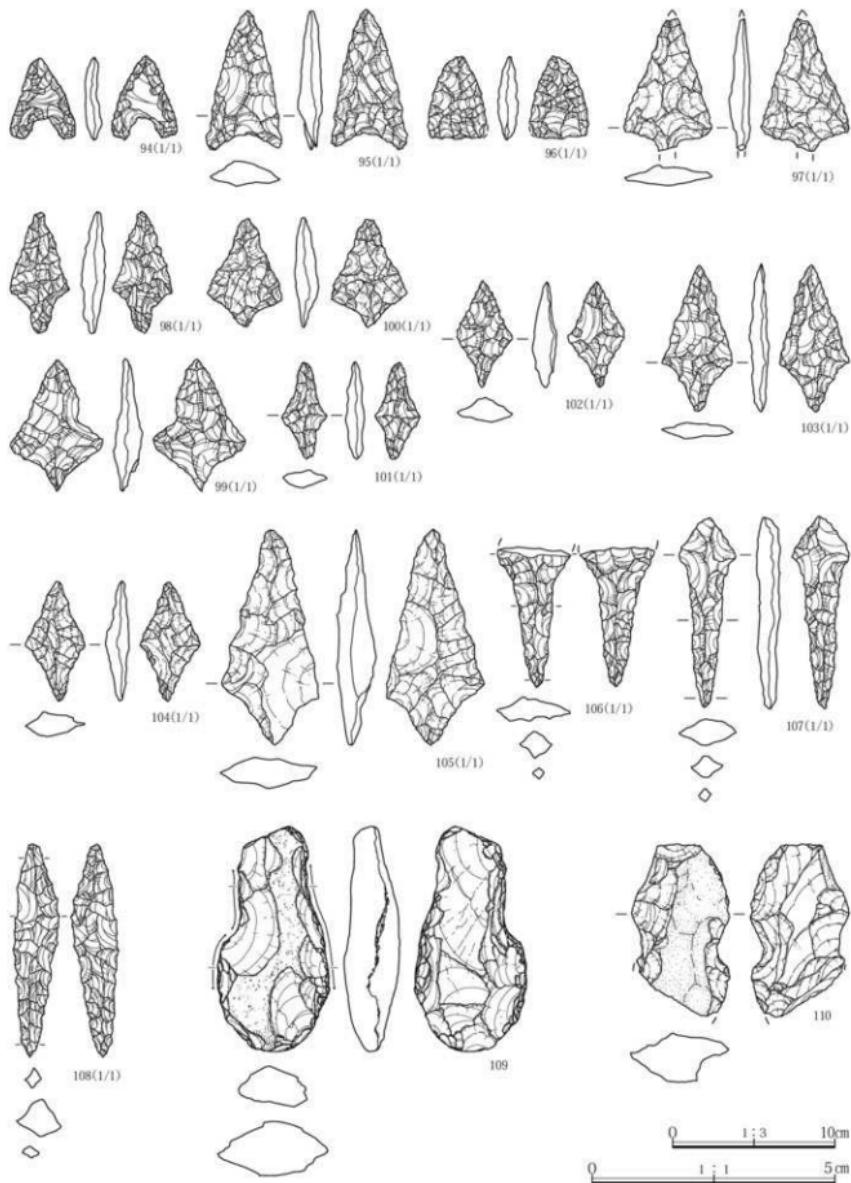
第134図 107号壁穴建物(11)



第135図 107号竪穴建物(12)



第136図 107号竪穴建物(13)



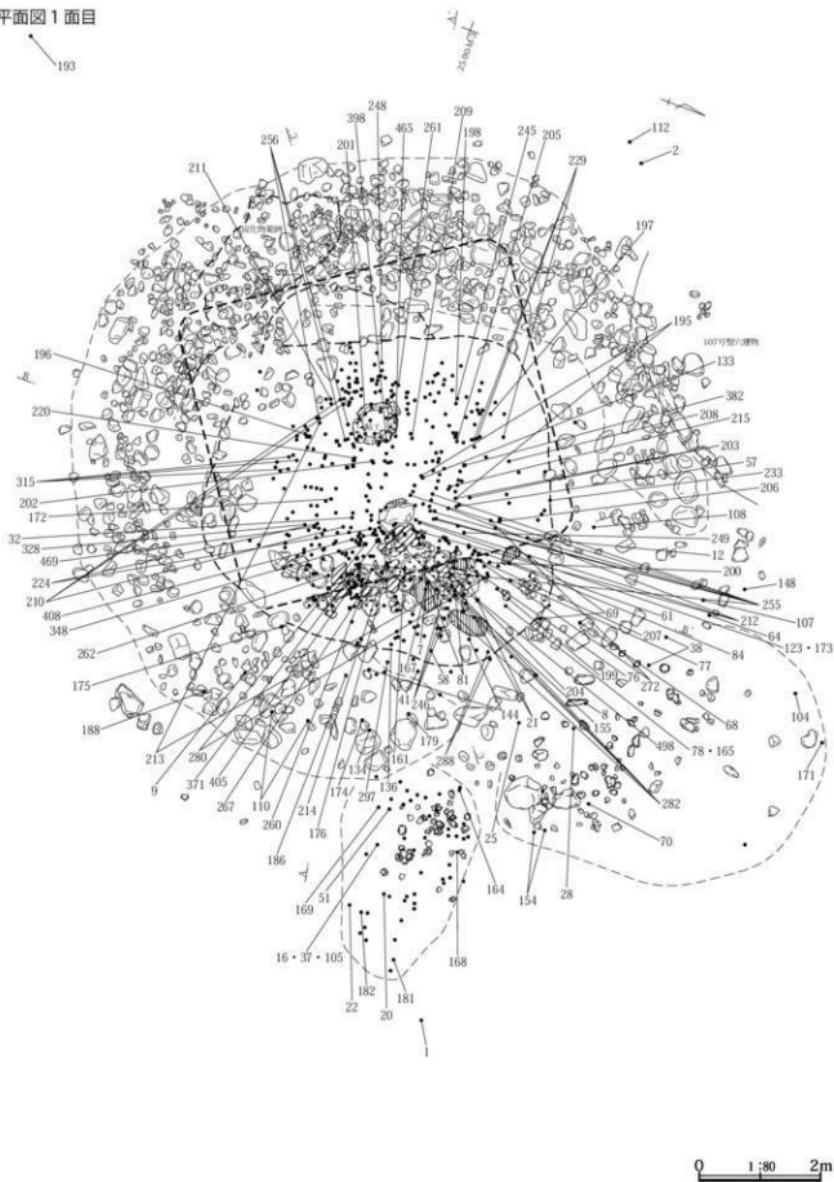
第137図 107号竪穴建物(14)



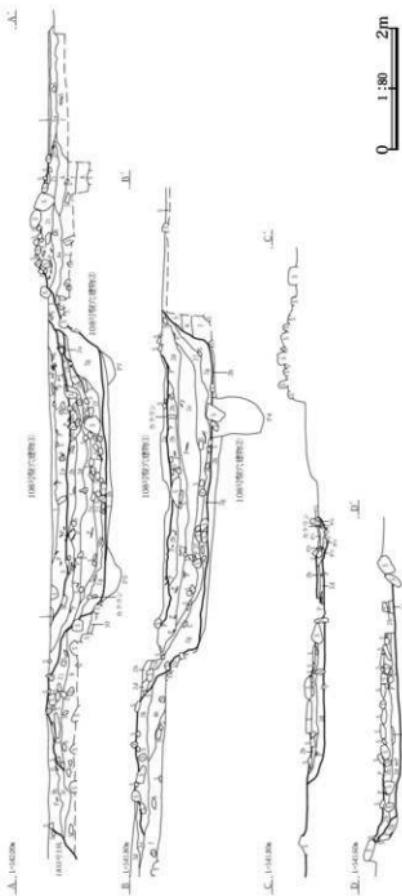
第138図 107号竪穴建物(15)

平面図 1 面目

192



第139図 108a号竖穴建物(1)



108a号 竪穴建物(第139～141、147～164、168図、PL.55～58)

調査年度 平成30年度

位置 90区-K・L・M-4・5

経過 7区東部に位置し、4号列石に隣接する。礫が円形状に多量に散在しており、当初上面を3号配石Aとして調査を行い、その後竪穴建物に切り替えた。周堤内に敷石と確認されたため、「108a号竪穴建物」、下層の竪穴建物を「108b号竪穴建物」とした。

規模 430×400cm

重複 4号列石、108号b 竪穴建物より新しい。

形状 隅丸方形

周縁 本来108a号竪穴建物の付属施設であるが、108b号竪穴建物を構築する際に石列が確認されることから、周堤の一部を改変して、再利用したと想定される。北東側の周堤が途切れ、1列の石列のみ確認される点については、108a号竪穴建物の主軸方向と方向が合わないこと、108b号竪穴建物の敷石部の主軸方向と整合することなどから、108b号竪穴建物を構築する際に、取り外されたと想定される。

床面 東側に敷石を敷設する。中央部西寄りのほかから北東軸直線上に50cm程の扁平碟を横位に据え、扁平碟両側に円碟を主体とした敷石を敷設することで、長方形状の敷石を構築する。その他の箇所でも、部分的に扁平碟が横位に据えられており、本来は一面に敷石が敷設されていたと想定される。

炉 方形石圓爐。河原石を縱位に据え、火熱痕が明瞭に認められる。炉の構築時に粘土を貼り付けている。掘り方のほぼ全体に粘土を貼り、その上に炉石を据えている。炉石はやや外開きの斜位据えられている。

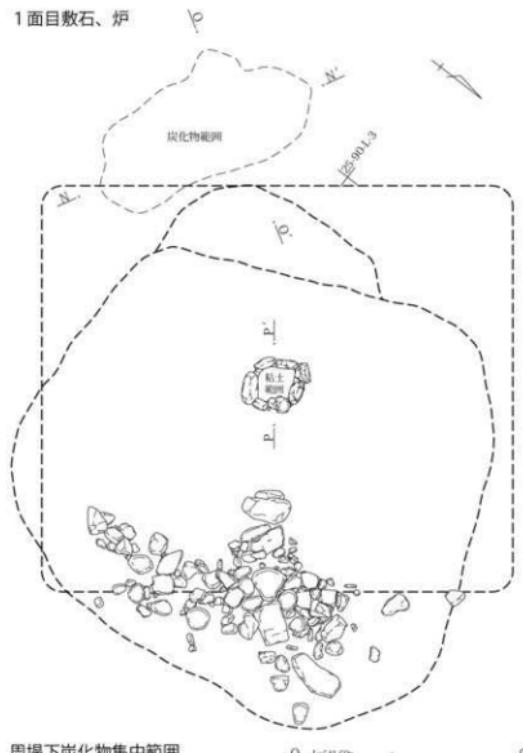
方位

柱穴 確認されていないが、柱穴を掘り込まない形態だった可能性もある。

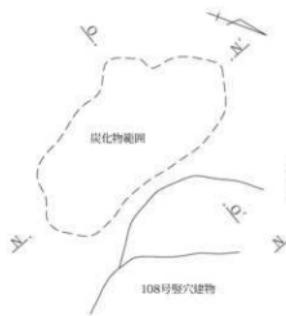
遺物 108号a b号竪穴建物を含めて、400点出土している。佐野I b式が主体を占め、客観的に天神原式古段階がみられる。上層には、晩期中葉の佐野II式古段階から中段階がみられ、廃絶後、廃棄場として利用されたと捉える。床面では、佐野I b式の鉢(241～243、247、248)や浅鉢(244、245)の出土が多く、深鉢は粗製土器(254～259、280～285)が主体を占める。他地域の土器は大洞C 1式(252、253)、安行3 b式(249)、御經塚式(250)が出土した。土製品は手燭形土製品(268)が出土した。上層、上面では、佐野II式古段階ほかに、中屋3式(212)、大洞C 2式が出土した。195のような大形の6角形状の浅鉢も出土した。

時期 佐野I b式

1面目敷石、炉



周堤下炭化物集中範囲



108号壁穴建物

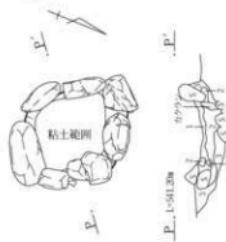


第141図 108a号壁穴建物(3)

炉1面目



炉2面目



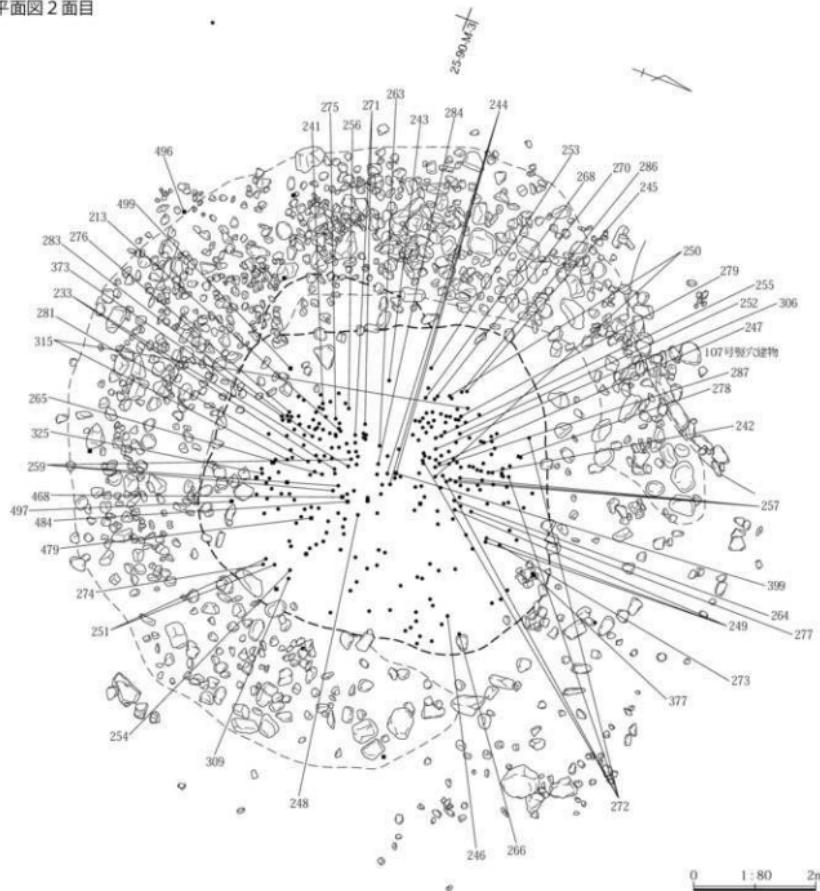
炉粘土範囲



炉掘り方



平面図2面目



第142図 108b号竪穴建物(1)

108b号竪穴建物(第142～146、165～167、169～177図、

PL.59～61)

調査年度 平成30年度

位置 90区-K・L・M-4・5

経過 7区北東部に位置し、4号列石に隣接する。砾が円形状に多量に散在しており、当初上面を3号配石Aとして調査を行い、その後竪穴建物に切り替えた。周堤内に敷石と確認されたため、「108a号竪穴建物」、下層の竪穴建物を「108b号竪穴建物」とした。

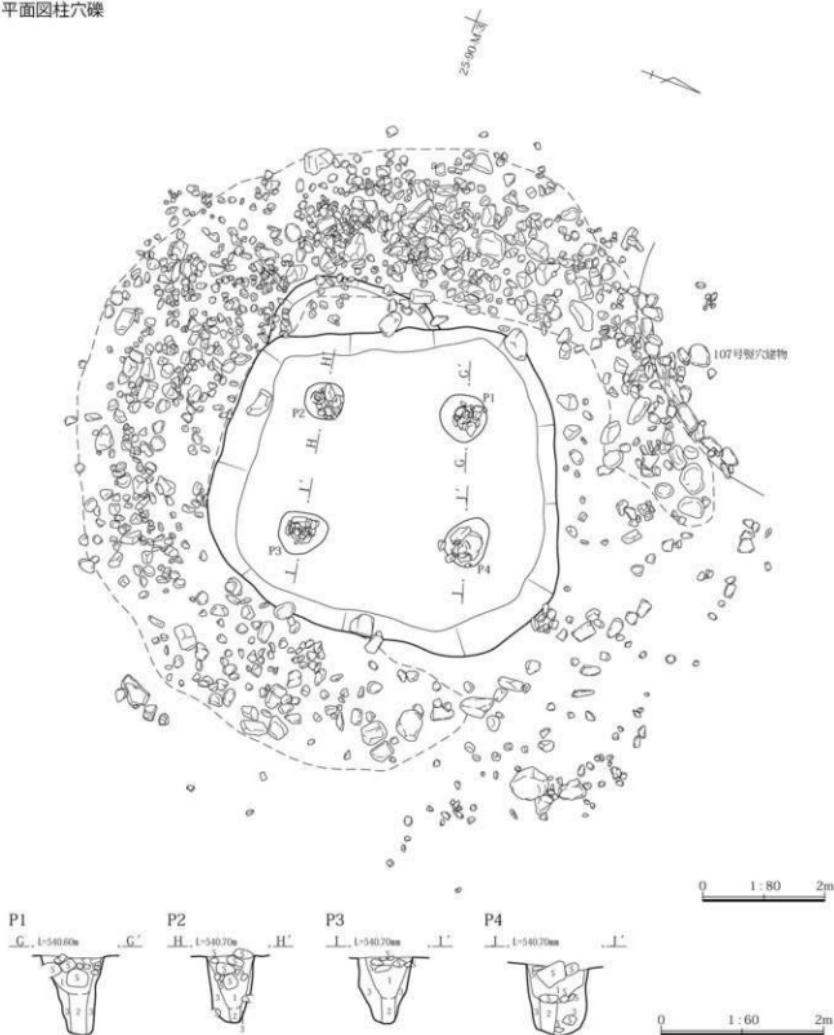
規模 430×400cm

重複 4号列石、108号b竪穴建物をより新しい。

形状 不整形

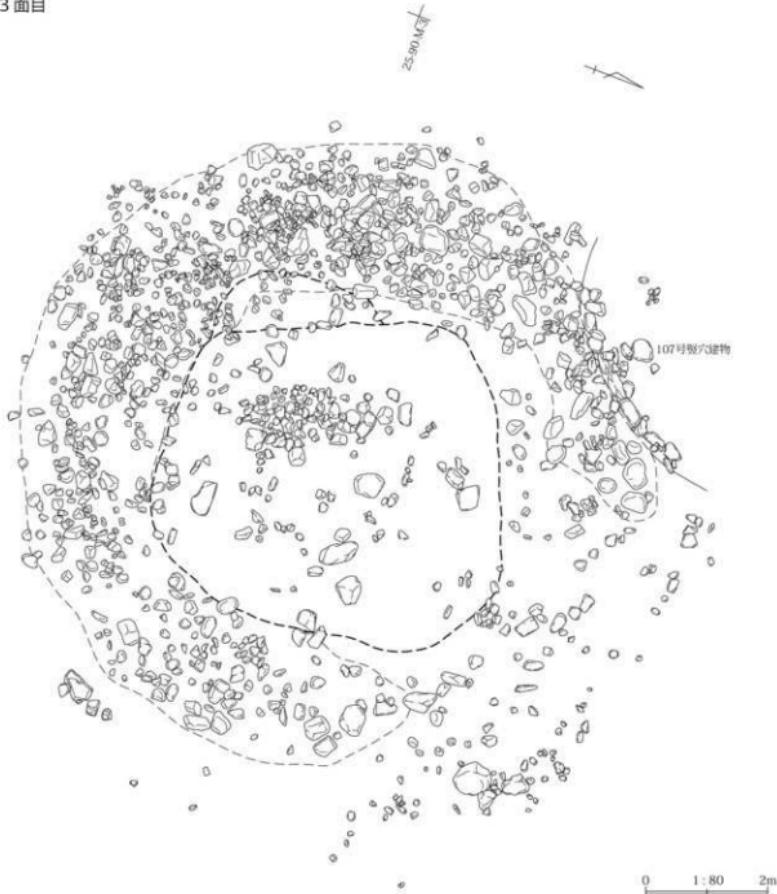
周堤 周堤は、108号竪穴建物を囲むように構築され、最大60cm程の高さまで、構築される。周堤には、30～50cm程の角砾によって構成され、土器片や石器類も散見される。南側の周堤下から、炭化物が集中しており、周堤の施設の可能性もある。周堤下からは、晩期初頭の安行3a式(第167図-318)が出土しており、晩期初頭以降

平面図柱穴跡



第143図 108b号堅穴建物(2)

平面図3面目



第144図 108b号竪穴建物(3)

に周堤が構築されたと捉える。北東側の周堤が途切れ、1列の石列のみ確認される点については、108a号竪穴建物の主軸方向と方向が合わないこと、108b号竪穴建物の敷石部の主軸方向と整合することなどから、108b号竪穴建物を構築する際に、取り外されたと想定される。

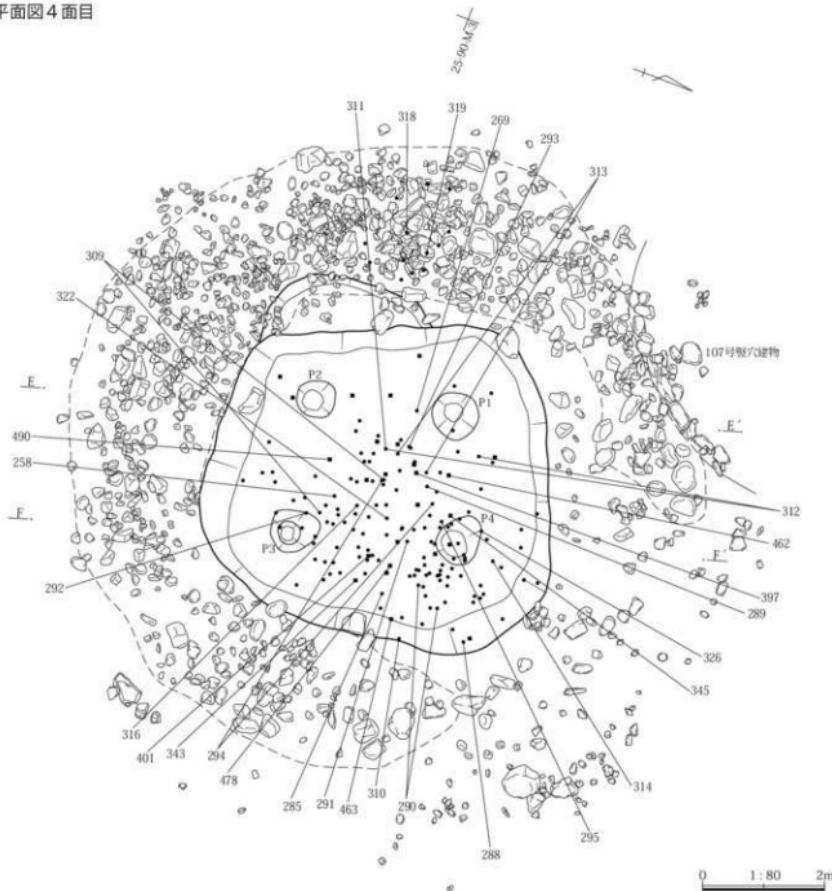
床面 貼床、敷石は確認されていないが、地山礫層を整地して床面としたと考えられる。確認面から床面までの高さは、100cmに及ぶ。

炉 炉は確認されていない。床面に焼土は確認されず、床掘方でも掘り込みは確認されていない。炉を持たない形態あるいは、掘り込みを持たない地床炉が想定される。

方位

柱穴 柱穴は、7基確認され、P1からP4が主柱穴、P5、P7が補助柱、P6が入り口施設に伴う柱と捉える。P1からP4に詰まっている礫は、周縁の崩落石、あるいは建物の廃絶時の行為と想定される。柱痕の側面

平面図4面目



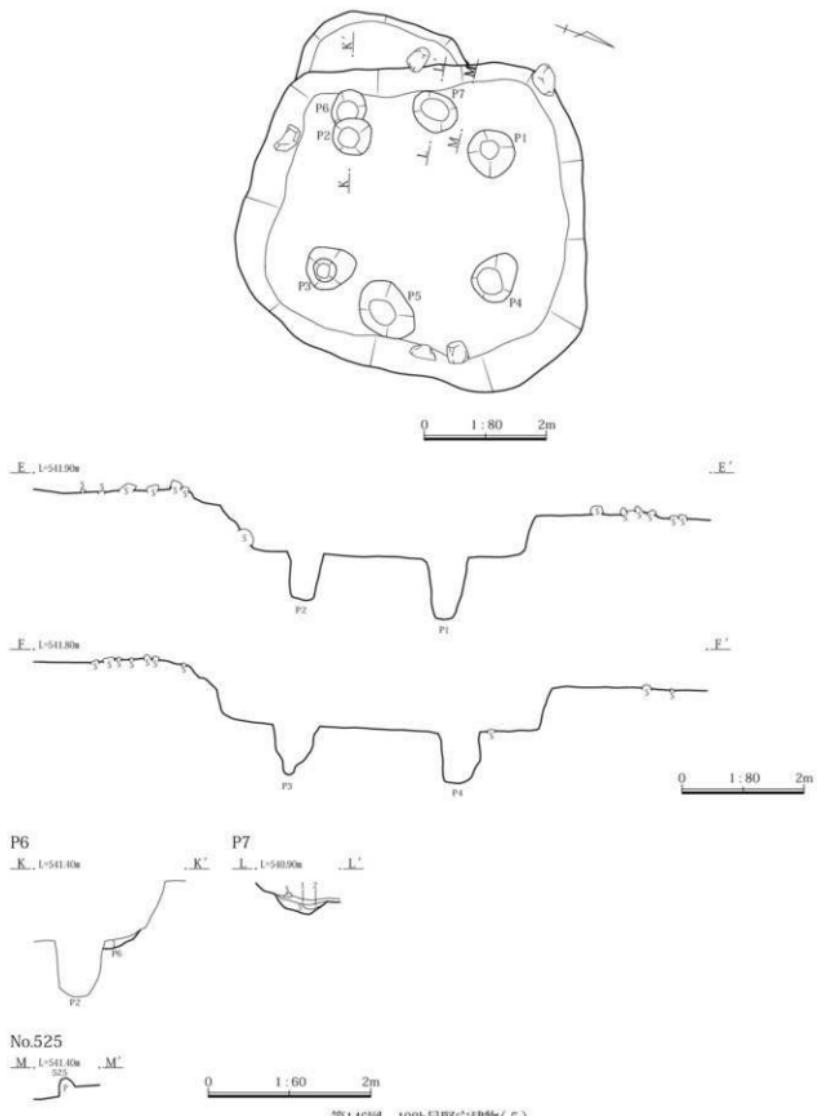
第145図 108b号竪穴建物(4)

部の3層中には礫が混じっており、根積め石と考えられる。それぞれの規模(長辺×短辺×深さ)は、P 1 : 65×50×105、P 2 : 65×50×80、P 3 : 55×45×80、P 4 : 55×45×83、P 5 : 50×50、P 6 : 25×20×10、P 7 : 45×35×20である。

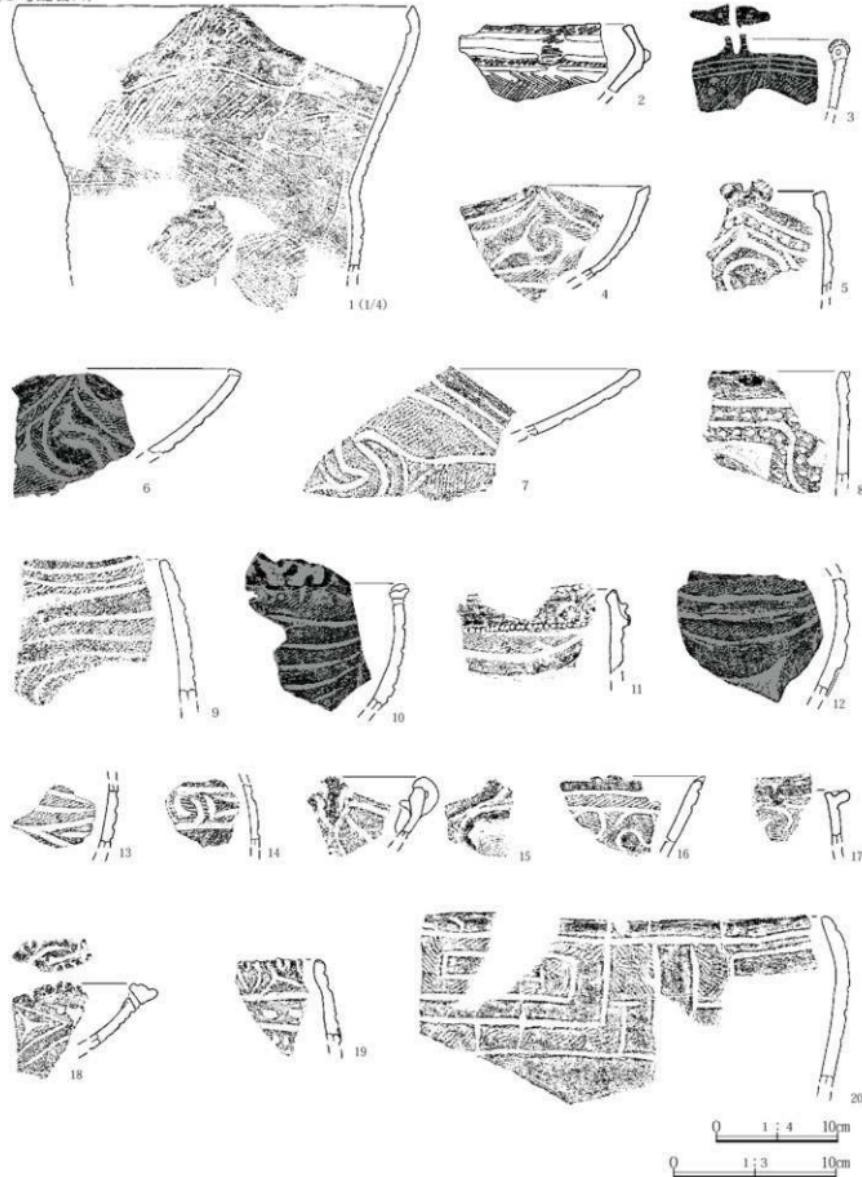
入り口 建物東側中段には、テラス状の平坦な空間があり、108b号竪穴建物との関係から、入り口部分と想定される。

遺物 108号ab号竪穴建物を含めて、400点出土している。佐野I a式が主体を占め、大洞B C式が客体的に出土する。床面からは、佐野I a式の浅鉢(309)が出土し、安行3b式併行(312)もみられた。覆土中からは佐野I a式(288、297～301)の他に大洞B式(289)や大洞B C式(303～305)が出土した。粗製土器は紐線文系の佐野式併行が主体を占めた。

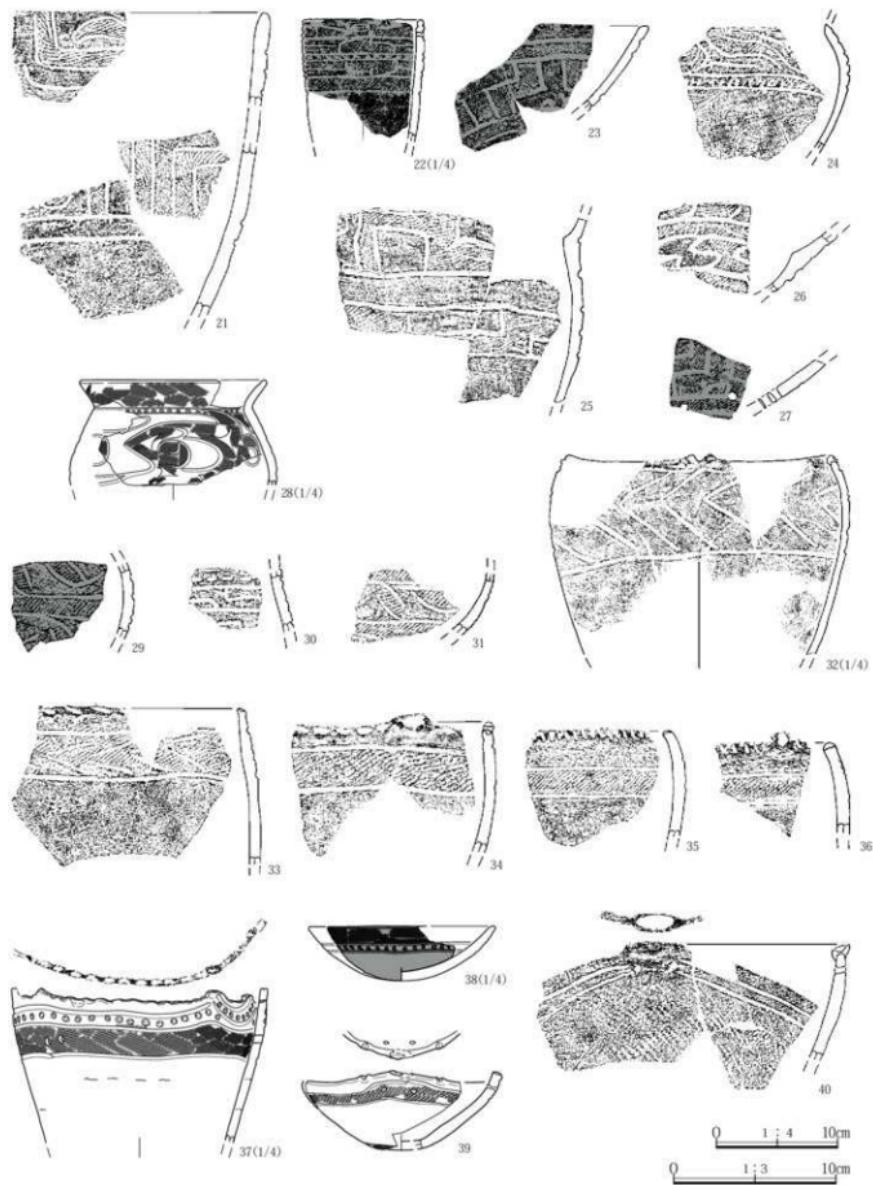
掘り方



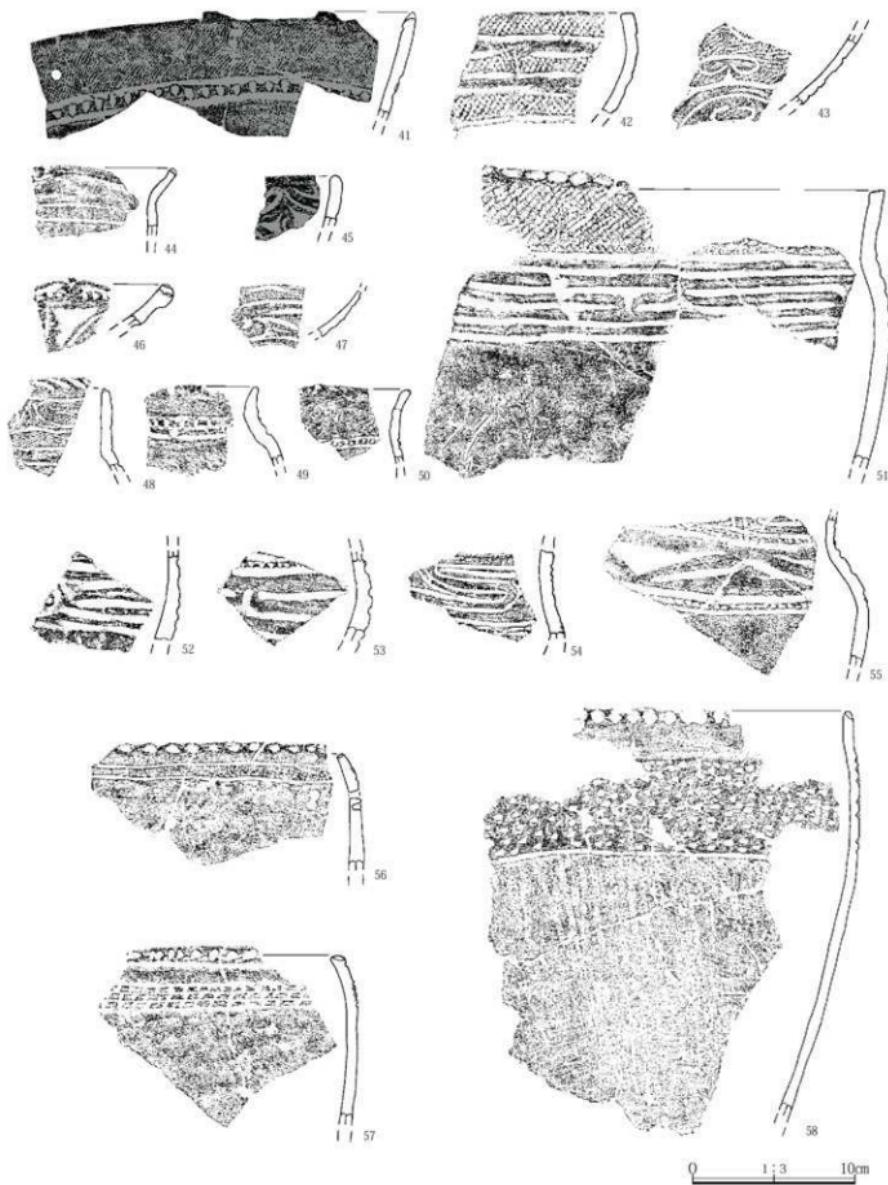
第2章 発掘された遺構と遺物
上面(3号配石A)



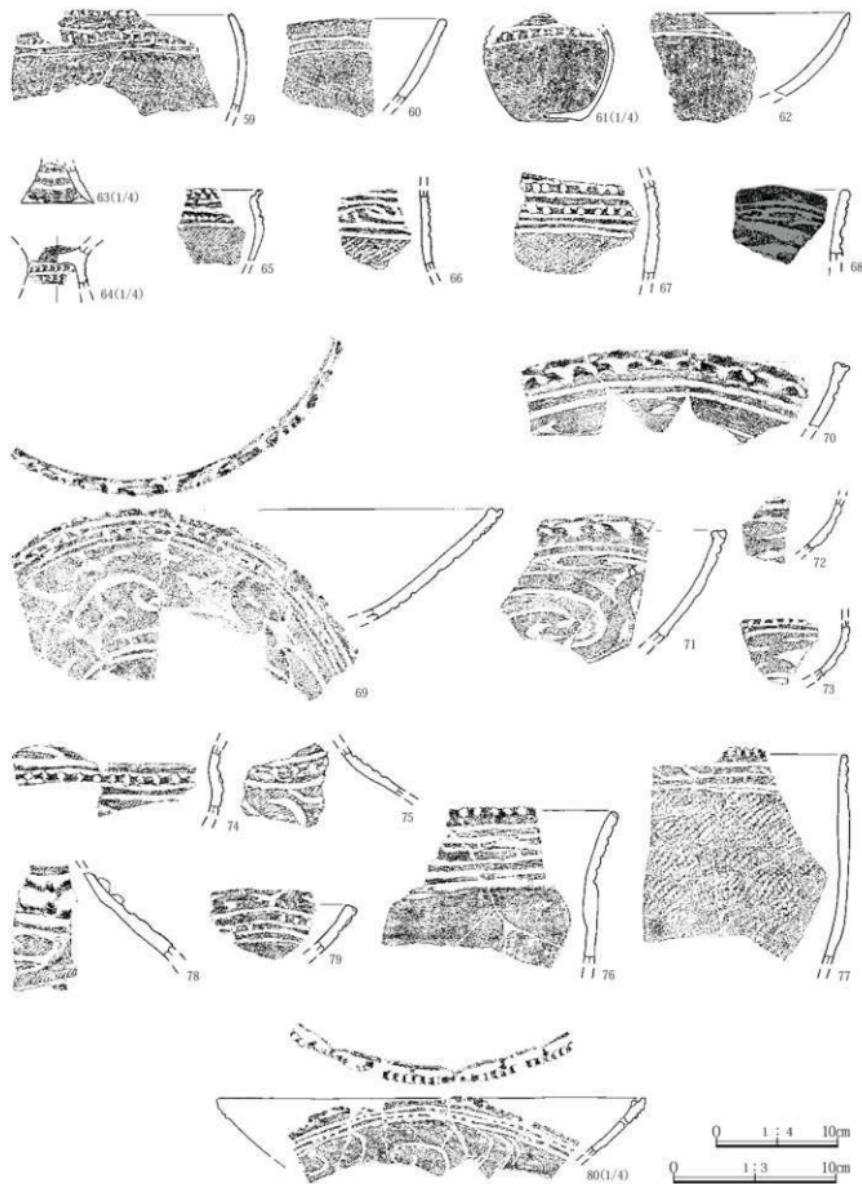
第147図 108a号竪穴建物(4)



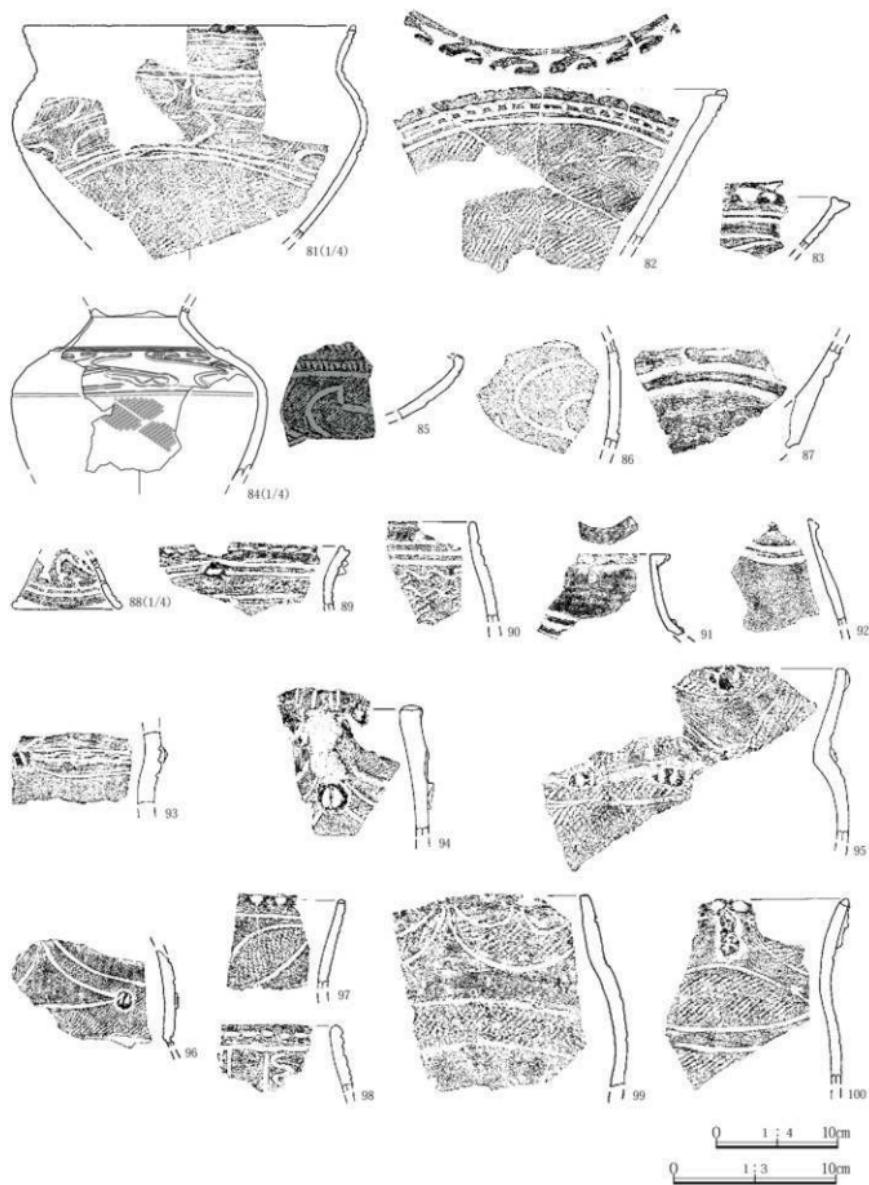
第148図 108a号竖穴建物 (5)



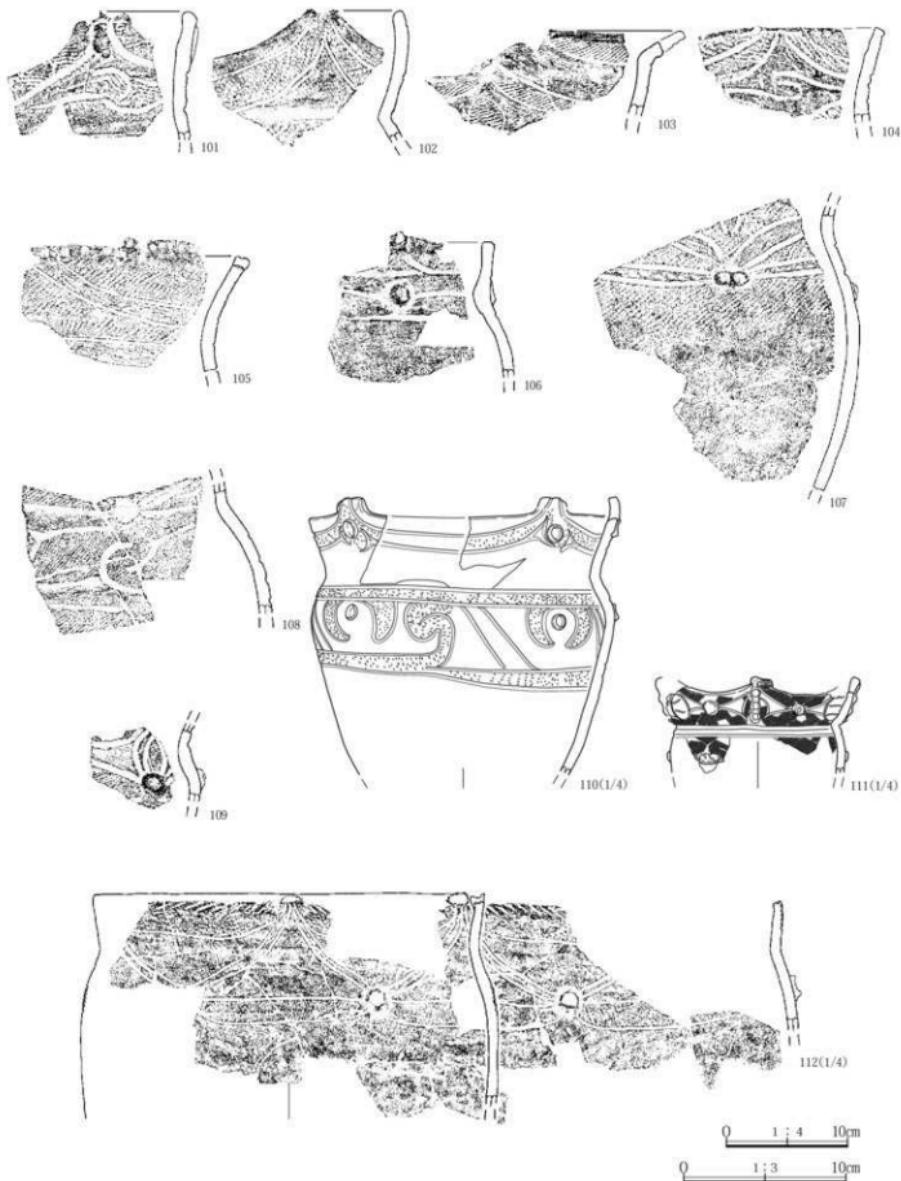
第149図 108a号竪穴建物(6)



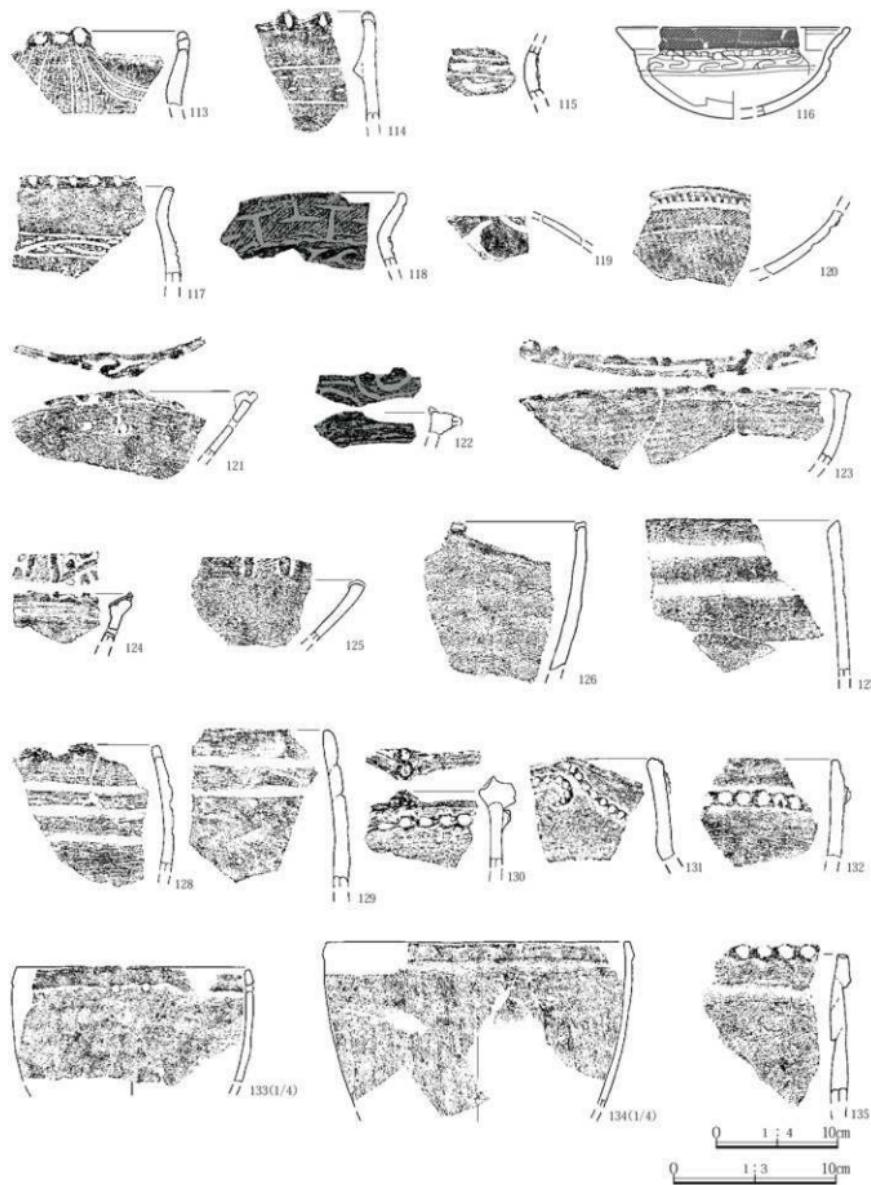
第150図 108a号竪穴建物(7)



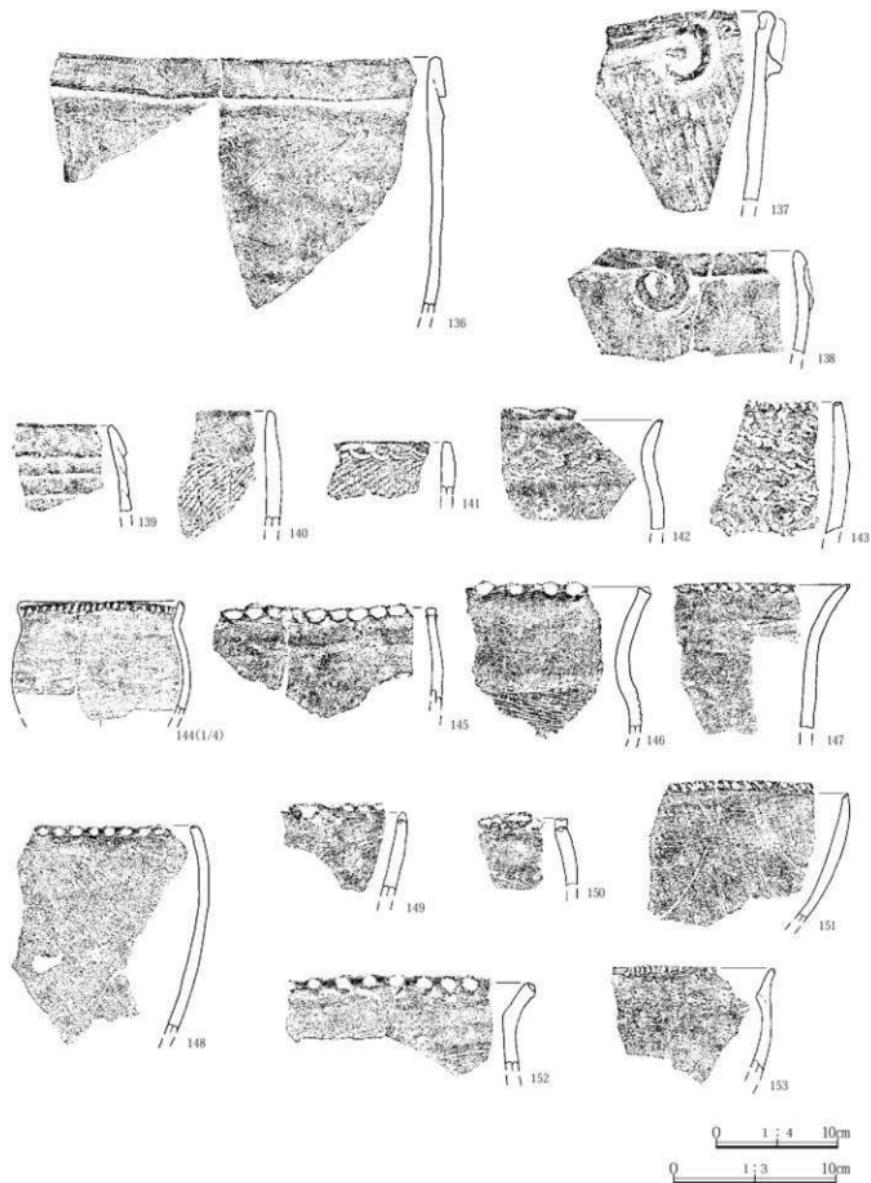
第151図 108a号竪穴建物(8)



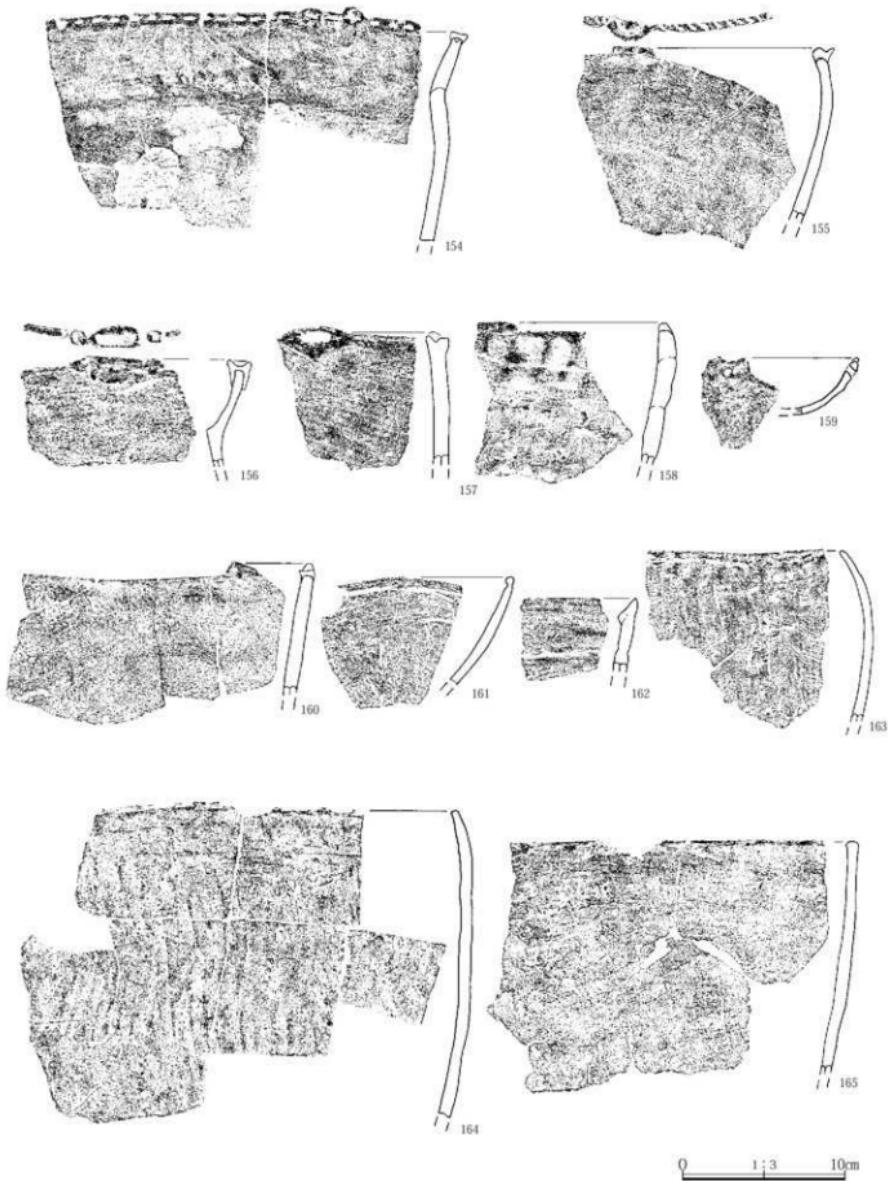
第152図 108a号竪穴建物(9)



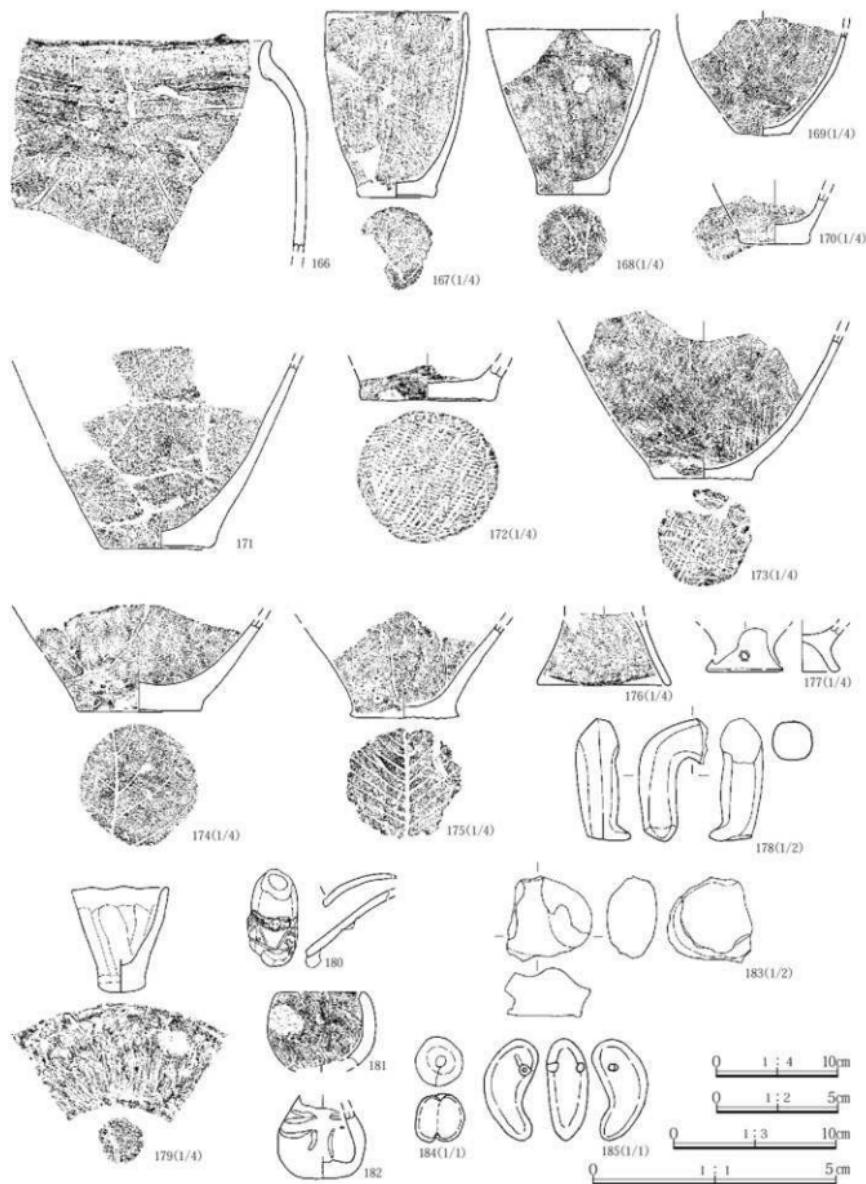
第153図 108a号竪穴建物(10)



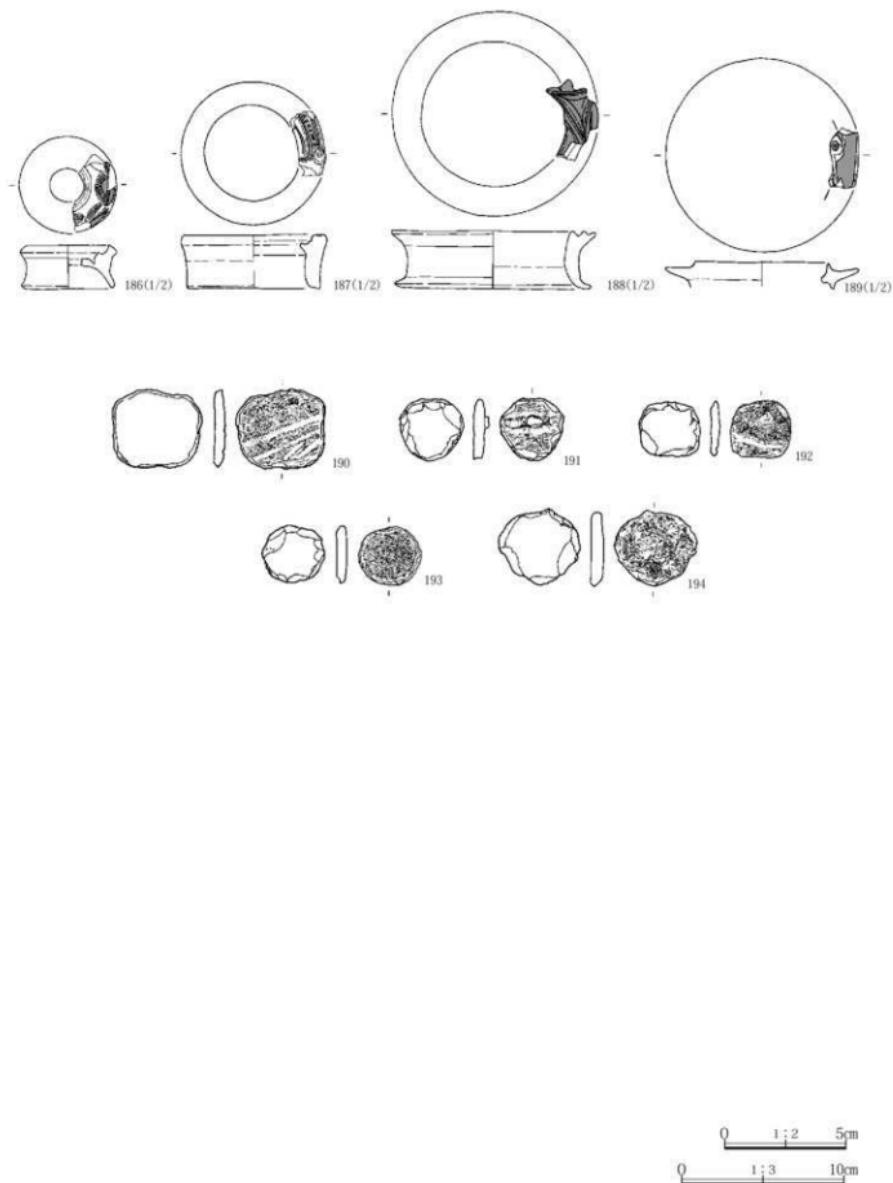
第154図 108a号竪穴建物(11)



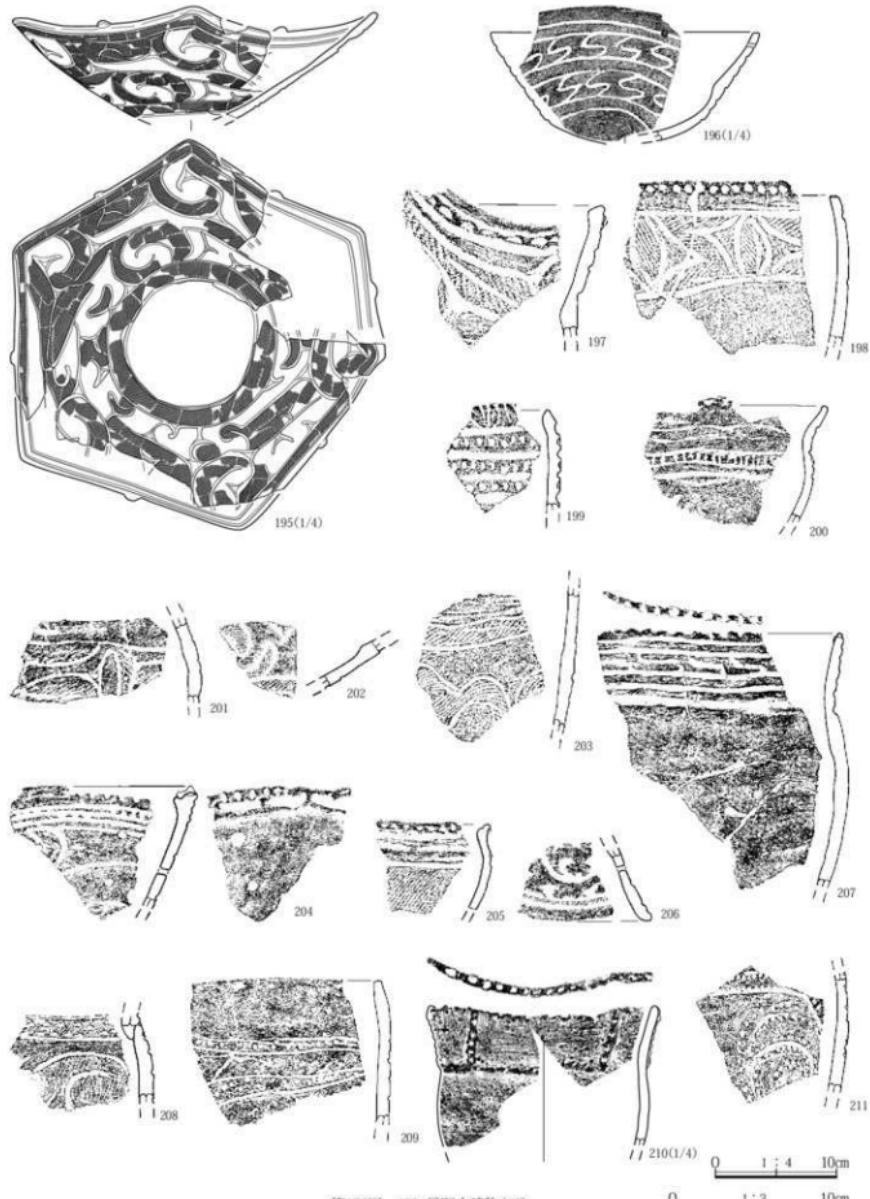
第155図 108a号竪穴建物(12)



第156図 108a号竪穴建物(13)



第157図 108a号竪穴建物(14)

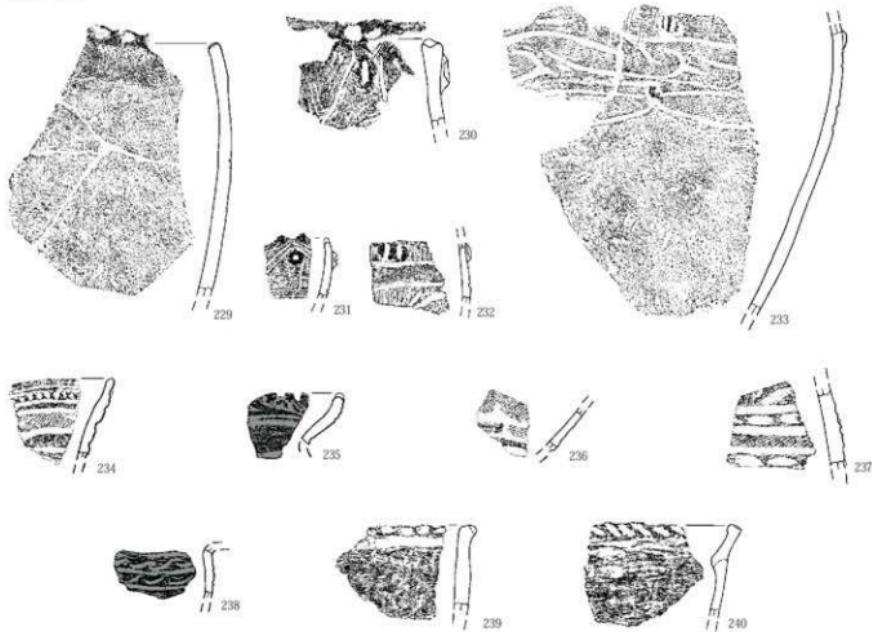


第158図 108a号竪穴建物(15)



第159図 108a号竪穴建物(16)

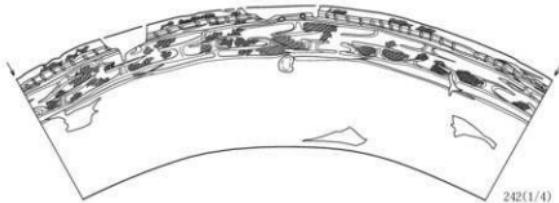
覆土一括



0 1:3 10cm

第160図 108a号竪穴建物(17)

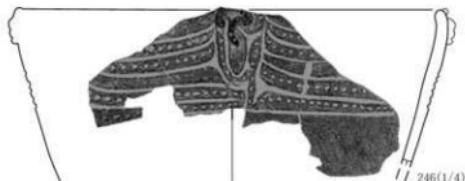
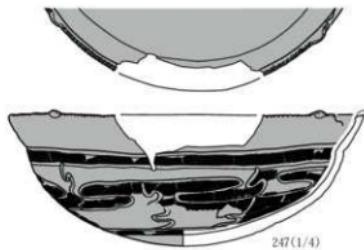
床面



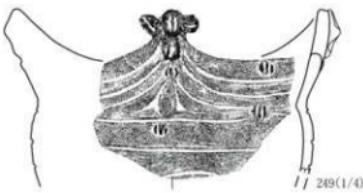
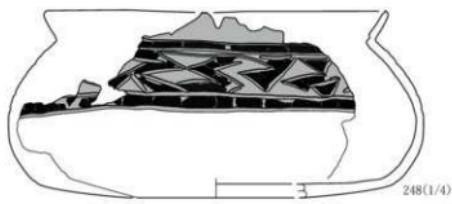
242(1/4)



245(1/4)



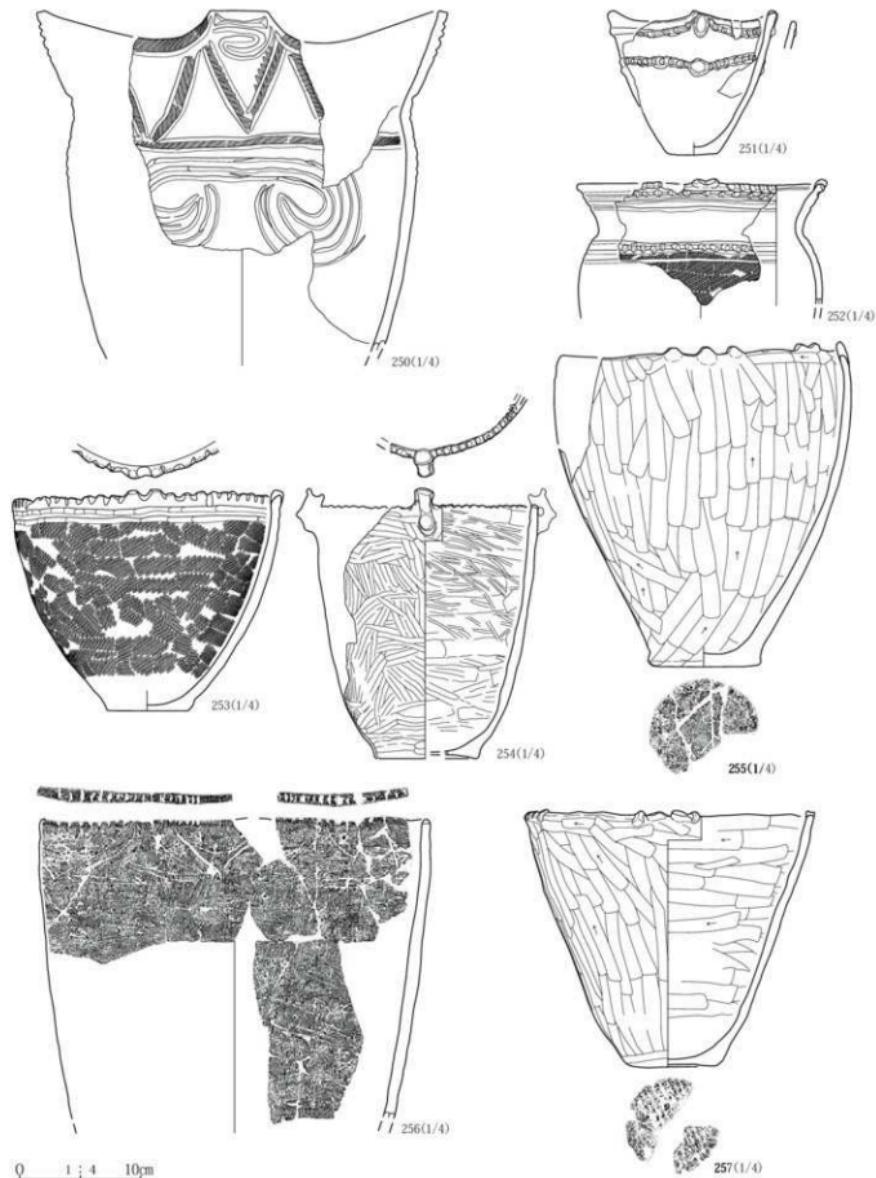
246(1/4)



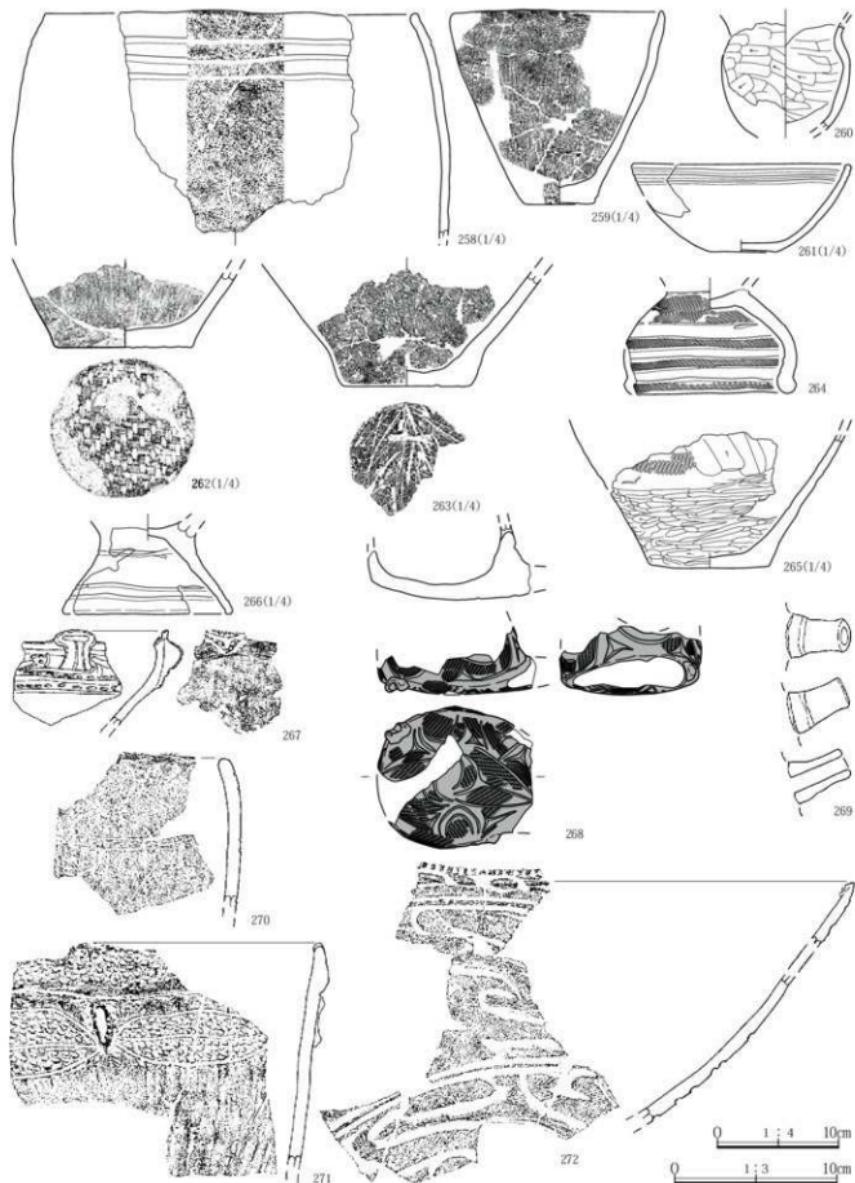
249(1/4)



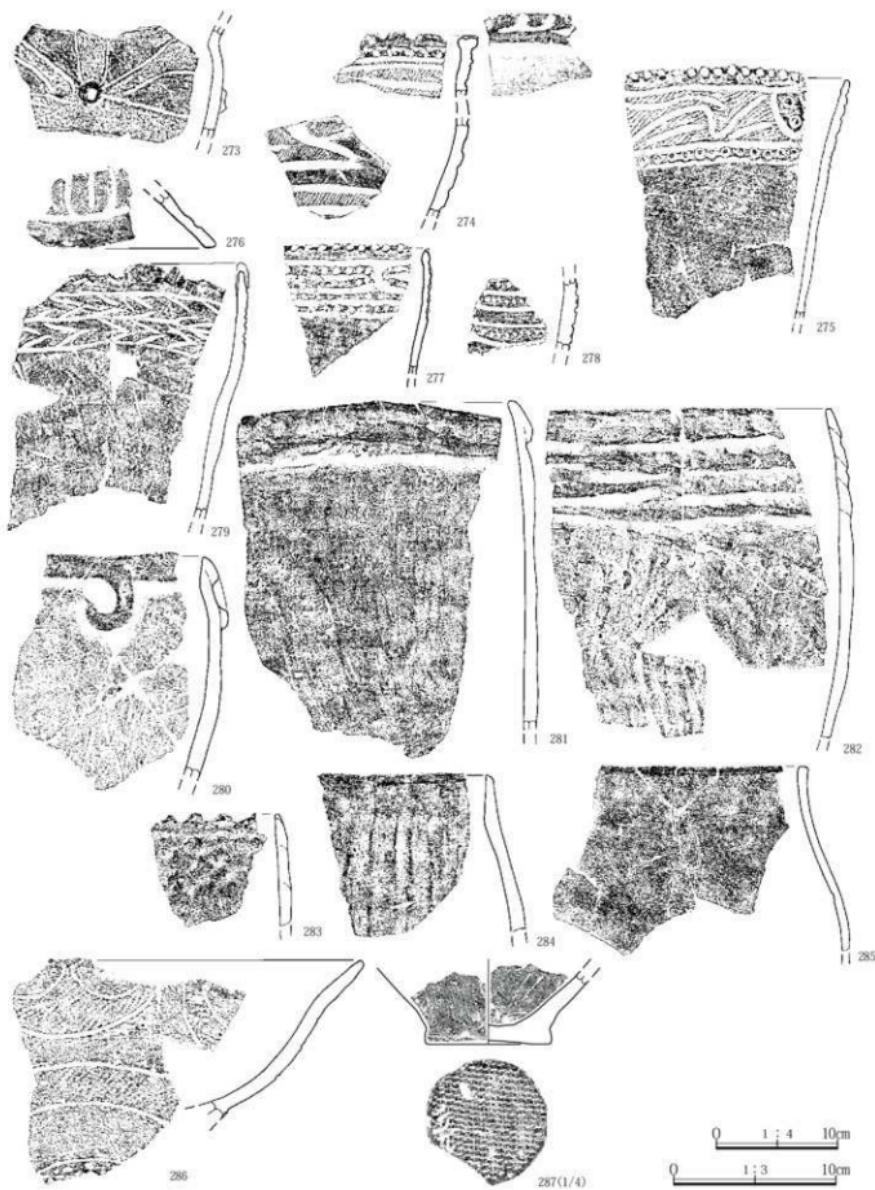
第161図 108a号竪穴建物(18)



第162図 108a号竪穴建物(19)

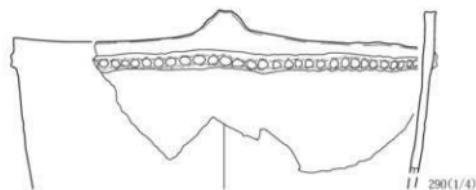
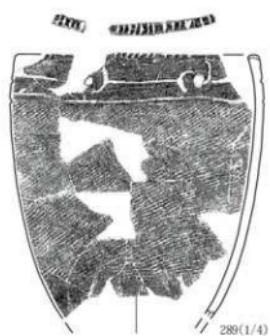
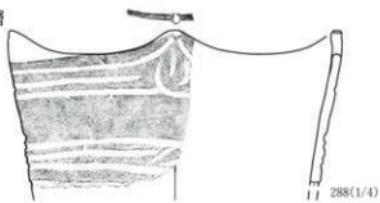


第163図 108a号竪穴建物(20)

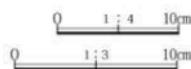
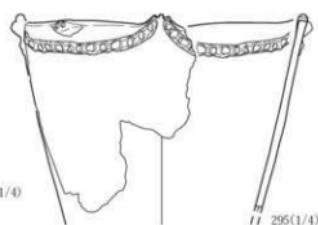
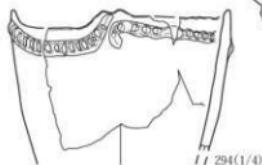


第164図 108a号竪穴建物(21)

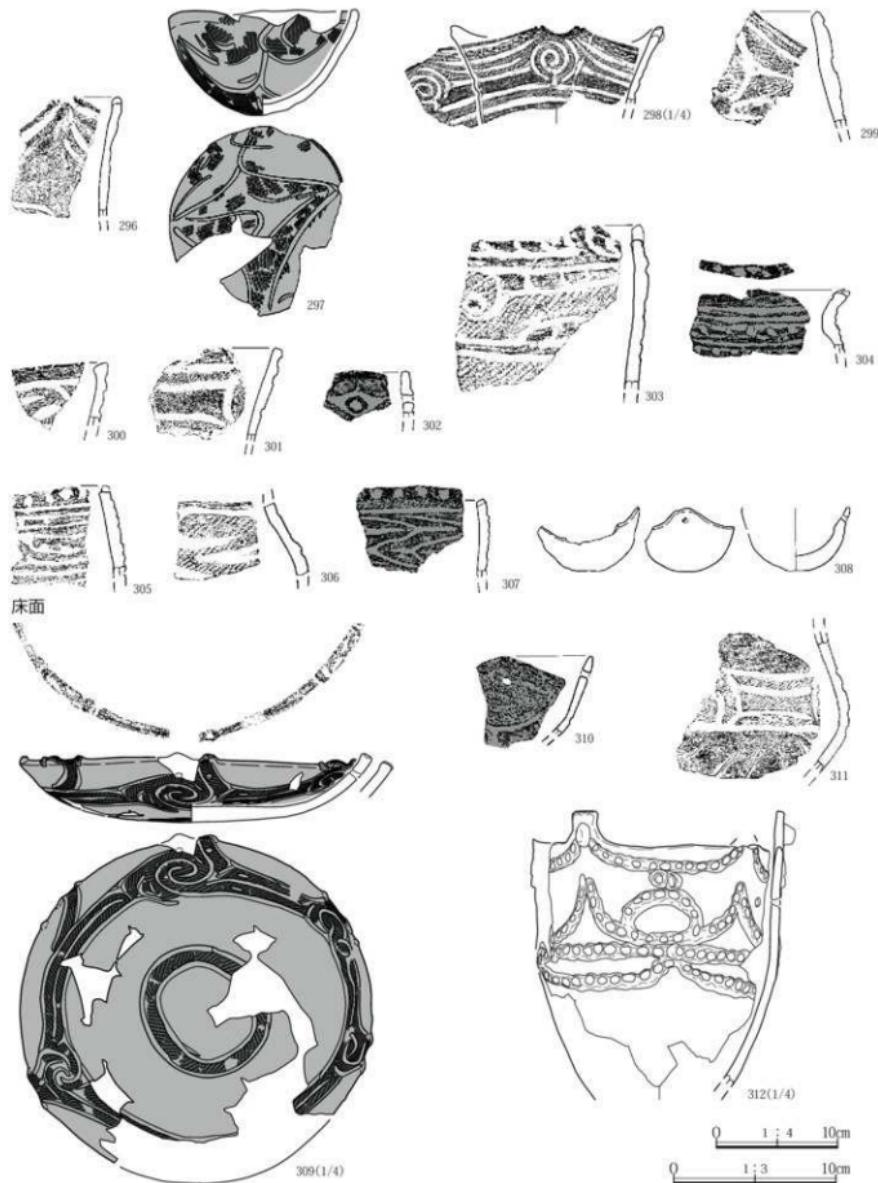
覆土上層



覆土下層

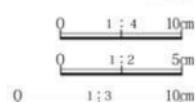
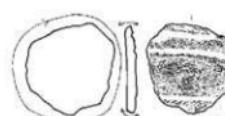
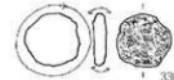
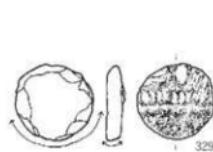
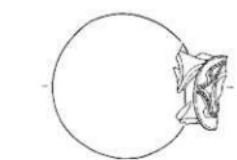
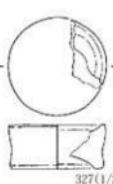
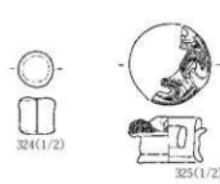
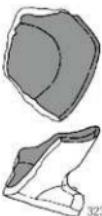
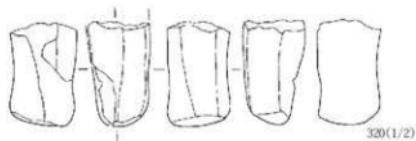
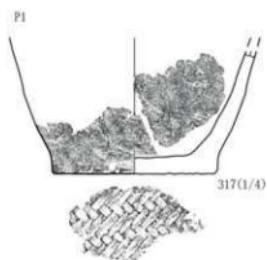
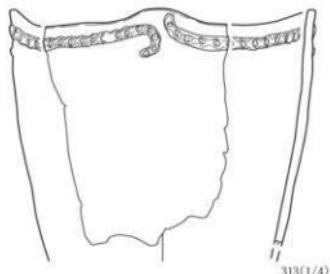


第165図 108b号竪穴建物(6)

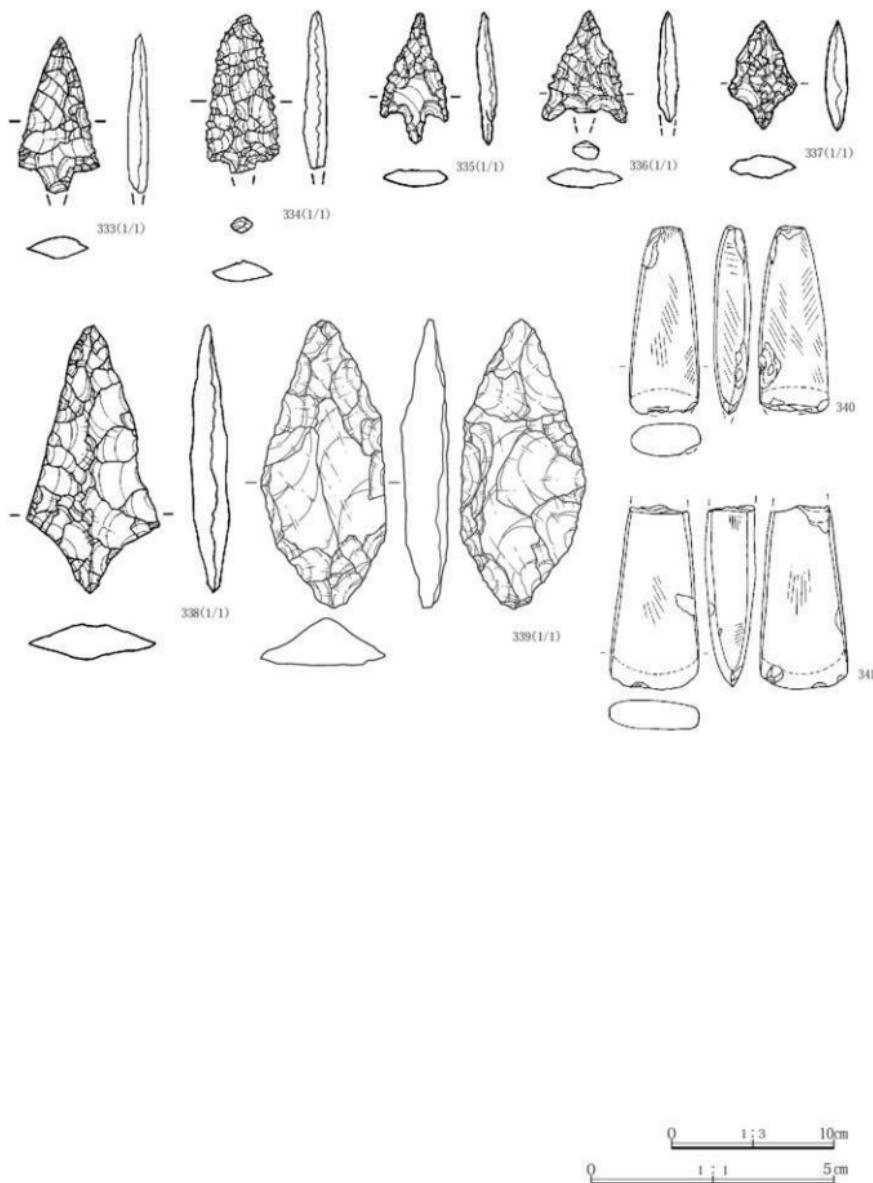


第166図 108号竪穴建物(7)

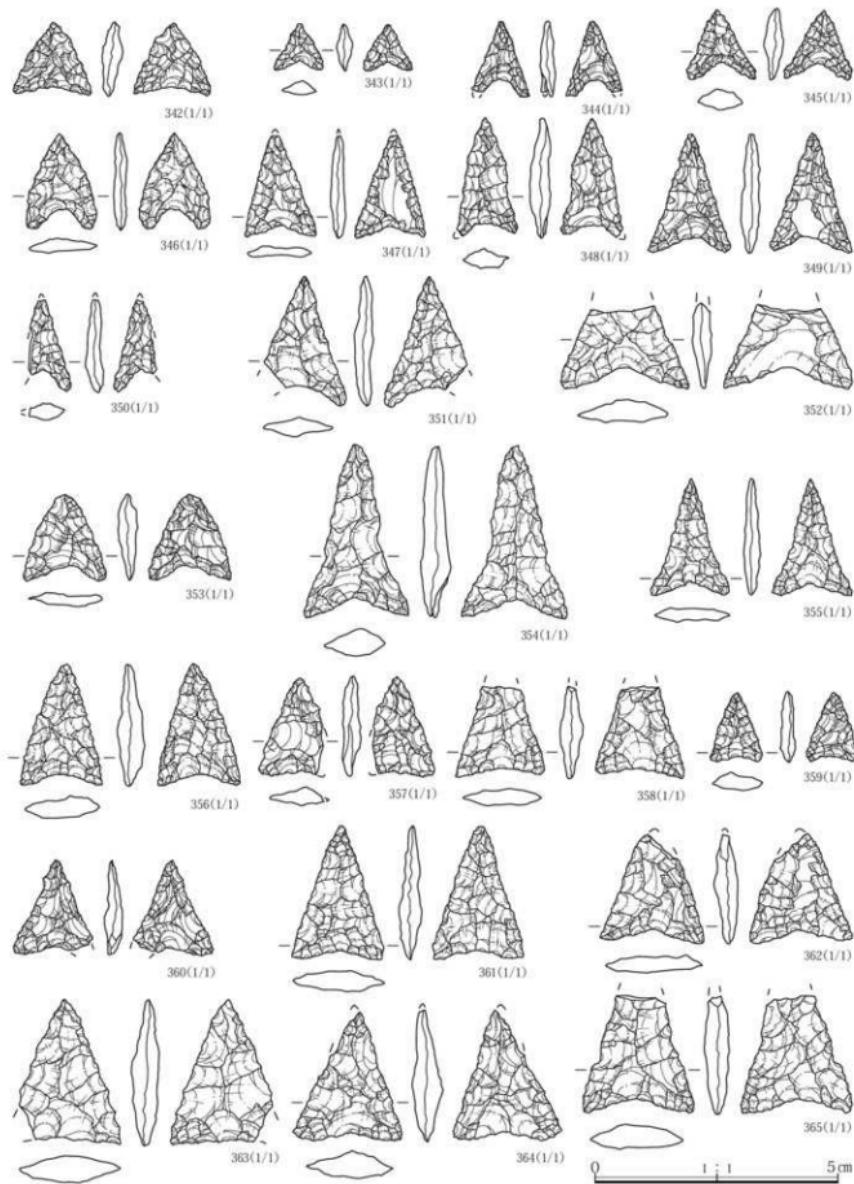
床面



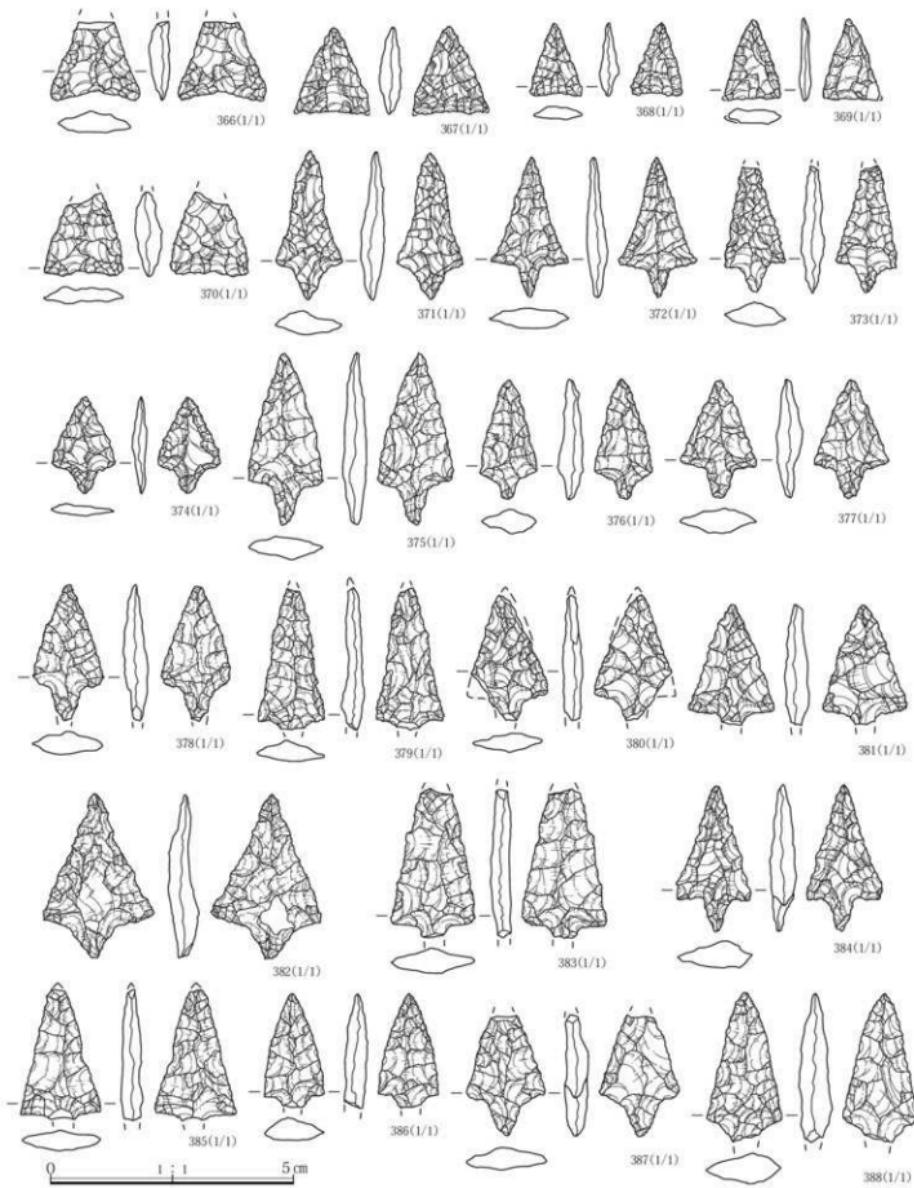
第167図 108b号竪穴建物(8)



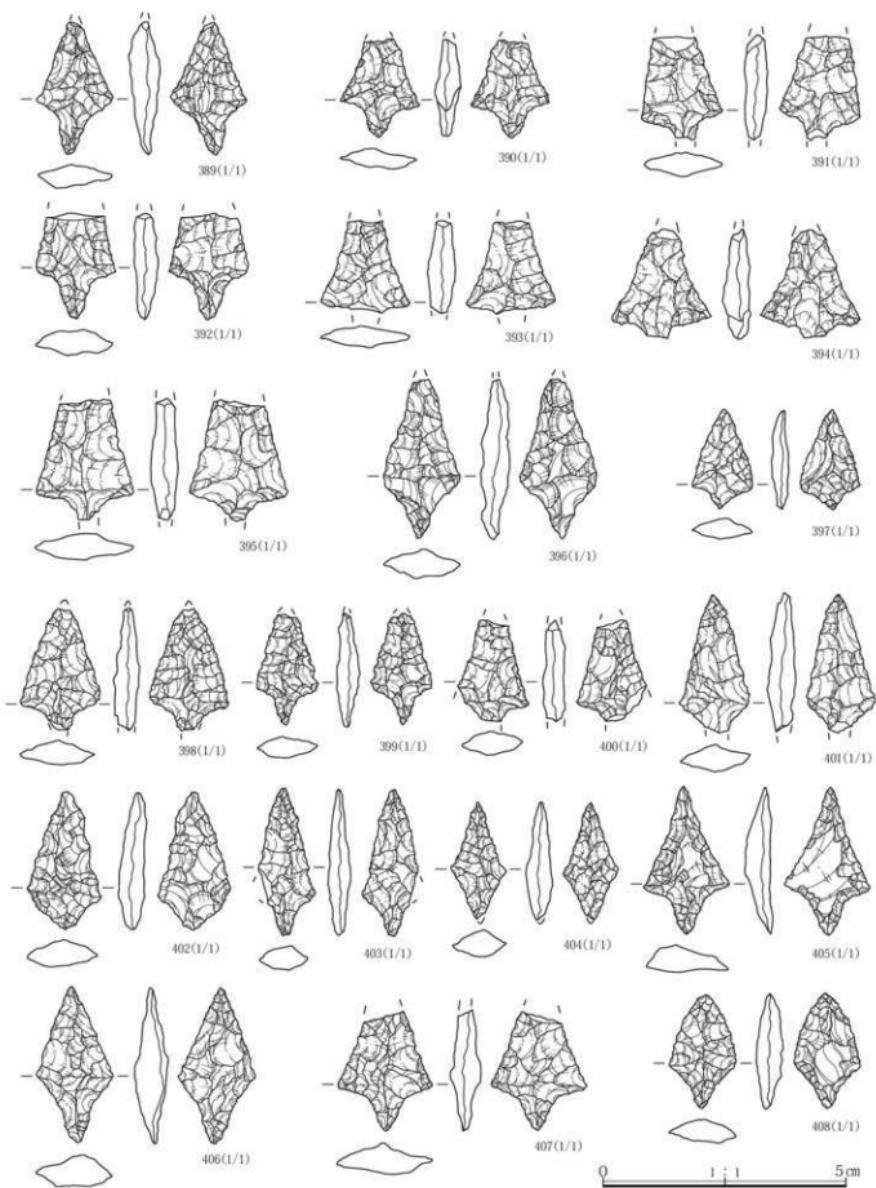
第168図 108a号竪穴建物(22)



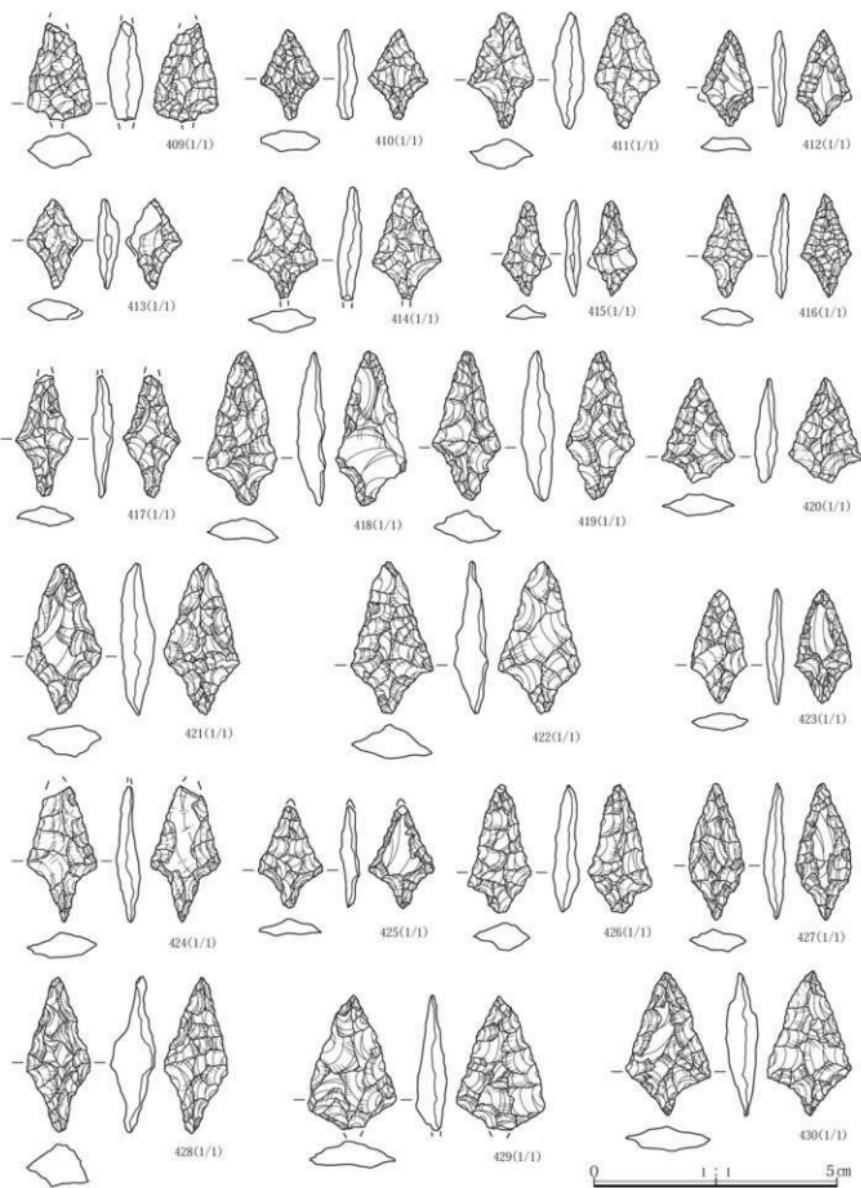
第169図 108号竪穴建物(9)



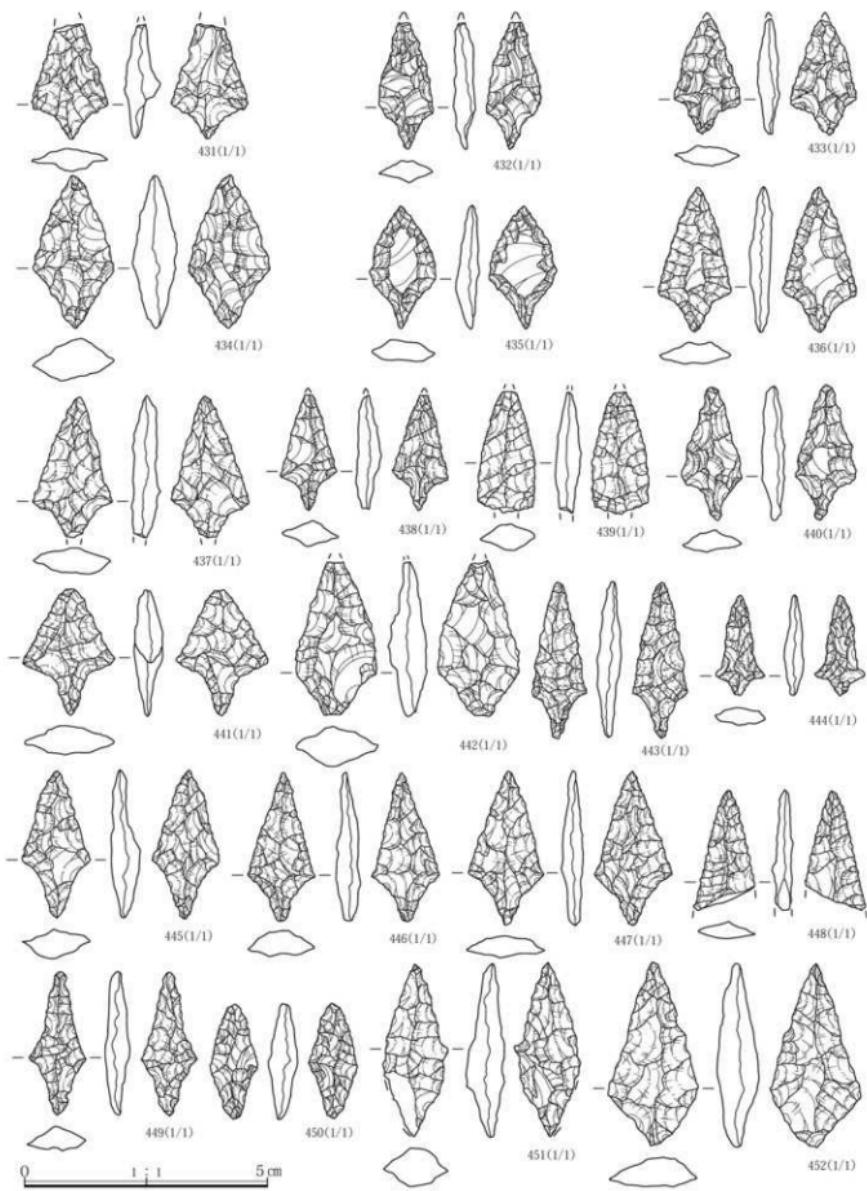
第170図 108b号竪穴建物(10)



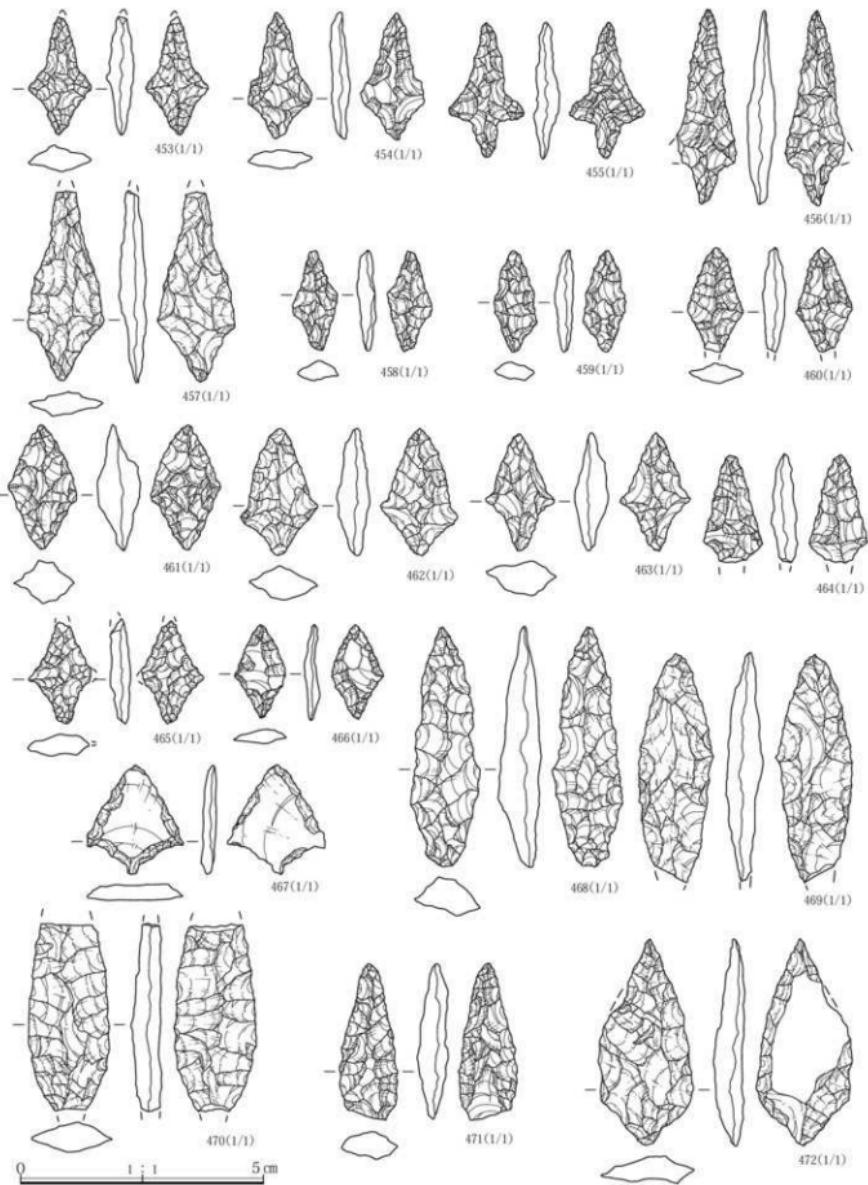
第171図 108b号竪穴建物(11)



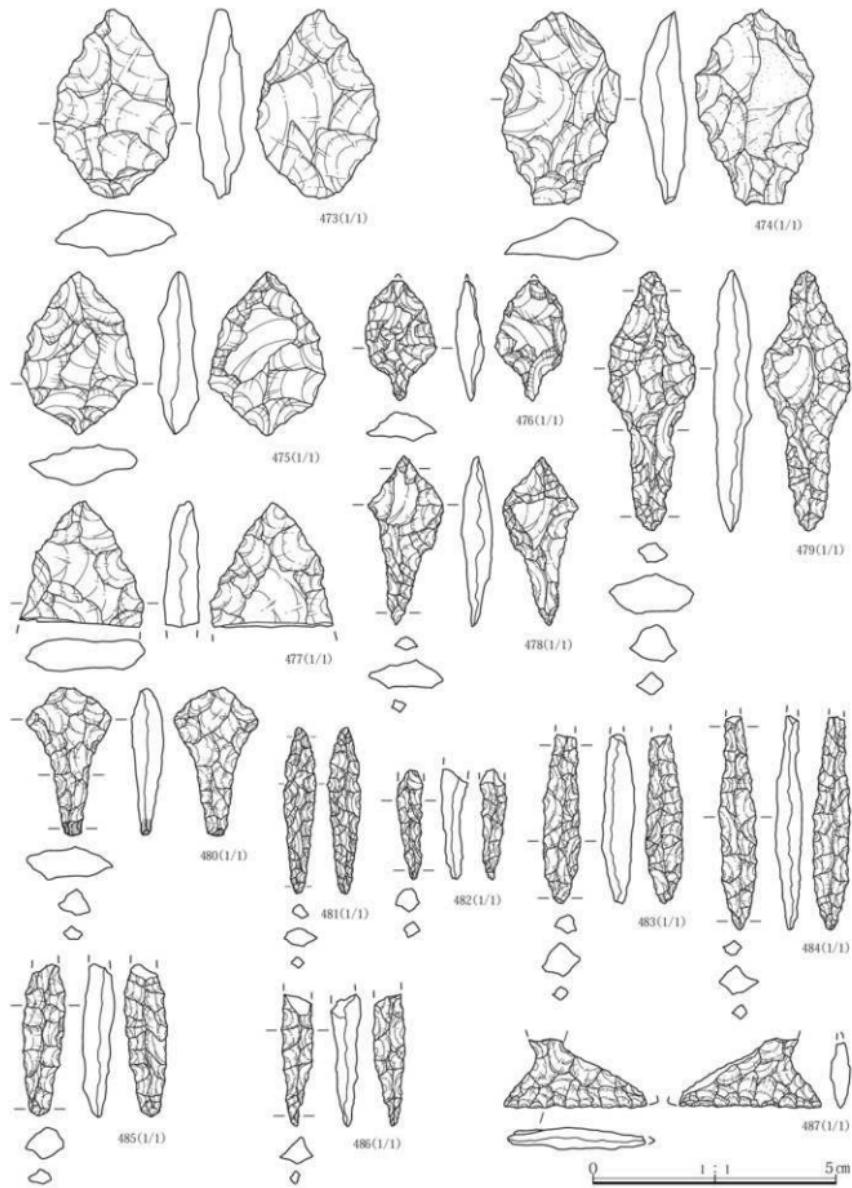
第172図 108b号竪穴建物(12)



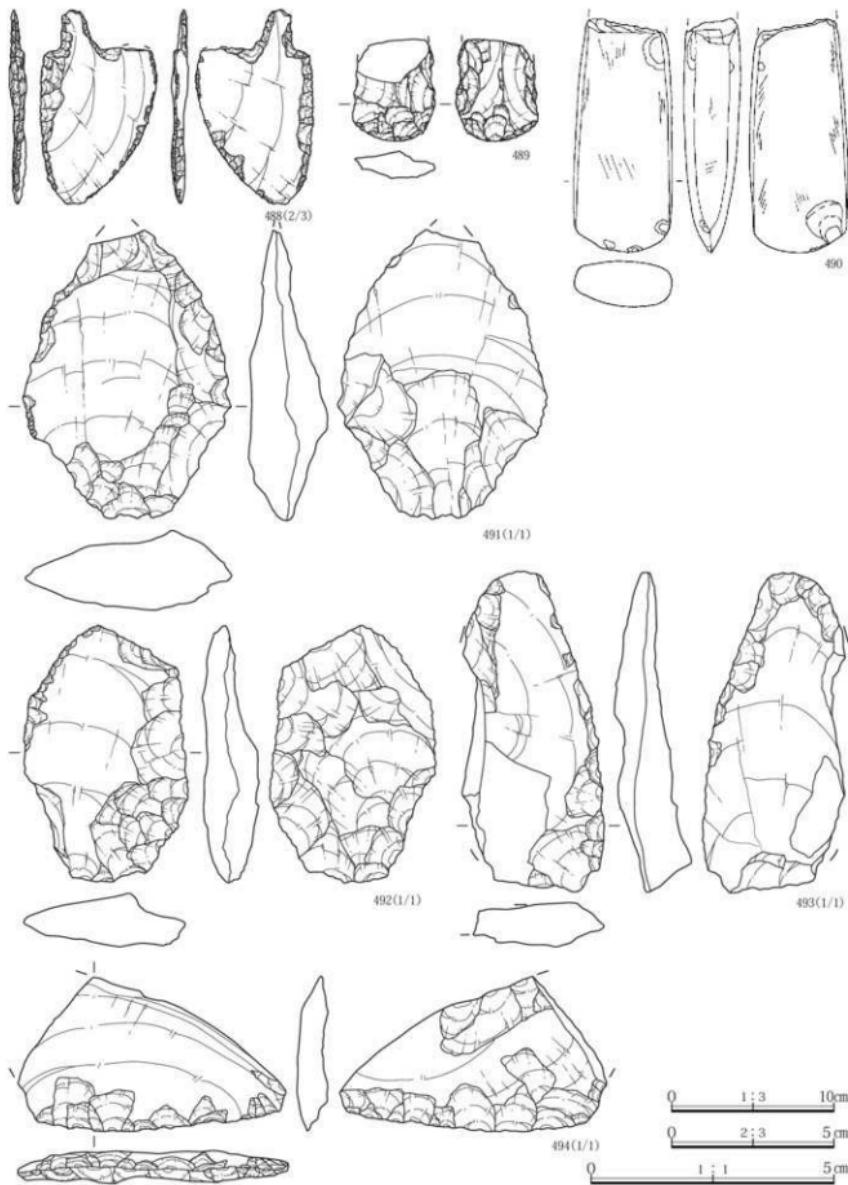
第173図 108b号竪穴建物(13)



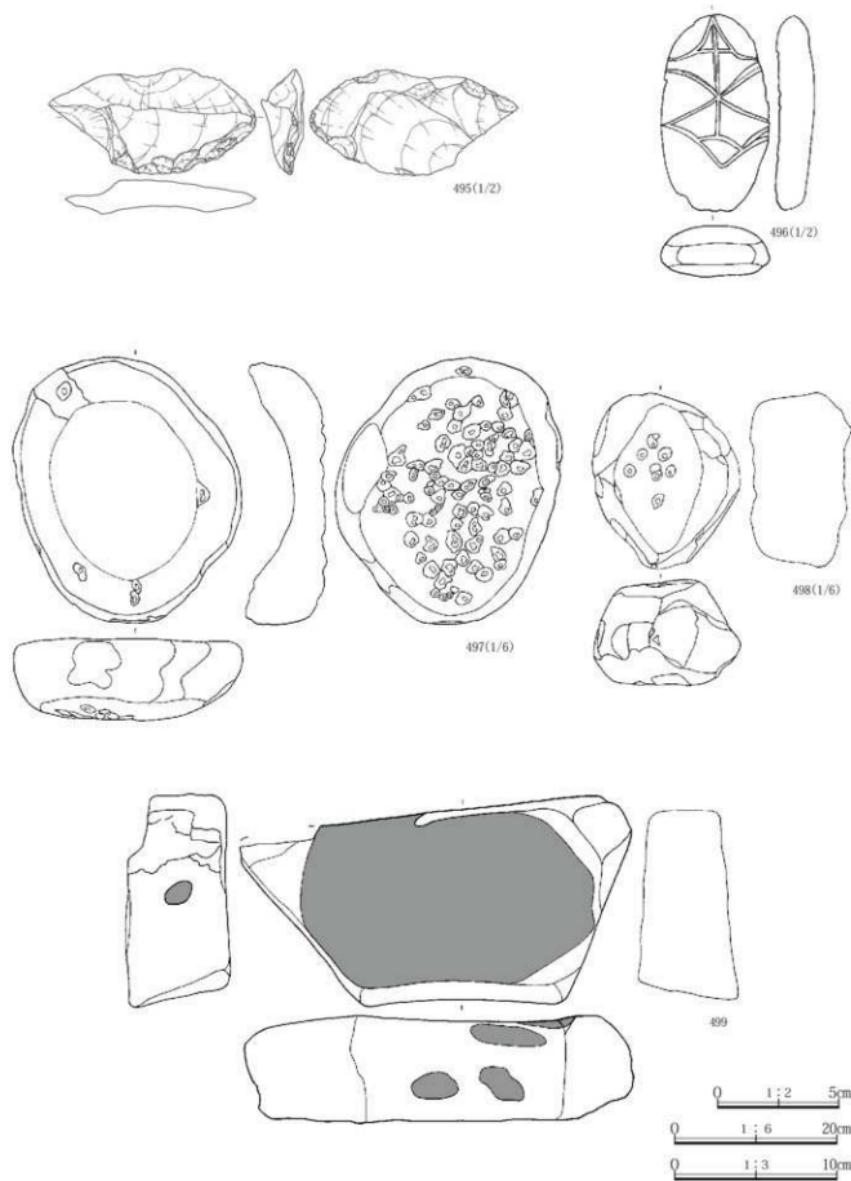
第174図 108号窓穴建物(14)



第175図 108b号竪穴建物(15)



第176図 108b号竪穴建物(16)



第177図 108b号竪穴建物(17)